東北大学附属図書館

自己点検・評価報告書

平成２８（２０１６）年9月

東北大学附属図書館自己点検・評価報告書

第１部 ：東北大学附属図書館自己点検・評価報告書総括編

第２部 ：　　　同　　　報告書

第３部 ：　　　同　　　利用者アンケート

第４部 ：　　　同　　　資料編

※　　第２部、３部、４部は平成２７年度末で作成。

これらをもとに、総括編（第１部）を平成２８年９月に作成

第１部　自己点検・評価．総括編

０．自己点検・評価の枠組み

今回の報告書は、従来の自己点検・評価報告書および外部評価報告書の結果を踏まえて、その後の取組みと新たな課題を取り込んだ内容としている。

そして報告書の全体構成を決めるに際しては、従来作成してきた諸報告書の目次構成にとらわれることなく、現段階のこの図書館の活動のミッションおよび中期計画の枠組みで再構成することとした。それにより、今後、評価に基づく様々な行動計画（アクションプラン）の企画および実施に関して、図書館活動全体の把握とそれによる優先度の決定が可能になると判断したからである。

それではまず、この図書館のミッションと中期計画を示すこととしたい。

０．１　附属図書館のミッションと中期計画

東北大学附属図書館という組織の基本的な理念・使命は、『東北大学グローバルビジョン』(2014年）中の次の部局ミッションに端的に示されている。

【部局のミッション（基本理念・使命)】 ○附属図書館は、本学における学術情報流通の中核として情報基盤の重要な部分を担い、研究者・学生及び職員が必要とする情報資源の収集、創成、組織化、並びに提供を通じて本学における教育・研究活動を支援する。さらに、国内外並びに地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に寄与する。

そして東北大学の第 3 期中期計画（平成 28 年度〜）では、この部局ミッションの主旨から附属図書館の個別計画を次の 5 つの項目に整理しており、これが現時点での重点戦略・展開施策として位置づけられている。

１．学術情報整備の促進 本学の学術情報（電子ジャーナル、データベース等）整備を継続的に実施するとともに、我が国の国公私立大学における学術情報の安定的･継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携・協力しつつ、「ワールドクラスへの飛躍」に相応しい研究環境を整備する。 ①　基盤的学術情報と研究環境の整備 ・電子ジャーナル・データベースを中心として、世界 30 傑の研究活動を支えるのにふさわしい学術情報資源の水準の検討および整備。また、研究環境を安定的かつ充分なものにするための予算の確保 ・所蔵資料の図書館目録データベースへの遡及入力の推進による研究活動に必要な資料へアクセスするための環境整備 ②　学習用学術情報資源の整備

・学習用学術情報資源（学生用図書）の充実とそのための安定的かつ充分な予算の確保

２．学術機関リポジトリによる教育・研究成果の発信

東北大学機関リポジトリ（TOUR）の整備・充実を図るとともに、電子的公開が義務付けられた学位論文について網羅的収集を実施する。

① 学術情報資源のオープンアクセス化に関する国内外の動向に呼応し、本学研究成果のオープンアクセス化をさらに推進

② オープンアクセスの進展に対応できる、本学機関リポジトリ（TOUR）システムの強化

３．各図書館での学習環境の整備

附属図書館各館において、主体的な学びと知的交流に最適な場の整備を図る。

① 学習環境の場としての図書館整備

・新図書館（アカデミック・サイエンス・コモンズ）の整備（運営組織含む）

・新図書館共同保存書庫の整備による蔵書および各分館スペースの有効利活用

・各館におけるアクティブ・ラーニング環境の整備（パソコン利用環境、グループ学習環境、イベントサポート等）

② 自律的学習のサポート

・全学教育科目「大学生のレポート作成入門 －情報探索から執筆まで－」および授業外学習支援サービス「サポートデスク」の継続実施

・各種情報検索講習会やレポート作成講習会による情報リテラシー教育の継続実施

③ グローバル・ラーニングのサポート

・留学生コンシェルジュによる学修相談サービス、図書館利用案内、SNS などのインターネットサービスを利用した広報

・授業と連携した語学学習資料の充実（例：英語多読授業）

・海外留学希望者のための留学情報資料の充実

・異文化コミュニケーション、ダイバーシティ、国際情勢理解のための資料の充実

・グローバル・ラーニング関連イベントの支援

④ 早朝・夜間開館の継続と、さらなる開館時間の延長および無人開館の実施と拡大

４．社会・地域への知の還元

① 貴重書コレクションの保存と活用

・既存資料の調査による更なる貴重書・準貴重図書選定

・準貴重書庫等の資料の保存環境整備および資料修復の推進

・所蔵コレクションを用いた企画展・常設展の企画立案と実施

・資料案内小冊子などによる、貴重書等重要コレクションの学内外への周知

・古典資料の電子化と公開

② 東日本大震災記録の継承

・東日本大震災に関する資料収集と震災ライブラリーによる保存・公開活動の継続

５．その他

① 図書館全体（本館、分館、図書室）を包含した図書館組織・運営体制の最適化

・職員の適切な人員配置および適切な運営組織体制の整備

・図書館職員としての専門性を高める人材育成

０．２　自己点検・評価の全体構成

本報告書では、上記中期計画に示した5つの重点戦略・展開施策の枠組みに従い、従来の自己点検・評価報告書および外部評価報告書で記述されていた【継続】項目と、それに新たに取扱うべき項目を加えて、自己点検・評価項目の全体を構成し直した。なお、中期計画中の機関リポジトリについては、全体構成のバランス上、「１．学術情報整備の促進」に含めることとした。

それでは以下に、本報告書の全体構成を示すこととする。

１．学術情報整備の促進

１．１　学習用学術情報資源（学生用図書等）の整備

（１）学生用図書の財源確保　**【継続】**

（２）学生用図書の選書　**【継続】**

（３）学生選書の取組み

（４）電子ブックの充実

１．２　基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備

（１）電子ジャーナルの財源確保　**【継続】**

（２）電子ジャーナルの選定

（３）蔵書目録データベースの整備

（４）教育・研究成果等の発信

２．学習環境の整備

２．１　図書館施設・設備

（１）耐震補強、建物の老朽化への対応　**【継続】**

（２）空調設備の改善、照明環境の適正化　**【継続】**

（３）書庫の狭隘化への対応（特に蔵書の多い本館）　**【継続】**

（４）新たな学習スタイルへの対応、ラーニングコモンズの設置　**【継続】**

（５）サインシステムの統一　**【継続】**

（６）身障者用設備の整備

（７）ラーニングコモンズの展開

２．２　図書館サービス機能

（１）開館時間延長のための経費確保（特に本館の土日祝日）　**【継続】**

（２）学部生の貸出冊数の増加　**【継続】**

（３）書庫ガイダンスの実施

（４）開館時間の更なる延長、無人開館

（５）障害者サービスの充実
（６）初年次学生向け科目への参画
（７）本館での情報リテラシー教育
（８）全学的な情報リテラシー教育の展開

２．３　国際化対応
（１）留学生図書の充実、留学生窓口の設置　【継続】
（２）英語多読教材の整備

３．社会・地域への知の還元
（１）資料保存・修復の取組み
（２）古典籍の電子化
（３）展示会・一般講座の充実　【継続】
（４）大学ブランド PR への貢献
（５）高大連携への貢献
（６）他の館種図書館とのコラボレーション
（７）震災ライブラリーの継続

４．組織・運営
（１）財政基盤の強化　【継続】
（２）事務体制の見直し・最適化　【継続】
（３）調査研究機能の再構築　【継続】
（４）人材育成の充実　【継続】
（５）防災対策の強化

１．学術情報整備の促進

１．１　学生用学術情報資源（学生用図書等）の整備

（1）学生用図書の財源確保　【継続】

学生用図書については、平成 21 年度に学生 1 人当たり 1 冊を目標とした「学生用図書整備事業」を策定し要求した。本部との折衝の結果、総長裁量経費による予算措置がなされ、平成 23 年度以降からは全学的基盤経費として毎年配分されている（平成 27 年度は 3,200 万円)。

この整備事業は、本部からの配分経費と各図書館の従来からの学生用図書経費を合わせて、①年間約 18,000 冊の整備、②新刊図書を中心とした基本的学習図書の継続購入、③全学問分野に対して偏りのない選定を実施する、という事業内容となっている。(平成 27 年度の全学での合計額は約 7,800 万円、購入冊数は約 17,000 冊)

措置された予算は本館・4 分館に配分し、各図書館にて選定作業を行っている。各図書館では、新刊図書や複本の購入はもちろんのこと、専門分野の参考書や電子ブックなど、特色のある選書を行っている。

アンケート結果では、全体的に学習・研究に十分な図書・雑誌に関してのギャップが大きい。とりわけ大学院生におけるギャップが目に付く図書館もあり、学部生向けとともに資料の更なる充実策を講じる必要がある。

（2）学生用図書の選書　【継続】

前回の外部評価の指摘にあった、幅広い教員からの推薦による教養書の充実については、全学的な学生用図書予算の増加により、整備が進んでいると利用者アンケートからも評価できる。

また、図書館員が主導した本分館の連携による選書システムについては、先の学生用図書予算の分館への配分により各分野の図書整備が進んでいるものの、いまだ制度的な改善は未着手である。

今後は、全学的な視野に立った蔵書構築のシステム化方策を検討し、本分館の職員がそれぞれの得意分野の知見を活かした選書業務を実現することとしたい。

（3）学生選書の取組み

教員・図書館員による選定を補完するものとしての学生選書は、本館および複数の分館において実施している。本館では平成 21 年度から実施し、毎年約 20 名程度の参加、約 500 冊の書籍を購入している。

学生選書は、学生のニーズを取り入れるとともにその学習意欲を高め、図書館サービスへの参画を促すイベントとして、各館の特性や学生ニーズにあった形で今後も継続することが望ましい。

（4）電子ブックの充実

電子ブックの導入は、すでに平成 17 年度に工学分館でいち早く開始しており、その後、各図書館での購入により全学的な利用を進めている。しかしながら、利用できる件数は約 4,500 タイトルであり、学生の学習用教材として十分であるとは言いがたい。

今後は、他大学での導入および利用の動向もリサーチし、電子ブックの有効的利活用の方策を検討する必要がある。

１．２　基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備

（1）電子ジャーナルの財源確保　【継続】

図書館として策定した「学術情報整備計画」（平成 18 年改訂）に基づき大学共通経費への予算要求を行った結果、部局による経費負担だけで全額を賄うという状況は改善され、平成 20～21 年度には総長裁量経費としての措置、平成 22 年度からは全学的基盤経費としての配分が行われている。当初 2 億円であった予算規模も、為替レート変動による価格上昇などの理由から増額を認められ、平成 27 年度には 3 億円を確保するまでとなった。

一方、部局経費負担に関しては、各部局の負担割合の算出と調整に多大の労力が費やされてきたが、現在は一定の割合（教員数と部局の予算規模）での合意がなされている。今後も大学内での予算配分方針を踏まえて、各部局の予算権限をもつ部局長レベルでの合意形成を行う必要がある。

（2）電子ジャーナルの選定

外国雑誌の高騰は今後も継続する課題であり、大学図書館コンソーシアム（JUSTICE）による契約交渉の下に、引き続き対策を考える必要がある。

基盤的学術情報環境を維持しつつ経費を抑制するという困難な課題となるが、購読内容を不断に見直し、購入の必要性を厳密に評価して、全体予算との兼ね合いから購入の可否を決定する選定システムを再構築しなくてはならない。

なお、アンケートで不満の多かった学外からの電子ジャーナル等へのアクセスについては、平成 28 年度に学術認証フェデレーション（世界標準の認証システム）を導入したことにより、東北大学 ID による認証・アクセスが容易に可能となっている。

（3）蔵書目録データベースの整備

図書館システムの電算化により、昭和 62 年から蔵書目録データベースの構築を開始するとともに、平成元年度からは学内予算措置により図書目録情報の遡及入力事業を開始している。現在は第 6 次計画（平成 20～29 年度）を実施しており、当初予定の 189 万冊の 8 割にあたる 147 万冊を登録し、利用の多い資料群については概ね入力を完了している。

今後は、古典籍や個人文庫・貴重書などの入力を進めるとともに、世界的な潮流であるところの資料そのものの電子化への計画転換を図っていく必要がある。

（4）教育・研究成果等の発信

平成 18 年度から運用している東北大学機関リポジトリ「TOUR」は、平成 25 年度学位取得者からの博士論文の収録についても、各研究科学務担当との連携により円滑に進めている。

今後は、内外の政策としてのオープンアクセス・オープンサイエンスの動向と歩調を合わせて、オープンアクセスポリシーの策定やリポジトリへの登録推奨を促進していく必要がある。

２．学習環境の整備

２．１　図書館施設・設備

施設・設備については各図書館の物理的状況に依存するものであり、全体を一概に論ずることはできない。ここでは、特に改善が望まれていた本館を中心として述べることとする。

（1）耐震補強、建物の老朽化への対応　【継続】

耐震上問題のあった本館 1 号館では、大規模地震への対策として平成 20 年度に耐震補強工事を実施した。平成 23 年 3 月の東日本大震災発生時には、この耐震補強工事が有効に機能して、震災による建物の致命的な損傷を免れることができた。

老朽化への対応としては、平成 24～25 年度には本館の部分的な第 1 期改修工事、平成 25～26 年度には全面的な第 2 期改修工事を実施した。これにより、電気およびネットワーク配線の更新、上下水道設備の更新とともに、次から述べる空調設備の改善と照明環境の適正化、そしてラーニングコモンズの設置を実現することができた。また、2 階の学生閲覧室およびグローバル資料室（旧：研究閲覧室）、グローバル学習室（旧：事務用スペース）を改修した上で新規書架を導入し、開架閲覧室の環境向上も実現している。

なお、他の 4 分館については耐震補強工事の必要性はないが、それぞれ老朽化の対策が必要であり、概算要求および学内経費要求を継続しているところである。医学分館は全面改修の概算要求を行っており、農学分館は平成 28 年度中に新青葉山キャンパスの図書館への移転を予定している。

（2）空調設備の改善、照明環境の適正化　【継続】

本館の第 1 期改修工事では、1 階自由閲覧室および事務室部分の個別空調化を実施した。また第 2 期改修工事では、エリア毎個別空調化とメインフロアおよび 2 階学生閲覧室部分の省エネ型熱源空調化を実施した。また、建物周りガラスの 2 重化・コーティングなどにより、室内環境の省エネ化・安定化を図っている。これにより、1 号館全館にわたる効率的空調運転と省エネ化が実現できた。

空調設備の改修とともに各エリアの照明設備においても、LED を多用した省エネ化と適正な照度確保を実現した。

なお、本館 2 号館の空調設備・照明環境の改善については、建物全体の改修工事を機に対応することとしたい。

アンケート結果では、全体的に照明・空調などに関するギャップがいまだ大きいが、本館に関しては最も少なくなっている点は、改善効果の表れと評価したい。快適さと居心地のよさに関しても同様であることから、今後は、ギャップの大きい各分館の施設・設備の改善に注力する必要がある。

（3）書庫の狭隘化への対応（特に蔵書の多い本館）　【継続】

本館の第 2 期改修工事と前後して、本館 1 号館地下書庫の収容能力増強のため、電動集密書架の導入工事を行った。地下書庫 1～2 階の北側エリアにはすでに集密書架を整備していたが、この工事により 1～2 階南側エリアも全面的に集密書架となった。地下書庫の収容能力は全体で約 190 万冊となり、向こう 20 年あまりの新規図書受入に対応できる状況に改善された。

また、今回の電動集密書架導入は、埋蔵文化財の保全地区である川内キャンパスへの増築が困

難であったことと、自動化書庫では書籍の背表紙が見えず教育環境としては相応しくないことから選択した狭隘化対策であった。

なお、新青葉山キャンパスの新図書館1階には、全学で利用できる共用書庫を設置予定である。ここは約50万冊の収容能力があり、各図書館で利用頻度の低い資料を収容することで、各図書館のスペース活用を促進する予定である。

（4）新たな学習スタイルへの対応、ラーニングコモンズの設置　【継続】

本館の第1期改修工事でまず、1階メインフロア部分にアクティブ・ラーニング・スペースを設置し、本学で初めてラーニングコモンズ相当の機能を学内に実現した。このスペースには、グループ学習エリアとPCエリアを配置し、可動式の机椅子によるアクティブ・ラーニングおよびICT機器を活用した自主的学習を促進する場所として機能させている。

第2期改修工事では、2階南側エリアへのグローバル学習室（旧事務用エリアを改修)、1階メインフロア周りへのグループ学習室4室（倉庫などを改修)、エントランス付近への多目的室の設置を行い、それらもアクティブ・ラーニング・スペースとして十全に機能させている。メインフロアにはPCエリアのディスクトップ型PC75台に加えて、ノート型PC約40台を提供するセルフ貸出ロッカーを備えた。

また、第2期改修工事の終了後、平成27年4月にはエントランスに図書館カフェを設置し、民間企業による営業を開始している。

なお、工学分館では平成27年度に、アクティブ・ラーニング・スペースとしてグループ学習室と語学自習室を整備した。

アンケート結果によると、グループで学習・研究できるスペースやイベントなどで利用できるスペースへの期待値、講習会やイベントなどのアクティブな学び活動に関する期待値は低い。しかし、それらの施設・設備を備えて、アクティブな学びが活性化している本館に関する実態値評価が高いことは、実際利用してみた上でのニーズを反映したものと考えられる。また、本館における実際の利用状況からも、いまやアクティブ・ラーニング・スペースの有用性は否定できないであろう。

一方でアンケート結果からは、静かに学習・研究できるスペースの必要性と重要度が高いことが判明しており、より一層、それらのスペースを確保しておく必要がある。特に本館に関しては、静かな学習環境に関して相応の評価がある一方、座席数が少ないという不満が大きいことからも、何らかの対策を講じる必要があろう。

（5）サインシステムの統一　【継続】

本館の第2期改修工事の終了後、平成27年3月に本館1・2号館に新サインシステムを設置した。サインシステムの設計にあたっては、グローバル対応を前提とした日英表記を原則とし、ピクトサインを用いたユニバーサルデザインも意識したものとなっている（グローバルサインシステム)。

（6）身障者用設備の整備　【継続】

本館第2期改修工事では、車椅子による図書館東側から図書館エントランスへのアプローチ、

エントランスから1階メインフロア部分への動線および2階各エリアへの動線に配慮した設計を行った。

（7）ラーニングコモンズの展開

ラーニングコモンズ機能を持つ環境に関しては、本館での整備が一定の成果をあげて、利用者からの評価も高くなっている。

一方、分館での整備は、工学分館を除き未着手にとどまっており、利用者からの評価も低く、今後一層の整備促進が必要である。ただし青葉山新キャンパスに移転予定の農学分館に関しては、青葉山コモンズの中にラーニングコモンズを新設し（平成29年4月オープン）、この新キャンパス全体に対するラーニングコモンズの提供ポイントとして機能させる予定である

２．２　図書館サービス機能

（1）開館時間延長のための経費確保　【継続】

本館では、平成21年度から総長裁量経費の措置により、平日・土日祝日ともに22時までの開館を実現している。また、平日8時からの早朝開館も実施し、授業開始前（1講時は8:50開始）の図書館サービスを行っている。

全学の入館者数は、平成18年度以降は上昇傾向にあったが、東日本大震災および本館の改修工事の影響で平成23年度以降は減少に転じている。しかし、本館の改修が完了した平成27年度からは、以前の最高値にせまるペースに回復している。（資料編参照）

アンケート結果からは、開館日・開館時間への期待が高いことが判明したが、現状に対する大きな不満もないことから、まずは現在のサービス体制を維持することが求められよう。

（2）学部生の貸出冊数の増加　【継続】

学生からの要望も踏まえて、本館における学部学生の館外貸出冊数を増加した（学生閲覧室の資料は5冊から10冊に、書庫の資料は5冊から25冊に）。

全学の貸出冊数は、平成18年度以降おおむね上昇しており、東日本大震災および本館の改修工事の影響は大きく受けずに、いまだ増加傾向にある。（資料編参照））

（3）書庫ガイダンスの実施

利用資格が大学院生以上に定められていた本館地下書庫については、利用指導（書庫ガイダンス）を受講した学部学生も利用可とする運用を平成21年度から開始した。年間約300名の学部学生が書庫ガイダンスを受講している。約130万冊におよぶ地下書庫の資料に直に接することができるということは、学生の学習意欲と人文社会系情報リテラシー能力を高めるものであることから、今後も積極的に推奨する必要がある。

（4）開館時間の更なる延長

本館は平日・休日ともに22時まで開館しているが、それ以降の延長開館や24時間開館に対しては少数ではあるが根強い要望がある。これは、分館の多くが夜間や休日におけるカード自動入退館が可能であることから、希望されているものでもある。

特に、仙台市営地下鉄東西線の開通（平成27年12月）で夜間の通学環境が変化したことにより、今後さらに要望が強くなることが予想されるため、本館の無人開館等の方策検討が必要となろう。

（5）障害者サービスの充実

平成28年4月から施行した障害者差別解消法に対応して、各図書館での施設・設備面でのバリアフリーのみならず、視覚障害者の図書館資料のサービス面での整備等を、学内関連部署と連携を取りながら進めて行く必要がある。

（6）初年次学生向け科目への参画

平成16年度から初年次学生向け科目（後期セメスター）で、図書館主導により情報探索術とレポート作成法を教授する内容で開講した科目は、その後内容的な改善を続けて12年間継続してきた。年度を追うごとに履修生が減少傾向にあったが、前期セメスターに移動した平成27年度は、新入生のニーズに合致したためか一挙に増加して、100名規模で授業を実施することとなった。

平成28年度からはこの科目の企画・運営に、高等教育分野の教員を迎えることにより、さらに適切な授業デザインとアクティブ・ラーニングの導入を図ることとしている。

今後は、初年次学生のアカデミックスキルを向上させるため、この科目の実施成果をもとにした教材や新たな科目を、全学教育担当の教員と連携して開発することが望まれる。

（7）本館での情報リテラシー教育

図書館で実施する新入生向けの情報リテラシー教育としては、図書館ガイダンスおよび情報探索講習会を実施している。平成27年度新学期の図書館ガイダンスは27回開催して参加者639名、うち留学生向けは4回45名となっている。また後期（10月～）の留学生向けには、35名参加している。

情報探索の講習会は、図書館で実施する公開型と、科目内容に応じて授業で実施するオーダーメイド型で実施している。情報探索関係の公開型講習会では、28回開催して439名、レポート作成関係では8回開催して35名の参加であった。オーダーメイド型では15回開催して241名の参加であった。

（8）全学的な情報リテラシー教育の展開

本館以外では、医学分館での保健学科看護学専攻・医学科3年次全員向けの文献検索講習会や、金属材料研究所の所内文献探索ガイダンスなどの情報リテラシー教育に、図書館員が関わっている。他の分館でも新入生向けのガイダンスなど様々な取り組みを行っているが、今後は全学的な視野で図書系職員が共同して、情報リテラシー教育を企画・実施する体制が望まれる。

２．３　国際化対応

（1）留学生図書の充実、留学生窓口の設置　【継続】

留学生図書は、学内の留学生施策充実経費の補助により毎年度整備を進めているところであるが、平成26年度に新設したグローバル学習室に、語学学習書、留学関係資料、外国語雑誌などと

同一エリアに配置することにより、認知度と利用度が向上した。
留学生の窓口に関しては、平成 24 年度から留学生コンシェルジュの配置を開始し、留学生による留学生のための案内・学習支援サービスを開始している。対応は多言語（英・日・留学生の母国語）となっているため、留学生はもとより日本人学生への学習支援ポイントとしても有効に機能している。

（２）英語多読教材の整備
全学教育の英語科目における多読法授業を支援するため、平成 21 年度から教材である英語多読リーダーズの整備充実を開始した。リーダーズの選定を授業担当教員と連携して行うとともに、多読教材の適切な配置・配架についても助言を仰ぎながら実施している。
図書館の自主的財源による継続的な教材整備と、科目授業における教育効果の実績が評価され、現在は教育・学生支援部からの新たな予算措置が行われるようになっている。それにより、冊子のみならず電子ブックの購入や、英語のみならず他の諸言語の多読教材の導入を進めているところである。現在は 1 年次全体（約 1,800 名）の半数のクラス（約 900 名）が多読法を採用しているが、その授業数の増加に応じた整備方策の検討が必要である。

３．社会・地域への地の還元
（１）資料保存・修復の取組み
国内でも有数の貴重書・古典籍を所蔵する本館は、多大の経費が必要となるその保存環境の整備および資料修復の取り組みに苦慮しているところである。
東日本大震災を契機とした保存環境の改善対策として、平成 25 年度に狩野文庫と古典資料群を漏水の危険性のない本館 2 号館 4 階へと移動した。また、平成 26 年度には 1 号館の改修工事にあわせて 2 号館貴重書庫の改修を行い、セキュリティを高めて温湿度環境を一定にする空調も完備した。さらに今後は、空調施設が老朽化した 2 号館 1 階準貴重書庫の改修を行う必要がある。
資料の保存対策の一環としては、資料のレプリカ作成も進めており、展示借用の要望が多い国宝や漱石文庫等の貴重書レプリカを作成している。また、貴重書等の修復については、経常予算内での経費確保が困難であるため、平成 27 年度から公益財団等への助成金申請を積極的に行っている。

（２）古典籍の電子化
東北大学の古典籍電子化については、平成 15 年度から開始した和算資料の電子化がもっとも計画的で大規模なものであった。科研費により約 2 万点の和算関係資料を電子化したこの事業は、社会的な反響も大きく、平成 22 年度の日本数学会出版賞を受賞するなど高い評価を得ている。
現在、国文学資料館が中心となって実施している大規模プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（平成 27 年度～）の拠点館として、さらに所蔵古典籍の電子化を進めることで、わが国における資料電子化の主導的役割を果たすこととしたい。
なお、狩野文庫についてはすでに丸善株式会社によるマイクロ化が完了していることから、その版権等の適切な処理を通じて、電子化を進捗させることが求められる。

（３）展示会・一般講座の充実　【継続】

平成 23 年以降の震災復旧工事および改修工事等が要因で、本館での展示会を実施できない期間があったものの（平成 24～25 年度）、豊富なコレクションを生かした本格的な展示会を毎年度開催している（展示会開催一覧を参照）。中でも以下の展示会は、大学キャンパス外の会場で実施し社会的な反響も大きかったものとして特記しておきたい。

・東北大学創立 100 周年記念展示「東北大学の至宝」（平成 19 年度：江戸東京博物館、仙台市博物館）、同記念展示「文豪　夏目漱石」（同年度：江戸東京博物館）

・海外特別展示「Natsume Soseki, the greatest novelist in modern Japan」（平成 25 年度：英国ロンドン大学、日本大使館）

なお、これらの資料展示のほかに本館内では常設展（第 19～60 回）42 回、特別展 10 回を実施しており、平成 24 年度からは学生サークル等の企画展示（合計 9 回）を受入れ始めたことも新たな試みである。

（４）大学ブランド PR への貢献

先の東京や英国での展示会開催は、大学図書館の社会貢献活動として意義があるだけではなく、東北大学という大学ブランドの PR 活動としての意味も有する。また、展示会等にあわせた図書館オリジナルのグッズ企画も、大学の PR として有効である。東北大学ではすでに、狩野文庫・漱石文庫の素材を使った図書館オリジナルグッズを作成・販売しており、過去には夏目漱石をモチーフとした和菓子（羊羹）の企画実績もある（平成 19 年度）。

平成 28～29 年度に開催する夏目漱石展では、新たなオリジナルグッズの企画も計画されており、また平成 28 年度に開催予定の展示会（東京・大阪での「大妖怪展」）では、東北大学所蔵資料を使用したグッズの販売企画も進捗している。

今後も、多彩なコレクションを活用した展示会の開催やグッズ企画で、大学ブランドの認知向上に貢献することが求められる。

（５）高大連携への貢献

全学的行事である 2 日間のオープンキャンパスでは、毎年約 5～6 千名の高校生が本館を訪れており、主に東北・北関東・北陸地区の高校生にとっては、国立総合大学の図書館を見聞する絶好の機会となっている。

近年では、本図書館での情報リテラシー教育の実績を評価され、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校などから、情報探索法の講義・実習を中心とした研修会を依頼される機会も多い。また、生徒の英語学習意欲を高めることを目的とした、英語多読学習法の講義を依頼されることも多く、英語科目担当教員の協力を得て図書館内で実施している。

（６）他の館種図書館とのコラボレーション

近年、図書館界で最も集客力のある図書館総合展は、平成 22 年度から地域フォーラムの実施を開始して、全国各地域での各種図書館（大学図書館、公共図書館、学校図書館など）活動の活性化を図っている。仙台では東北大学を会場として、すでに平成 24 年 5 月と平成 28 年 3 月の 2 回開催しており、他の館種図書館にも資するコラボレーション活動を先導している。

（7）震災ライブラリーの継続

東日本大震災後、震災の記録を後世に伝えることを目的として関連資料の収集を開始し、平成24年3月に震災ライブラリーを本館に設置した。市販資料の購入にとどまらず、自治体・学協会等の各種関連機関からの寄贈も募り、現在も継続している。

また、被災各地の図書館での震災資料の収集活動を進捗させるために、平成23年度末から図書館共同キャンペーン「震災資料を図書館に」を開始し、東北地区の各図書館や神戸大学図書館とともに、活動意義の普及に努めている。

４．組織・運営

（1）財政基盤の強化　【継続】

学生用図書、電子ジャーナルなどに関する資料経費、開館時間の延長経費などの運営経費については、全学的基盤経費もしくは総長裁量経費等の臨時経費での措置や、各部局による経費負担方式などにより、安定的な経費を確保する必要がある。そのためには、それぞれの図書館事業に関する理解を得る必要があり、その実現に向けた努力が求められていた。

平成21年度からの学生用図書経費および電子ジャーナル経費、開館時間延長経費を総長裁量経費として獲得したことは、大きく評価できるものである（平成23年度からは、全学基盤経費として認められる）。

これらの経費は、各部局による一定の負担にも依存しており、中央経費と部局経費のマッチファンドによる運営という、大学全体の方針と軌を一にする方向性で、現在定着化しているところである。

（2）事務体制の見直し・最適化　【継続】

当初計画されていた青葉山新キャンパスへの移転計画と、それに伴う附属図書館のいわゆる「3館構想」※は、経済情勢の悪化などで延期されるとともに、大幅な見直しをせざるをえなくなった。また、その後の概算要求により、急遽実現した新図書館計画の中では、3 館構想に伴う抜本的な組織改編と事務体制の集中化を実施することはできなかった。

しかし、新図書館への大規模な共用スペース（電動集密書庫）設置が実現したことにより、全学的視点での図書館スペース再編成の可能性が高まったことから、今後の全学の図書館サービス及び事務体制を改めて見直す契機となることは間違いない。その見直しの中では、「本館」「分館」という区別的な名称に関しても、再度議論する必要があろう。

※「3館構想」とは、現在の本館・4分館を、人文社会・教養系図書館（本館）、理系図書館、医学系図書館に再編する構想。現在の北青葉山分館、工学分館、農学分館（新図書館）は、組織的には理系図書館としてまとめ、3 つの分館それぞれはサービス拠点として機能させる構想であった。

（3）調査研究機能の再構築　【継続】

学術情報環境の変化や利用者行動の多様化に対応して業務の改善を図るために、教員と図書館職員による調査研究機能の再構築が求められていた。

平成 21 年度から附属図書館に調査研究室を設置し、室長（副館長）のもと兼任の協力研究員 3 名を配置している。また、その活動を促進し普及するものとして、平成 24 年 3 月に同研究室年報の創刊号を刊行し、現在にいたっている（第 3 号まで刊行)。

（4）人材育成の充実　【継続】

良質の図書館サービスを維持するために、新規職員の採用と適切な人事選考、他大学との人事交流、そして国内外における研修受講や研修への参画により、一層の人材育成に努めることが求められていた。

図書系職員の採用に関しては、退職者・再雇用者・転出者の動向を踏まえつつ、本部人事担当と綿密な協議の上、毎年度少なくとも 1 名以上の計画的な採用を継続している。その際、現職の非常勤職員からの登用の道を開いていることは、他の国立大学には例をみないところである。他大学との人事交流にも努め、特に東北地区内での交流人事や転出等にも配慮しているところである。

研修への参加については、毎年度開催される図書系の研修には積極的な参加を促すとともに、国立大学図書館協会の海外派遣事業にも 2 件採択されている。

なおアンケート結果では、カウンターサービスや職員の対応などの職員評価（期待値・実態値ともに）が高いことから、いままでと同様に現場の職員育成に努めることとしたい。

（5）防災対策の強化

平成 23 年の東日本大震災を契機に、特に地震時の避難誘導等の実施方法の見直しを図ってきた。従来は年 1 回の開催であった避難訓練を年数回定期的に開催しつつ、防災対策の強化と避難誘導の改善を行ってきている。

現在もそれは継続しており、大規模地震に限らず、火災・水害等を想定した最適の防災・減災対策と被災時の対応方策について整備している。

「自己点検・評価報告書」に関する補足説明

１．各部における記述の相違について

報告書各部の作成日が異なることにより、各部における固有名称等（「アカデミックサイエンスコモンズ」など）やイベント等実施（平成２８年６月の国大図協総会の開催）に関する記述などに相違がある場合がありますので、ご容赦ください。

（１）作成日：平成２７年度末時点（平成２８年３月末）

- ・第２部　（全体）報告書
- ・第３部　利用者アンケート
- ・第４部　資料編

（２）作成日：平成２８年９月時点

- ・第１部　総括編

２．最新の状況について

第１部作成後から現在にいたるまでの最新の状況については、別紙「第１部　総括編補遺版」に取りまとめましたので、適宜ご参照ください。

別紙：　第１部　自己点検・評価．総括編補遺版

１．学術情報整備の促進

１．２　基盤的学術情報（電子ジャーナル等）と研究環境の整備

（１）電子ジャーナルの財源確保　【継続】

●前年度比約 1 千 5 百万円増の予算措置（平成 28 年度）

平成 28 年度も、資料厳選等による経費節減努力にもかかわらず、引き続き電子ジャーナル総経費が上昇したが、全学的基盤経費の増額を受け対応することができた。平成 28 年度の全学基盤経費措置額は、約 3 億 1569 万円である。また、平成 27 年 10 月から実施された「国境を越えた役務の提供（海外サイトから提供の電子ジャーナル）に係る消費税」については、本部予算により対応している。

２．学習環境の整備

２．１　図書館施設・設備

（１）耐震補強、建物の老朽化への対応　【継続】

●北青葉山分館の老朽化への対応

北青葉山分館（1985 年竣工）は築約 35 年の建物で、特に老朽化による空調装置とトイレ設備の不調が、利用者の不便や図書資料の汚損等を引き起こしている。その改善のため 3 年計画の全面改修の学内予算要求をしている。

２．３　国際化対応

（１）留学生図書の充実、留学生窓口の設置　【継続】

●留学生コンシェルジュサービスの拡大（平成 28 年度）

平成 24(2012)年 12 月から実施している留学生コンシェルジュの多言語サービスは、これまで主に本館利用者を対象に行ってきたが、ウェブカメラによるオンラインサービスを導入することにより、分館利用者にもサービスを拡大させる予定である。（学内留学生施策充実経費による）

３．社会・地域への地の還元

（３）展示会・一般講座の充実　【継続】

●夏目漱石展示会の開催（平成 28～29 年度）

夏目漱石没後 100 年にあたる平成 28 年度および生誕 150 年にあたる平成 29 年度の 2 か年にわたり、「漱石文庫」による展示会を企画している。

平成 28 年 10～11 月に本館を会場に開催した展示会では、学内外から 2,600 名余りの来場者があった。また、10 月 22 日に、姜尚中氏（東京大学名誉教授、熊本県立劇場館長）を講師に

迎え、「近代の憑依と漱石」と題して行った記念講演会では、一般市民を含めた約 200 名の参加があった。

（４）大学ブランド PR への貢献

●漱石羊羹の販売企画（平成 28～29 年度）

地元の老舗和菓子店である白松がモナカ本舗に、和菓子による「漱石文庫」PR の企画を提案し、漱石羊羹販売の共同企画が実現した。

●漱石文庫ロゴマークの制定（平成 28 年度）

漱石文庫の認知度向上のため、平成 28 年度の漱石展開催でも協力いただいた漫画家の香日ゆら氏にロゴマークの制作を依頼し、平成 28 年 10 月に制定した。今後同文庫の PR に活用していく。

４．組織・運営

（４）人材育成の充実　【継続】

●PRRLA への加盟（平成 28 年度）

グローバルな視点をもった職員の人材育成機会の確保等の観点から、平成 28 年に Pacific Rim Research Libraries Alliance（環太平洋研究図書館連合,PRRLA）へ加盟した。平成 28 年 12 月にオーストラリア連邦メルボルンで開催された年次会議に出席し状況を確認するとともに環太平洋地区の図書館との交流を図った。また、館内の報告会において情報を共有した。

●研究振興プログラムの開始（平成 28 年度）

附属図書館では、平成 28 年度から学内の図書系職員を対象に、図書館情報学及び図書館業務等に関する研究・調査・成果発表の振興を図るため、公募方式により研究に係る諸経費を 1 人 20 万円まで助成することとした。本プログラムは、科研費（奨励研究）等による研究助成金の自律的獲得と人材育成も目指す。

第２部：　平成２７年度東北大学附属図書館自己点検・評価報告書

第１章　東北大学附属図書館(全体)の自己点検・評価

１．大学内での位置づけ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２．施設・設備

1) 建物・スペース等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2) 学習環境関連設備・機器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

3) 空調・冷暖房設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・7

4) 照 明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

5) 入退館関連設備・機器 ・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・8

6) その他の施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

３．資料の収集・保存

1)各図書館の蔵書・受入状況・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・9

2)学生用図書の整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・9

3)電子的学術情報資料の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

4)震災ライブラリーの整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

5)図書館蔵書目録の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

6)蔵書管理の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

４．サービス機能

1)各図書館の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

2)全学的情報リテラシー教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

3)キャンパス間資料搬送サービス・・・・・ ・・・・・・・・・・・・19

5.社会貢献

1)教育研究成果等の発信・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・20

2)図書館の地域開放・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

3)展示会、イベント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

4)高大連携 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

６．国際化への対応
1)グローバルラーニングサポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
2)国連寄託図書館等の機能の地域への貢献・・・・・・・・・・・・・・27
3)留学支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
７．組織・運営
1）附属図書館の構成　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
2)運営体制　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
3)人材の確保と養成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
4)財政基盤　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
5)情報環境　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
6)研究開発機能　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
7)学内機関との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
8)学外機関との連携　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
9)広報活動　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

第２章 各図書館の自己点検・評価
１．本　館　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
（各館共通項目　1)組織・運営、　2)施設・設備、
　3)資料の収集・保存、　4)サービス機能）
２．医学分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
３．北青葉山分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
４．工学分館　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
５．農学分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
６．金属材料研究所図書室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
７．電気通信研究所図書室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
８．多元物質科学研究所図書室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

第２部　平成２７年度東北大学附属図書館自己点検・評価報告書

第１章. 東北大学附属図書館全体の自己点検・評価

１. 大学内での位置付け

東北大学が開学以来踏襲してきた「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、教育や研究等の成果達成を支援する学内部局の１つとして、附属図書館も中期目標・計画やグローバルビジョンの達成に邁進している。

本学の第２期中期目標・計画には、下記のように２つの計画を盛り込んでいる。

国立大学法人東北大学中期目標・計画

中期目標	中期計画
Ⅳ　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	Ⅳ　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置 ２ 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 ①-1 研究者に向けた研究・教育成果の発信 □ 東北大学機関リポジトリ（ＴＯＵＲ）を整備・充実する。(No. ６４)
Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標	Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 ４ 情報基盤等の整備・活用に関する目標を達成するための措置 ①-2 学術情報拠点としての図書館機能の改善 □ 図書館を本学の学術情報の拠点と位置付け、それにふさわしい図書館機能の改善を図る。(No. ７８)

加えて、附属図書館の中期目標・計画では、以下の目標を掲げている。これらの達成に向けて、図書館サービスの充実と適切な図書館運営等に努めている。

○附属図書館の中期目標・計画

- 教育プログラムと密接に連携した図書館サービス（学習図書館機能）を提供する。
- 図書館による学生の支援、学生の自学自習のための快適な学習環境を提供する。
- 研究成果（紀要・学位論文等）を学内外に発信する役割を果たす。
- 多様な研究活動を支援するため、専門性・共用性の高い学術情報を整備し、迅速に提供する。
- 国内の大学図書館、公共図書館等関係機関と連携・相互協力を図るとともに、地域社会へ図書館サービスを提供することにより、生涯教育に貢献する。

・海外資料及び情報の提供をとおして、本学の国際交流を支援する。

・外国語による図書館の情報を提供する。

・教育研究活動への支援を効果的に実施するため、組織の一元化を図る。

・業務の集中化及びシステム化により、事務処理の効率化・合理化を推進し、業務の一元化を図る。

・外部資金の確保及び図書館所蔵の貴重資料等を活用した収益事業を推進する。

・効率的な図書館運営に努める。

・学術資料の整備経費及び運営費等の抑制に努める。

・図書館資産の効率的運用を推進する。

・図書館サービスに関する利用者アンケート及び自己点検評価、外部評価を実施する。

・図書館活動の情報を広く広報・公開する。

・教育研究活動を支援するため、図書館施設の整備・活用等に努める。

・図書館における安全管理を徹底する。

また、東北大学は、その将来像を目指して歩みを進めるための指針である東北大学グローバルビジョンの機能強化を図るため、附属図書館は部局ビジョンとして以下の方針を掲げ、実行している。

◎　部局のミッション（基本理念・使命）

○附属図書館は、本学における学術情報流通の中核として情報基盤の重要な部分を担い、研究者・学生及び職員が必要とする情報資源の収集、創成、組織化、並びに提供を通じて本学における教育・研究活動を支援する。さらに、国内外並びに地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に寄与する。

◎機能強化に向けた取組方針（～2017 年度）

○本学の学術情報流通の中核として、学術情報資源（書籍、電子ジャーナル、データベース等）に関して、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の向上を目指します。

○本学学生の主体的な学びと知的交流に最適な場として、各キャンパス図書館の学習環境の向上を目指します。

○国内外並びに地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に寄与するため、附属図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する社会・地域貢献活動（展示会・講演会の開催等）を実施します。

◎重点戦略・展開施策

１．学術情報整備計画の促進

本学の学術情報（電子ジャーナル・データベース等）整備計画の検討を継続するとともに、

わが国の国公私立大学における学術情報の安定的・継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携・協力しつつ、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の将来展望を検討する。

２．学術機関リポジトリによる教育・研究成果の発信

東北大学機関リポジトリ（TOUR）の整備・充実を図るとともに、電子的公開が義務づけられた学位論文について網羅的収集を実施します。

３．各図書館での学習環境の整備

附属図書館本館改修によるラーニング・コモンズ整備（2012～2014 年度）、青葉山新キャンパスにおける新図書館の整備（2014 年度～）に引き続き、医学分館・北青葉山分館・工学分館についても、主体的な学びと知的交流に最適な場への整備を図ります。

４．社会・地域への知の還元

附属図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する活動（展示会・講演会の開催等）を実施するとともに、地域の観光資源となり得る展示会場の実現を図ります。

５．東日本大震災記録の継承

永く後世に東日本大震災の記録を継承するために、震災ライブラリーによる資料の収集・保存・公開活動を継続していきます。

２．施設・設備

１）建物・スペース等

附属図書館本館は、平成 20 年 8 月から開始した耐震補強工事を平成 21 年 2 月に終了し、安全で快適な学習・研究環境を提供できるようになった。また平成 24 年には、本学百周年記念事業として、本館 1 階のメインフロアをアクティブ・ラーニング・スペースとしてリニューアルし、ラーニング・コモンズ機能を提供している。それは、PC エリア、グループボックスエリアとフレキシブルワークエリアにより、学生の主体的な自学自習やグループでのアクティブな学習を支援するものである。その後、グローバルエリア（ラーニング・コモンズ）の設置、本館地下書庫の収容力向上と、省エネ対応の効率的に稼働できる空調設備の整備等のために全面改修を行い、平成 26 年 10 月にリニューアルオープンしたところである。ラーニング・コモンズ機能の増強は学習を、そして地下書庫の図書収蔵力アップは研究をサポートしている。

一方、各分館においても学習支援のスペース・機能の増強を目指し、各施設・設備の改修や更新等のために予算要求を行っているところである。

医学分館は、「メディカル・コミュニケーションセンター機能の整備」として平成 28 年度概算要求を行っている。これは、研究者のコミュニケーション活動の活性化支援し、学生のコ

ミュニケーション能力を向上させ、さらに展示等を通じた一般市民とのメディカル・コミュニケーションのためのスペースを確保するため、医学分館を改修する計画である。

北青葉山分館は、築30年を経た施設や設備の改修により利用者の利便性向上を図るため総長裁量経費要求を行っている。不特定多数の学生・教職員の利用向上のため老朽化した空調装置やトイレを更新して、環境衛生の改善を図る予定である。

工学分館は、築35年の旧館と20年前に増築した新館から構成される。その後も部分的に改修等を行いながら、現在の施設・設備を維持している。工学部が目指す次世代工学教育システムの基盤整備の一環として、平成27年度にラーニング・コモンズ総合システムの設備（英語自習室とグループ学習室）を整備した。

農学分館は、農学部が雨宮キャンパスから青葉山新キャンパスに移転するのに付随して建設中のアカデミック・サイエンスコモンズ新営に伴う新図書館の運用準備を進めている。これは、平成28年6月に竣工し、平成29年4月に開館する予定であるが、現農学分館機能に加えて、新たな運営方法により大規模なラーニング・コモンズを整備する予定である。さらに最大約60万冊を収容できる共用書庫の設置は、各分館等所蔵資料の収集管理を行い、スペースの確保による学習環境整備も促進する狙いがある。

各図書室の施設・設備も効率的な利用が図られているところであるが、多元物質科学研究所図書室は、平成24年5月に書庫スペースとコモンスペースを充実させリニューアルオープンさせた。現在電気通信研究所図書室においては狭隘化の解消が課題となっている。

2）学習環境関連設備・機器

①閲覧机・椅子

本館と分館を合わせた閲覧机及び椅子は、2,248席となっている。特に本館では、1号館のメインフロアー、学生閲覧室、グローバル学習室、グローバル資料室及び2号館閲覧室等に1,174席分が配置されており、学生が快適に過ごせることと同時に学修、講習会やグループワークに十分対応できるようになっている。試験期間中は、多目的室を自習用として開放し、自習用座席を確保している。

工学分館では平成27年度の改修においてグループ学習エリアと語学自習室の整備により、また、自由学習室の設置により座席を増設するなど、各分館とも整備に努めている。

②書架

本館の図書収容力は、平成25年度に地下書庫（地下1階と2階）を全面集密書架化して190万冊の収容力を備えたことにより、現在約230万冊になっている。また、学習閲覧室（2階）は、平成26年10月のリニューアルオープンで設置書架の全面更新を行い、学習用図書が現在

約 18 万冊配架されている。書架環境の改善のほか、古い役に立たなくなった図書のリフレッシュに取り組んでいる。

③パソコン・コーナー

本館では、平成 24 年度に 1 号館にラーニング・コモンズを整備した際、かねて利用者から要望のあった PC の増設も実現した。メインフロアーの PC エリアに 75 台に増設したパソコンを設置するほか、40 台の貸出専用ノート PC を自動貸出機で提供しているものを含め、全 140 台が使用可能となっている。アンケート結果からも学生から一応の評価はあるものの、要望は受け止める必要がある。

分館等でも、医学分館が 56 台、また、工学分館が 36 台設置しているなど、情報検索やレポート作成等学習利用のためのパソコンの充実に努めている。

④防犯カメラ

本館では、環境整備の一環として 1 号館の映像記録・監視システムを平成 26 年 10 月のリニューアルオープンで全面更新し、適切な増設により死角を少なくし、防犯機能を強化した。また、平成 27 年度には 2 号館も整備して、施設の管理及び貴重書等の保存環境向上に努めた。設置を周知するため掲示により利用者への注意喚起も行っている。

分館等においても、安全と安心のためにも設置しているところであるが、特に無人開館には有効に活用されている。

⑤身障者用施設

身障者用施設として身障者用トイレを設置し、エレベーター（3 機）及び自動ドア等の整備に努めており、バリアフリーや拡大読書器等の閲覧ツールにも配慮している。

平成 28 年度から施行される障害者差別解消法への対応も学内の関連部署と連携を取り、シームレスな環境整備に努めていく必要がある。

３）空調・冷暖房設備

本館では、本館の全面改修で、熱源をボイラーから電気に切り換えるとともに、メインフロアと２階学生閲覧室を除き、全館集中方式から個別空調方式へ変更し、空調設備を省エネ対応設備に改善した。ただし、利用空間が広いため利用者の温度感知の違いもあろうが、アンケートでも要望があるので、気温や天候状況にも配慮しながら室温調整に努めている。

同様に医学分館や北青葉山分館でも、空調装置の更新を含めた改修のための予算要求を行っている。

4）照　明

平成 27 年 10 月に実施した図書館のアンケート調査で、全学的に期待度 5.5 に対して実態評価は 4.6 と低い。対応策として補助照明を導入しており、さらに今後も調査や検討を行い対応していきたい。照明を考慮するにあたって、学習に際して十分な照度が確保されることはもちろん、落ち着いた雰囲気でストレスのない環境の両立を配慮している。全体照明のバランスを失わないように配慮しながら照明設備の整備を進めていきたい。

5）入退館関連設備・機器

本館の入退館管理システムは、平成 26 年 10 月のリニューアルオープンに合わせて更新した。分館等においても、セキュリティ、利便性向上や無人開館への対応により整備されているところである。本機器は、防犯対策上有効ではあるが、あらためて退館時ブザー等の誤作動には十分注意するなど、利用者に対する配慮をしている。

6）その他の施設・設備

本館は、全面改修に合わせて、学生、教職員及び一般市民等の利便性を図るため、国内外の利用者へ対応したグローバルサインを新設した。これは、国際標準仕様を取り入れ、館内で求める資料やエリアへのアクセスを容易にしている。

同様に、図書館の新たな環境作りの一環として 1 階エントランスとテラスに隣接した空間に図書館カフェを平成 27 年 4 月に設置した。これにより図書館の長期滞在が快適になり、交流の場となることを期待したい。留学生と日本人学生との交流の場として活用されるイベントが開催され、グローバル化を促進するという観点からも大きな役割を果たしている。

利用者のリラクゼーションや飲食を確保するため、分館とともにラウンジを整備している。本館では、平成 19 年度に椅子等を更新して快適な空間となった。また、自動販売機（飲み物 2 機、パン 1 機）を設置して長時間にわたる学習をサポートしている。

特に農学分館の施設・設備充実は、現在建設中の新図書館で実現する。分館を含めた現雨宮キャンパスの施設が全て、平成 28 年度中に青葉山新キャンパスへ移転し、平成 29 年度から運用が始まる。そのため新キャンパスの新図書館において十分な施設・設備を整備するべく計画を遂行し、図書館機能を予定とおり実現させるべく調達や設置に向けて準備を進めているところである。

３．資料の収集・保存

１）各図書館の蔵書・受入状況

本館や各分館等の資料は、本部から措置される大学運営資金に加えて関係部局から措置される資料費によって整備されてきた。各図書館図書室ではそれぞれの組織に応じた収書体制で資料収集を遂行している。

平成 21 年度からは大学中央経費で学生用図書予算が毎年措置されるようになり、積極的な資料収集が行えるようになった（後述）。今後も学生の希望やカリキュラムとの連携を円滑にして、各分館等の使命に応じた蔵書構成を目指していかなければならない。

雑誌については、「学術情報整備計画」の下、価格上昇や予算確保といった大きな課題がありながらも、全学的に電子ジャーナルの整備を行ってきている(後述)。そのため、各分館等で収集するのは必要かつ最小限のコレクションとなっている。

図書及び雑誌の蔵書冊数は、いずれも本館が全体の半数以上を占めており、各分館等が全体の 1 割程度となっている。各館とも増加し続ける蔵書の対応として除却も行っているが、28 年度竣工する新図書館には、新たに学内図書館図書室共用の書庫を設置する予定である。この共用書庫を活用して、計画的な移管等により、図書館全体として適正な蔵書管理を行っていく計画である。

２）学生用図書の整備

前回（平成 19 年）の外部評価では、学生用図書の充実のための中央経費での予算化が課題とされたが、平成 21 年度に学生 1 人当たり 1 冊を目標とした「学生用図書整備事業」を策定し総長裁量経費を要求、本部との折衝にあたった結果、必要性が認められ、予算措置されることとなった。この経費は、平成 23 年度以降からは大学の基盤的な経費に対する予算措置である「全学的基盤経費」として今年度まで毎年配分されている。

事業内容は、①学生 1 人当たり 1 冊に当たる 18,000 冊の整備、②新刊図書を中心とした基本的な学習図書の継続購入、③全学問分野に対し偏りのない選定である。措置された予算は本館および各分館に配分するが、その方法は、目標冊数や一冊当たりの平均単価を基にした各館からの希望提示額に応じ、できるだけ希望に沿う金額を配分するものである。

この財源確保により、新刊書や複本の購入はもちろんのこと、各館の専門分野における参考書や電子ブックなど、特色ある選書によって充実した学習環境が提供可能になった。

なお、学生用図書費の一元化については実現していないが、同じく外部評価指摘事項の全学的選書方針、全学的選書体制とともに、今後の検討課題である。

３）電子的学術情報資料の整備

①電子ブック

附属図書館では、平成 22 年度以降、電子ブックの購入を進めている。近年は図書館だけでなく部局図書室でも購入する傾向にあり、各分野偏りなく購入している。

電子ブックはほとんどの場合、全学で利用することができ、学内 LAN に接続できれば来館せずとも閲覧することができる。また、冊子体で書架を占有することもないため、複本が必要なテキスト等については、電子ブックが適している。

現在、導入している電子ブックの件数は約４,300 タイトルであるが、この数字は決して多い数とは言えない。電子ブックの導入が進まない理由は、冊子体に比べ価格が高額であること、必要な日本語図書の電子化が進んでいないこと、仮に電子化されていても閲覧のみなど使用制限があり、冊子体の代替としての利用ができないことなどがあげられる。

今後は、書店・出版社等へ大学の要望を伝え、電子ブックが需要に即して提供されるよう働きかけていきたい。

②電子ジャーナル・データベース

(1) 全学的基盤経費の導入

電子ジャーナル・データベースは、平成 14 年度末に策定された「東北大学学術情報整備計画」（以下、「整備計画」）を指針として「学術情報整備検討委員会」（以下、「整備委員会」）により整備資料の範囲や費用負担について検討されてきた。この「整備計画」の中で、大学の重要なインフラとして整備すべき学術情報資料は、購入の財源を大学の共通的経費に求めることが謳われたが、部局負担での維持が続いたことは前回評価でも指摘のとおりである。

しかしその後、全部局による共同購入が浸透する中で、「学術情報資料が大学の研究・教育の基盤である」という考え方もまた浸透した。平成 20～21 年の総長裁量経費での申請・配分を経て、平成 22 年から全学的基盤経費により約 2 億円が学術情報整備費として配分され、所要経費の一部ではあるが共通経費による整備が実現した。その後部局負担率の見直しや為替レート変動による価格上昇などの理由から、全学的基盤経費は徐々に増額され、配分額は平成 27 年度に 3 億円となった。

(2) 部局負担率の見直し

全学的基盤経費の導入後も学内全部局での負担が継続されている。

部局の拠出金額は、共同購入開始当初はそれまでの冊子の購入規模割合により算出されてきたが、学内冊子の重複調整・電子ジャーナル化の推進により購読内容が変化し、部局間の公平性が問題となった。そこで受益者負担の考え方を取り入れ、平成 19 年度からは各部局の教員

数と電子ジャーナルへのアクセス数による割合負担に変更された。

しかし、この負担率の算出方法も、アクセス数を IP アドレス毎に計測できる電子ジャーナルパッケージが限られていることや、全学的に整備した学術情報基盤への利用抑制に繋がるとの指摘から、見直しを要望する意見が出てきた。平成 23 年の震災で被災に伴う研究室の移動があり、部局毎のアクセス数の計測が不能となったことをきっかけに見直しが図られ、現在は教員数と部局の予算規模（大学運営資金）の割合による負担率を使用している。しかしこれに対しても、より公平性・透明性がある負担率の策定が望まれている。

共通的な学術情報については、全額を共通経費により措置されることが理想であるが、大学の現況では全学的共通経費の大規模な増額は困難とみられる。今後の部局負担等については部局長会議等へ議論の場を移し、予算執行の権限を有する部局長に直接説明し、学術情報整備に関する理解を得ていくことを考えている。

(3) 分野別選定 WG（ワーキンググループ）の導入

前回評価でも文系資料の薄さが指摘されていたが、理系資料の電子化が先行して進んだため、全学的に選定することとなっていた電子ジャーナル・データベースも文系資料の割合は少ない状況が継続していた。このことは、部局負担率を決定する場合に文系部局が不公平感を持つ一因でもあった。また、予算規模が大きくなり、全学で購入する学術資料を一律に決定することは、雑誌選定の機動性の面で問題となっていた。

これを解消するために、平成 21 年度から分野別 WG が設置されることになった。もともと「整備委員会」の下に資料選定のための「学術情報資料選定小委員会」が設置されていたが、その委員が人文系・理工系・生命系の 3 分野のワーキング・グループに分かれ、各分野に関わる電子ジャーナルパッケージ・データベースや雑誌の個別タイトルの選定を行うことで、より柔軟な選定が行えるようにした。また、経費負担についても、学内の部局はいずれかの分野に所属することとし、全学共通枠と別に各分野で選定したものを当該分野の部局で共同負担することとした。

これにより、購入する資料の学問分野の割合に対して部局負担の公平性を確保する一助となったと同時に、文系資料の薄さを解決するための体制が整うことになった。

(4) 購読内容の見直し

外国雑誌の価格上昇は以前から重大な問題となっており、これは電子化以降も変化はなく、新興国からの投稿の増加などを理由に出版社は継続的な値上げを行っている。平成 25 年までは為替レートが円高基調で推移したため、この問題はしばらく顕在化して来なかった。しかし、平成 26 年度以降為替レートは急激な円安に転じ、雑誌価格の上昇以外にも消費税課税率の上昇や、国境を越えた役務への消費税課税等により必要経費は大幅に増加することが予想されて

いる。共同購入による学術情報整備費は平成 25 年度までは 5.5 億円前後で推移してきたが、平成 26 年度には 6.5 億円、平成 27 年度は 7 億円となることが予想されており、維持が危ぶまれる事態となっている。

このことから平成 25 年度の「整備委員会」では、経費抑制のため購読資料の精査が必要であることが認識され、購読内容見直しの一環として契約中の電子ジャーナルパッケージが見直されることになった。平成 26 年度は Elsevier 社、平成 27 年度には Springer 社・Wiley-Blackwell 社の電子ジャーナルパッケージ見直しのために全学にアンケート調査・購読調査を行い、4 社と契約内容について交渉を行った。結果としてはパッケージ契約とタイトル毎購読の価格比較、中止による学内の研究・教育環境への影響をふまえ、各パッケージは今後 3 年間継続されることになったが、根本的な解決には至っておらず、今後も継続的な検討が必要である。部局負担に関する検討を部局長会議に移行するため、今後の「整備委員会」では(3)で述べたワーキング・グループとともに学術情報整備方針の策定や選定に注力することとし、検討を継続する予定である。

(5) 学外コンソーシアム等への参加

前回評価いただいた他大学とのコンソーシアム活動については、その後も継続している。特に平成 23 年に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が発足し、国公私立大学が一元的に学術情報の安定的・継続的に確保する活動を推進し、出版社と交渉することになったのが大きなトピックであった。本学も発足時から参加し、平成 27 年からは作業部会に委員を派遣して活動を行っている。

また、電子資料の保存やオープンアクセスに貢献する活動として、CLOCKSS や SCOAP3 に参加している。平成 28 年からは arXiv.org 会員コンソーシアムにも参加予定であり、今後も情報を収集し、学術コミュニティへの国際的な貢献につながる活動を支援していきたい。

(6) 今後の課題

電子ジャーナル・データベースの購読・維持にあたっては、全学的な財源措置に基づく共通経費の確立が前回指摘されていたが、平成 20 年度からの全学的基盤経費の措置により、一部実現することができた。しかしながら、急激な資料費の高騰を受けて、学術情報基盤環境を維持しながら、経費を抑制していくという極めて困難な課題と向き合う必要も生じている。

経費の問題に関しては、(2)で述べたとおり、大学の財政状況の変化もふまえて負担のあり方を部局長会議等で議論していくことになっている。また、現在購入中の電子ジャーナル・データベースについて、購読内容を不断に見直していくことも重要である。「整備計画」の策定から 13 年が経過していることから、内容の見直し・更新を行うことが急務となっており、「整備委員会」で検討予定である。

なお、前回評価では利用できる電子ジャーナル・データベースについての広報活動の必要を指摘された。充分な活動ができたとは言えないが、電子ジャーナルパッケージ見直しのためのアンケート等により、本学の学術情報基盤や経費負担の現状について、学内構成員からの理解が少しずつ進んでいることがわかった。しかし、利用者アンケートでは依然として本学で利用できる電子的資料を知らないという声がある。今後も広報を進めることで、学内で購読中の電子ジャーナル・データベースの利用を促進し、価格高騰の問題等も認識いただいた上で、本学の学術情報の選定や、オープンアクセス等の活動にも理解をいただけるよう努めたい。

4）震災ライブラリーの整備

①経緯と方針

東北大学附属図書館では、震災の記録を後世に伝え、教訓とするとともに、今後の生活や、教育・研究のあり方を考える上でよりどころとなる情報を収集して提供するため、平成 24 年 3 月 12 日に、本館メインホールに震災関連資料を集めた「震災ライブラリー」を設置した。

当初は図書 600 冊程度での公開であったが、現在は冊数が増加し、震災の経験を世界で広く活かすことを見据えて、グローバル資料室で公開している。

②選書

申し合わせ「震災ライブラリー資料の収集等について」に基づき、一般に販売されている資料を中心に収集を行い、震災に言及のある資料は、年間予算 100 万円の範囲で、ジャンルを問わず、網羅的に購入するようにしている。また各種機関から関連資料の寄贈があり、それらはよほどの問題（中傷等）が無い限り受け入れている。一次選書は本館収書委員会の下の収書 WG および情報管理課専門員でおこない、その後、本館収書委員会で検討の上、受入を最終決定している。なお、周知のように、震災関係資料は、他の様々な図書館や機関でも収集しているので、当館では大学図書館という特色を活かし、他図書館ではあまり収集しないであろう、学術書や英語資料を積極的に収集するようにしている。

③配置と所蔵状況

配置は「震災ライブラリー」にまとめて配置し、永年保存のためブッカーを掛けて禁帯出としている。昨年度（平成 26 年度）末で、4,434 冊（購入 72%　3,231 冊、寄贈 28%　1,283 冊）となった。

④今後の方向性

次第に関係書の出版が減ってくる中、収集の方向性について、将来的に見直していく必要が出てくると思われる。

５）図書館蔵書目録の整備

①蔵書目録データベースの整備

附属図書館では、昭和 62 年 1 月から、それまでのカード目録に換えて蔵書目録データベースの構築を開始した。合わせて NACSIS-CAT に接続し、全国総合目録データベースの形成にも参加している。平成 26 年度末時点での、蔵書データベースの累計データ件数は図書書誌 149 万件、図書所蔵 412 万件、雑誌 8.4 万件（種）である。

現在では、新規受入資料の原則として全てを NACSIS-CAT 及び蔵書データベースに登録し、OPAC 等でインターネットを通じて検索可能としている。 累計の NACSIS-CAT 新規書誌作成件数は、後述の遡及入力を含め、年間約 6,500 件、特に本館は平成 26 年度までの累計新規書誌作成件数が全国の 1,400 館を越える図書館のなかで 12 位となっている。

平成 23 年度からは、電子ブックも蔵書データベースへの登録を開始し、OPAC で統合的に検索可能とした。電子ブックデータの継続的なメンテナンスと、登録の省力化は今後の課題である。

その他の課題としては、特殊言語資料について十分な体制が確保できていないこと、また、目録業務の継続的な知識継承が経験の長い非常勤職員に負うところが大きくなっているが今後非常勤職員が短期雇用となる一方、定員職員に目録業務担当経験がある者が減少しつつあることなどから、今後の質が高い目録業務の継続性に懸念がある。

②図書目録情報の遡及入力

蔵書のデータベース化開始以前に受入れた資料 186 万冊についての遡及入力事業を、 平成元年度より開始し、平成 19 年度まで 5 次にわたって実施した。現在はさらに、平成 20 年度からの第 6 次 10 ヶ年計画として、古典資料や研究室資料の遡及入力事業を執行中である。

第 5 次までの入力冊数と対象は下表のとおりである。

計　画	期　間	入力対象
第1次計画	平成元年度～3年度	本館の学生用図書の約8万冊
第2次計画	平成4年度～6年度	昭和48年以降受入の本館書庫分約16万冊
第3次計画	平成7年度～10年度	分館所蔵分約21.6万冊
第4次計画	平成11年度～14年度	旧片平書庫分約21万冊
第5次計画	平成15年度～19年度	旧片平、旧教養書庫分約28万冊

なお、第 6 次(平成 20 年度～29 年度)計画は、分館所蔵資料、中国語資料、古典資料、貴重

書、準貴重書、研究室貸出資料が対象となっており、平成 26 年度までに約 47 万冊の入力を完了し、平成 27 年度は古典資料の入力開始を含め 2 万 1 千冊を目標に入力作業中である。

前回評価の平成 19 年度時点では、入力ペースを上げるための経費獲得等が課題とされていたが、平成 20 年度～21 年度には国立情報学研究所の委託事業として、全学基盤経費分に加えてさらに年間 5 万冊を入力し、入力を加速することができた。

当初予測された遡及入力対象冊数 186 万冊の約 8 割にあたる 147 万冊の入力を、平成 26 年度までに完了することができた。主立った資料群の入力は完了しつつあり、利用の多い資料についてはおおむね蔵書データベースでの検索が可能になったと言える。

一方、残る資料 39 万冊は古典籍や研究室資料など、書誌の作成が難しい、あるいは入力作業に手間がかかる資料となる。そのため、今後の入力ペースは下がっていくことが予想され、長期計画で入力を続けるのか、あるいは予算の増額等で計画を見直すのか、検討が必要となっている。また、データ登録のみ一括で実施した狩野文庫・漱石文庫等について、原資料との照合や資料番号の貼付が出来ておらず、どのように作業するのかが課題である。

６）蔵書管理の状況

法人化以前、図書資産は各図書館・金属材料研究所で管理していたが、法人化後は、財務会計上の管理は本館に一本化され、図書館システムの一つである資産管理システムへの登録、財務会計上の資産額の確認や決算報告は本館で行っている。配架スペースの狭隘化による重複図書の廃棄、その他キャンパス移転に係る重複図書の整理、教員の異動による他大学への移管による除却処理数は毎年数万冊（約 40 件）である。また、図書館間の図書の移動、組織の改編による管理部局の変更や教員の部局間異動に伴う図書の移動などによる学内の保管場所変更は年間約 3,000 冊（約 50 件）である。

平成 28 年度には農学分館の移転に伴い新分館が完成するが、この新分館には農学分館の蔵書の他、各館からの蔵書の一部分も移動させることになっている。それらの図書資産について管理部局を一本化することが望ましいが、仮に管理部局を一本化した場合、移動予定の約 15 万冊の保管場所変更処理、資料番号ラベルの貼替作業が必要となる。この作業についてどのように進めていくか、早急に検討する必要がある。

４．サービス機能

１）各図書館の利用状況

①　資料の利用

本館では、資料種別や保管場所、身分等により、資料貸出の条件（貸出の可否、冊数、期

間）を細かく設定し、適正な利用を図っている。1 号館と 2 号館合わせて約 267 万冊の蔵書をさらに学習に役立て有効に活用してもらうため、学部学生からの要望にも応じて館外貸出冊数を増加した（学習閲覧室は 5 冊から 10 冊へ、書庫は 5 冊から 25 冊へ）。ただし、アンケートではさらに要望があり、今後も検討が必要である。

1 号館では、学生閲覧室に、学習機能向上のため学部生向け図書、参考図書、ゆかりコレクション及び学生の選書による図書を配置している。また、本館改修により平成 26 年 10 月にオープンしたグローバル学習室には、多読授業をサポートするための READERS、語学学習資料、留学情報、留学生向け資料を設置している。

貸出及び返却手続きは、メインカウンターのほか 3 台ある自動貸出機で利用者自身が貸出手続きを行い、ゲート前の受付カウンターで返却することもできる。

地下書庫には、研究用図書、大型コレクション及び個人文庫などの特殊資料が収蔵されている。入庫対象者は、原則教職員及び大学院生であるため、他の利用者には出納サービスを行っている。

2 号館には、製本雑誌、齋藤養之助家史料、古典資料、狩野文庫を含む準貴重図書、貴重図書等の資料を配置している。各資料により、適切な利活用のため、利用条件を設定している。平成 27 年度には、狩野文庫を準貴重図書に指定した。また、貴重図書は、複写や、一部の個人文庫、文書類等の特別コレクションを貸出制限し、保存に努めている。

医学分館では、平成 19 年度の外部評価で、図書の年間貸出冊数について他分館とバランスを取るよう指摘を受けたため、貸出条件の緩和、複本整備や配置場所に工夫を加えた結果、平成 26 年度は調査時の 3 倍以上の貸出冊数を実現した。

分館や図書室においても、自動貸出装置の導入により利便性を向上させている。利用者身分別の入館時間に対応して、時間外の館外貸出が可能となっている。

②開館日・開館時間等

本館の平成 26 年度の開館日数は 296 日であった。通常より少ないのは、本館改修工事のため平成 26 年 8～9 月休館したことによる。通常は土・日・祝日開館を実施して 350 日程度、ほぼ 1 年中開館している状況である。開館時間は、1 号館が、平成 21 年度から平日午前 8 時から午後 10 時まで、土・日・祝日午前 10 時から午後 10 時までさらに時間延長して、長時間滞在型の図書館となっている。2 号館は、平日午前 8 時 45 分から午後 5 時まで、土・日・祝日は休館となっている。全ての時間帯を有人で開館している。

分館や図書室の多くは、有人と無人を組み合わせて時間外開館を実施している。平日無人時や土・日・祝日は、自動入退館装置を整備して身分別に時間帯を使い分けて利用を可能に

している。分館等での無人を含めた延長開館は、所属教員等の学習・研究事情を考慮し、必要経費とマンパワーの事情に応じた最適な選択をしている。その取り扱いにあたっては、利用者の利便性と安全を確保し、かつ職員の犠牲や危険性を回避できるよう配慮している。

③レファレンスサービス

インターネット環境が充実し、紙媒体の参考図書の利用は減少する傾向にあるが、現在でも重要な図書館サービスのひとつには変わりない。図書館職員の専門性が発揮される部署であるため、担当職員は、スキルアップに努めている。従来通りの参考図書に加え、ガイダンス講習会を企画し、利用者教育も行っている。

④図書館間協力(ILL)

本館、分館等の相互利用においては、資料搬送システムにより、資料を所蔵する場所に出向かなくても、依頼した図書や文献複写を受け取れるようになっている。

図書館間相互利用サービス（以下 ILL）では、紙媒体の電子的な送信サービス（DDS：ドキュメント・デリバリ・サービス）の利用が可能になっている。その財源についても校費払いのほか、私費払いや寄附金の使用が可能となった。今後、教員等の利便性を図るため、科研費や受託研究費の活用が期待されるところである。

ILL の処理件数は、電子ジャーナルパッケージの導入により年々減少する傾向にあるが、各大学でのパッケージ維持が難しくなっているため、この動向と影響を注視していかなければならない。

２）全学的情報リテラシー教育

①オリエンテーション・講習会

インドの図書館学者であるS.R.ランガナタン（1892－1972)は『図書館学の五法則』の第4法則で「利用者の時間を節約せよ」と主張している。これまで図書館は、電算化・電子化を通してオンラインでの迅速なサービス提供を実現するよう努力を続けてきた。一方、その提供サービスや図書館自体の利用方法を利用者が理解し、体得していなければ「利用者の時間の節約」は実現できない。そのため、この情報リテラシー教育は図書館運営で欠かさざるべき重要な業務の一つである。

本館では、例年館内での新入生オリエンテーションを入学式後の3日間に実施していたが、平成27年度は、4月1日より実施した。実施記録は、平成27年度において、9日間で館内見学ツアーを含め、全27回、参加者639名となっている。その中には、教育学部新入生78名に限定して、図書館オリエンテーションを実施したもの、及び新入学留学生のための英語によるオリエンテーションも含まれる。留学生向けのオリエンテーションは4回行い、合計45名の参加者を

得た。

多くの留学生が入学する10月には、5日間にわたり5内容（第2回グローバル・セッション、英語・中国語・韓国語・インドネシア語による図書館ガイダンス、インドネシア語による図書館ツアー）の新入留学生向け企画を開催し、参加者は合計35名であった。

また、例年実施している講習会には、公開型とオーダーメイド型との2つのスタイルがある。公開型の講習会としては、「情報探索のススメ」というタイトルで実施し、平成27年度は4月に5つの内容（初級編：学術情報の集め方、図書の探し方、雑誌論文の探し方、新聞記事の探し方　及び中級編：文科系院生のための文献探索講習会・日本語・外国語論文の探し方）を10日間にわたり計28回開催した。受講者数は入門編が395名、中級編が44名であった。10月には、論文執筆を意識した3つの内容（レポート・論文作成、日本語・外国語雑誌論文検索）で「情報探索のススメ」講習会を、4日間にわたり計8回開催した。参加者数は計35名であった。また同月には留学生コンシェルジュによる「情報探索のススメ Grobal」を新たに実施した。留学生コンシェルジュの母国の資料をどのように検索し入手するか、という視点で3内容（中国語図書の探し方、中国語論文の探し方、韓国語文献の探し方）を行った。この企画は各内容1回ずつ計3日間で、30名の参加者を得た。今後の課題は、従来から続く広報周知の工夫と、さらなる留学生コンシェルジュの特性を活かした多言語の講習会、留学生コンシェルジュの母国資料の探索講習会のさらなるプログラム開発と開催等が挙げられる。

もう一方のオーダーメイド型講習会は、全学教育、川内にある文系学部を中心に、計15回のオーダーがあった。オーダーに応じて内容を組み替え、合計241名に対して講習会を行った。（平成27年11月30日現在)

最後に全学的情報リテラシー教育の観点で見ると、本館以外では、医学分館での新入生を対象にした図書館利用ガイダンス・文献検索講習会、医学部保健学科看護学専攻や医学科3年次全員を対象に行う文献検索講習会、北青葉山分館における授業参画、農学分館におけるオーダーメイド講習会、金属材料研究所図書室における所内文献探索ガイダンスと『情報検索の手引き』編集への参画が挙げられる。どの分館・図書室でも様々な取り組みをしていることが分かる。

しかし「全学的」という観点で見ると、各館の独自開催・運営に留まっていることを指摘したい。平成20年度前後まで情報教育支援ワーキンググループを起点とする、附属図書館本分館・図書室での教育リテラシー活動の協働化がはかられており、講習会資料の共通化や、講習会担当者の相互連携、理工系情報教育支援WGの活動といった分野ごとの活動を行っていた頃に比較すると、現在は各館で最低限に行っている感がある。今後はいかにして協働化の動きを回復し、全学的な見地での情報リテラシー教育の展開を検討し、実施していくかが大きな課題と

言えよう。

②全学教育科目「大学生のレポート作成入門」の運営

平成16年度に「大学生のための情報検索術(全学教育科目)」という名前で開講された当科目も12年目を迎えた。平成27年度からは、これまでの後期開講から、学生のニーズがより高いと思われる前期の金曜5時限目に変更し、科目名も「大学生のためのレポート作成入門」とした。平成26年度の受講者は29名であったのに対し、聴講生も含め120名と4倍になった。

当科目は、レポート作成に詳しい教員や図書館学等の教員と連携し、講義と実習を半々に盛り込む形式が特徴的である。また講義の半数を附属図書館本館を会場にし、実際に図書館資料や施設を活用して学びを深めて行くことも大きな特徴である。図書館職員は主として文献探索部分の講義・実習を担当しているほか、レポート作成の実践編の部分も担当している。授業の運営は、本分館、図書室からの抽出メンバーで構成する図書館情報教育支援ワーキンググループ（主査：情報サービス課長、事務局：参考調査係）が担当している。年を経るごとに内容が改良され、現在は文献探索よりもレポート作成法（ライティング）が充実し、探索活動やグループ学習等のアクティブラーニングも取り入れ、より実践的な内容に変化している。大学院生4名(TA 3名と学習支援センターのSLA 1名)の協力体制があり、彼らには授業の実習補助のほか、サポートデスクを担当させ、個別相談可能な環境を実現している。[1] [2]

平成27年度は、受講生の急増を受け、班別活動を中心とする運営体制に変更した。各班には職員とTA、SLSが担任として就き、授業終了までサポートを行った。

今後の課題は、これまで附属図書館が担い、蓄積した実績に加え、全学教育科目担当教員との連携を図ることで、さらなる講義内容の充実、受講の必須化など、本学学生の通常授業におけるレポート作成から卒業論文執筆に至るまでの総合的なケアを目指すことである。

また当科目が発足当初10年後を見据えて、単なる文献探索技術の内容に留まらず、探索のゴールであるアカデミックライティングを一つの柱にすることを企図したように、今後10年を見据えて、アクティブラーニング、グローバルラーニング、サービスラーニングといった高等教育の最新手法を取り入れ、国内でも先端を行くプログラムの開発と実践を進めることが大きな課題である。

3）キャンパス間資料搬送サービス

附属図書館は、市内4キャンパスにそれぞれ図書館（室）があり、平成18年よりキャンパス

---

1 横山美佳. 東北大学生のための教育・学習支援. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2012、 1、 p.47-54.
2 坂本 香代、 工藤 未来. レポート作成法の授業における協働学習の活用 : グループディスカッションの試み. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2014、 2、 p.39-44.

間資料搬送サービスを実施している。本学構成員であれば、最寄りの参加図書館（室）を通じて、他のキャンパスの図書館（室）にある資料を取り寄せ、借りることができ、またどの参加図書館（室）に返却することもできる。近年では、年間約2万件の利用があり、本学構成員にとって大変有益なサービスとなっている

５．社会貢献

１）教育研究成果等の発信

附属図書館では、大学の研究・教育成果等を効率的に収集・保存・発信するため、平成 18 年 12 月 15 日より「東北大学機関リポジトリ TOUR」を運用している。

本学の研究者、学生の執筆した学術論文や学位論文のほか、本学で刊行している紀要論文が中心のコンテンツとなっており、平成 27 年 9 月末時点で、50,601 件のデータを登録している。

特に、ここ数年は文系学部の紀要登録が進んでおり、研究科内での認知度も上がってきていることが感じられる。限定された図書館等に紙媒体でのみ配布される、こうした資料の公開は、TOUR の利用価値を高めている。また、平成 25 年度の学位取得者からは、原則として、博士論文の本文を所属機関の機関リポジトリで公開することが義務づけられた。博士学位論文も利用のしにくい資料の一つであるため、登録を推進することが利用者にとっての貢献となっている。

今後の課題としては、NII が提供する JAIRO Cloud の利用など、安定的な公開環境の構築を進めること、紀要のさらなる登録を進めるため、登録の障害となっている要因（著作権処理や投稿規定の整備）の解消をサポートすること、学内で刊行された文献の図書館間相互利用の状況を把握し、古い文献であってもニーズの高い資料を公開することで、利用の便とともに相互利用業務の軽減を図ることなどが挙げられる。

また、科学研究費補助金を使用した研究成果のオープンアクセス化が推奨されるなど、既に電子ジャーナルとして学術出版社から有償で利用できる文献についても、リポジトリへの登録が推奨される風潮となっている。人員削減の続く体制では、コンテンツの確認作業や登録作業が追いつかない状況にあるため、今から研究者や紀要の刊行元によるセルフアーカイブの実現を見据えた活動を行う必要がある。

２）図書館の地域開放

附属図書館では、従来から、一般市民を含む学外の方の利用を認めており、図書館利用証の申請数は、平成 20 年度以降は新規・更新も含め年間 800～1,000 件にのぼり、多くの学外の方に利用されている。反面、本学試験期における学外利用者の閲覧席の利用や、近隣高校の生徒による語学学習資料（多読資料）の利用など、本来の図書館事業の対象である学内者の利用を

阻害する事例も見受けられる。今後は、学内者の利用に十分配慮した上で、資料の貸出等も含めた学外利用者の利用条件の見直しと改善が課題である。

3）展示会、イベント

『外部評価報告書』では、展示会を通した東北大学のイメージアップへの貢献を高く評価されており、また、展示会広報の徹底と図書館職員の培った資料に対する知識等の外部発信を求められていた。

① 企画展及び講演会等展示会関連行事の開催

平成10年度から、例年、大学祭開催に合わせた11月頃に企画展を開催している。企画展では展示だけではなく、学内構成員のみならず、幅広い対象に向けた講演会等の関連行事も行っている。

特に平成19年度は東北大学創立100周年にあたり、通常の企画展の他、100周年記念事業としての特別展にも携わった。総長を本部長とした「百周年記念事業本部」のもと、「オール東北大学展対応作業部会」と「夏目漱石展対応作業部会」とに分かれ、東京都江戸東京博物館、仙台市博物館で2つの特別展を開催した。これらは共同主催機関である東京都江戸東京博物館、仙台市博物館、朝日新聞社等と連携し、行った。また、キャンパスを離れての、東京開催は初の試みであった。創立100周年を記念する大規模イベントの一つとして、さらに大学の社会連携、生涯教育への貢献として、果たした役割は、決して小さくはないと思われる。

平成20年度もキャンパスを離れ、宮城県図書館で和算資料の展示を同館と共催で開催した。当館では和算資料のコレクションも数多く所蔵しており、一般にはなじみの薄いと思われる和算について、幅広い年代の一般市民の皆さんにも興味を持ってもらえたことと思う。

平成24～25年度は、1号館大規模改修準備や同工事等のため、企画展は開催できなかったが、平成25年度には、日英学術交流150周年および東北大学とUCL（ロンドン大学）との大学間学術交流協定の締結を記念し、UCL図書館にて同大学と共催で夏目漱石展を開催。東北大学の学術交流の一環として、漱石とも縁の深いUCL図書館との協働により海外で展示会を実施できたことは、当館にとっても良い経験となった。

平成26年度は改修工事が終わった後期に、本館リニューアルを記念した展示、第3回国連防災世界会議関連事業としての展示と2度、特別展を開催した。これらの展示の広報として、ポスター掲示、HPへの掲載の他、随時、ツイッターによる資料紹介も行った。

この他、他機関からの展示会への出陳依頼の要請にも応じている。過去5年間の対応件数は、平成22年度6件、平成23年度4件、平成24年度12件、平成25年度7件、平成26年度8件となっている。なお、平成25年度には、東京国立博物館で開催された特別展「日本国宝展ー

祈り、信じる力－」に国宝1点を出陳している。

企画展は学術資源研究公開センターの協力を得て実施している。これからも企画展の継続実施を目指し、また、様々な機会に所蔵資料の公開を図り、より多くの方々に興味を持って頂けるよう努めたい。これらの活動を通して、本学のイメージを少しでも高めていければ幸いである。平成19年度以降の本館での企画展実施状況は別紙の通りである。

なお、詳細は http://www.library.tohoku.ac.jp/collection/exhibit/sp/exhib-sp.html

②常設展の開催

本館エントランス展示コーナーでは、時期に応じて常設展を行っている。

平成23年度より、施設の有効活用と職員の負担軽減を図るため、同コーナーの学生団体（サークル）等への貸出を開始。「サークル展①：学友会写真部」、「サークル展②：復興応援団」、「サークル展③：学友会応援団：東北大と応援団のあゆみ」、「サークル展④：学友会漫画研究会」等を開催。このほかにも「夏目漱石：筆跡は語るⅠ、Ⅱ」、「東北大学史料館：清風一過：大島正隆の歴史学と民俗学」等、様々な常設展示を開催。

また、平成25年度から平成26年度にかけての本館大規模改修工事では、従来の展示コーナーを、壁仕切り、スロープ位置調整、縦型展示ケース改造・据え付け等により、使い勝手良く改修した。

なお、本館での常設展実施状況詳細は、以下の通りである。

http://www.library.tohoku.ac.jp/collection/exhibit/gen/exhib-gen.html

その他、これら常設展の中には、EU情報センターの役割として、毎年、EU-JAPAN Friendship Week展示を企画・実施するなど、他方向からの視点によるものも含まれる。EUの様々な活動をPRすることが主な目的となるため、EU代表部から様々なPRグッズが送付され、PR展示とタイアップしたEUクイズの景品として使用している。平成19年度以降は、以下のような展示を行った。

平成19年度（2007）	「100年前のヨーロッパ」展
平成20年度（2008）	「ユーロ」展
平成21年度（2009）	「EUを知るための12章」展
平成22年度（2010）	「ドイツ・ハンガリー・トルコ　3都の旅 ～　欧州文化首都巡り～」展
平成23年度（2011）	「ご当地キャラクターと巡るＥＵ5カ国の旅」展
平成24年度（2012）	「EU・オリンピックを辿る旅」展
平成25年度（2013）	「EU27カ国　食べ歩きヨーロッパ」展

平成 26 年度（2014）　　本館 1 号館改修工事のため中止

平成 27 年度（2015）　「EU の父　リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー」展

上記展示のうち、平成 25 年度開催の「EU27 カ国　食べ歩きヨーロッパ」展においては、大学生協の協力を得て、展示で紹介した各国のメニューをカフェで提供することを試みた。また、平成 27 年度開催の「EU の父　リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー」展は、当館へリヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーの肖像画が寄託されたことを記念し、寄託者への感謝状贈呈式とともに、本学法学研究科の戸澤英典教授による記念講演会「クーデンホーフ＝カレルギーの劇的な生涯と後世への影響―ヨーロッパと日本をつないで」を開催し、好評を博した。　（後述：8. 国際化への対応）

附属図書館　企画展開催一覧　　別　紙

年度	展示タイトル	展示内容、来場者数	会場、講演会等
平成 19 年度特別展	東北大学創立100周年記念展示　「東北大学の至宝－資料が語る 1 世紀－ 」	＜東京会場＞東北大学創立 100 周年を記念し、キャンパスを離れ、東京で、文系・理系の区別なしに様々な分野の本学の資料、200 余点を一同に展示。 来場者 33,503 名	会場：東京都江戸東京博物館 有料講演会（えどはくカルチャー）：5 回開催 フロアレクチャー（無料）：7 回実施
		＜仙台会場＞東北大学創立 100 周年を記念し、キャンパスを離れ、文系・理系の区別なしに様々な分野の本学の資料、300 余点を一同に展示。 来場者 12,036 名	会場：仙台市博物館 関連イベント：(3 件) ①「東北大学テクノワンダーランドへようこそ！－体験と展示－」 ②「サイエンス・エンジェルの体験科学ひろば@仙台市博物館」 ③「絵葉書タイムトラベル－狩野文庫絵葉書コレクションから－」 講演会：4 回開催 ミュージアム・トーク：3 回開催
平成 19 年度特別展	東北大学創立100周年記念、朝日新聞入社 100 年、江戸東京博物館開館 15 周年記念　「文豪　夏目漱石　－そのこころとまなざし－」	東北大学創立 100 周年記念事業の一つとして開催した展示。 来場者 89,436 名	会場：東京都江戸東京博物館 有料講演会（えどはくカルチャー）：4 回開催 無料講演会等関連イベント：4 回開催

平成 19 年度企画展	絵葉書タイムトラベル –狩野文庫絵葉書コレクションから–	東北大学創立100周年記念として、100 年前の絵葉書ブームにちなみ、狩野文庫絵葉書コレクションを紹介	第一期会場：東北大学附属図書館 第二期会場：仙台市博物館（特別展「東北大学の至宝」関連イベントとして展示）
平成 20 年度企画展	はっぴぃさんぽう -和算の世界へようこそ！-	関孝和の没後300年を記念し、東北大学所蔵和算コレクション約2万3千冊の中から代表的な資料を宮城県図書館所蔵の資料と共に展示。 来場者 2, 566 名	会場：宮城県図書館 講演会：3 回開催（すべて宮城県図書館） ①「算法少女のなぞ」遠藤寛子 氏 ②「和算を楽しんだ江戸時代の人々」 土倉保 氏 ③「いろいろな見方で楽しもう！和算の問題」 萬伸介 氏
平成 21 年度企画展	江戸のサイエンス -あたたかな科学が生まれた頃-	江戸時代の科学者たちが″サイエンス″を学び研究した軌跡を「狩野文庫」などの資料により、あらわした。 来場者 1, 078 名	会場：東北大学附属図書館 講演会：2 回開催 ①「科学の劇場-科学と見世物の間」吉田忠氏（東北大学附属図書館） ②「仙台藩の天文史-戸板保佑と幻の西洋暦」 黒須潔氏（萩ホール）
平成 22 年度企画展	クールジャパンのルーツをたずねて ー江戸庶民のたのしみー	「クールジャパン」と言われる現代の日本文化のルーツをたどると、江戸時代に庶民が育んだ文化にさかのぼることができる。江戸期の資料を通して当時の文化などを紹介した展示。 来場者 1, 156 名	会場：東北大学附属図書館 講演会：「江戸小説の創り方 -曲亭馬琴『高尾船字文』の場合-」 石川秀巳 氏（東北大学附属図書館）
平成 23 年度企画展	創立百周年記念企画展 煌（きら）めきのコレクションー未来への贈り物ー	東北大学附属図書館は、明治 44 年（1911）に設置された。2011 年 3 月の震災からの復旧も進め、6 月 14 日に創立 100 周年を迎えた。これを記念し、貴重なコレクションを展示。 来場者 1, 701 名	会場：東北大学附属図書館 講演会：「江戸時代の日本は帝国だった –ヨーロッパの見た日本–」 平川 新 氏（東北大学附属図書館）

平成 25 年度海外特別展	Natsume Sō seki、the Greatest Novelist in Modern Japan	平成25年11月、日英学術交流150周年および東北大学とUCLとの大学間学術交流協定の締結を記念し、展示会を開催。UCL 図書館で漱石関係資料を展示。	会場：UCL(University College London：ロンドン大学)中央図書館
平成 26 年度特別展	響鳴する知の遺産～グローバル視点による名著の数々～	本館のリニューアルを記念し、洋書を中心とした名著や漱石文庫、魯迅関係資料等を展示。 来場者 1,560 名。	会場：東北大学附属図書館
平成 26 年度特別展	The Amazing Collections of Tohoku University Library.	第3回国連防災世界会議関連事業　記念展示。外国からの来場者に考慮し、キャプションやパンフレットは日本語・英語併記とした。 来場者 1,249 名	会場：東北大学附属図書館
平成 27 年度企画展	狩野亨吉生誕150周年記念企画展 狩野文庫の世界 －狩野亨吉と愛蔵書－	『江戸学の宝庫』として世界的にも知られる「狩野文庫」。その旧蔵者である狩野亨吉博士(1865-1942)の生誕 150 年を記念し、「狩野文庫」の多様性に目を向けた展示会を開催。	会場：東北大学附属図書館 講演会： 第一部「狩野亨吉と東北大学」　曽根原　理氏（東北大学学術 資源研究公開センター史料館助教 ） 第二部「狩野亨吉の蒐書方針と学術的特色について」磯部　彰氏（東北大学東北アジア研究センター教授) 関連行事：狩野文庫特別ツアー、ガイド付き展示鑑賞

4）高大連携

本学では、例年 7 月末に主に高校生を対象としたオープンキャンパスを 2 日間に渡って開催している。当館には毎年 6 千人以上にも上る高校生、保護者、教員が見学に訪れる。しかし、これ以外にも各高校からの様々な要望により、見学対応の他、情報リテラシー教育、グローバル人材育成関連講義への対応も行っている。

ここ数年では、文部科学省が平成 14 年度から実施しているスーパーサイエンスハイスクール事業により、指定校となった高校からの講演オファーが増加傾向にあり、情報探索に関するガイダンスや実習にも対応している。また、グローバル人材育成を意識した研修会の要望等もあり、多読学習講義等は、全学教育担当教員の協力を得ながらの実施となっている。平成 22

年度頃から、今日に至るまでの対応は以下のとおりである。(高等学校以外の対応は除く)

各高校からも「情報探索の方法が良く分かった」「大学図書館にはたくさんの本がある」「英語の学習方法が分かるようになった」等の声が寄せられ、生徒や教員からも好評を得ている。

平成 22 年度　宮城県宮城野高等学校

平成 23 年度　宮城県黒川高等学校、宮城県宮城野高等学校、福島県立田村高等学校、栄光学園中・高等学校

平成 24 年度　尚絅学院高等学校、福島県立福島西高等学校、新潟県立国際情報高等学校、聖和学院高等学校、山形県立鶴岡南高等学校（出張講演）

平成 25 年度　山形県立鶴岡南高等学校（出張講演）　※改修工事

平成 26 年度　宮城県仙台第二高等学校、山形県立鶴岡南高等学校（出張講演）※改修工事

平成 27 年度　宮城県古川黎明高等学校（出張も含む)、宮城県仙台南高等学校、学校法人新庄学園新庄東高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校（台風のため中止)、山形県立鶴岡南高等学校（出張講演予定)、宮城県仙台第二高等学校

６．国際化への対応

１）グローバルラーニングサポート

留学生30万人計画等の国策に基づき、近年東北大学の留学生も増加傾向である。平成27年5月現在、本学には86ヵ国、1,663名の留学生が在籍しており、図書館は学習・研究のみならず、様々な情報収集・交換の場として利用されている。

留学生対応を念頭に、ラーニング・コモンズのピア・サポートをも範疇に入れた、留学生コンシェルジュの制度を平成24年12月から開始している。これは、「①外国人留学生の学習支援および不安の解消、②日本人学生との異文化交流、③就業体験による留学生の育成を目的とし、言葉の壁でうまく図書館を利用できない留学生を主な対象に、先輩留学生である留学生コンシェルジュが、多言語で図書館の利用方法や文献の探し方などのサポートを行う[3]」というものである。平成27年度現在では、中華人民共和国から2名、インドネシア共和国、オーストラリア連邦、タイ王国、大韓民国から各1名と計6名の大学院生を雇用して運用をしている。平成27年7月から、留学生コンシェルジュ企画による留学生コンシェルジュウィークを定期的に開催している。内容は、留学生コンシェルジュの母国や専門、或いは得意な分野についての講話と附属図書館本館蔵書の紹介を行う「グローバル・セッション」、母国の資料の検索と入手についての「情報探索のススメGrobal」、多言語（英語、中国語、韓国語、インドネシア語など）

---

[3] 情報サービス課. ラーニング・コモンズにおけるピア・サポート ：留学生コンシェルジュの導入事例報告. 東北大東北大学附属図書館調査研究室年報. 2014、 2、 p.45.

による図書館オリエンテーション・講習会が挙げられる。これら様々な内容を約一週間かけて開催するものである。

今後の課題としては、広報周知を更に行い、留学生により活用してもらうこと、加えて留学生コンシェルジュからのウェブサイトやイベントでの定期的な発信に力を入れて行くことが挙げられる。

留学生用資料は、 平成26年10月からのリニューアルオープンにともない、グローバル学習室に配架先を移し関連資料と一緒に配架され、蔵書冊数は14,646冊となった。平成26年度の受入冊数は、428冊（うち電子ブック31冊）である。そのほか、雑誌タイトル22誌、新聞タイトル7誌を、同じくグローバル学習室に配置している。

留学生の円滑な図書館利用を図るため、例年『利用案内』の英語版を作成するほか、図書館のホームページの英語版を提供している。一方、英語以外の利用案内は、平成25年に中国語版・韓国語版を作成・配布して以降途絶えており、適切な予算措置の下、リニューアルオープン後の情報を反映した多言語による案内を継続して作成する必要がある。

今後も引き続き、留学生課、国際交流センター等の学内組織と連携し、留学生コンシェルジュによるピア・サポート、グローバルフロアの活性化につとめ、附属図書館でできる形で国際交流事業におけるプレゼンスを高めることを目指す。

２）国連寄託図書館等の機能の地域への貢献

本館は、昭和40年に国連寄託図書館、昭和45年にOECD (Organization for Economic Cooperation and Development)寄託図書館（平成26年度に雑誌の寄贈が停止）、昭和58年にはEC (European Commission)資料センター(現EU情報センター)に指定され、国際資料に関する東北地区の拠点図書館として学内研究者に限らず地域の研究者にもサービスを提供してきており、今後とも一層の地域への貢献が求められている。平成26年10月には本館の改修工事にともない、国連寄託図書館とEU情報センターの資料を1号館に新設されたグローバル資料室に移し、より利用しやすい環境が整備された。OECD資料は、寄託制度の廃止もあり、図書は書庫に、雑誌は2号館に移動した。

また、平成14年度からは、駐日欧州委員会代表部が主催する日・EUフレンドシップウィークの一環として毎年企画展示を行っている。なお、平成26年度は1号館が改修工事中であり、企画展示は実施しなかった。平成14年度以降の実施状況は別紙のとおりである。

日・EUフレンドシップウィーク　企画展示開催一覧　　　　　　　　別　紙

年度	名称	内容	連動企画等
平成14年	EDC Open Day	・ポスター、小冊子、パンフレット等の展示 ・CD-ROM　"Hello Europe"の提供 ・ビデオ資料 "European Commission" 提供 ・EUグッズ、広報誌Europe最新号、パンフレット等の配布 来場者256名。	
平成15年	EU拡大への動き	・EU紹介小冊子 ・EU主要出版物 ・EU拡大に関する概説 ・Europe=月刊ヨーロッパ誌 ・EU加盟予定国・候補国紹介 ・EUグッズなどの配布 来場者約211名。	
平成16年	拡大するEU	・ユーロについてのパネル展示 ・拡大EUの地図展示 ・ポスター、小冊子、パンフレット等の展示 ・EUグッズ、広報誌Europe最新号、パンフレット等の配布	
平成17年	EUの多様性 -加盟国のさまざまな言語-	・EU各国の基礎データをパネル展示 ・EU各国の基礎データや参加国の紹介はホームページにも掲載 ・EU各国の言語に関する辞書の展示 ・拡大EUの地図展示 ・ポスター、小冊子、パンフレット等の展示 ・EUグッズ、広報誌Europe最新号、パンフレット等の配布	
平成18年	EU原加盟国オランダと日本	・EU紹介（EUの歴史、EU旗の由来、ユーロ等） ・オランダと日本の歴史（蘭書等の展示） ・オランダの現状（EUとの関係等） ・ポスター、小冊子、パンフレット等の展示 ・EUグッズ、広報誌Europe最新号、パンフレット等の配布	
平成22年	ドイツ・ハンガリー・トルコ 3都の旅～欧州文化首都巡	・EU情報センター（EUi）の紹介 ・欧州文化首都（エッセン・ルール地方／ドイツ、ペーチ／ハンガリー、イスタンブール／トルコ）の紹介 ・関連書籍等の展示	

	り～	・EUグッズ、広報誌Europe最新号、パンフレット等の配布	
平成23年	ご当地キャラクターと巡るEU 5カ国の旅	・EUについての紹介 ・EUで生まれたキャラクターと、その舞台であるEU 5カ国（イギリス・フランス・ベルギー・オランダ・フィンランド）に関する展示 イギリス：不思議の国のアリス／紅茶の文化（作中の「お茶会」にちなんで） フランス：リサとガスパール／パリの町並み（作中にパリの有名建築が数多く登場している） ベルギー：タンタンの冒険／バンド・デシネ：芸術としてのマンガ（マンガの街ブリュッセルの象徴とも言える作品である） オランダ：ミッフィー／東日本大震災に対するEUの援助（ブルーナ氏が被災地の子どもに送った「ミッフィーの涙」にちなんで） フィンランド： ムーミン／フィンランドの冬・お祭り（『ムーミン谷の冬』『ムーミン谷の夏まつり』にちなんで） ・関連書籍等 ・EUグッズ、広報誌Europe、パンフレット等の配布	
平成24年	EU・オリンピックを辿る旅	・EU情報センター（EUi）の紹介 ・EU加盟国で開催された近代夏季オリンピックについて、大会の様子や開催都市の歴史・文化を紹介 ・オリンピック公式ポスターパネル（レプリカ）の展示 ・関連書籍等の展示 ・EUグッズ、パンフレット等の配布	秩父宮記念スポーツ博物館より、オリンピック公式ポスターパネル（レプリカ）を提供いただき展示
平成25年	EU 27カ国　食べ歩きヨーロッパ	・EU情報センター（EUi）の紹介 ・EU加盟27カ国の食文化に関するパネル展示　（協力：日本大学EU情報センター） ・関連書籍等の展示 ・EUグッズ、EUのお菓子、パンフレット等の配布 ・人気投票　（第1位：オーストリア）	試食を希望する声が多かったことから、大学生協とのコラボレーション企画として、平成25年5月20日～31日に川内北キャンパス「bush clover café」において、シナモンロールやビシソワーズなど数点の料理を提供した。

平成27年	EUの父　リヒャルト・クーデンホフ=カレルギー展	・RCKの生い立ち ・RCKの活動 ・RCKの周辺の人々 ・RCKと日本の関係 ・EUの現在	講演者：本学法学研究科　戸澤英典教授 演題：「「クーデンホーフ＝カレルギーの劇的な生涯と後世への影響ーーヨーロッパと日本をつないで」」 日時：平成27年6月22日（月）16:30～18:00 会場:附属図書館本館1号館多目的室

今後の課題として国際資料は急速に電子化されており、それに対応したサービス技術が求められている。また専門性が高い国際資料を長期間担当する専門的職員の育成が重要である。

３）留学支援

平成26年10月のリニューアル時に新たに設置されたグローバル学習室には、在学生の留学支援を念頭に、短期海外研修プログラム(SAP)の報告書を配架している。これを手に取った学生が、先輩の留学体験を参考にして、新たに留学することを狙っている。また、留学先の現地情報を得ることができるよう世界各国の『地球の歩き方シリーズ』及び“Lonely Planet シリーズ”を備え付けている。

また、グローバルラーニングセンターでサポートを行っている留学支援サークルの活動を推奨し、常時、グローバル学習室において各種イベントや学習会を行うことで、本学の学生の意識が、国際交流や留学へ向けられるよう支援を行っている。平成27年度10月には、短期海外研修プログラム（SAP)の写真コンテストを開催するなど、教員と学生との連携も試みている。

その他、留学生課主催の「グローバルリーダー認定証授与式」や「グローバル萩海外留学奨励賞授与式」などの学内公式行事を本館グローバル学習室やメインフロアフレキシブルワークエリアで開催することにより、本学学生の留学への意識を促すよう連携を図っている。

７．組織・運営

１）附属図書館の構成

附属図書館は、本館を中心に4つの専門分野別分館と必要に応じて設置された部局図書室が有機的に連携・補完して、本学の教育研究活動を支援するシステムとなっている。その中で、本館は全学的状況を把握し、各分館や部局図書室間の連絡調整にあたっているほか、川内地区の学習、教育や研究を支援する役割も担っている。各分館及び部局等の図書室は、対応するキ

ャンパスや部局等に対するサービスを担っている。

農学部が雨宮キャンパスから青葉山新キャンパスに移転するのに付随して建設中のアカデミック・サイエンスコモンズ新営に伴う新図書館が、平成28年6月に竣工し、29年4月に運用を開始する予定となっている。この図書館は、農学分館機能に加えて大規模なラーニング・コモンズを整備し、新たな運営方法で隣接する各部局への図書館サービスを提供する予定である。さらに最大約60万冊を収容できる共用書庫によって各分館等資料の収集管理を行い、それぞれの学習環境整備も推進する構想となっている。

現在の分館・部局図書室を支える事務体制は、各部局等の管理下にあり、分館・部局図書室の職員配置変更に附属図書館の意志を反映できる状況にない。そのため平成28年に竣工する新図書館の人員配置の際に、一部業務の業務統合も検討したい。図書館業務の一元的管理により、業務処理を効率化できるような説明と実績を示し、部局事務担当や各分館・図書室とも十分なコミュニケーションを取るよう努めていかなければならない。

2）運営体制

附属図書館の管理運営機関として、この運営に関する重要事項を審議するための商議会と、館長の諮問に応じて附属図書館の組織及び運営に係る戦略企画の迅速化と質的向上を図るための運営会議が設置されている。そして、本館には、川内地区の文系5研究科及び教育情報学研究部・教育部の図書館として川内地区の共通的事項を協議するため、川内地区図書委員会を設置している。また、各分館の運営事項等を協議するため、医学分館、北青葉山分館や工学分館にそれぞれ運営委員会を、農学分館に図書委員会を置いている。更に、本館においては、週1回部課長打合せ及び館長打合せを定例会議として行い、図書館の運営方針の確認や事案整理等が行われている。

商議会は、各分館長及び各部局からの委員等からなり、図書館に関係する事項の全学的な調整機能を果たしている。しかし、各部局の委員は各予算執行の意思決定に係る権限を持たない場合が多い。そのため、電子ジャーナル等整備のような全学的予算に関わる審議事項は、全学的な会議体により意思決定を行い、迅速な処理に努めている。

3）人材の確保と養成

常勤職員の確保は、定年による欠員の発生等に対応して、東北地区国立大学等職員採用試験（図書系）により新卒者等の補充がなされている。一方では、人件費削減施策もあり、図書館サービスの多様化や拡充に見合う図書系職員を必要な部署に配置できてはいないが、年齢や職員構成のバランスを考慮して新卒者を補充できるよう努力している。

人材確保及び育成の面から、企画力・専門性に富んだ職員を確保し、研修等で育成も図っているが、十分に効果を上げることは難しい。

人事交流として、学内他部署で1名、東北地区の2国立大学と仙台高専で7名の図書系職員が勤務している。近隣機関とは計画的に交流するよう努めているが、組織的かつ長期的なものではない。しかし、初めての試みとして学内で図書以外の業務を経験する機会が得られ、今後の職員育成方策の一つとして役立てたい。

職員養成のための研修については、他機関が実施するもの（国立情報学研究所や国立大学図書館協会等が開催）には計画的に参加している。一方、初任者研修や職員総合研修会等の附属図書館が実施するものは、計画的な実施により、研修等の研鑽の機会を積極的に確保するようにしている。しかも、職員自らが企画し、講師として参加する機会を求めることにも努めている。海外研修についても、国立大学図書館協会海外研修事業をはじめ、学内外で得られる機会を最大限に活用し、職員の体験や知見を豊富にするよう努めたい。

４）財政基盤

附属図書館本館の予算は、年度当初に大学運営資金として配分される経費（管理運営経費及び資料購入経費）、総長裁量経費や全学的基盤経費等による特定業務支援のための経費からなる。大学運営資金として配分される経費は、大学改革促進係数（1.3%減）による予算減のなかでの運営を強いられており、サービス拡張のための新規事業への戦略的経費の確保は難しい状態である。総長裁量経費については、毎年採択される件数は1～2件程度である。全学的基盤経費の確保により、延長開館、電子ジャーナル等や学生用図書整備の充実を図ることが可能となったが、経常経費として本来的な図書館サービス提供が必要であるため、安定的な経費の確保が課題である。

また、電子的学術情報コンテンツ（電子ジャーナル・データベース）の整備のための経費は全学的基盤経費と部局予算からの負担 となっており、学術情報基盤の計画的・体系的整備を図っている。しかし、外国雑誌の継続的な価格上昇およびパッケージ契約による固定的な契約形態が大学及び部局予算に負担となり、見直しが図られている。

管理運営経費及び資料購入経費で大部分を執行する図書館予算では、新規・大規模事業を実行することは難しい。このように脆弱で拡張性に乏しい附属図書館本館の財政基盤を補完する最適な手段を要求事項に応じ選択することを心がけている。

５）情報環境

図書館における学術情報基盤として、ここではネットワーク及びコンピュータ環境について

記述する。

附属図書館のネットワーク環境は、平成 21 年に運用開始された東北大学のバックボーンネットワークである StarTAINS を基盤として利用し、構築している。特に、本館及び 4 分館間は仮想ネットワーク(VLAN)を構築している。

このネットワークを利用して、図書館の業務管理と利用者への情報サービス機能を総合的にサポートするための図書館情報処理システム（T-LINES）を運用してきた。現行システムである T-LINES 7 は、平成 27 年 12 月にレンタル契約で導入したもので、主にデータベースサーバ、アプリケーションサーバと、業務用の端末約 126 台、プリンタ、バーコードリーダといった周辺機器で構成され、蔵書検索サービス（OPAC ： Online Public Access Catalog）、MyLibrary（オンラインサービス申込窓口）といった利用者用サービスを提供し、受入、目録、ILL といった図書館の基幹的な日常業務処理を実現している。また、プロキシサーバを持ち、利用者用端末でのインターネット接続を可能としている。

これまで、図書館情報処理システムはレンタル契約による、5 年を目処に更新してきたが、今回のシステム更新では、経費の削減のため、レンタル契約から買取契約への契約方式の変更を行ったことが大きな変更点である。また、必要な機能や端末の精査を行い、利用頻度の低い帳票や機能の廃止、レンタル契約に含める利用者用端末の削減を実施した。さらに、これまでレンタルしていた DNS・メールサーバを経費の面から見直し、代わりに本学の共通基盤である「東北大メール」を平成 27 年 4 月から利用しているのに加え、DNS については学内情報部のホスティングサービスを利用している。

予算が年々確実に削減されている状況下では、情報ネットワークを利用したサービスの拡充は大変厳しく、大学が提供する情報環境への移行などにより、サービスの縮小を避けるのが限界である。

今後、図書館における情報環境整備のための安定的な予算確保を目指すとともに、予算確保が困難なことが事実であることも見据え、大学やクラウドサービスの提供する標準的な情報環境への移行や、コンピュータ環境に過度に依存しないサービスや業務のあり方の検討を行う必要がある。

６）研究開発機能

平成13年4月の附属図書館調査研究室の廃止以来、附属図書館の調査研究機能は脆弱なものとなっている。しかし、平成19年7月に「東北大学附属図書館調査研究室内規」を制定して貴重資料等を中心に個別のテーマに関して協力研究員として学内外の識者を委嘱する調査研究体制をとってきた。平成24年3月に「東北大学附属図書館調査研究室年報」第1号を発行し、貴

重資料を再評価し、その価値を社会に伝え始めている。平成26年度から、①貴重資料の整理・利用・公開支援、②漢籍資料の目録研修指導、③拓本資料のデジタル化というテーマのもと活動しているが、附属図書館の政策課題により対応した調査研究体制の構築の実現を図っている。

７）学内機関との連携

①グローバルラーニングセンターとの連携

グローバルラーニングセンター（以下「センター」と言う。）は、本学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動を推進する役割を持つ。図書館は、この不可欠なグローバル化を支援するためグローバル学習室の設置により、留学生の学習や生活、及び留学を目指す日本人学生の支援を目指している。ラーニング・コモンズ機能として留学生や日本人学生との交流も活発になっており、センター主催の「グローバルキャリアセミナー」（計14回開催）の会場ともなっている。今後は、センターと図書館との組織的な連携強化が課題となる。

②高度教養教育・学生支援機構との連携

高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」と言う。）は、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献する使命をもっている。

具体的な施策の一つが、英語「多読」授業等を進展させ、リーディング力やリスニング力を養成することとなっている。図書館では、グローバル学習室に英語多読用リーダーズを配架しており、当該機構（担当講師：シャーロン・ベン氏）との連携を取り、学生の多読を支援している。

８）学外機関との連携

①国立大学図書館協会との連携

国立大学図書館協会は国立大学附属図書館及び大学共同利用機関等の91機関の図書館を会員とする組織で、会員館の緊密な連携と協力により、図書館機能の向上を支援するとともに、広く学術情報資源の相互利用の推進、学術情報流通基盤の発展に貢献し、大学の使命達成に寄与することを目的としている。東北大学附属図書館は、人材育成担当の理事館(このことにより、国立大学図書館協会東北地区協会の幹事館として)として活動している。

会員館は、8つある地区協会に所属しており、各地区が輪番で年次総会を担当している。第63回総会（平成28年度開催）の担当地区が東北地区となったことから、本学が当番館に選出され、総会を運営するべく準備を進めている。

②東北地区大学図書館等との連携

東北地区の国公私立大学図書館により組織されている東北地区大学図書館協議会（以後「協議会」と言う）は昭和22年5月に設置され、現在は会員館が65館（国立15館、公立12館、私立38館）となっている。協議会は東北地区における図書館の施設、運営、管理などの進歩改善について、相互に連携協力を行っており、年1回総会を開催している。平成19年以降の活動は、合同研修会、目録システム地域講習会、フレッシュパーソンセミナー等の研修会・講演会の開催、図書館利用ガイド、図書館職員初任者マニュアルなどの作成、教育支援、大学生の学習支援を効果的に実施するために、加盟大学の知見を集約化や大学教育に関する図書館員の知見を深めるための方策を検討する部会活動等の活動を行っており、東北大学附属図書館はこれまで常任幹事館として中心的に活動し、図書館間の相互協力及び関連情報の交換等に貢献している。

平成27年度は、協議会70回記念事業を実施することになっており、本学は協議会の事務局としてもその中心的役割も果たしている。

③国立情報学研究所との連携

国立情報学研究所との連携は、昭和62年1月、他大学に先駆けて、本学の図書館情報処理システム(T-LINES)を東京大学文献情報センター(現国立情報学研究所)のNACSIS-CATに接続し、全国総合目録データベースの構築に参画したことに始まる。それ以来、NACSIS-CAT/ILL等の業務上の連携に加えて、目録システム地域講習会の共催等、東北地区における大規模大学図書館としての役割を継続して果たしてきている。

また、国立情報学研究所と 国公私立大学図書館協力委員会が設置する「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に、平成23年4月に大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が新設された。この「作業部会」に本学の担当職員を派遣している。また、「連携・協力推進会議」の下の「これからの学術情報システム構築検討委員会」に平成27年7月に設置された「NACSIS-CAT検討作業部会」へも職員を派遣し、国公私立大学図書館の課題検討に貢献している。

④外国雑誌センター館との連携

外国雑誌センター館は、学術情報基盤整備を目的に、分野別９大学に配置された拠点図書館であり、医学分館は医学・生物学系分野の拠点図書館として、国内未収録・紙媒体の新刊雑誌を中心に収集し、国内外研究者等を対象にサービスを提供している。

外国雑誌センター館の経費も年々減少しており、タイトルの削減をせざるを得ない状況ではあるが、他の拠点図書館と連携しサービスの維持に努めているところである。

９）広報活動

広報媒体としては、紙媒体による「図書館概要」及び館報「木這子」（年4回）の計画的な刊行とホームページ(各館・室)による情報発信の二つに大別され、前者は図書館報編集委員会により運営されている。

一方、講習会やガイダンス開催を含む日常の各種広報は、館内案内及びホームページによるニュース掲載等により行っている。図書館の各種サービスを周知し認知してもらうことそれ自体がサービス向上の第一歩であると言えるので、教員学生に対する肌理の細かい広報活動が必要である。

今後は、改訂したホームページを効果的に活用して広報活動の強化や各種サービスの案内方法の工夫が必要である。

このためには、広報委員会やホームページ委員会が図書館の広報戦略について広い視野をもった検討を行い、その結果、得られた方針のもとでの広報活動の強化を実施していく手段を検討している。

第２章　各図書館の自己点検・評価

１．本　館

１）．組織・運営

附属図書館本館の事務組織は、事務部長の下、総務課、情報管理課及び情報サービス課の3 課で構成される。27 名の常勤職員（再雇用職員含め）のうち、16 名が役職職員（係長以上）となっている。係員ポストが少ない状況であるが、学内・学外の人事異動が硬直化しないよう、係の統合や役職ポストの振替等を検討する必要がある。定員増が難しい中であるが、職員数の削減もなく、定期的な人材確保ができている。併せて今後は研修体制の在り方の検討も含め人材育成にも注力する必要がある。

本館における運営及び議案解決のために、週１回の部課長打ち合わせにおいて検討や整理を行っている。これらの検討結果を館長打合せや運営会議等に諮り附属図書館としての意思決定を行っている。

図書館の円滑かつダイナミックな運営のためには、節約や効率化とともに管理経費と資料費から構成される財政基盤の強化も必要である。

２）施設・設備

①入退館関連設備・機器

平成 26 年 10 月のリニューアルオープンに合わせて、入退館ゲート及び地下書庫入庫ゲートの更新を行った。以前は学生閲覧室１階（旧自由閲覧室）の利用者数を把握することができなかったが、更新の際に、入退館ゲートの設置位置を以前よりも玄関側に移動したため、学生閲覧室１階も含めた図書館スペース全体の利用者数を把握できるようになった。

また、リニューアルオープンの際に、玄関風除室に設置されていたが故障のため機能していなかった赤外線センサーの来客カウンターも更新し、多目的室やカフェスペースも含めた、全館の入館者数を把握できるようになった。

②学習環境設備・機器

平成 24 年 11 月、1 階メインフロア（970㎡）を改修し、ラーニングコモンズを設置した。デスクトップパソコン 75 席、可動式の机と椅子を約 70 席（フレキシブルワークエリア）、ボックスシート 24 席を備え、会話可能なエリアとして、グループ学習やディスカッションという従来の図書館にはなかった学生のアクティブラーニングを支援するスペースに生まれ変わった。

さらに、平成 26 年 10 月には館内スペースの見直しにより、グループ学習室４室（計 26 席）、可動式の机と椅子約 80 席とホワイトボードを備えたグローバル学習室を新設した。なお、グループ学習室と研究個室（4 室）は、MyLibrary（図書館のオンラインサービスポータル）を

通じて予約できるようになった。その結果、平成26年10月～平成27年9月の1年間でグループ学習室2,961件、研究個室748件の利用があり、多くの利用者に活用されている。

学生の学習を支援する機器は、随時購入または更新を行い、平成27年10月現在、前述のデスクトップPC 75台のほかに、貸出用のノートPC 40台、プロジェクター5台、ポータブルスクリーン3台、マイクセット2セットなどを備え、フレキシブルワークエリアやグローバル学習室、グループ学習室などの利用時に貸し出しを行っている。中でもノートPCの貸出は、学生証による自動貸出管理機能を備えたPCロッカーを平成27年4月に導入したところ、9月までの半年で約7,000件の利用実績があり、学生にとって有益なサービスとなっている。また、館内のほとんどの閲覧スペースで無線LANによるネットワーク接続が可能である。

表. PCロッカー利用件数

平成27年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計（件）
利用件数	611	1,510	1,737	2,296	481	362	6,997

今後の課題としては、下記が挙げられる。

フレキシブルワークエリアの電源コンセントは、OA フロアの床から柔軟性のあるケーブルが出ているタイプであり、取り回しの自由度は高いが、床を横切るように使っている利用者も多く、安全上の観点から検討しなおす必要がある。

グループ学習室 1～3 は、建物の構造上、ドア以外は壁で囲われており、学習活動の“視える化”や安全、適切な利用状況の把握の点から、難があるといわざるを得ない。

③空調設備

平成26年10月のリニューアルに伴い、グローバル学習室、グローバル資料室、学生閲覧室2 階の空調の、集中空調システムから個別空調システム（GHP）への切替工事を行った。以前から個別空調だった学生閲覧室1階も含めて、適切な空調コントロールが可能なエリアが増えた。一方、1 階メインフロアと 1 号館地下書庫、2 号館は集中空調システムであり、冷凍機を可動する人件費等の問題もあるため、稼働期間も決められており、細かい空調コントロールができない状況にある。稼働期間においても、夜間は冷凍機が停止するため、夏の 17 時以降は蒸し暑く、冬の 17 時以降は冷え込みが厳しい。夏季および冬季には、利用者から多くの苦情が寄せられており、決して学習に適した環境とは言えない状況である。

④防災対策

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災において、本学附属図書館も大きな被害が発生した。東北大学は、昭和 53 年に宮城県沖地震も経験していたが、東日本大震災はさらに大きな被害をもたらした。幸いにも人的被害がなかったが、本館、分館を含めてほぼすべての施設で外壁等の落下、ひび割れ、窓ガラス破損等多くの被害が出た。図書は数十万冊が落下し、書架を初めとする多くの備品が破損した。復旧作業と並行で一部開館を行うのに、1 か月ほどかかっている。図書館では、主に震災を想定し、本館、分館で内規、防災マニュアルを整備しており、毎年に 1 回以上　避難訓練を実施している。平成 26 年度は、10 月 17 日に実施の東北大学総合防災訓練の中で、避難誘導並びに衛生携帯電話等を使用した被害状況報告を本館、各分館・図書室において、それぞれのキャンパスで実施した。さらに本館では、東日本大震災発生以降、仙台市近郊を震源とする直下型の強い地震が発生したとの想定による避難訓練も実施しており、有事の際において、職員が迅速かつ的確に状況判断して行動できるような体制構築に取り組んでいる。また、設備面でも緊急地震速報を平成 27 年 1 月から最新のハードウエアに更新するなど、設備面でも積極的な整備を進めている。

３）資料の収集・保存

①学生用図書の選定と蔵書構築

(1) 選書方針

本館では今年度（平成 27 年度）、収書委員会で問題提起をおこない、選書方針改訂を目指しているところである。改訂のポイントは、以下の通りである。

(1) 学生用図書の選書方針のみであったが、本館全体の収集方針を策定し、その中の一つとして学生用図書を位置付ける
(2) 大学の新たな教育方針や、時代に即した内容を盛り込む
(3) これまで選書を行ってきた上で、不十分な部分を補足する
(4) 複数の基準類を整理し統一的に運用できるようにする

選書内容について、前回外部評価では、「また、前回外部評価で「一般教養のための学生用図書をも活用して、人としてのあり方に感度の高い学生を養成することも視野に入れる」ことや、全学教育担当教員以外の推薦予算を設けるべき、という提言がなされている。これらについては、全学的基盤経費が措置され、学生用図書の予算が増加したことにより、教養書の積極的な選定ができるようになった。また、全学教育担当教員以外の教員推薦の予算枠も確保できるようになり、さらに、学生自身が希望して購入できる予算枠も増額することもできている。

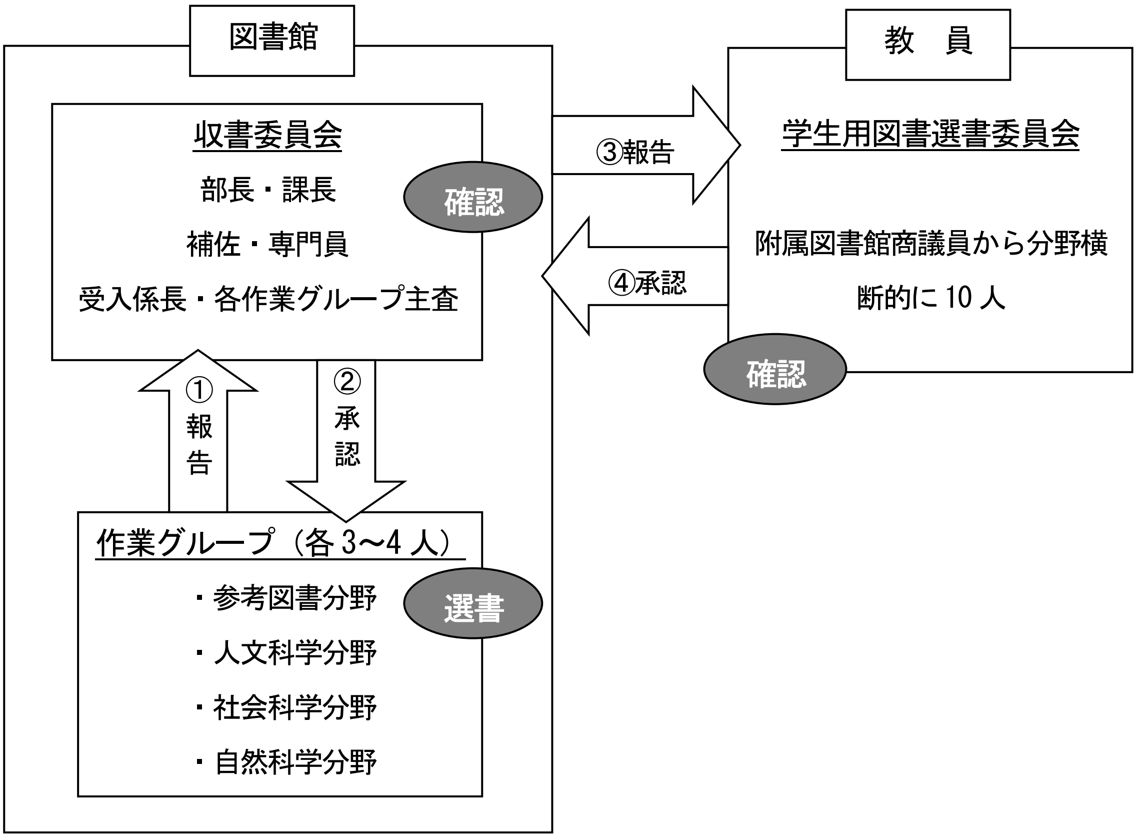
継続的経費措置である全学的基盤経費により、最小限の選書から幅広い選書をできる環境へと、ようやく整ったと言える。

(2) 選書体制

本館の選書体制は、下図の通りで、前回の外部評価時と変更はない。また、「スペシャリストとジェネラリスト両側面をもつ図書館員が主導し本分館の連携をとって選書を進めるシステムが必要」との指摘もあったが、本館においては、配分されている学生用図書予算の大きな部分について、図書館職員が作業グループを組んで選書しているので、図書館員が主導的に選書を行っていると言える。しかし、「スペシャリストとジェネラリスト両側面をもつ」という点については、そのような人材を必要な人数育成していくのは、現在の業務量と、継続的に図書館業務に従事する人員が年々減少している環境下では、困難であることが否めない。

このような中で、各選書担当を割り振られた職員が、苦心しながらも選書を行い、実際に貸し出し数が増加しているのは、職員の努力の結果が現れているものだろう。

しかしながら、蔵書構築は利用者サービスと並び、図書館の価値の主軸の一つである。持続的によりよい蔵書構築を行っていくための方策を立てて行かなければならないと考えている。



【本館における学生用図書の選書体制】

(3) 収集状況および授業への活用

新たな予算の配分により、全般的に収集のバリエーションを増やすことができている。

【学生閲覧室資料】

学生閲覧室配置資料のうち、直近 5 年の受入資料の割合は、平成 21 年度当初は約 16%だったが、平成 27 年度 9 月末時点では 21%となり、増加した。これは、全学的基盤経費が措置されたため、新刊を多く購入できるようになったことと、それに伴い、使われない古い資料は適宜書庫へ配置換えを行い、新陳代謝を図っていることによる。

資料の分野構成は、人文科学系が 6 割近く、自然科学系が 3 割弱という割合は、書架の割り当て自体も変更していないことから、平成 21 年度当初と余り変わってはいない。当館が人文科学系図書館の役割もあることを考えると、妥当な割合と思われる。

また、新刊だけでなく、初学教育や教養の涵養のための資料（文庫新書のシリーズなど）、留学生向けのマンガといった、以前は購入を控えていた類の資料も購入できるようになったのも以前との大きな違いである。

【学生による選定】

学生のニーズに即した資料の収集も一部取り入れるようにしている。

まず、学生用雑誌は、毎年学生へアンケートでニーズ調査を行った上で、購入/中止の選定を行っている。

また、本館では、学生が直接図書館に置く本を選ぶ学生選書企画を、平成 21 年度から実施している。毎年約 20 名の学生が参加し、年間約 500 冊の図書を本館の蔵書に加えている。選書方法は、書店の協力の下、直接店舗へ学生が出向き、書店の書棚から希望する図書を選ぶというものである。個人参加のほかグループ（研究室やサークルなど）でも参加でき、選書金額は 1 名当たり 5 万円、1 グループ 10 万円としている。学生からは好評で、「学習に必要な本をじっくり選ぶことができた」、「書棚を眺めることで、新しい発見があった」などのコメントを得ている。平成 27 年度は、初めて Web からの選書を取り入れたが、例年に比べ学生選書企画への申込の出足が早く、今まで以上に興味を持ってもらえたものと思われる。

【多読】

本館では、全学教育の英語多読法授業を支援するため、授業の担当教員と連携し、教材であるリーダーズテキスト等を購入するなど、多読学習の環境整備を行ってきた。購入開始は平成 21 年度で、初年度は教員推薦という形で約 700 冊を購入したが、購入冊数は年々増加し、平成 26 年度末現在、冊子体は約 15,000 冊、電子ブックは約 300 タイトルとなった。

教員の要望で購入するテキスト等には年間約 100～200 万円の予算を必要とするが、教育・学生支援部からの予算措置、高度教養教育・学生支援機構の SGU（スーパー・グローバル・ユ

ニバーシティ）等の補助金や本館学生用図書費を財源として購入している。

年々授業数が増加する傾向にあるため、英語多読法授業を履修する学生も増えており、これに加えて初級レベルのテキストは利用が集中するため、一定時期ほとんどのテキストが貸出中になる。これらを解消するために、利用に似合うだけの量のテキストの整備が必要となるが、冊子体は配架スペースを占有し、利用頻度が高いものは汚損・破損等で除却する可能性が高いことから、今後は配架スペースが不要でＷＥＢ上で閲覧できる電子ブックの購入も進めていかなければならないと考えている。

英語の多読テキストについてはある程度整備されたと言えるが、本学では海外への留学を奨励していることから、英語以外の多読用テキストについての整備や英語多読法をマスターした学生のためのテキストの整備を進めていかなければならい。これについて平成 27 年度は高度教養教育・学生支援機構で購入したドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、以上 6 カ国語の多読用テキストと英語多読テキストより少しレベルアップしたテキストを受け入れることとした。

今後も教員との連絡を密にしながら、授業と連携した図書の整備にも力を入れていきたい。

【ゆかりコレクション】

「ゆかりコレクション」は、様々な活躍を行う東北大学の関係者の活動を学生に知ってもらうために平成 22 年度に始めたコレクションで、当館の通常の収書範囲には入らないような文芸書等を収集するようにしている。平成 27 年 9 月末現在で 957 冊となっている。

(4) 財源確保

本館における学生用図書の財源は、経常的な経費としては、大学本部から措置される資料費のほか、教育・学生支援部から措置される教育基盤経費、および、川内地区の部局から部間共通費として支援を受けている。これらに加えて、第一部で述べた通り、学生用図書として全学的基盤経費が措置されているため、経常的な予算は減っているものの、前回外部評価時（平成 19 年度　約 1,900 万円）よりも学生用図書に使用できる予算が増加した（平成 27 年度　約 3,530 万円）。

②コレクション・図書の整備・提供・保存

(1) コレクション・図書の整備

【貴重図書】

平成 26 年度に改修され、保存環境、セキュリティ共に向上した 2 号館貴重書庫には、当館貴重図書等指定基準に基づいて指定された貴重図書の他、漱石文庫、漱石関係資料、西蔵大蔵経　デルゲ版、秋田家史料、晴山文書等が蔵置されている。

貴重図書の内、国宝に指定されている「類聚國史 巻第二十五」「史記 孝文本紀 第十」につ

いては、庫内でさらに桐製の鍵付き保管庫に入れ、管理している。

今後の課題としては、貴重図書目録のデータベース化、貴重図書画像公開推進といった事業の検討が挙げられる。

【準貴重図書】

平成26年度、当館貴重図書等指定基準に基づき、狩野文庫を始めとする11資料群を準貴重図書に指定した。今回指定された11資料群は、狩野文庫(108,000冊)、和算関係資料(18,335冊)、秋田家史料(4,337点)、晩翠文庫(2,624冊)、櫛田文庫(3,130冊)、ケーベル文庫(1,999冊)、チーテルマン文庫(8,280冊)、ゼッケル文庫(7,380冊)、シュタイン文庫(6,810冊)、ヴント文庫(15,840冊)、古文書。

併せて、東北大学附属図書館本館準貴重図書の利用に関する申合せを制定し、準貴重図書の正式運用を開始した。これにより、貸出に制限がかかり、狩野文庫を始めとする貴重な文化遺産を後世に伝え、末永く、多くの研究者に利活用してもらうことが可能となり、また、紛失・汚損・破損といったトラブルからも資料を守れることとなろう。

今後の課題としては、和算関係資料、ケーベル文庫を始めとする準貴重図書の遡及入力の推進や準貴重図書指定資料の増加に伴う保存書庫・閲覧室等のさらなる環境整備が挙げられる。

【特殊文庫】

一定のボリュームのある寄贈資料のうち、本学に深く関わり「特定分野に限定された収書で、大部分が既蔵図書と重複せず、研究・教育に有用な資料であること」、「寄贈者の研究歴、読書暦などがしのばれる、書き込み等がたくさんあること」の条件を満たすものは、一つのまとまった文庫として一般書とは別に配置している。戦前からの収集の結果、現在和洋37種の特殊文庫を蔵し、当館蔵書を特色づけるもの一つとなっている。(参照　資料編26p.)

当館としては名誉なことに、毎年のように大きな寄贈のオファーがあるが、物理的な限界があるため、相当に本学や所蔵資料に関連するもの以外はお断りしてきている。今年度、こういった経緯を踏まえた上で大口の寄贈について受け入れ基準を明確にするよう規則を改正した。。

そのような中で、前回自己評価時以降も『齋藤養之助家資料』など6つの文庫を受け入れている。

(2)コレクション・図書の提供・保存

【提供（撮影・掲載・放映と画像データ提供)】

当館では、所蔵資料の撮影依頼のほか、書籍への掲載依頼やテレビ等への放映依頼、また、それらのための画像データの提供（貸出）といった申請にも応じている。

今後の課題としては、申請（利用）を促すために、まずは、展示会等を通した当館所蔵資料の周知が挙げられる。

これらの過去5年間の申請件数は以下のとおりである。

撮影・掲載・放映申請件数

	撮影・掲載・放映	画像データ提供 (フィルム等貸出)
平成22年度	229件	21件
平成23年度	234件	30件
平成24年度	208件	29件
平成25年度	279件	32件
平成26年度	184件	26件

【保存】

○修復

平成23年3月11日の東日本大震災では、当館でも書架や資料の一部が損傷したが、幸いにも施設・設備の大規模な損壊や館内での人的被害はなかった。貴重図書に関しても書棚の転倒や書棚引き戸が開いたことによる資料落下が原因と見られる資料の損傷があったが、修復は全て終了した。和漢書は帙が保護の役割を担い、少数の部分的な損傷にとどまり、帙の重要性を再認識した。一部書棚のガラス戸が破損し、ガラス片の資料等への付着、食い込みといった被害が見られたため、今後の対策として書棚ガラス戸には飛散防止フィルムを貼った。

平成16年に古典資料修復保存小委員会でまとめた修復・保存対象リストに記載されている修復の必要な資料について、平成17年度以降、修復を重ね、洋書についてはほぼ終了し、和漢書も修復作業自体が困難な30余点を残すのみとなった。

平成24年度には、当館予算で狩野文庫の劣化の著しい洋書について修復を行った。

平成27年度には、新たに見つかった早急に修復の必要がある秋田家史料4軸について、公益財団法人への修復費用助成を申請し、助成が決定した。修復作業自体は平成28年度の実施となっている。

今後の課題として、修復費用について当館予算は元々大きな修復費用を見込んだものではない上、年々減額し続けており、外部に財源を求めることも挙げられる。

また、帙劣化の著しい漱石文庫の和漢書の帙再作成や狩野文庫資料の修復検討も重要な課題である。

○保存

貴重図書等の保存環境改善策として、平成25年度には、狩野文庫資料と古典資料の配置を1号館地下2階から2号館4階に変更した。1号館地下2階は、過去幾度も、水もれがおき、

湿気もこもりやすかったため、この移動により、保存環境は多少改善したと思われる。平成26 年度には貴重書庫改修を行った。書庫の機密性を高め、庫内に調湿ボードを貼り、エアコン設備を一新、貴重図書の保存環境は格段に向上したが、平成 27 年 8 月に壁面に少量のカビの発生が見られた。配管関係の不具合によるものと考えられ、年度内に環境改善及び補修工事を実施予定。平成 27 年 7 月には、準貴重書庫内資料へのカビの発生が見られ、年度内に庫内資料の燻蒸と清掃を実施予定。

今後の課題としては、2 号館 4 階並びに準貴重書庫の環境改善が挙げられる。

資料保存対策の一環として、取り組んでいるレプリカ作成について、作成状況は、以下の通りである。

作成年度	資料名
平成 18 年度	国宝「史記」
平成 19 年度	臨顧愷之女史箴図巻
平成 20 年度	国宝「類聚国史」
	漱石自画像入りハガキ
平成 21 年度	漱石文庫 自筆資料（6 点）
	文部省漱石宛書簡
	博士号辞退書簡
	「美学の起源」講義ノート
	自筆の身長・体重メモ
	金銭貸出簿
	貸した本のリスト
平成 25 年度	日記 手帳 2 明治 33 年 9 月 8 日～12 月 18 日（渡航日記）
	滞英日記 明治 34 年 1 月 1 日～11 月 13 日
	自筆イギリス地図
	英国留学中購入図書リスト（1900 年 11 月～1901 年 9 月）
	蔵書目録
	大要
	漱石筆オックスフォード大学水彩画
	The works of Shakespeare.
平成 26 年度	百鬼夜行（絵巻）

４）サービス機能

①資料の利用

本館では、資料種別や所在（保管場所）、身分等により、資料貸出の条件（貸出の可否、冊数、期間）を細かく設定し、各資料毎に適正な利用を促している。主な資料種別または所在別の資料の利用状況は以下のとおりである。

○1号館

・学生閲覧室及びグローバル学習室資料

学生閲覧室には、学部学生向けの図書のほか、東北大学ゆかりの方々の著作を集めた「ゆかりコレクション」、本学学生が選定した「学生選書コーナー」がある。またグローバル学習室には、「READERS（英語の多読法とリーダーズコーナー）」のほか、語学学習資料、留学情報、留学生向け資料がある。これらの資料は一部を除き館外貸し出しが可能で、貸出条件は、学内構成員であれば10冊3週間となっている。

貸出及び返却手続きは、メインカウンターのほか、メインフロア内3カ所にある自動貸出機を利用して利用者自身で貸出手続きを行い、入館ゲート脇の受付カウンターで返却することもできる。このことにより、入館時に受付カウンターで返却してから目的のフロアに直行し、退館時に最寄りの自動貸出機で貸出手続きをするという、利用者の動線に配慮した配置と運用を行っている。

・書庫資料

本館地下書庫には、研究用図書のほか大型コレクション、個人文庫などの特殊資料がある。

書庫資料の大部分を占める研究用図書は、その特性を踏まえて、教員100冊（または50冊）、大学院生50冊、学部学生25冊と、身分により貸出冊数が異なる。ただし、貸出期間は教員学生を問わず6週間となっている。

教職員及び大学院生は、本館地下書庫に入庫して直接資料を利用することができるが、学部学生及び学外者は基本的に入庫することができない。そのため、メインカウンターでは書庫資料の出納サービスを行っている。例年は、年間5,000～8,000件の出納リクエストがあるが、特に平成26年度は工事に伴い利用者の書庫への入庫ができなかったため、14,000件を超えるリクエストがあった。

また、学部学生を対象に本館地下書庫の利用指導（書庫ガイダンス）を行っており、受講済みの学部学生には、書庫の入庫利用を認めている。平成26年10月から平成27年9月の書庫ガイダンス実施回数は77回、受講者325名であった。

なお、新着雑誌、参考図書、東日本大震災関連資料の震災ライブラリー、視聴覚資料などは、館内利用のみとなっている。

〇2号館

2号館には、製本雑誌、齋藤養之助家史料、古典資料、狩野文庫を含む準貴重図書、貴重図書等の資料があり、その利用法・利用条件は各々異なる。特に上記資料の内、製本雑誌以外は、複写不可、申請・許可の上、撮影可となっている。また、個人や様々な機関が、当館所蔵資料（画像）を書籍等への掲載やテレビ番組等への放映で利用している。

（撮影等件数については、「３）資料の収集・保存　②コレクション・図書の整備・提供・保存　⑵コレクション・図書の提供・保存」参照。）

〇製本雑誌

製本雑誌について、館内での複写は著作権の範囲内で可。学内構成員は、貸出可（身分により、貸出条件は異なる）。閲覧については身分に限らず、自由に可。なお、製本雑誌の貸出業務については、平成15年のカウンター統合以来、1号館カウンターで行っている。

〇齋藤養之助家史料

齋藤養之助家史料について、複写不可。申請・許可の上、個人撮影可。貸出不可。Web版目録の利用には、事前申請によるID/PWの発行が必要。閲覧には事前申請による許可が必要（身分不問、職員出納）。入庫不可。史料自体が個人情報を多く含むものであるため取り扱いに、注意を要する特殊な資料である。

〇古典資料

古典資料について、複写不可。申請・許可の上、個人撮影可。本学の教員・大学院生のみ、貸出可（身分により、貸出条件は異なる）、入庫検索（閲覧）可。学部生、その他は、職員出納による閲覧のみ可。

〇狩野文庫を含む準貴重図書

狩野文庫を含む準貴重図書について、複写不可。申請・許可の上、個人撮影可。原則として貸出不可。本学の教員・大学院生のみ、入庫検索（閲覧）可。学部生、その他は、職員出納による閲覧のみ可。

〇貴重図書

貴重図書について、複写不可。申請・許可の上、業者撮影のみ可。貸出不可。閲覧は、マイクロフィルム等、代替資料のある物は代替資料で行い、資料閲覧の場合は、事前申請による許可が必要（本学教員以外は保証人が必要）。

②レファレンスサービス

インターネット環境の充実に伴いオンラインによる蔵書検索、文献情報検索が普及し、個人がインターネット上の検索エンジンを利用して、膨大な情報量の中から必要な情報を得ること

も容易になっている現在では、紙媒体の参考図書を利用してのサービスは大幅に減少した。しかしながら、全てがインターネットで解決できるものではなく、紙媒体の参考図書は現在でも重要なツールである。

インターネット上の情報源は玉石混淆であり、信頼できる情報源を選択する目が重要となっている。このことは講習会等さまざまな機会を通して発信しているが、その信頼できる情報源への案内は図書館サービスの重要な機能になっている。

平成 18 年 10 月から運用を開始したオンライン・レファレンス機能のおかげで、有用な情報が共有・活用されているが、担当職員の異動などによりこれらの有用な情報が途切れることなく継承され、今後、より多くの情報を蓄積し、活用していくことが期待される。

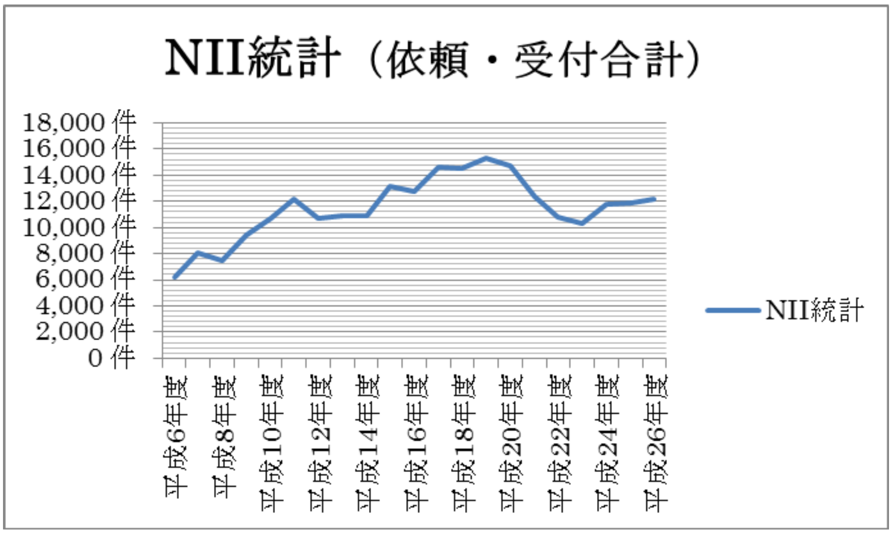
また、利用者へのサービス拡充を目ざし、平成 22 年 10 月からレファレンスデスクを従来の 9 時オープンから 8 時 30 分オープンとし、更に 12 時～13 時の昼休みもオープンとしたことで平日 8 時 30 分～17 時の間は常にレファレンスサービスを提供できる状態となった。

③　図書館間協力（ILL）

図書館間相互利用サービス（以下 ILL）では、従来の紙媒体やマイクロプリントに加え、電子コンテンツのプリントアウト提供や、紙媒体の電子的な送信サービス（DDS：ドキュメント・デリバリ・サービス）など、提供方法が多様化する傾向にある。

ILL に使用できる財源についても同様に多様化へ向かう傾向がみられる。平成１８年度、それまで校費払いに限定していた学内間 ILL に私費払いができるようになった。平成２０年１月には、通常の ILL に寄附金の使用が可能となった。現在、さらに科研費や受託研究費の使用を求める声が寄せられており、検討が必要である。

ILL の処理件数（NACSIS-ILL 経由）は、サービス開始直後から年々増え続けていたが、平成 19 年度をピークに減少に転じた。減少の原因は、電子ジャーナルパッケージの導入により、それまで ILL 経由で入手及び提供していた文献の一部が、電子的に直接入手可能となったためと考えられる。



しかし、この減少傾向は平成23年度には底をうち、以降、現在まで再び微増に転じている。平成26年度の実績は12,205件である。当館の複写依頼件数は全国7位、貸借依頼件数は全国2位であり、依然として高いサービス需要がみられる。今後、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの開始が予定されており、処理件数の推移を注意深く見守っていく必要がある。

海外ILLは、北米（OCLC（平成14年度複写開始、平成16年度貸借開始））、韓国（KERIS）（平成16年度複写開始））、英国図書館（BL）を対象に行っている。特にKERISの受付実績は全国1位（平成26年度）と貢献度が大きい。反面、同依頼実績は0件にとどまり、学内向けにはメリットが十分生かされていない点が課題である。海外ILLの依頼時の支払いを校費に限定しているが、私費払いの希望も寄せられており、これも対応を検討する必要がある。

狩野文庫や漱石文庫といった本学コレクションのうち、マイクロ化された資料についてはILLにより学外へプリントアウト提供を行っている。本学の貴重資料の有効活用という点で相応の役割を果たす一方で、1件あたりの複写枚数が多いため業務負荷が大きく、マイクロ複写機器2台にかかるメンテナンス及び更新費用も高額である。平成27年度には、老朽化した同機器の内1台を更新する予定である。

最後に、利用者の要望や情勢に応じたサービスを展開し続けるためには、関連する専門的な業務知識が不可欠である。著作権の正確な理解に基づく日々の運用判断に始まり、大量の件数を効率的にこなすための継続的な努力、複雑な経費処理に堪え得る会計知識など、定型化しにくいノウハウをいかに維持できるかが課題である。

（その他の事項）

平成22年10月 相互利用カウンターで、昼休みも資料の受け取りが可能に。

平成23年3月　東日本大震災発生により、数日後、NIIにより自動的に被災地はサービス

停止に。

同年 3 月 18 日　学外機関からの相互利用の受付停止を国立大学図書館協会経由で加盟館に発信。

同年 5 月 16 日　学外機関からの相互利用の受付再開を国立大学図書館協会経由で加盟館に発信。

同年 6 月 1 日　学内オンライン申込を再開。

④ 授業支援：シラバス連携システム

平成16年度から開始した全学教育科目シラバス掲載教科書・参考書とOPACとの所在情報検索システムは、利便性等が大きく前進したとは言い難いものの、毎年、少しずつ変更となるシラバスデータとOPACとのリンク作業を着実に進めている。これにより、全学教育関連図書の選定の効率化を図り、主に学部生1～2年生が必要とする基本資料を適切に蔵書へ追加することに役立っている。

２．医学分館

１）組織・運営

①構成

大正4（1915）年12月に設置され、平成27年12月6日に創立百周年を迎えた医学分館は、専門図書館として、医学系研究科・医学部、歯学研究科・歯学部、加齢医学研究所、大学病院、先進医工学連携機構、東北メディカルメガバンク機構等を中心に図書館サービスを提供することにより、教育・研究活動を支援している。

また、文部科学省から外国雑誌センター館としての指定を受け、全国的に希少な医学生物学系雑誌を収集・充実し、学内はもとより全国の大学、研究機関の共同利用により、我が国の医学生物学研究の進展に寄与している。

②財政基盤

医学分館の予算は、大学運営資金・関係部局からの援助費からなる。平成22年度からは老朽化した設備を更新するための施設設備費として星陵地区から3,000千円の援助も受け、運営費は、大学運営資金と星陵地区の援助費の割合が半々となっている。医学分館は外国雑誌センター館であることから、資料費全体（42,497千円）に占める雑誌購入費(25,615千円）の割合が60%と高いが、学生用図書費（12,238千円）についても平成21年度から本館を通じて別途予算措置されたことにより、平成20年度と比較しての増加率は446%となった。

③ 学外機関との連携

全国の医学・医療その他関係機関で組織されている特定非営利活動法人日本医学図書館協会(会員約140の国公私立大学図書館等)に加盟しており、医学図書館を取り巻く諸課題等を協議する会議の開催や機関誌の発行、図書館員の育成及び資質の向上のための研修会、講演会などの諸事業に取り組んでいる。平成23年度は日本医学図書館協会東北地区会事務局を担当し、平成26～27年度は同協会評議員を務めている。

２）施設・設備

①施設・設備

医学分館の建物総面積は、昭和59年1月に竣工した本館（4,025㎡）と平成16年2月に増築した別棟（451㎡）を合わせて4,476㎡である。

平成21～23年度には、1階及び3階閲覧室のリニューアルを行い、一部閲覧机も更新した。平成25年度には図書自動貸出装置を設置し、利便性を高めた。

しかし、利用者からは空調・照明の改善や、グループ学習席の設置を望む声が多数あるため、建物・設備の老朽化、及びアクティブラーニングできる新たな環境の整備に対応するための施

設設備の概算要求を行っているところである。

②防災対策

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、医学分館も甚大な被害を受けた。昭和 53 年に発生した宮城県沖地震の教訓を生かし、書架を床固定又は連結による転倒防止策を施していたため、資料は大量に落下したものの書架の倒壊はなかった。震災後には滑り止めシートにより資料の落下防止対策を行うとともに、大地震発生時対策マニュアル（暫定版）を作成し、定期的に防災訓練を実施している。

医学分館の 2 階・3 階は、中央に書架を置きその周辺に閲覧席を配置している。閲覧席は書架と窓ガラスに挟まれており、地震発生時や避難時にリスクが高い。今後は避難経路が確保しやすいように、レイアウトを再考するなどの対策が必要ではないかと考えている。

3）資料の収集・保存

① 学生用図書の選定

(1)選書方針・選書体制

医学・生命科学系の専門図書館として、平成 21 年度に裁定された「医学分館学生用図書の購入に関わる選定基準」に基づいて選書を行っている。

学生のニーズにあった選書を目指して、平成 23 年度から職員を主体とした医学分館学生図書選定ワーキンググループを立ち上げ、新刊図書を中心に毎月選定作業を行っている。今後は利用者参加型の選書イベントなど、より利用者のニーズに応えることが可能な選書体制を検討する予定である。

(2)蔵書構成

『外部評価報告書』において、専門的な医学部門に大きく偏っていることについて指摘を受け、豊かな教養と人間性を持つ人材を養成する教育環境の一環としての図書の整備が課題として挙げられた。その一方、利用者からは専門書や洋書、電子ブックの購入希望が多く挙げられている。

平成 22 年度より全学的基盤経費で学生用図書費が確保されてはいるが、新刊書の継続的な購入や、国家試験対策資料・学習用参考書の整備が最優先となっており、教養書・一般書の十分な整備には至っていない。

②外国雑誌・電子ジャーナルの整備と提供

星陵コアジャーナルの整備と提供

医学分館で購読している雑誌は、「星陵コアジャーナル」として星陵地区で選定し各部局からの負担金によって維持されている。タイトルは 2〜3 年毎に見直しを行っており、最近では

平成 25 年度に星陵地区の教員にアンケートを実施し、結果に基づいて医学分館学術情報整備委員会で見直しを行った。これまでも E-only 化に伴い冊子体の削減を行ってきたが、平成 25 年度の見直しでは、外国雑誌の価格高騰に伴い大幅な削減を行った。

外国雑誌のタイトル削減は限界に来ており、利用者からは継続希望のほか、新規購読や購読再開を望む声が多く寄せられているが、今後の学術情報の提供には、より一層の困難が予想される。

③資料・情報の収集・保存

医学系の図書は学術研究の進展により改版がでるものが多いため、保存は最低限とし新規購入を優先している。一方製本雑誌については、外国雑誌センター館としての役割上、国内に希少なタイトルが多いため、長期の利用に耐えうるよう修理・保存している。

また、恒常化している書架の狭隘化に対応するため、平成 19 年度以降、重複所蔵資料を中心に約 50,000 冊を除却している。今後も継続的に行い、適切な書架スペースを確保し、閲覧スペースの維持に当てたい。

4）サービス機能

① 資料の利用

(1) 開館日・開館時間

開館時間は平日 9 時から 20 時（授業休業期間の 3 月と 8 月は 17 時）までで、教職員と星陵キャンパス在籍の学生等は、土日祝祭日を含む時間外（無人開館）の利用が可能である。

平成 25 年度から「開館時間を拡大してほしい」という要望を受けて、朝の時間（7 時～9 時）も利用可能としたため、7 時から 24 時まで利用でき、実質的な開館日数は 361 日(平成 26 年度)と、年末年始や点検のための停電日以外は一年中利用が可能である。

また、他キャンパス学生の時間外利用については、利用者が少ない 3 月のみ可能としているが、座席数不足の問題もありその利用希望に応えるためにも改修計画等の早期の実現が望まれる。

なお、時間外（無人開館）利用のセキュリティ対策については、防犯カメラの設置と共に、常駐の警備員による館内巡視等を行っている。

(2) 貸出・返却

利用者からの要望が多かった自動貸出装置は、図書表紙へのバーコード貼付等の準備作業を経て平成 25 年 12 月に導入され、以前から設置されているブックポストと合わせ無人開館時でも資料の貸出と返却が可能になっている。

貸出条件については、前回の外部評価において「・・年間の貸出冊数が 8,370 冊というのは、

他の分館のそれと較べてアンバランスであり、貸出条件を他の分館と同様にするよう検討されたい。」との指摘を受け、その後の基盤経費による予算措置や寄付による学生用図書の大幅増加などにより、平成 25 年 3 月から貸出条件を学生の場合では冊数を 3 冊から 5 冊に、期間も 7 日間から 14 日間に変更することができた。

また、館内スペースの見直し、一部改修等により新着図書コーナーをはじめ、学習用図書コーナー、利用目的別の図書コーナーを設置するなど、利用しやすい環境の醸成により平成 26 年度の貸出冊数は 25,527 冊と外部評価当時に比べ大幅に増加している。

医学分館の場合、基礎医学、臨床医学、一般図書と大きく 3 つに分類と配置が分かれており、さらなる貸出条件の緩和には、より利便性の高い図書の配置や利用実態に即した図書の補充が課題である。

② 利用者支援（レファレンス・サービス）

カウンターでは、貸出・返却を含めた総合的な利用の案内や手続きを行っており、各種の検索法ガイドを作成して利用者に提供しているほか、必要に応じて蔵書検索の方法、資料の配置や電子ジャーナル・データベース等の利用案内を行っている。

また、最近は学生のパソコンの持ち込みによる無線 LAN への接続方法に関する質問も多く、情報基盤担当者等との連携も必要になっている。

③ 文献複写・図書館間協力

電子ジャーナル等の普及と環境整備により、文献複写の件数は依頼・受付ともに減少傾向にあるが、図書館間による複写の受付は、依頼 1,966 件に比べ約 3.7 倍の 7,284 件（平成 26 年度実績）と国内有数の件数となっており、図書館間協力においても外国雑誌センター館として、その役割を果たしている。

また、依頼においては、MyLibrary を経由したオンライン申込等により、利用者に複写物や現物借用資料を迅速に提供することができる環境が整いつつある。

今回のアンケートにおいても期待と評価が共に高い値を示しており、今後も利用者からの要望に応えられるよう体制の整備に努める必要がある。

④ 情報リテラシー教育支援

医学分館では入学式後、新入生を対象にした図書館利用のガイダンスや文献検索講習会を開き、医学分館の紹介と共に蔵書検索システムやデータベース紹介等を行っている。

また、医学部保健学科看護学専攻 3 年次の授業や医学科 3 年次全員を対象に、基礎医学特別講義の中で、文献検索講習会を実施している。

そのほか職員が分担執筆した各種の検索法ガイドや、学生のみならず教職員を対象とした講習会も年間を通して実施しており、「情報リテラシー教育に対する利用者の要望がまだ高

い・・・効率的な講習会のあり方について検討されたい。」との指摘を受けた前回の外部評価当時（平成 17 年度統計）の開催数 5 回、延べ参加人数 213 名に比べ平成 26 年度は開催数 19 回、延べ参加人数 604 名と大幅に増加している。

一方より高度な検索方法や個別の講習を望む声もあり、職員の負担との兼ね合いで、効率的な講習会等のあり方についての模索が続いている。

リテラシー環境としては館内全域で無線 LAN の使用が可能であり、1 階検索コーナーと別棟 2 階閲覧室にあわせて 50 台以上のパソコンが設置され、開館時間中自由に利用することができるため利用者が絶えない状況である。

⑤その他

⑴　館内での飲食

カフェコーナーや飲食スペースの設置を望む利用者は多い。前回の外部評価においても「たとえば館内では飲食がごみ処理の問題と合わせて認められていないが・・・要望は多いのでサービスの改善という面から検討しては」との意見をいただき、平成 24 年 7 月から蓋付きの飲料（ペットボトル・水筒等）の持ち込みと使用を許可するようにした。

しかし、閲覧席での飲食についての苦情も多く寄せられており、平成 16 年 1 月から 17 年 9 月まで飲食コーナーを設置した際には、利用者のマナー低下を助長した経緯もあることから、十分な検討と慎重な対応が必要である。

⑵　グループ学習スペース

利用者がグループで学習する姿や要望は年々増加する傾向にある。今回のアンケートにおいては、実態評価が特に低いのに加え期待値とのギャップも大きく、改修計画の実現による早急な改善が望まれる。

5）社会貢献

①　図書館の地域開放

医学分館では従来から学外者の利用を認めており、平成 26 年度の入館者数は 1,031 名、図書の貸出数は 745 冊、来館による複写件数 5,894 件（学外からの依頼総件数は 15,605 件）にのぼり、東北地区の拠点図書館として学内研究者のみならず地域の研究者や医療従事者等、一般市民を含む多くの方に利用されている。

また、平成 25 年から地元の中学生の職場体験実習を受け入れ、進路指導シンポジウムに参画するなどしており、今後とも一層の地域への貢献が期待されている。

②　展示会等

例年、7 月末のオープンキャンパスの時期に所蔵コレクションを紹介するミニ展示を行って

いる。これは学内構成員だけでなく、近隣住民や他地域の高校生、保護者、教員等幅広い層向けに開催するもので、毎年 1,500 名以上が見学に訪れている。

平成 27 年には、総長裁量経費の採択を受け、所蔵資料による百周年記念展示会を開催した。「『解体新書』が生まれた頃　～驚きの近代医学前史～」〔第一期〕、「レオナルドは人体構造の夢を見たか」〔第二期〕と題した展示会には学内外から 1,100 名余りの来場者があり、好評を博した。また、平成 27 年 4 月から 6 月に東北歴史博物館において開催された特別展「医は仁術（宮城展）」に所蔵資料を出品し、一般市民に広く公開した。

３．北青葉山分館

１）組織・運営

北青葉山分館は、理学・薬学分野の専門図書館として、その役割を果たしてきた。分館は竣工から今年度 30 周年を迎え、時代と共に拡大する分野に対応する任務を背負っている。

運営は、分館長を委員長とし、理学研究科・薬学研究科のそれぞれの図書委員長と附属図書館商議員各 1 名から成る運営委員会により行われている。事務組織として、管理係と整理・運用係の 2 係を置き、資料の管理や利用者サービスを行っている。

北青葉山分館の予算は、本館配分経費のほか、理学・薬学研究科から配分される運営費負担金から成る。財政的に、この運営費負担金に大きく依存している。

２）施設・設備

①学習環境設備

建物は老朽化してきており、毎年修繕を重ねているが、建物内は、少しでも快適に勉学できるよう、閲覧スペースの環境整備に努めている。平成 21 年度には網戸を設置し、夜間でも害虫の進入を防止できるようにした。その他、全館和式トイレから洋式への変更、一部絨毯の張替え、閲覧机の塗装、椅子の張替え、窓の UV カットフィルム貼付、デスクライトの更新、1 階ホールの電球の LED 化等を行った。1 階 PC コーナーにあるパソコンも、常によい状態で使用できるよう、メンテナンスを怠らないようにしている。

②空調設備

北青葉山分館は、現在主流のガス熱源ではなく、青葉山ボイラー室から提供される蒸気暖房を使用している。2 台ある機械のうち故障していない 1 台で運用し、平成 9 年に取付たエアコンも併用しているが、ランニングコストを考え、省エネ対応のパッケージ型空調機（EHP）への改修を求め、毎年総長裁量経費要求書を提出している。

③建物・スペース等

北青葉山分館の建物は昭和 60 年に竣工し、30 年が経過した。老朽化した施設は、修繕しながら使用している。書庫スペースは平成 23 年度に電動集密書架を更新したものの、増加する資料の保存のため、常に書架移動を繰り返し、急場をしのいでいる状況である。

④防災対策

毎年、理学研究科と共に大規模な防災訓練を行っている。その他、平成 25 年度～26 年度は、夜間（閉館時利用時間帯）に災害発生した場合、利用者が安全に避難できるようにするため、分館独自の「夜間利用時の安全点検」を実施した。分館内を消灯して館内を点検することにより、普段気づかない危険箇所、改善すべき箇所が多数確認できた。その結果を基に、常備灯の

増設、踏み台への蓄光テープの貼付、避難誘導サインの更新、書架の図書落下防止テープの貼付等、改善するための方策を順次行っている。

３）資料の収集・保存

①学生用図書の選定

学生用図書の選定は、主に理学部・薬学部の図書委員の教員を通じて依頼している。選定依頼する際、各専攻の学部学生の人数比により金額を決め、その範囲内で選定されている。その他、シラバスに掲載された図書の購入、学生からのリクエストの受付、分館の職員による新刊本を中心とした選定を行っている。また、特徴的なこととして、北青葉山分館では年に一度選書イベントを行っており、利用者が分館にて直接選書を行う機会を設けている。平成 26 年度は「本気で探す？本とに会える！10days 2014」と題してイベントを行い、約 300 件の投票があり、194 点が選ばれた。

②コレクション等の整備と提供

分館には、個人名が付いた文庫が複数存在している。これらを含め、資料は順次登録中である。（数学：藤原文庫、林文庫、窪田文庫、化学：片野文庫、地質：矢部文庫、半沢文庫、岩石：渡邊文庫、八木文庫）

③資料・情報の収集・保存

北青葉山分館は雑誌の占める割合が多く、電子ジャーナルの普及により、雑誌の製本対象冊数は減少しているものの、各研究室からの返却本等で書庫の狭隘化が進んでいる。資料の一部は、平成 29 年度に開館が予定されている新図書館に移動させることも視野にいれている。

特別閲覧室には、1600 年代からの古い蔵書が 185 点ほど納められており、平成 25 年度には、これらの図書のドライクリーニングを行った。本館の貴重書庫に納めるほどの価値ではないが、長い年月を経ているこれらの蔵書は、今後も別置して保管したい。

４）サービス機能

①資料の利用

（1）開館時間は平日 9 時から 20 時（休業期間は 17 時）まで、土日祝祭日は閉館である。また、土日祝祭日を含む開館時間外の利用者については、平成 25 年度の運営委員会にて改正した「東北大学附属図書館北青葉山分館時間外（閉館時）利用要項」の中で、青葉山北地区の部局に在籍する教職員、研究員、学生と本学名誉教授と制定し、教職員・研究員は 24 時間、学生は 7 時から 24 時まで利用可能とした。なお、近年は利用者の便宜を図り、閉館日である本学創立記念日及び学位記授与式当日も試行で臨時開館している。

(2) 平成 24 年度には、自動貸出装置を導入し、閉館時でも資料の貸出が可能となった。それに伴い、1 階にある図書表紙へのバーコード貼付作業を行った。

②レファレンスサービス

カウンターにおける質問は、利用案内や蔵書検索の方法、蔵書の配置案内が大半を占める。利用者は図書館内よりも研究室等で蔵書検索、電子ジャーナルやデータベースを利用することが多いため、利用指導方法を考える必要がある。

学外からの電子メールや FAX による参考調査にも対応している。

③文献複写サービス

学内の資料搬送システムにより、資料を所蔵する場所に出向かなくても、近くの本館、分館で依頼した文献を受け取れるようになった。

④ILL サービス

電子ジャーナルの普及により、複写受付・依頼件数は年々減少しているが、受付数は依頼数より 4 倍以上多い。また、図書の現物貸借件数は横ばいである。

⑤授業支援

専攻ごとのガイダンスの一部に設けてある図書館担当の時間に参加している。内容は、利用案内、分館見学である。今後は学部に所属する学生全員に分館のことを周知できるよう、全専攻のガイダンスに図書館担当の時間を組み込んでもらうことが望まれる。

⑤ その他

(1) 分館の閲覧スペースでは飲食禁止にしていたが、平成 26 年度にペットボトル等蓋付き飲料の持ち込みを許可することにした。

(2) オープンキャンパスでは毎年エントランスホールでミニ展示を行っている。近年は自然史博物館の協力を得て「結晶の世界」、薬用植物園の協力を得て「香りにしたしむー薬用植物の世界ー」と題して行い、来館者から好評を得た。

(3) 東北大学で毎年高校生を対象に主催している「科学者の卵」に協力し、分館見学等を行っている。

4.　工学分館

1）組織・運営

①工学分館の運営

工学分館は、工学研究科・工学部、情報科学研究科、環境科学研究科、医工学研究科、災害科学国際研究所および未来科学技術共同研究センター等（以下:工学研究科関係部局）を主な対象として、理工学系資料を中心に全学にサービスを行い、学習・教育・研究支援を行っている。

工学分館長を委員長とし、上記研究科等から選出された19名の運営委員により工学分館運営委員会が組織されている。事務組織は工学分館長のもとに図書館専門員、管理係、整理・運用係を置いて、工学研究科・工学部等事務部の組織として業務を行っている。

②財政基盤

予算は本館配分経費および工学研究科関係部局から配分される資料費・運営費からなっている。また、年度によっては総長裁量経費（外壁等改修）、研究科長戦略的経費（空調機器更新等）および、補助金等（Abelujo整備等）で事業を行うこともある。

2）施設・整備

工学分館は昭和55年に竣工した旧館と平成7年に増築した新館がある。建築からかなり時間が経過したため、平成25年度に総長裁量経費により漏水対策として大規模に外壁等改修工事を行った。また、平成27年度は研究科長戦略的経費により旧館塔屋屋根の防水工事を行った。しかし、建物構造の事情により、大雨の際には屋根や地階の壁の同じ箇所で漏水が発生することがある。

平成19年度外部評価委員会報告書を受けて、平成21年度にエレベーターを3階まで延伸した。

①学習環境設備・機器

工学教育院の事業として、工学分館の改修を行い、Active Learning Square: Abelujo（アベルーヨ）を設置した。これは、グループ学習エリアとLanguage Studio（語学自習室）からなっており、Language Studioには語学自習用パソコンを設置した個室ブースを20台設置している。グループ学習エリアには可動式のテーブル、椅子を置き、プロジェクターやスクリーン等を備えている。

※「工学教育院」

工学部／工学研究科は、平成26年度より文部科学省の支援を受け「研究型大学における次世代工学教育システムの構築」事業を開始しました。本事業では、工学系教育機能充実のため

に「工学教育院」を創設し、工学系関連研究科と連携して研究型大学における工学教育の「体系的カリキュラム」を編み、国立大学では初めての到達度評価に基づく学部から大学院までの6 年一貫教育を推進します。（東北大学工学研究科・工学部　工学教育院　概要（抜粋）http://www.iee.eng.tohoku.ac.jp/intro/　参照 2016-1-20）

また、平成 23 年度から、エントランスホール南側の書架を段階的に移動し、自由学習室を設置した。

館内には利用者用パソコンが 27 台あり、情報検索やドキュメント作成等に利用でき、無線 LAN は館内全域で利用可能になっている。

②照明・空調

平成 19 年度外部評価委員会報告書で指摘のあった照明は, 閲覧席にスタンドライトを設置し, 天井照明の補完をしている。

空調装置は設置から時間が経過した自由学習室と旧館 2 階の空調器を更新し、空調効率を上げて学習環境の向上と節電を図ったが, アンケートでは期待値が高く実態評価とのギャップが大きい。

③スペース

利用頻度が高くない重複資料等を整理し収蔵スペースを確保しているが、特に学位論文の収蔵スペース確保が当面の課題になっている。建物の荷重設計により、書架の増設が難しい状況で、資料収蔵スペース確保は大きな課題になってくる。

④防災対策

平成23年3月11日の東日本大震災とその後の余震により工学分館も大きな被害を受けた。書架の変形による交換や、多数見られた資料落下からの安全確保を限られた復旧予算のなかで実施した。交換が必要な書架は棚板に傾斜が設定できる製品を導入した。また、継続仕様可能な書架には、田島記念大学図書館新興財団の援助を受けて当館で開発した「棚板傾斜付加金具」を研究科長戦略的経費により設置し、棚板に傾斜を設けることで、市販の落下防止装置導入に比べ安価に資料落下を防いでいる。さらに、新館 1 階の積層書架には通路への資料落下防止用のネットを設置した。

新館の床が黒色であったところに明るい色のタイルカーペットを敷いて避難経路を案内している。また、緊急時に照明が失われた際に避難の障害物になると危惧されるキックステップや廊下の椅子等に蓄光テープを取り付けた。同様に階段側壁へも誘導用に蓄光テープを貼付した。改修部分の安全確保も含めて監視カメラシステムを増設して、防災・防犯機能を強化している。　震災被害とその後の防災対策については以下に詳細な報告が記録されている。

『東北大学附属図書館工学分館″東日本大震災″外史 : 忘れないこと、伝えたいこと / 日出弘著. 東京 : ヒロエンタープライズ 、 2014.3』

３）資料の収集・保存

①学生用図書の選定

選書は館内職員による選書ワーキンググループにより、工学分館の主なサービス対象の学部・研究科等のテーマにそって各分野の資料を選定している。また、学生からの購入希望や教員からの推薦をもとに随時資料を購入している。アンケートによる実態評価は低くないが、他の項目に比べて期待値が高くなっているので、資料のさらなる充実が必要である。

②コレクションなどの整備と提供

電子ブックはサービスの利便性の面から整備に取り組んでいるが、利用者のニーズに対して導入できるコンテンツが十分とは言えず、まだ利用が進んでいない。

③資料・情報の収集・保存

電子ジャーナルの継続的な利用確保と製本雑誌の収蔵整理を検討する必要がある。

４）サービス機能

①資料の利用

土日祝日や平日夜間等の無人開館時間帯も”工学研究科関係部局”所属の利用者は自動入退館装置により利用でき、自動貸出装置により資料持ち出しも可能になっている。

ブックポストを設置しており、工学分館の資料だけでなく学内他館・図書室所蔵資料の返却を受け付けている。

電子ジャーナル等のオンラインで提供している電子メディアは USB 等の携行記録メディアや有料プリンタでの印刷で情報提供している。

②レファレンス・サービス

総合カウンターとして閲覧（貸出・返却）を含めた窓口対応を行っており、その中で、必要に応じて必要な資料や情報の案内をしている。また、利用者からの要望に応じた情報検索ガイダンスを行っている。

③文献複写サービス

館内サービスはセルフコピー複写を提供しており、「文献複写申込書【セルフ式自動コピー機】」によりルール遵守を実施している。

④ILL サービス

全国的な ILL システムにより当館所蔵資料を提供している。また、MyLibrary を経由したオンライン申込により、利用者に複写物や現物借用資料を迅速に提供している。

取扱い量に比べて経理処理の事務量が多く、料金授受方法や経費の振替等での改善が期待される。

⑤授業支援

教務システムを利用してシラバス掲載の資料と OPAC のリンクを作成して、シラバスと図書館資料所蔵情報を繋げ、図書館での所蔵情報へのアクセスを容易にしている。

5）国際化対応

工学教育院の語学教育方針に沿って設置した Language Studio（語学自習エリア）には 20 の個別ブースがあり，ヘッドセット付き PC で ALC NetAcademy2 等を利用できる環境を用意し，TOEFL・TOEIC 試験等の学習教材（図書・CD）を配置している。

５．農学分館

１）組織・運営

農学分館は雨宮キャンパスに位置し、主に農学・生命科学分野の専門図書館としての役割を担っている。主なサービス対象は農学研究科・農学部等に所属する教職員(約 190 名)、大学院学生(約 430 名)および学部学生(約 680 名)である。

分館の事務組織は、分館長のもとに図書係 6 名を配置している。また分館の運営は、農学研究科の各コースから選出された教員と分館長の計 7 名で構成する図書委員会によって行われている。

分館運営に必要な経費は、本館配分予算および農学研究科中央経費から図書委員会に配分される予算等により賄われているが、その大部分は農学研究科に負っている。

なお雨宮キャンパスの施設は全て、平成 28 年度中に青葉山新キャンパスへ移転することが決定している。そのため今後は新キャンパスの新図書館において十分な機能を実現させるべく検討が必要である。

２）施設・設備

①学習環境設備・機器

資料増加に伴い書架の増設を行ってきたため、学習スペースは縮小せざるを得ず、現状の閲覧座席数は 90 席程度しかない。しかも現在も書架スペースは狭隘化の問題を抱えている。今後は全学共用書庫等の整備により書架スペースを一定に確保しつつ、閲覧座席の大幅な増設が課題である。

学習用機器としての利用者用パソコンは現在 15 台提供しており、順次機器の更新を進めている。学生はレポート等を作成するために関連資料を机に開きつつワープロソフトや表計算ソフト等を利用しているが、机上のスペースが狭いため、十分な環境整備が課題である。

②空調設備

分館の空調は、雨宮キャンパス全体のパワーセンターからの供給に頼っており、独自の全館冷暖房設備は備えていない。また供給期間が限定されているため、年間をとおして快適な室温を保つことができていないことが課題である。なお平成 19 年には自習室のみにエアコンを導入し、一部学生への便宜を図ってきた。今後は快適な学習環境を整える上で、優先的に検討を要する問題である。

③スペース・防災対策等

現在の建物は昭和 53 年(1978)に竣工され 37 年が経過している。建物の老朽化に伴い壁に亀裂が発生し雨水の染みが見られるなどの不安材料があるが、平成 28 年度のキャンパス移転後

には建物取り壊しが決定していることから、設備改修に着手できない状況である。今後は新館において十分な設備環境とサービススペースを実現させることが重要である。

なお防災対策としては農学部主導により毎年防災訓練を実施している。

３．資料の収集・保存

１）学生用図書の選定

分館の資料費全体における学生用図書費の割合は３割程度であり、年々負担が増加している外国雑誌費に反比例して予算を縮小せざるを得ないのが現状である。なお選定は、シラバス掲載の図書を中心に新刊情報等から選書している。また学生・教員からの希望があれば対応している他、学生選書については書店と連携して、店頭選書やオンライン選書を実施している。

２）コレクション等の整備と提供

分館には農林水産関連の報告書や雑誌等の寄贈資料を多数所蔵していることが特徴である。一般には入手しにくい所謂灰色文献であり貴重な研究資料となっているため、未登録資料については計画的に整理を進めている。

なお狭隘化の問題を抱えた書架スペースにおいて、外国雑誌は１階、２階、集密、その他に分散配架せざるを得ない状態であり、利用の障害となっていた。また国内雑誌についても官公庁発行誌・都道府県発行誌・大学紀要・その他等が分散配置された状態で、慣れない利用者が自力で必要な資料を探すことが困難な状況が長らく続いていた。現在はこれらの状況を改善するために、平成26年度から３年計画で資料の再配置に取り組んでいる。

３）資料・情報の収集・保存

分館では、農学・生命科学系分野の外国雑誌・学会誌等を中心に収集してきたが、電子ジャーナルを積極的に導入した結果、冊子体の購入タイトルは年々減少している。また全学共同購入により電子ジャーナルの利用環境は整ったが、個々の研究室予算から徴収する分担金については不満の声が寄せられている。さらに近年は製本費予算の減少により、雑誌の製本が全部はできない状態が続いており、破損や散逸が危惧される。一方で出版年代が古く利用率の低下した重複図書等については、廃棄を含めて再配架・保存の見直しが必要である。

４．サービス機能

１）資料の利用

分館資料の貸出冊数と期間は、学生５冊２週間、大学院生・教員10冊２週間である。延滞

による罰則は実施していないが、督促の必要な資料は多く、検討する必要がある。

開館時間は平日 9 時から 20 時までである。授業休業期間中は 17 時で閉館しているが、 雨宮キャンパス在籍の学生と教職員については年中ほぼ無休で 7 時～24 時までの利用が可能である。なお雨宮キャンパス以外の学生の閉館時利用や、24 時間開館は実現できていない。今後は予算やセキュリティ対策等の問題も含めて必要有無の検討が必要である。

2）レファレンス・サービス

カウンターでのレファレンスは、利用案内や蔵書検索の方法、館内資料の配置案内が中心である。今後は農学系専門図書館として、利用者が望んでいる情報を的確に提供できる体制を目指すことが課題である。

3）文献複写・ILL サービス

電子ジャーナル環境整備により、ILL は以前と比べて依頼・受付ともに減少傾向にある。なお平成 26 年度実績では依頼に対する受付の割合は約 2 倍であり、公私立大学や研究機関との協力が多く、全国の農学系研究の進展に寄与している。今後は、キャンパス移転後も、研究室備付資料も含めて迅速なサービス体制を確保できるかが検討課題である。

4）授業支援

オーダーメイド講習会として教員からの要請を受け、授業の中での講習を複数回実施している。講習方法は、各授業の分野に合った演習課題をそれぞれ用意し、演習室にてデータベースを実習できる形式としている。平成 26 年度の受講者数は計約 100 名程であった。テキストは分館独自にデータベースガイドを作成し実施している。今後はテキストの充実や職員スキルの継続的な更新確立が課題である。

６．金属材料研究所図書室

１．組織・運営

１）金属材料研究所図書室の構成

金属材料研究所（以下金研）図書室は部局図書室の一つで、片平地区キャンパスに位置する。部局図書室の運営は当該部局に委任されている。金研は、設立当初の鉄鋼中心から金属・合金全般へと研究領域を広げ、さらには非金属をも含む物質・材料全般をカバーする、基礎および応用研究の世界的中核拠点に発展してきた、昭和 62 年に全国共同利用型研究所へ改組し、さらに平成 21 年に材料科学共同利用・共同研究拠点の認定をうけて、物質・材料研究のさらなる推進と人材育成に努めている。本図書室は、物質・材料研究に関する専門図書室であり、組織としては図書係が事務部総務課に属し、図書系職員２名と事務補佐員３名が業務に携わっている。

図書室は、金研運営会議の下に設置されている情報企画室の、図書担当教員（兼附属図書館商議員）を長とし、主に若手研究者からなる「図書整備委員会」(准教授２名、助教６名、オブザーバー：情報企画室図書担当・総務課長）を中心に運営されている。研究者と図書室とが協力し、学術情報整備に取り組み、さらに所内の研究教育活動を支援している点が、当図書室運営上の大きな特色である。

２）財政基盤

所内予算より図書購入費・図書管理費が配分されているが、その多くは、全学で共同購入している電子ジャーナル・データベース費用の負担金として計上されている。大学改革促進係数により年々予算が減額される状況の下、限られた予算の中で資料・サービスの質を維持あるいは向上させていくことが、今後の課題である。

３）学術情報基盤

図書室には図書業務専用と事務用のパソコンを各５台ずつ備えるとともに、閲覧室と書庫には利用者用として、蔵書検索（OPAC）用２台、情報検索用４台を設置している。情報検索用パソコンのうち１台は多言語に対応している。また、閲覧室および書庫の一部では、「どこでもTAINS」と「eduroam」によって無線LANを利用することができる。図書室のネットワーク環境は、金研情報企画室ネットワーク担当により整備・維持され、パソコンは図書整備委員会の助言や、附属図書館本館との連携により整備されている。

4）広報活動

図書室からの通知や連絡は、図書室ホームページや所内一斉メール、学内グループウェアの掲示板のほか、不定期で発行している「図書室だより」や、文書の配布・掲示などを通じて行っている。特に「図書室だより」は、図書室に親しみを感じてもらうようデザインやレイアウトに工夫を凝らしている。また、毎年、『金属材料研究所自己点検評価報告書』に図書室の活動を掲載し、業務内容を報告・公開している。

所内の研究者や学生をはじめとする多くの人が、図書室・図書館のサービスをより容易に享受できるよう、図書室ホームページのユーザビリティ向上を目指し、平成 26 年 4 月にホームページを全面的に刷新した。

２．施設・設備

現在の図書室は、金研 2 号館（平成 5 年度完成）と 3 号館（平成 6 年度完成）に所在する。閲覧室と 2 つの開架書庫、1 つの閉架書庫を備え、総面積は 533.5 ㎡ である。金研関係者は、自動入退室管理システムにより、24 時間利用可能である。なお、監視カメラ等により夜間・休日開室の保安維持･トラブル防止を図っている。

図書室の施設・設備上の懸案は、書庫の狭隘化である。必要に応じて大規模な資料の移動や重複資料の廃棄処理等を行っているが、将来的に見込まれる資料の増加に対処するためにも、利用状況を優先した資料の配架計画を立てるとともに、より抜本的な狭隘化対策をも検討する必要がある。なお、懸案であった地震への対策は、東日本大震災発生以前より進めていたが、震災を機にいっそう進捗し、終えることができた。

３．資料の収集・保存

1）図書の選定

1800 年代末からの材料科学に関する幅広い領域の図書資料を備え、平成 26 年度末現在では約 84,000 冊の図書を所蔵する。

図書資料は、図書整備委員会の教員によって選定・収集されるとともに、所内の他の教員や学生などの推薦を広く受け付け、購入している。従来は、材料科学を中心に専門分野の蔵書を充実させることが主体であったが、近年、基礎的分野に関する図書の購入の要望も多く、可能な限り対応している。

2） コレクション等の整備と提供

初代所長、本多光太郎の著書および関連資料を収集・整備し、提供している。金研が平成

28 年 5 月に創立 100 周年を迎えることに合わせ、本多を中心とした、金研の歴史などに関連する文献・資料をより広範に、包括的に把握し、一元的に整備・提供するよう努めている。なお本多記念室の図書資料の整理は完了した。

３）資料・情報の収集・保存

外国雑誌選定に当たっては、研究者の意向が反映されるよう、毎年全研究室にアンケートを行い、購読タイトルの見直しを行っている。また、所内での利用が見込まれる電子ジャーナルは、独自にタイトルリストを作成し図書室ホームページで公開している。リストは定期的にリンク切れ等を更新し、アクセス環境を確保するよう努めている。

閲覧室の情報検索用パソコンでは、ICDD Cards、 ICSD、 Pearson’s Crystal Data、 Alloy Phase Diagrams など、物質科学・材料科学分野の代表的なデータベースを、オンライン版または CD-ROM の形態により提供している。物質科学・材料科学の両分野においてもデータベースのオンライン化が進展しており、今後も、研究環境の変化や動向を見極めつつ、データベースのさらなる充実に取り組む必要がある。

４．サービス機能

１）資料の利用

図書の貸出は、過去 10 年あまりで急増している。平成 16 年度には 675 冊だった図書の貸出は、平成 26 年度には約 3,000 冊となり、4.5 倍近くにまで達している。貸出数の急激な伸張の背景として、図書整備委員会の協力の下で図書資料の充実に努めていること、平成 18 年度から開始したキャンパス間資料搬送サービスを通じて学内他館の図書の貸出が可能となったこと、さらに、平成 23 年度に導入した 24 時間対応の自動貸出装置導入によって貸出手続きが簡素化したことなどを挙げることができる。

２）レファレンス・サービス

現今、利用者自身が情報検索を行うことにより、年々レファレンス・サービスは減少する傾向にある。また、レファレンスの内容も利用案内や資料の配置案内など、回答の比較的容易な質問が中心であり、回答に時間を要する事項調査は少数である。ただし、日々進展する研究動向や情報環境に適応し、十分な図書室サービスを展開していくためにも、職員がレファレンス・サービスに関する知識を習得していくことは重要であり、体系的な研修等を組織する必要がある。

３）文献複写サービス

学内における本サービスは校費のみ受け付けている。依頼件数・受付件数とも減少傾向にあるが、e-DDS による受け取りを希望する利用者は増加している。

他部局の利用者が来室し、校費で複写を希望する場合は、図書室のコピーカードを貸出し、利用者自身が複写を行っている。

４）ILL サービス

他大学図書館との相互貸借サービスは、電子ジャーナルの充実やオープンアクセス誌の増加などが進み、依頼件数・受付件数とも減少傾向にはある。しかし、現今、多くの機関で電子ジャーナル経費の増大を理由に購読数を削減している状況があるため、今後利用が増加していくことが予測される。なお、他大学図書館との図書の貸借は、平成 22 年度から開始した。

５）情報リテラシー教育

図書整備委員会の協力のもとに、隔年で『情報検索の手引き』（以下『手引き』）を冊子体で刊行し、その『手引き』に基づいて、毎年、図書室オリエンテーションを開催している。『手引き』はオリエンテーション参加者、各研究室に配布するとともに、図書室のホームページでも公開している。図書室オリエンテーションには、新たに入所した学生や教職員を中心に、例年 50 名程度の参加がある。

７． 電気通信研究所図書室

１）組織・運営

① 電気通信研究所図書室の構成

図書室は、本学電気通信研究所（共同利用・共同研究拠点）(以下、「通研」とする。）事務部図書係として属し、係長１名、非常勤職員１名の計２名により、日常の図書サービス業務を行っている。運営については、附属図書館商議員１名、及び通研総務委員長１名、総務委員２名の計４名の教員の下に委ねられている。

② 財政基盤

図書室経費は共通経費から配分されている。

平成27年でIEEEを含むほとんどの外国雑誌の冊子体の購読を中止し電子ジャーナル中心となったが、年々レートや原価の値上がりにより外国雑誌費が資料費の半分以上を占める構造となっている。今後外国雑誌費の増加が見込まれるため関連部署と連携し何らかの措置を検討する必要がある。

③学術情報基盤

図書室には、図書館情報処理システム（T-LINES）の専用レンタル端末２台、業務用買取端末１台（カウンター用）が設置されている。ネットワーク環境については、所内やわらかい情報システムセンターの管理の下におかれ、本館との連携により、利用者サービスを行っている。平成19年度の外部評価で、無人書庫への利用者用端末設置が検討課題との指摘を受けたため、平成21年度には所内無線LAN環境を整備した上で、利用者用端末３台を設置した。平成26年度には全学的な無線LAN環境であるeduroamに切り替えた。

④ 学内外機関との連携

本・分館、他大学図書館との相互協力、及び各種WG等への参加によって、本・分館と同様な図書館サービスを利用者へ提供している。

⑤ 広報活動

図書室の主な広報は、ポスター掲示、通研図書室HP、文書配布、電子メール等によって行っている。その中でもHPによる広報は、本館、各種関係機関へリンクをはることにより、学術及び研究情報を中心に提供している。自宅や研究室に居ながらにして情報を求める昨今の利用形態に応じ、ますます、内容の充実が必要となってきている。

２）施設・設備

平成14年4月に書庫の狭隘化と閲覧スペースの不足に対応するため、現在の通研２号館２階奥（旧大型計算機センター）へ移転し、約２倍のスペースとなった。しかしその後も書架の

狭隘化が進み、書架増設を行っているが、平成 26 年度現在でスペースも限界となっている。この状況の解消が期待された青葉山移転も中止が決定したことから、今後あらためて対策を検討中である。図書室のある通研 2 号館の建替えが予定されており、今後図書室の移転に対応することとなる。現在多様化しつつある利用者の研究スタイルに対応したスペース活用をフォローし続ける必要がある。

カウンターサービス時間は、9 時から 17 時であるが、通研関係者は IC カードの使用により、24 時間利用可能である。平成 18 年 10 月に、書庫内人感センサー照明への切り替え、防犯カメラ等の設置を行い、図書室のセキュリティ環境を整備した。

平成 21 年度から平成 23 年度にかけて閲覧室にラーニングコモンズ用の丸テーブルを設置し学生の自発的なグループ学習の場として利用されている。

平成 24 年度には書庫に自動貸出装置を設置し、無人時間帯でも支障のない貸出サービスを実現した。同年度には室内の机・椅子の更新も行った。

震災対策として、平成 23 年度から 24 年度にかけて、書庫内の書架の落下防止対策を行った。平成 25 年度には退館管理システムを導入し、図書の無断持出を防止している。

3）資料の収集・保存

① 学生用図書の選定と蔵書構築

工学部における授業を考慮し、シラバス掲載図書の収集に努め、情報通信及びその境界領域に関する図書を中心に蔵書構築を行っている。選定については通研総務委員会に委ねる他、所内の教職員、学生・院生にも募ることを行っている。

② 図書資料の整理と提供

平成 11 年度に開始された遡及入力作業により、図書室所在資料についてはほぼ全資料が OPAC で検索可能となり、学内外の利用に供している。平成 18 年 7 月に開始された「キャンパス間資料搬送サービス」にも参加し、利用者に好評を得ている。

③コレクション・図書の整備と提供

当研究所は、1935 年に設置された全国で唯一の情報通信に関する共同利用・共同研究拠点である。歴代の研究を綴る「電気通信法研究室研究記録」「火曜日談話会記録」及び抜山文庫を始めとする通研創設期に係る資料等は、貴重な資料として保管されている。

平成 20 年度末には、解散した財団法人半導体研究振興会半導体研究所の所蔵資料を受け入れ別置した。

④　外国雑誌・電子ジャーナルの整備と提供

図書同様、情報通信及びその境界領域に関する分野を中心に雑誌資料の収集に努め、利用に

供している。平成 14 年度に全学で行われた大幅なタイトル重複調整以後は、受入タイトル数の維持に努めている。平成 18 年 1 月からは、関係部局の協力を得、全学に先行して e-books の導入に踏み切った。平成 23 年 3 月には、Lecture Notes in Computer Science のバックファイルを購入した。

⑤　資料の保存

当図書室は、全面開架制をとっているため、利用と保存とが共存している。法人化以後、図書は一冊一冊が資産として計上されているため、その管理には慎重を期している。図書室への入室には IC カードが必要であり、主に院生・研究者が利用するためか破損は少ないが、紛失防止には努めている。

4）サービス機能

① 資料の利用状況

来室する利用者は、学内の学生・院生が多いため、シラバス掲載図書の貸出が多い。資料の利用においては夜間時においても可能なように配慮している。

平成 23 年度から平成 26 年度にかけては、東日本大震災による建物改修を受けて一時移転した近隣他部局のサービス拠点としての役割も一時的に担っていた。

必要な時に必要な資料をいつでも利用出来る体制を基本としており、利用者からも好評を得ている。

② レファレンス・サービス

当図書室は、情報通信及びその境界領域に関する特殊な資料を所蔵していることから、所蔵資料利用の可否についての問い合わせが多い。他に各種企業、出版社、学外研究者からは、通研の歴史に関する事項や、所属研究者の著作に関する事項などの問い合わせが多い。これらへ対処すべく、通研事務部との連携により、HP 等の充実が必要とされる。

③ 学内図書館間の文献複写サービス

学内 ILL は T-LINES を介し、全学共通の方針の下で行っている。片平地区では唯一私費による文献複写の取扱も行っており、学内者ばかりではなく学外からの来訪者への便宜も積極的に図っている。

④ 図書館間協力（ILL）

本・分館同様の方針によって行っている。

学外からは、通研所蔵の特殊資料、IEEE 関係雑誌、信学技報などへの複写依頼が多い。

昨今、全国的に IEEE や信学技報の冊子体を所蔵している機関が少なくなり、本室所蔵冊子体への複写依頼が多くなっている。

⑤情報リテラシー教育

研究所ということもあり、特別に教育の場を設けることはないが、希望する利用者には、マンツーマンで必要な事項についての説明を行っている。年度初めの新規利用登録者、留学生、研究者等がそれにあたる。

5）社会貢献

① 図書館の地域開放

目立った広報を行っているわけではないが、立地条件がよいためか、地域住民からのレファレンス対応の要求や、市内の私立大学、専門学校生が雑誌論文の複写を目的に利用がある。また、企業関係者が電気通信分野の古い文献を求めて来室する。今後は、歴史的資料の保存のみならず、それらを公開するための方策が検討課題である。

② 展示会

平成 18 年 4 月 18 日から 5 月 12 日の期間、科学技術週間記念展示「2035 年の科学技術」と題して、本・分館との連携の下、通研 2 号館玄関ロビーにて、パネル展を行った。

平成 26 年 10 月 4 日・5 日の通研公開で展示された初代抜山所長の通信名誉賞メダル等の関連資料の常設展示も行っている。

今後は、当研究室の特性を生かした所蔵コレクションを、学内のみならず、近隣の地域住民にも公開する方法を考えていく必要がある。

８．多元物質科学研究所図書室

１．組織・運営

１）多元研図書室の構成

多元物質科学研究所（以下「多元研」という。）図書室はAIMR-WPI 棟本館１階・２階に位置している。運営は附属図書館の商議員を兼ねる図書委員長を中心にした図書室運営委員会によって行われており、図書室業務は多元研事務部総務課研究協力係に所属する２名（うち常勤職員１名）の職員によって行われている。

２）広報活動

図書室に関する広報は、主に東北大学グループウェアやメールにより行っている。図書室ホームページも公開しているが、今後は利用者に必要な内容を再検討し、より充実させていくことが課題である。

２．施設・設備

１）入退館関連設備

図書室は平成 24 年 4 月に現在の場所に移転した。1 階が書庫、2 階が閲覧室と事務室となっており（総面積 550 ㎡）、入室は入退室管理システムにより管理されている。多元研およびAIMR（原子分子材料科学高等研究機構）の構成員は開室時間（土日・祝日・創立記念日・夏季休業・年末年始以外の平日 9 時～17 時）に関わらず、24 時間の入室・利用が可能になっている。平日の夜間や土日は無人開室となるため、1・2 階にそれぞれ防犯カメラを設置している。また、1 階書庫は職員が常駐しないため、資料の無断持ち出し等を防ぐための装置（ブック・ディテクション・システム）を設置している。

２）学習環境関連設備

2 階の閲覧室部分は、アクティブ・ラーニング・スペースとして、グループ学習を可能とする可動式の什器を設置し、室内にプレゼンテーション用のスペースを設けている。また、情報検索用パソコン 3 台と TAINS 無線 LAN システムアクセスポイントを設置している。

３．資料の収集・保存

図書室で購入している図書の多くは、以前から継続購入しているシリーズ図書である。過去に購入タイトルの見直しを実施してから相当期間が経過したため、現在の利用状況等を鑑み、再度購入タイトルを検討する必要がある。

資料の保存については、配架スペースの都合上、外国雑誌の一部を書庫とは別の場所に保管している。重複資料等の廃棄により、配架スペースの確保に取り組んでいる。

図書館資料の整理と提供

多元研は平成 13 年 4 月に複数の研究所が統合して成立した組織であり、それに伴い各研究所の図書室も統合され現在の図書室になっている。旧研究所ではそれぞれ所蔵図書に独自の分類をつけていたため、一時は 4 つの分類が混在していたが、利用者の利便性を考慮し、平成 25 年度までに書庫内の全ての図書の分類を NDC 分類に統一した。

また、昭和 61 年以前に受入した図書の登録が課題となっていたが、平成 20 年度に行われた遡及入力事業により、ほぼ全ての資料の登録が完了した。

４．サービス機能

１）資料の利用

図書の閲覧・貸出は、本学構成員であれば誰でも可能である。以前は、多元研構成員と他部局者の貸出冊数・期間に差を設けていたが、複数の部局を兼務する教員等、多元研構成員か否かの判断が難しいケースがあることや、他部局者から貸出期間延長を望む声もあった事から、平成 24 年 5 月より、学内者への貸出冊数・期間を一律 5 冊・2 週間とした。

書庫は開架式で、自由に利用することができる。ただし、前述の通り外国雑誌の一部は別置きになっているため、職員による出納を行っており、時間外の利用ができない状態である。貸出については、書庫に自動貸出装置を設置し、2 階の受付窓口に来ることなく手続きが可能なようにしている。返却は開室時間内に窓口で受け付けている。一部の利用者からはそれ以外の時間も返却できるよう返却ボックスを設置して欲しいとの要望があり、管理の面も含めてどう対応するかが課題である。

平成 18 年度から始まったキャンパス間資料搬送サービスは概ね好評で、他キャンパスの図書館資料の取り寄せ、当室所蔵資料の提供ともに増加している。

なお、図書室の移転作業のため平成 21 年 8 月から平成 24 年 5 月の期間は図書室所蔵資料の利用（貸出、文献複写・現物貸借の受付）を停止した。ただし、キャンパス間資料搬送サービスを利用した他キャンパスの図書館資料の貸出は継続した。

２）学内図書館間の文献複写サービス

本サービスは校費のみ受付している。平成 19 年度より e-DDS サービス（Electronic Document Delivery Service、電子文献デリバリーサービス）に参加し、Web 上での複写物受取が可能になった。近年は、直接来室しての複写や、紙媒体の複写物の送付を希望する利用者は減少傾向

にある。

３）図書館間協力（ILL）

学内図書館間の文献複写サービス同様、校費のみ受付している。複写依頼件数・受付件数ともに近年は横ばいとなっている。学外からは、国内に所蔵が少ない資料などを中心に文献複写や現物貸借の依頼がある。今後は、学外 DDS の導入など、新たなサービスについて検討していく必要がある。

４）留学生対応

所内及び図書室がある WPI-AIMR 棟本館内には留学生及び外国人研究者が多く在籍しているため、図書室内の案内表示は基本的に英語での表現を併記している。また、利用案内も英語版を作成している。カウンターでの対応もできるだけ英語で行うよう心がけている。

５．社会貢献

学外者に対しては、学術研究・調査を目的とする場合に限り、閲覧・貸出サービスを実施している。複写サービスについては図書室内に私費用複写機がないため対応できていない。今後は私費の取扱いも含めその対応を検討する必要がある。

第３部：　平成２７年度東北大学附属図書館自己点検・評価報告書　利用者アンケート

第３部 利用者アンケート集計結果と分析

１．利用者アンケートの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
２．回答概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
３．アンケートの結果
3.0 集計及び分析方法・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3.1 全体概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3.2 本館　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
3.3 医学分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
3.4 北青葉山分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
3.5 工学分館　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
3.6 農学分館　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
3.7 部局図書室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

参考資料

・利用者アンケート 2015 集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
・利用者アンケート　(Web 画面)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

第３部　利用者アンケート集計結果と分析

1. 附属図書館利用者アンケートの概要

1.1　目的と調査方法

このアンケート調査は，附属図書館利用者が大学図書館に期待するサービスの水準と，利用して実際に感じたサービスの質とのギャップを調査し，附属図書館にとって今後何が必要かを把握することを目的としている。

方法としては，平成 18（2006）年に実施した利用者アンケートを参考に，質問項目を見直すとともに，大学図書館の変化に合わせた質問を追加するなどした。

具体的には，分析に用いる利用者情報を除くと，施設・設備について 13 項目，資料・情報について 9 項目，職員・サービスについて 11 項目，合計 33 項目について，大学図書館に期待する度合い（期待度）と利用者の実感に相当するレベル（実態評価）を 7 段階から選択してもらった。また，「施設・設備」「資料・情報」「職員・サービス」及びその他図書館に関することの自由記述項目も設定した。

アンケートの作成・回答には，放送大学が開発・提供しているリアルタイム評価支援システム REAS（Realtime Evaluation Assistance System）を利用した。

1.2　調査期間

調査期間は，平成 27 年 10 月 1 日（木）から 10 月 31 日（土）までである。

1.3　調査対象

調査対象は，附属図書館を利用した経験の有無にかかわらず，本学の教職員と大学院生，学部生の全員とした。

1.4　調査依頼

教職員，学生ともに，電子メールによる依頼を各部局宛に送付し，周知を依頼した。また本館，各分館，図書室でも，館内掲示や Web ページに掲載するなどの方法で，周知を行った。

1.5　回答方法

電子メールの依頼文及び附属図書館が提供する Web サービス“MyLibrary”のお知らせ欄に回答先 URL を記載し， REAS にアクセスしてもらい，回答するものとした。なお，質問は日本語版と英語版を作成した。

回答者全員に記念品として附属図書館オリジナルクリアファイル 1 部を進呈し，さらに抽選で USB メモリ（8GB）を 10 名，ドリップコーヒー（5 杯分）を 20 名の方に記念品を進呈した。

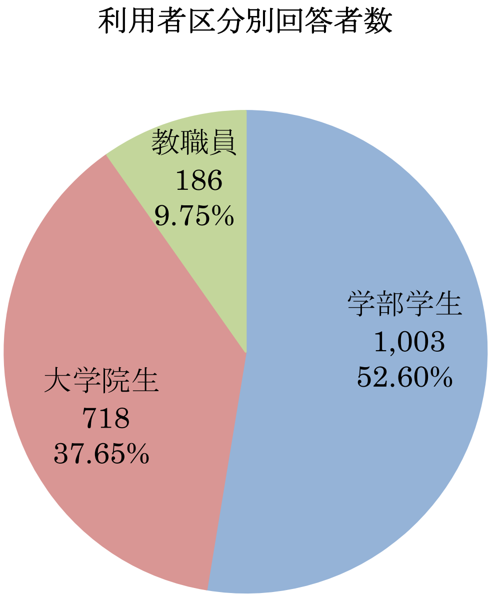
2. 回答概要

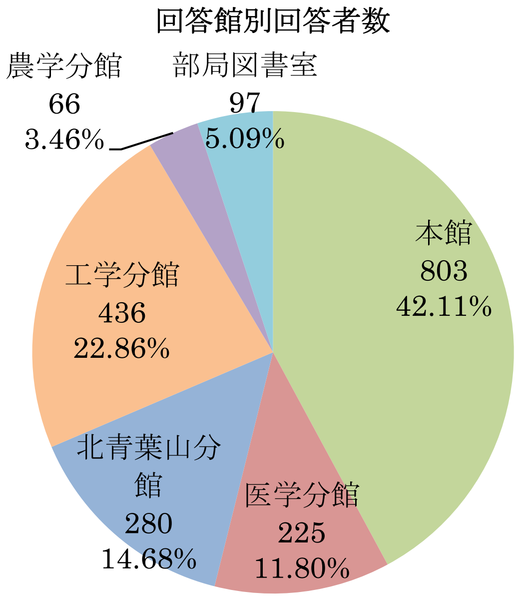
2.1 利用者区分・所属部局別回答数

所属部局	学部学生	大学院生	教職員	計
文学部・文学研究科	102	42	6	150
経済学部・経済学研究科	52	16	8	76
法学部・法学研究科	45	17	7	69
教育学部・教育学研究科	22	13	1	36
教育情報学教育部・研究部	－	4	－	4
国際文化研究科	－	10	－	10
医学部・医学系研究科	102	85	7	194
歯学部・歯学研究科	25	13	5	43
理学部・理学研究科	159	133	17	309
薬学部・薬学研究科	41	31	9	81
生命科学研究科	1	48	9	58
工学部・工学研究科	372	214	16	602
情報科学研究科	5	24	1	30
環境科学研究科	3	21	4	28
医工学研究科	1	14	－	15
農学部・農学研究科	69	32	－	101
病院	1	－	13	14
附置研究所，学内共同教育研究施設等	1	1	48	50
その他の研究施設・組織・機構等（本部事務機構，技術部ほか）	2	－	35	37
計	1,003	718	186	1,907

2.2 利用者区分・回答館別回答数

回答館	学部学生	大学院生	教職員	計
本館	579	158	66	803
医学分館	96	100	29	225
北青葉山分館	91	158	31	280
工学分館	194	221	21	436
農学分館	33	32	1	66
部局図書室	10	49	38	97
計	1,003	718	186	1,907





2.3　回答館別，利用者区分別利用頻度

回答館	頻度	ほぼ毎日	週に1～2回	月に1～2回	年に数回	ほとんど利用しない	計
本館	学部学生	113	283	148	31	4	579
	大学院生	23	63	48	17	7	158
	教職員	6	16	21	17	6	66
	計	**142**	**362**	**217**	**65**	**17**	**803**
医学分館	学部学生	25	41	24	6	-	96
	大学院生	5	29	34	24	8	100
	教職員	3	5	12	7	2	29
	計	**33**	**75**	**70**	**37**	**10**	**225**
北青葉山分館	学部学生	9	38	31	10	3	91
	大学院生	7	30	75	37	9	158
	教職員	2	4	12	11	2	31
	計	**18**	**72**	**118**	**58**	**14**	**280**
工学分館	学部学生	13	77	90	13	1	194
	大学院生	5	42	119	50	5	221
	教職員	1	1	12	7	-	21
	計	**19**	**120**	**221**	**70**	**6**	**436**

農学分館	学部学生	5	11	16	1	-	33
	大学院生	-	11	15	6	-	32
	教職員	-	-	-	-	1	1
	計	**5**	**22**	**31**	**7**	**1**	**66**
部局図書室	学部学生	2	4	2	1	1	10
	大学院生	3	3	30	12	1	49
	教職員	1	6	18	8	5	38
	計	**6**	**13**	**50**	**21**	**7**	**97**
合計		**223**	**664**	**707**	**258**	**55**	**1,907**

3. アンケートの結果

3.0　集計及び分析方法

3.0.1　データの集計と分析

Web による回答を CSV 形式でダウンロードし，Excel を用いて集計を行い，①現状に対する評価（実態評価），②期待度，③ギャップ（期待度と現状に対する評価の差）について，統計分析を行った。

3.0.2　レーダーチャートの作成

本館，4 分館について，利用者区分別に現状に対する評価と期待度の平均値をレーダーチャートにプロットした。外側ほど値が高く（最高 7），内側ほど値が低く（最低 1）なっている。2 つの平均値の差がギャップとなる。附置研究所の図書室や学部図書室などは，総数が少ないため，利用者区分別ではなく全利用者区分でのレーダーチャートを作成した。

3.0.3　分析と評価

レーダーチャートによる分析，及び，実態評価と期待度を 3 段階で表にまとめたマトリックス分析を行い，各分析結果を次節に示した。また，自由記述に見られた主な意見を館別にまとめて示した。

3.1　全体概要

◆期待値の観点から

- 全体として、施設・設備については「静かに学習・研究ができて、照明・空調など快適で居心地がよい場所であること」への期待が大きく、「開館日・開館時間や座席数が適切であること」を求めている。
- また、資料・情報に関しては「学習・研究に十分な図書や雑誌があること」とともに、「必要な資料を自力で見つけられて、資料の配置が分かり易いこと」も求めている。
- 一方で職員・サービスに関しては「カウンターサービスがスムーズであり、職員の対応が丁寧・親切であること」を期待しており、「貸出期間・冊数が十分である」ことも求めている。
- 本館に対する期待値が高い傾向にある。

◆ギャップ（期待値と実態評価の差）の観点から

- 期待値と実態評価のギャップの約半数は-0.5 以内に収まっている。
- ギャップが-1 近くのものが 5%程度ある。
- 全体として、照明・空調などの施設・設備に関するギャップが大きい。その中では本館でのギャップが比較的小さく、4 分館でのギャップが大きい。
- 照明・空調の評価と密接に関係すると思われるが、快適さと居心地のよさに関しても、分館でのギャップが全体的に大きい。
- 座席数に関しては、本館でのギャップが大きく、分館でのそれは小さい。

- 学習・研究に十分な図書および雑誌に関しては、本館・分館ともに特に大学院生におけるギャップが大きく、学部生についても実態評価が低い分館がある。
- また、学外からの電子ジャーナルなどの利用についても、大学院生からの実態評価が低い。
- 学部生・院生の方が、教職員に比べて実態評価が厳しい。

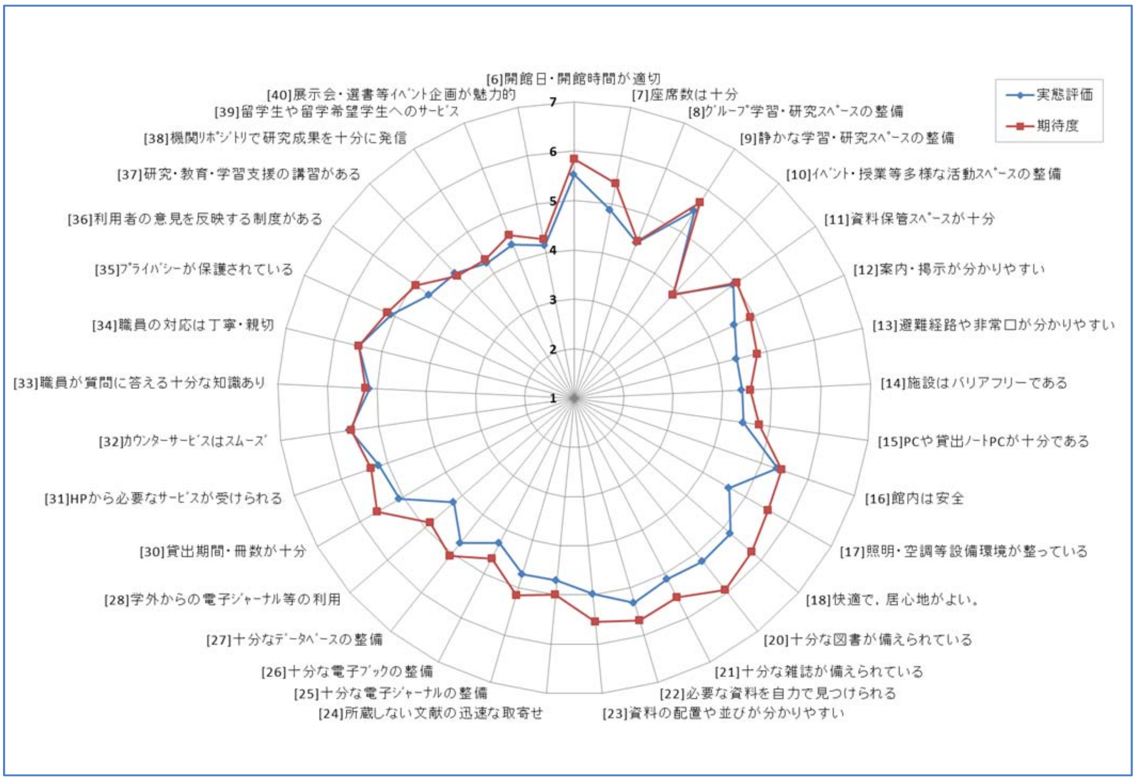
◆実態値の観点から

- 全体として期待値は低めではあるが、施設・設備ではグループで学習・研究できるスペースやイベントなどで利用できるスペースの実態評価が高い図書館がある。同様にサービス面でも、講習会やイベント・展示会などアクティブな学び活動に関す

る実態評価が高い図書館がある。

- またカウンターサービスや職員の対応など、職員に関しては全体的に期待値も実態評価も高くなっている。

3.1.1　【全館／全身分】



◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(5.84)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.75)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.71)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.53)

・[16]館内は安全である(5.44)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.93)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.69)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい(5.55)

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である(5.61)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.56)

・[34]職員の対応丁寧・親切である(5.49)

〇期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(-0.9)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(-0.73)

〇実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態3.91：期待 3.89：GAP0.02)

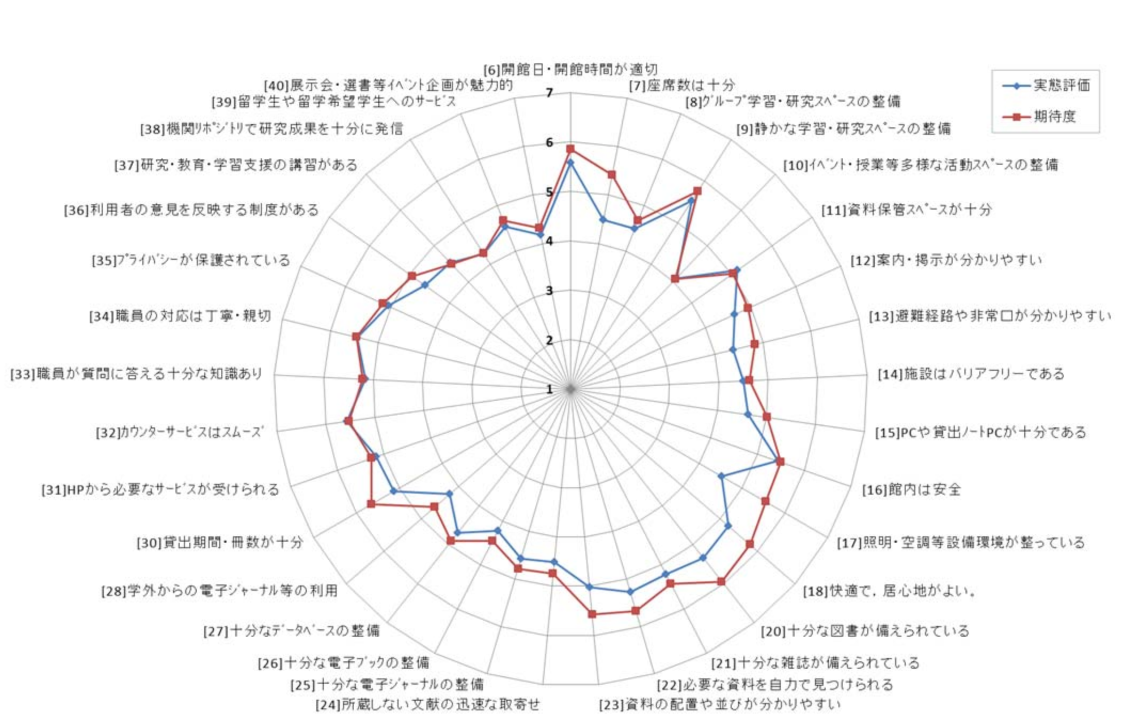
【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.49：期待 4.42：GAP0.07)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(実態 5.59：期待 5.56：GAP0.03)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(実態 5.49：期待 5.49：GAP0.00)

3.1.2　【全館／学部生】



- 全般的に、全身分平均より期待度が高い。また、全身分平均より期待度が低いのが、「十分な雑誌」「文献取寄せ」「電子ジャーナル」といった項目で、学部生の図書館利用の傾向がうかがわれる。
- 照明・空調に関しては、他の身分や全平均に比べて最もマイナスのギャップが大きく、実態評価も相当に低い。この評価は院生・教職員に比べて相当に厳しく、滞在時間の長さが影響しているものと考えられる。
- 座席数のギャップが大きいのは、本館と農学分館である。農学分館については新図書館で評価が変わる可能性があるが、本館については課題である。
- 学部生平均で最も実態評価が高かったのが開館時間で、次いでカウンターサービス。いずれも期待値とのギャップがさほどないので、相応の評価といえる。
- 最も実態評価が低かったのは、イベントなどの活動スペースで、次いで図書館主催イベント。ただし、活動スペースについては期待値よりわずかに高い。図書館主催イベントについてはギャップがそれほどではない。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(5.86)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.80)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.76)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.55)

・[16]館内は安全である(5.50)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.95)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.67)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい(5.57)

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である(5.65)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.54)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である(5.46)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(実態 4.53：期待 5.55：GAP-1.02)

・[7]座席数は十分である(実態 4.49：期待 5.41：GAP-0.92)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている(実態 5.14：期待 5.04：GAP0.1)

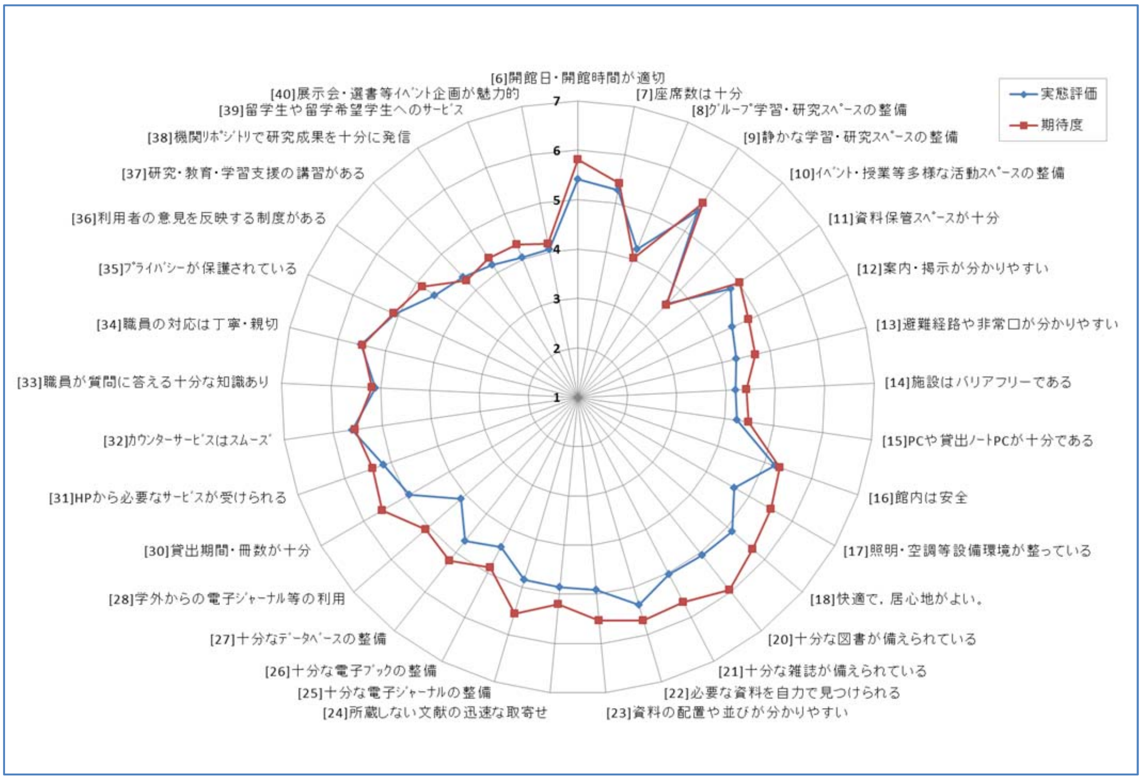
・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態 4.10：期待 4.08：GAP0.02)

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである(実態 5.57：期待 5.54：GAP0.03)

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.52：期待 4.49：GAP0.03)

3.1.3 【全館／大学院生】



• 図書館の新規サービス関係が軒並み期待値・実態評価ともに低い。グループ学習ス

ペース、多様な活動スペース、バリアフリー、PC 設備も同様に低い。

- 最も期待値が低いのは多様な活動スペース、次いでグループ学習スペースである。逆に、期待値の高い項目を見ると、図書雑誌、資料配置、電子ジャーナル、静かなスペース、開館時間となっている。大学院生の主な利用目的が、個々人の研究であることが反映されているといえる。
- 図書と電子ジャーナルに関する事項のギャップが大きい。
- 特に学外からの電子資源へのアクセスに対してのギャップが大きい。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(5.81)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.68)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.68)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.51)

・[7]座席数は十分である(5.42)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.95)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.71)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(5.66)

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である(5.57)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.56)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である(5.49)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[28]学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる(実態 4.13：期待 5.08：GAP-0.95)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(実態 5.06：期待 5.95：GAP：-0.89)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(実態 4.66：期待 5.51：GAP-0.85)

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている(実態 4.84：期待 5.57：GAP-0.73)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている（実態 4.22：期待 4.04：GAP0.18）

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態 3.62：期待 3.59：GAP0.03)

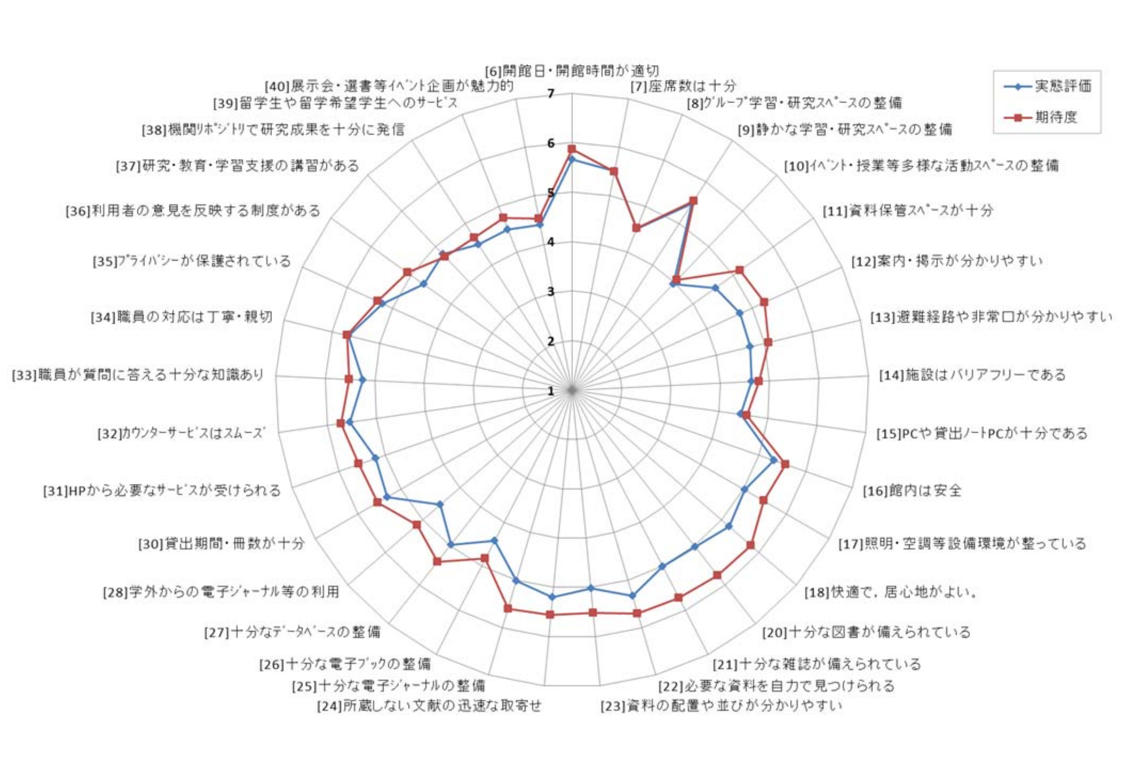
【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.36：期待 4.26：GAP0.1)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(実態 5.62：期待 5.56：GAP0.06)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.52：期待 5.49：GAP0.03）

3.1.4 【全館／教職員】



- 学部生・院生に比べて全般的に期待値が高い傾向にある。
- 大きなギャップは（プラス・マイナスともに）大学院生・学部生に比べて少ない。

- 館内の安全性に対しての期待値が高い。
- 資料に対するギャップが大きいのは大学院生と同じであるが、期待値・実態評価ともに大学院生よりも低い。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(5.87)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.79)

・[16]館内は安全である(5.57)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.55)

・[7]座席数は十分である(5.49)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.77)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(5.72)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.71)

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.73)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である(5.69)

・[31]図書館のホームページから必要なサービスが受けられる（5.57)

〇期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(実態 5.02：期待 5.77：GAP-0.75)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(実態 501：期待 5.72：GAP-0.71)

〇実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

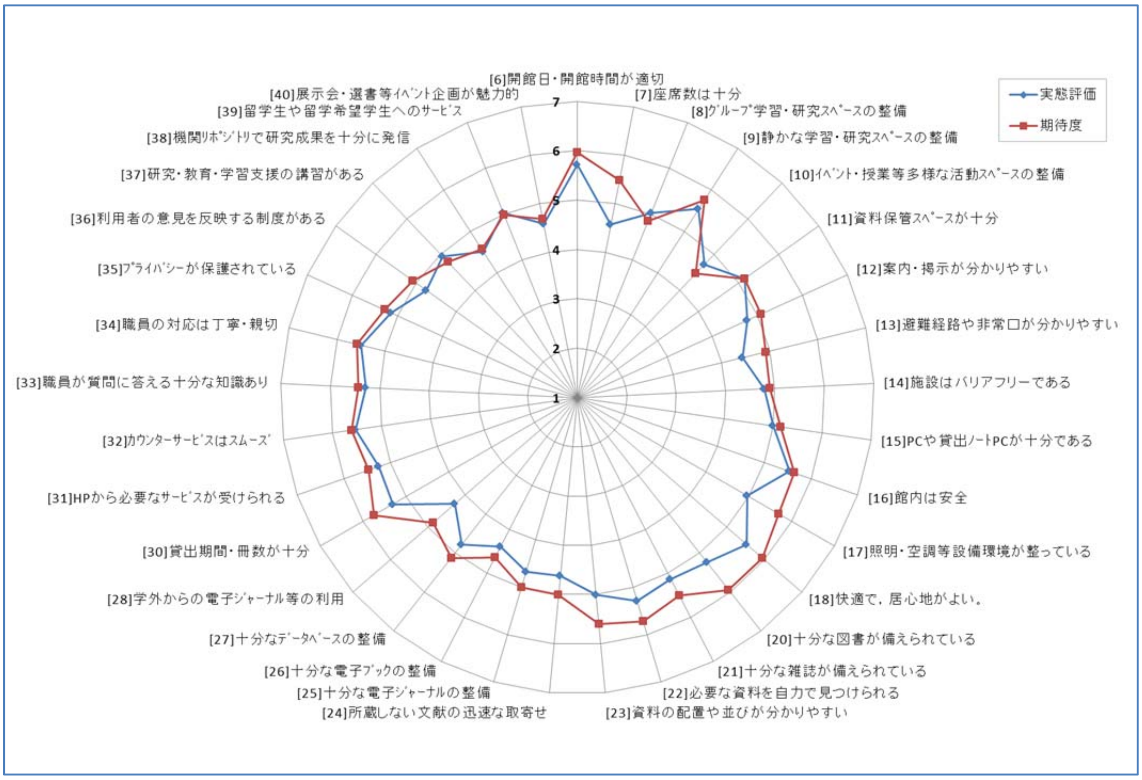
・[7]座席数は十分である(実態 5.52：期待 5.49：GAP0.03)

【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.79：期待 4.73：GAP0.06)

3.2　本館

3.2.1　【本館／全身分】



- 学内で最も大規模な図書館にも関わらず、座席数についてのギャップが最も大きい。
- 改修を行ったばかりであるが、照明・空調に関するギャップがある。
- アクティブ・ラーニング・スペースに対する期待値はあまり高くないが、実態評価は高い。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(5.97)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.95)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.76)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.70)

・[16]館内は安全である(5.64)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.95)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.71)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい(5.60)

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である(5.76)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.62)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である(5.59)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[7]座席数は十分である(実態 4.57：期待 5.48：GAP-0.91)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(実態 4.97：期待 5.53：GAP-0.73)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(実態 5.25：期待 5.95：GAP-0.7)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている（実態 5.03：期待 4.84：GAP0.19）

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態 4.72：期待 4.47：GAP0.25)

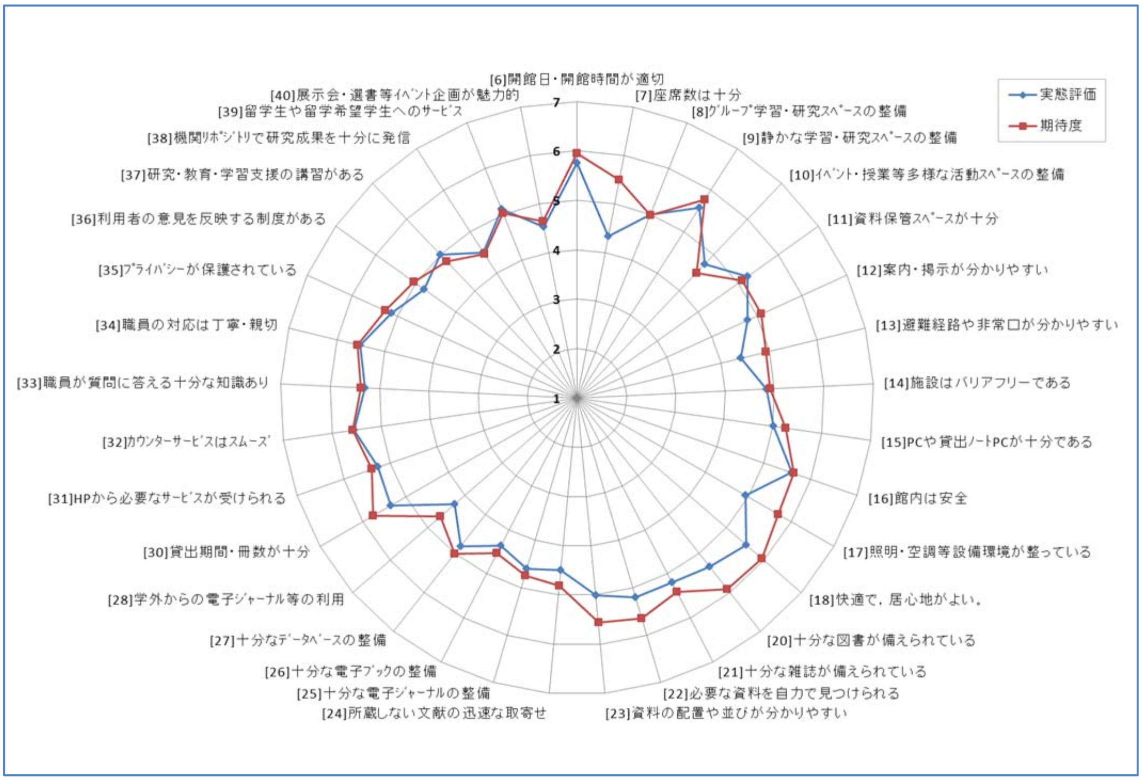
・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている（実態 5.15：期待 5.15：GAP0.00）

【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.95：期待 4.79：GAP0.16)

・[39]グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている（実態 5.03：期待 4.99：GAP0.04)

3.2.2【本館／学部生】



- 座席数に対するギャップが最も大きい。
- 大学院生、教職員に比べて期待値と実態評価が近い。
- グローバル化に関しては、他の館に比べて期待値が高く、また実態評価も高い。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい（5.95）

・[18]図書館は快適で居心地がよい（5.95）

・[9]静かに学習・研究できるスペースがある（5.78）

・[17]照明・空調などの設備が整っている（5.70）

・[16]館内は安全である（5.64）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.92）

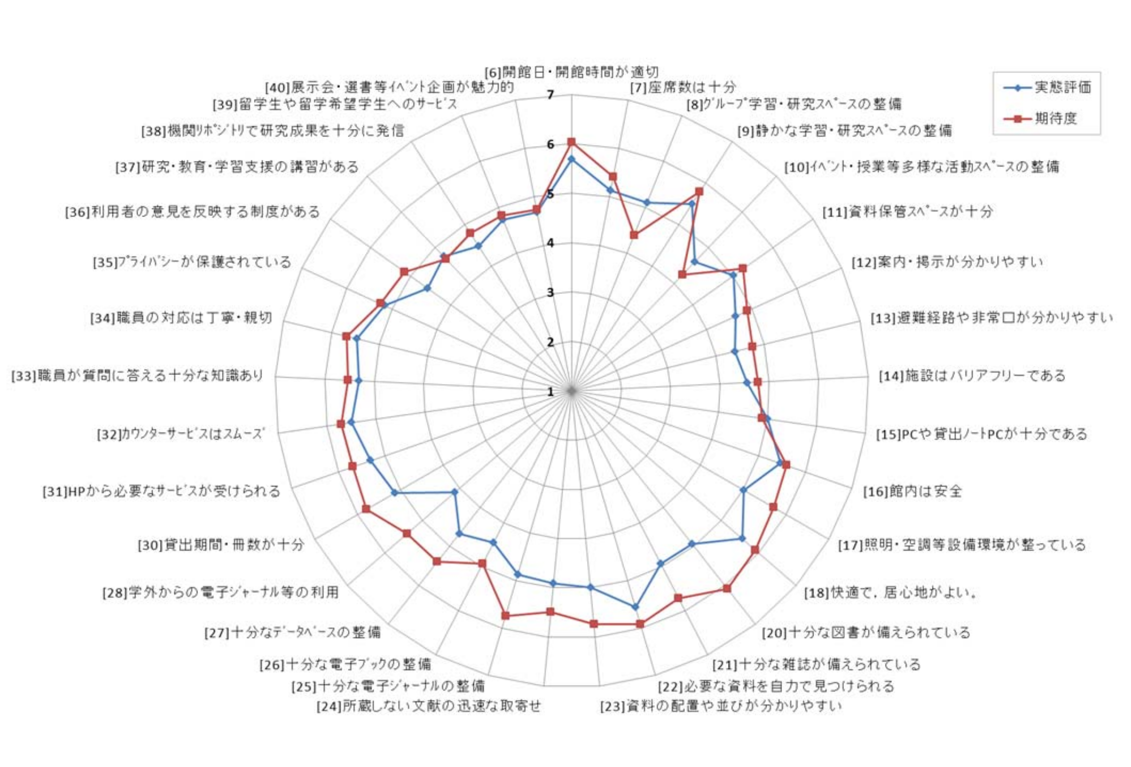
・[22]必要な資料を自力で見つけられる（5.64）

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい（5.56）
【職員・サービス】
・[30]貸出期間・冊数が十分である（5.76）
・[32]カウンターサービスはスムーズである（5.59）
・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.57）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項
【施設・設備】
・[7]座席数は十分である（期待 5.49：実態 4.33：GAP-1.16）
・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 4.95：実態 5.70：GAP-0.75）

○実態評価が期待度と同等か高い事項
【施設・設備】
・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている
（実態 4.75：期待 4.50：GAP0.25）
・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている（実態 5.29：期待 5.09：GAP0.15）
・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている（実態 5.00:期待 4.98:GAP0.02）
【職員・サービス】
・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている（実態 5.00：期待 4.83：GAP0.17）
・[39]グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている（実態 5.12：期待 5.03：GAP0.09）
・[38]図書館の機関リポジトリ（TOUR）によって、本学の研究成果を十分に発信している（実態 4.50：期待 4.47：GAP0.03）

3.2.3【本館／大学院生】



- 資料や資料の利用について期待値がほぼ 5.5 を超えており非常に高いが、実態評価は低く、ギャップも大きい。
- 開館時間・静かな環境に関しても期待値は高いが、これらに関しては比較的ギャップが小さい。
- 資料に関する項目については全体的にギャップが大きく、特に学外からの電子ジャーナルの利用についてのギャップが最大である。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(6.03)

・[18]図書館は快適で居心地がよい(5.91)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.79)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.71)

・[16]館内は安全である(5.60)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(6.09)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.92)

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている(5.75)

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である(5.80)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.71)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である(5.69)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[28]学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる(実態 4.13：期待 5.41：GAP-1.28)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(実態 4.94：期待 6.09：GAP：-1.15)

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている(実態 4.87：期待 5.75：GAP-0.88)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(実態 4.93：期待 5.72：GAP：-0.79)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい(実態 4.99：期待 5.74：GAP-0.75)

・[27]学習・研究に十分なデータベースが備えられている(実態 4.67：期待 5.40：GAP：-0.73)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(実態 5.01：期待 5.71：GAP-0.7)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている（実態 5.11：期待 4.40：GAP0.71）

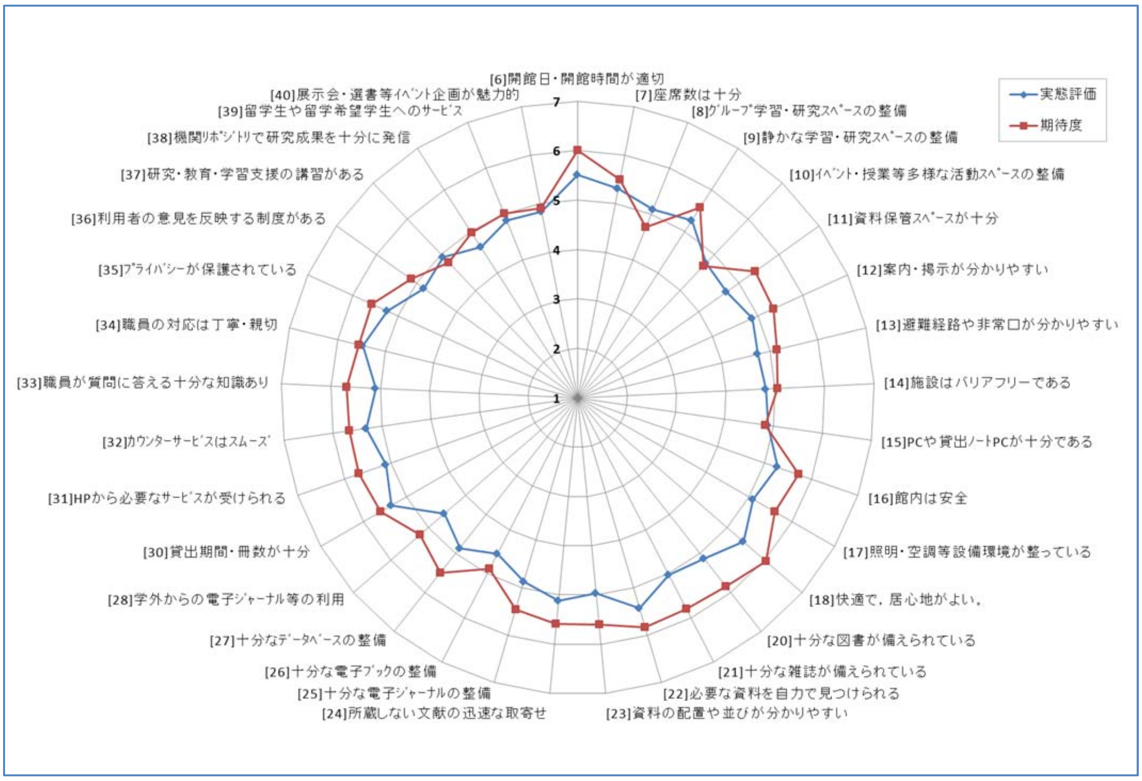
・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態 4.60：期待 4.25：GAP0.35)

・[15]必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている(実態：5.01：期待 4.89：GAP0.12)

【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.76：期待 4.68：GAP0.08)

3.2.4【本館／教職員】



- 全般的に期待値が高く、大きなギャップは学部生や大学院生に比べて少ない。
- 大学院生と同様、研究に関する資料・情報に対する期待度が高い。
- 講習会の実態評価が期待値よりも高い。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[18]図書館は快適で居心地がよい(6.05)

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい(6.00)

・[16]館内は安全である(5.73)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている(5.61)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている(5.58)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(5.85)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる(5.83)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(5.80)

【職員・サービス】

・[31]図書館のホームページから必要なサービスが受けられる（5.69）

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている(5.69)

・[32]カウンターサービスはスムーズである(5.67)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている(実態 4.70：期待 5.41：GAP-0.71)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている(実態 5.14：期待 5.85：GAP-0.71)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている(実態 5.03：期待 5.80：GAP-0.77)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている(実態 5.11：期待 4.71：GAP0.4)

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている(実態 4.76：期待 4.68：GAP0.08)

・[15]必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。(実態 4.89：期待 421：GAP0.06)

【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている(実態 4.94：期待 4.78：GAP0.16)

3.2.5 自由記述・意見まとめ（本館）

【施設・設備】

(1)住環境・施設全体

・必要な設備が整っていて、雰囲気も明るく、快適に使っている

・室温が不適当

・きれいで清潔である

・閲覧席の照明が切れていることが多い

・休憩・飲食スペースの席が足りない

・照明切れや机の汚れなど設備の不備について、どこへ言ったらよいのかわからない

(2)学習・自習スペース

・座席が足りない

・一人で学習したり、静かな環境で学習できるスペースが少ない

・グループ学習室や研究個室が使えてよい

・グループで使えるスペースをもう少し増やしてほしい

(3)パソコン・ネットワーク

・故障している PC が多い

・PC 席が足りない

・PC が汚い

・wifi ネットワークがつながりにくい

・グループ学習室で edurom がつながらない

・動作が遅い

(4)利用時間

・試験期間だけでも開館時間を長くして欲しい

・2 号館の開館時間を増やして欲しい

【資料・情報】

・EJ などの電子的資料についてよく知らない

・資料が足りない

・蔵書のバリエーション・量が豊富である

・資料が見つけにくい

・EJ などに学外からアクセスできるようにしてほしい

【職員・サービス】

・職員の対応に人によって差がある

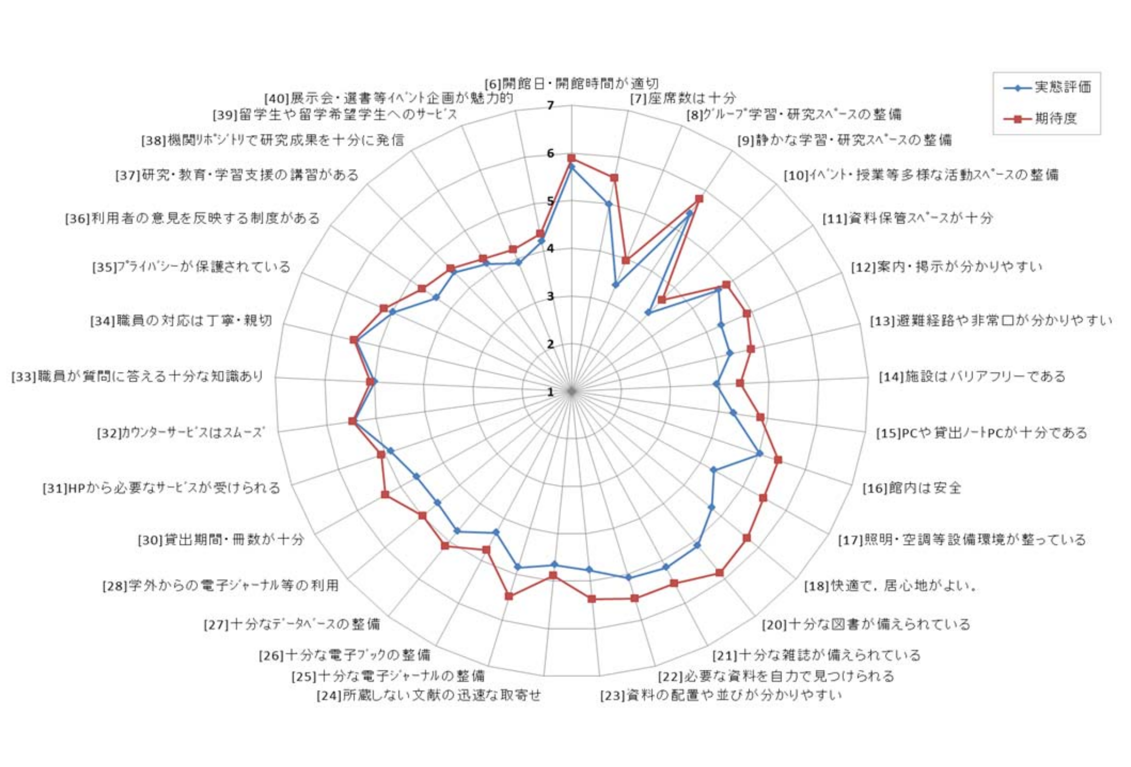
・職員の対応で不快な思いをした

・[34]職員の対応は丁寧で親切である

・遠隔地でもサービスを受けられるようにしてほしい

3.3　医学分館

3.3.1【医学分館／全身分】



・開館日・開館時間に対する評価が高い。

・カウンターサービスや職員対応、図書・雑誌の充実についても全般的に評価が高い。

・グループ学習スペースよりも静かな学習スペースに対するニーズが高い。

・照明・空調、快適な居心地に対する期待が高く実態とのギャップが大きいため、改善が必要である。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい（5.88）

・[7]座席数は十分である（5.56）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.79）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（5.70）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.86）

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.54）

・[22]必要な資料を自力で見つけられる（5.54）

【職員・サービス】

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.53）

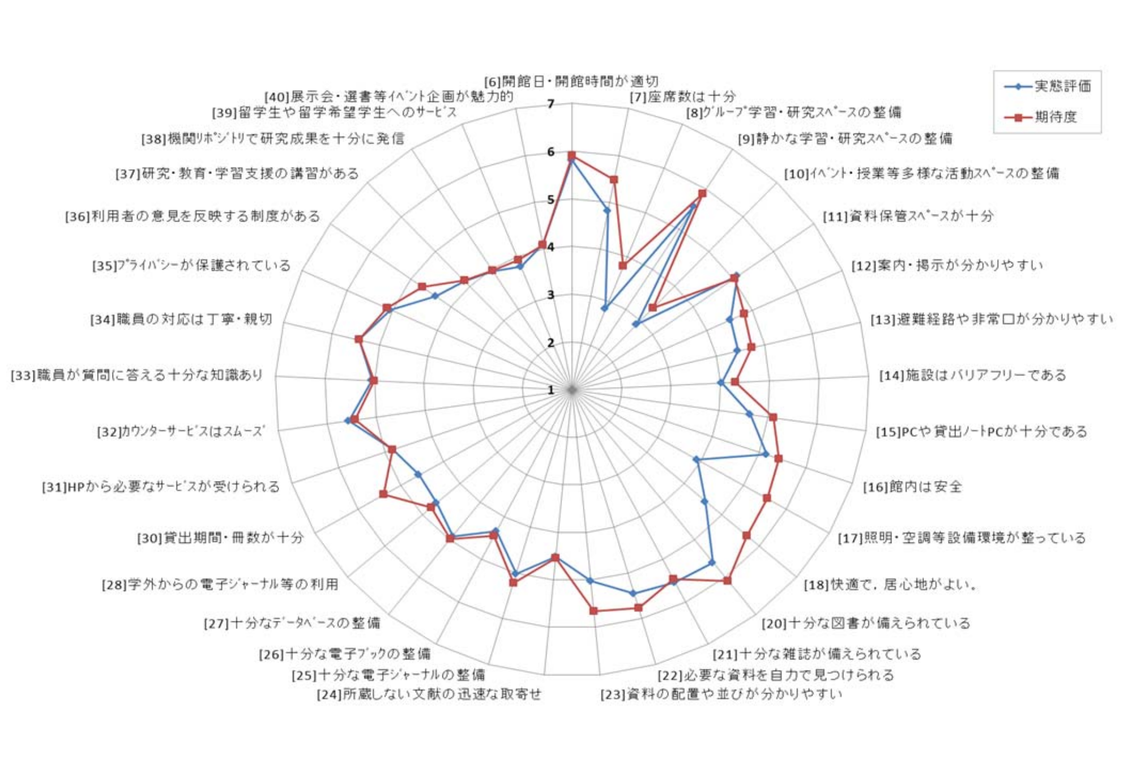
○期待と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 5.48：実態 4.32：GAP-1.16）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（期待 5.70：実態 4.75：GAP-0.95）

3.3.2【医学分館／学部生】



・カウンターサービスや図書充実、開館日・開館時間等で高い評価を得ている。

・照明・空調は期待度と実態のギャップが大きく大幅な改善が必要である。

・快適・居心地についても、期待度と実態とのギャップが大きく改善が必要である。

・カウンターサービス及び職員の対応、雑誌の充実、展示会については実態評価が期待

度を上回っている。

・グループ学習スペースについては期待度と実態がともに低いものの、ギャップが大きいため、今後のニーズが見込まれる。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい（5.91）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.89）

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（5.55）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（5.68）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（6.11）

・[22]必要な資料を自力で見つけられる（5.77）

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい（5.67）

○期待と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている（期待 3.79：実態 2.82：GAP−0.97）

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 5.55：実態 3.93：GAP-1.62）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（期待 5.68：実態 4.57：GAP−1.11）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている（実態 5.11：期待 5.03：GAP0.08）

【資料・情報】

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている（実態 5.54：期待 5.46：GAP0.08）

【職員・サービス】

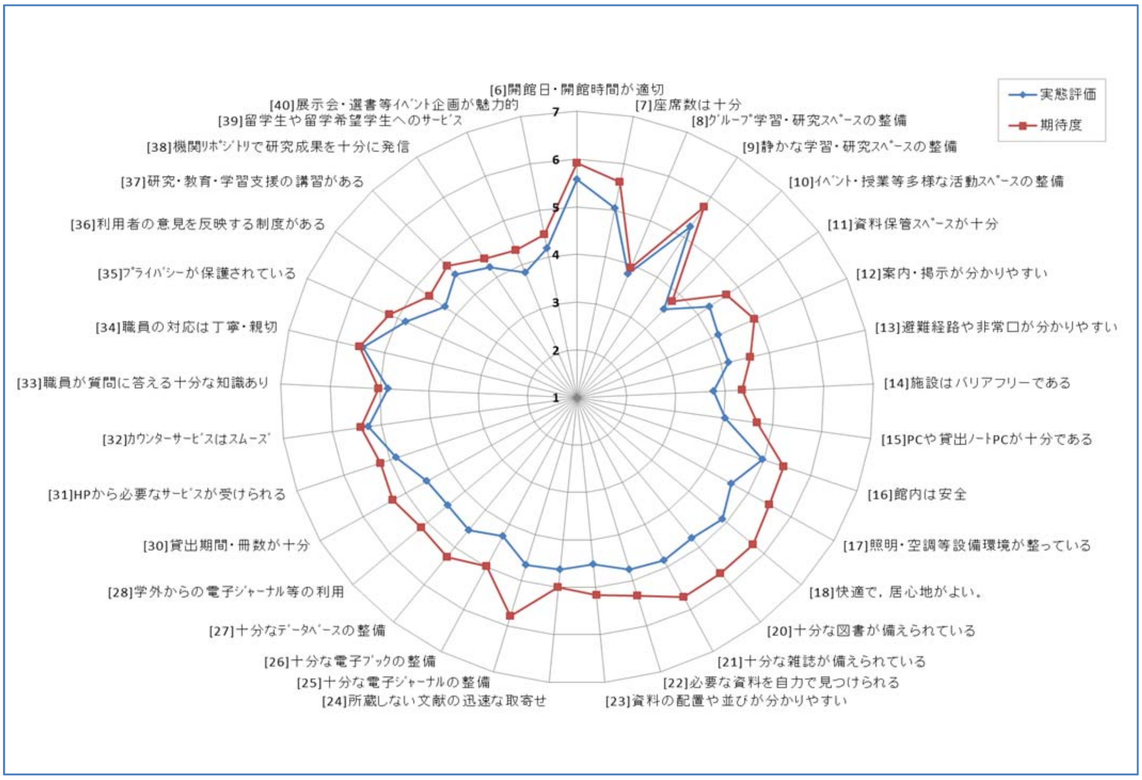
・[32]カウンターサービスはスムーズである（実態 5.56：期待 5.44：GAP0.12）

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている（実態 5.05:期待 5.01:GAP0.04）

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.44：期待 5.44：GAP0.00）

・[40]展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である（実態 4.11：期待 4.10：GAP0.01）

3.3.3【医学分館／大学院生】



・開館日・開館時間に対する評価が高い。

・図書・雑誌・電子ジャーナルの資料充実に対する期待が高く、特に電子ジャーナルについては実態とのギャップが大きく、さらなる充実が求められている。

・グループ学習スペースよりも、静かな学習スペースや快適な環境を望んでいる傾向が伺われる。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい（5.92）

・[7]座席数は十分である（5.60）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.75）

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（5.50）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（5.72）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.70）

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.71）

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている（5.78）

【職員・サービス】

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.54）

○期待と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 5.50：実態 4.61：GAP-0.89）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（期待 5.72：実態 4.89：GAP−0.83）

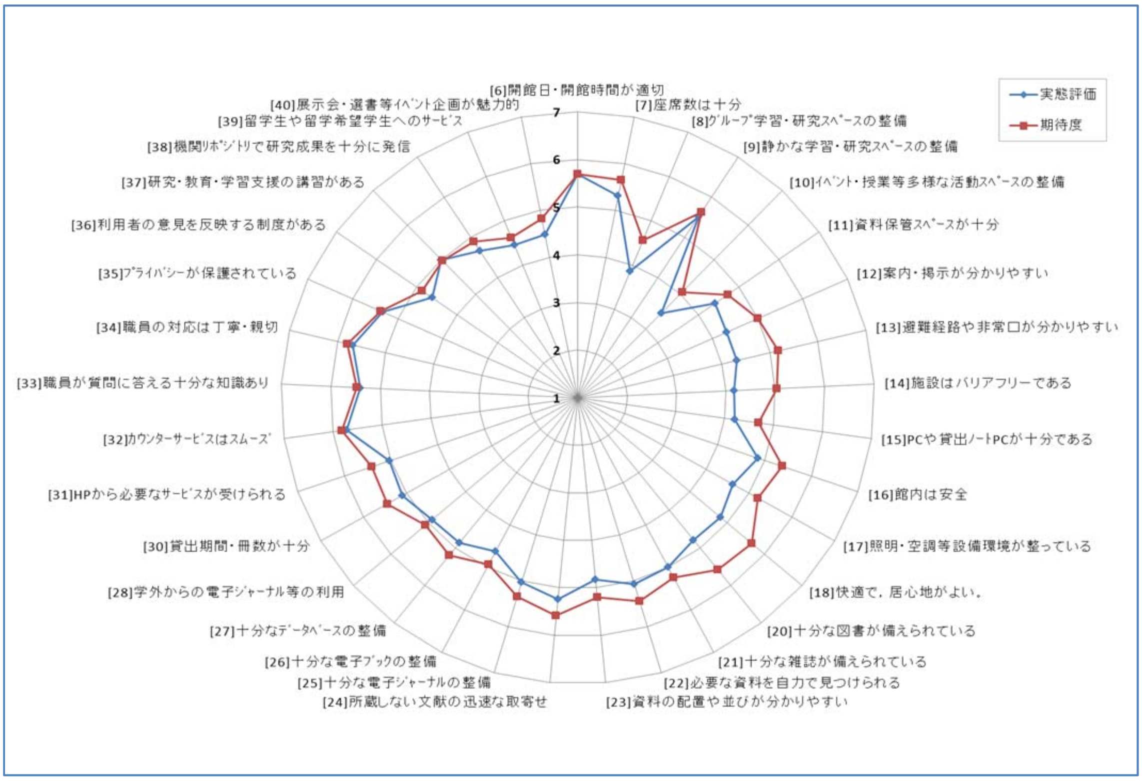
【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（期待 5.70：実態 4.76：GAP：-0.94）

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている（期待 5.71：実態 4.84：GAP-0.87）

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている（期待 5.78：実態 4.66：GAP-1.12）

3.3.4【医学分館／教職員】



・開館日・開館時間、カウンターサービス及び職員の対応、静かな学習環境において高評価を得ている。

・快適な居心地や図書の充実、文献の取寄せに対する期待が高く、この点についてさらなる充実が必要である。

・学生・院生に比べて、避難経路や施設バリアフリーに関する期待が高く、改善が必要である。

・グループ学習スペースやイベントスペースに対する期待が、学生・院生に比べて高い。

・講習会については、実態評価が期待度を上回っており、一定の評価が得られている。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で利用しやすい（5.69）

・[7]座席数は十分である（5.66）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.62）

・[18]図書館は快適で、居心地がよい（5.66）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.59）

・[24]所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる（5.59）

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである（5.83）

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.79）

○期待と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[13]災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい（期待 5.17：実態 4.31：GAP-0.86）

・[14]施設はバリアフリーである（期待 5.03：実態 4.17：GAP-0.86）

・図書館は快適で、居心地がよい（期待 5.66：実態 4.83：GAP-0.83）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（期待 5.59：実態 4.79：GAP-0.8）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（実態 5.69：期待 5.69：GAP0.00）

【職員・サービス】

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている（実態 5.00：期待 4.97：GAP0.03）

3.3.5 【医学分館：自由記述・意見まとめ】

19. 施設・設備

施設全般

- ・トイレの臭いが酷いので改善して欲しい
- ・不満なく快適に過ごしている
- ・施設の老朽化が目立つ
- ・少し入り込みすぎている

空調・照明

・エアコン・空調の不具合を改善して欲しい

・照明不具合を改善して欲しい

設備

・出口のカードリーダーは必要ないと思う

・自動貸出装置が便利である

開館時間

・開館時間を拡大して欲しい

・開館時間が十分に長くとってあるので非常に利用しやすい

飲食

・休憩・飲食スペースを設置して欲しい

・水飲み機や自動販売機を設置して欲しい

・カフェスペースを導入して欲しい

学習・研究スペース

・グループ学習席を設置して欲しい

・教員用の部屋・机が用意されているので利用しやすい

・机が大きくて使いやすい

・座席数をもう少し増やして欲しい

・国試の勉強スペースを増やすべく保管書物の処分を是非お願いしたい

・個室などを時間が空いたときには使用したい

パソコン

・画面の大きいパソコンを置いて欲しい

その他

・図書館が好きなので、長居したくなるような図書館作りをして欲しい

・古くても清潔感のある図書館になってもらえれば、もっと意欲的に使いたい

・個人の物を保管できる箱などが欲しい

29.　資料・情報

電子ジャーナル・学外アクセス

・電子ジャーナルが充実している

・学外から電子ジャーナル等にアクセスできて良い

・電子ジャーナル削減後不便なことが多いので冊子も欲しい。

・学外からアクセスできる電子ジャーナルに制限があるので利用可能なジャーナルを増やして欲しい

資料

・専門書を充実させて欲しい
・最新の教科書や参考書を揃えて欲しい
・教科書の冊数を増やして欲しい
・コメディカル、ガイドライン、医工学関係、洋書が不足している
・図鑑、小説、一般書も置いて欲しい
・リクエストによる購入を増やして欲しい
・図書が多く、最新の教科書も揃っていて利用しやすい

資料の配置・利用

・資料が見つけにくい
・検査技師向けの雑誌や図書をまとめるなどして、資料を探しやすい配置にして欲しい。
・OPAC では資料を見つけにくい。文献検索がもっと簡単にできれば良い

41. 職員・サービス

職員対応

・職員対応が良い
・アルバイトと職員の対応にギャップがある

サービス

・文献の取り寄せ（ILL）が早くて良い
・MyLibrary は非常に便利だが、もっと周知を行った方が良いと思う
・利用証が磁気不良のため自動貸出装置等が使用できないことがあり不便だ
・夏の展示会はとても良かった。今後も実施して欲しい
・学内搬送資料の貸出期間が短いのが不便
・ILL の支払いを昼休みも行って欲しい
・EndNote 等の講習会は良かった。文献検索を体系的に教えていただける講習会があると良い
・エントランスのソファーは減らさないで欲しい

その他

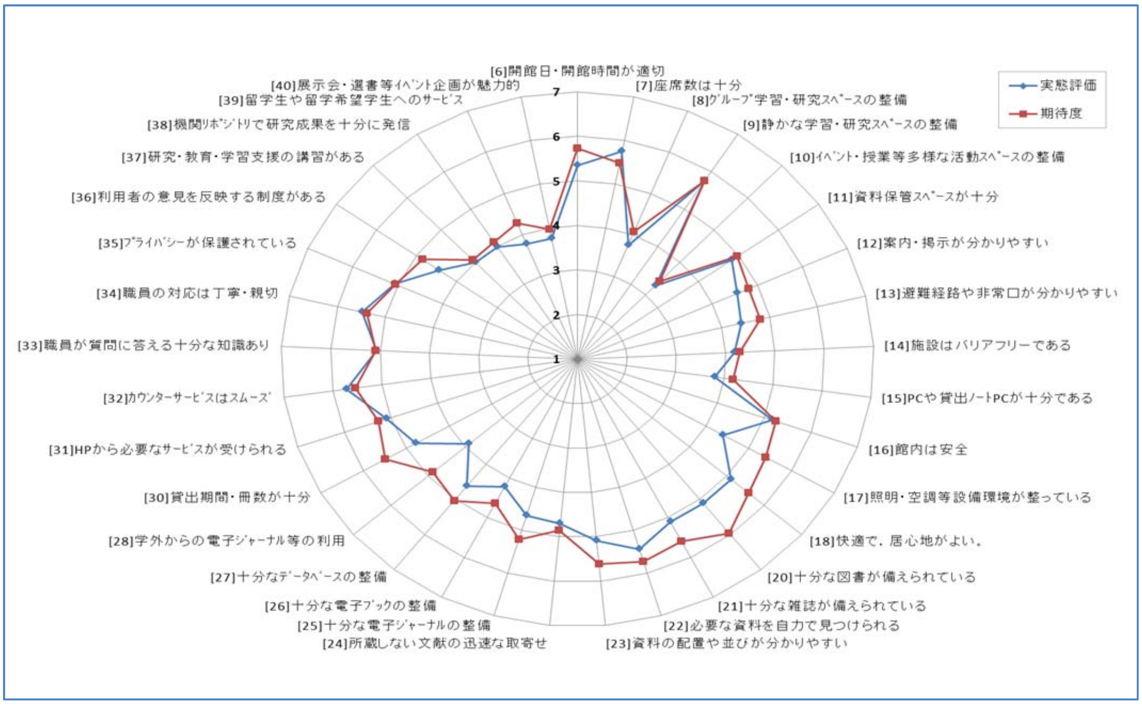
・利用しやすく良い図書館だと思う。今後も利用したい
・時間外利用が、所属に関わらずどの分館でも自由にできると良いと思う

・利用者のマナー向上（飲食禁止等）を呼びかけて欲しい

・医学分館は今年で 100 周年ということで企画展などもあり歴史ある図書館であることがわかった。これからも学生が親しみやすい図書館になっていくことを期待する

3.4　北青葉山分館

3.4.1【北青葉山分館／全身分】



・期待値が高い「照明・空調」、「十分な図書」、「貸出期間・冊数」はマイナスのギャップが大きい。検討、改善が必要である。

・期待値、実態値が 4 以下の「イベントスペース」、「展示等」は、選書イベント等を浸透させることにより数値を上昇させていきたい。

・職員が関わる項目で「ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ」、「職員の対応」、「職員の質問対応」は期待値も実態値も高く、実態値が期待値を上回っていることは評価できる。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(5.76)

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。(5.73)

・[18]図書館は快適で、居心地がよい。(5.58)

・[7]座席数は十分である。(5.48)

・[17]照明・空調などの設備が整っている。(5.40)

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(5.97)

・[20]必要な資料を自力で見つけられる。(5.73)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい。(5.62)

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(5.54)

・[30]貸出期間・冊数が十分である。(5.50)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(5.39)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(期待 5.40：実態 4.41：GAP-0.99)

・[28]学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる（期待 4.88：実態 3.91：GAP-0.97)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(期待 5.97：実態 5.12：GAP-0.85)

実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[7]座席数は十分である。(実態 5.74：期待 5.48：GAP0.26)

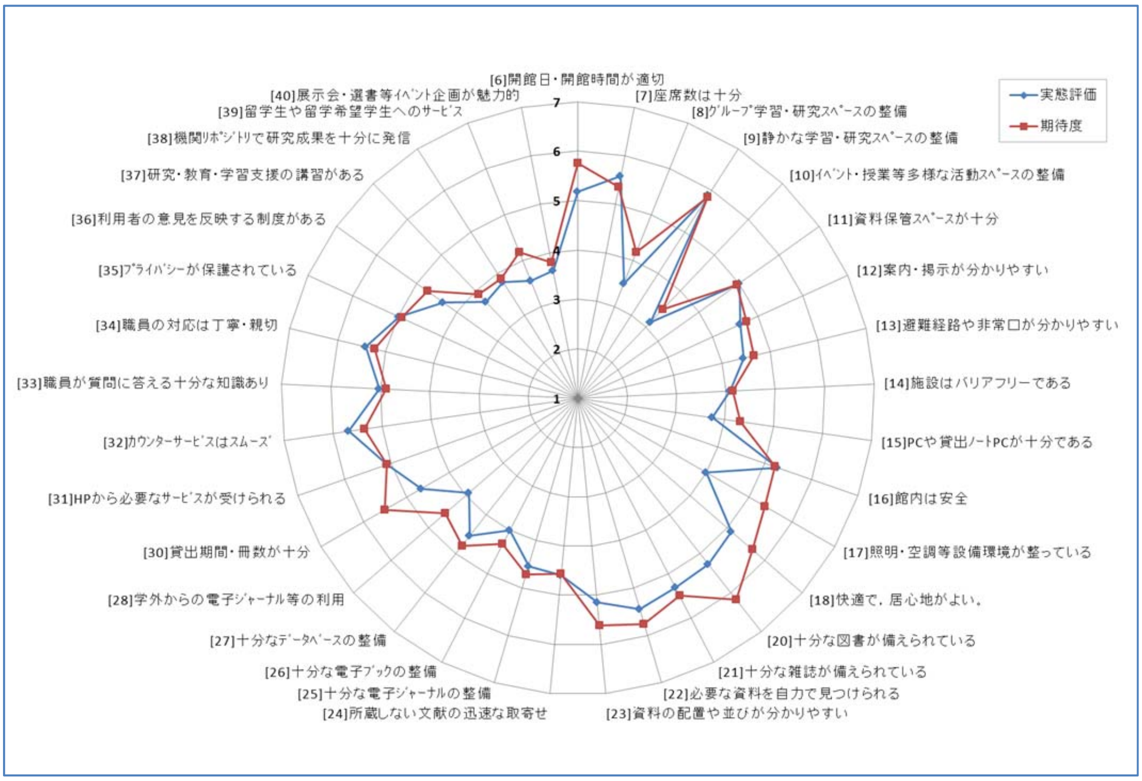
【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(実態 5.73：期待 5.54：GAP0.19)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(実態 5.48：期待 5.39：GAP0.09)

・[35]プライバシーが保護されていて安心できる。(実態 5.07：期待 5.05：GAP0.02)

3.4.2　【北青葉山分館／学部生】



・期待値の高い「十分な図書」、「貸出期間・冊数」はマイナスのギャップが大きい。早急な分析、対応が必要である。

・「静かに学習」、「座席数」をはじめ、学習の場としての環境に関する項目は期待値、実態値ともに高くなっている。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.85）

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい（5.76）

・[18]図書館は快適で，居心地がよい（5.67）

・[17]照明・空調などの設備が整っている（5.37）

・[7]座席数は十分である（5.35）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（6.18）

・[22]必要な資料を自力で見つけられる（5.76）

・[23]館内の資料の配置が分かり易い（5.62）

【職員・サービス】

・[30]貸出期間・冊数が十分である（5.52）

・[32]カウンターサービスはスムーズである（5.36）

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。（5.23）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 5.37：実態 4.00：GAP-1.37）

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。（期待 6.18：実態 5.26：GAP-0.92）

・[30]貸出期間・冊数が十分である（期待 5.52：実態 4.66：GAP-0.86）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[7]座席数は十分である（実態 5.58：期待 5.35：GAP0.23）

・[16]館内は安全である（実態 5.29：期待 5.22：GAP0.07）

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている（実態 5.01：期待 4.96：GAP0.05）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（実態 5.89：期待 5.85：GAP0.04）

【資料・情報】

・[24]所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる(実態 4.59:期待 4.56:GAP0.03)

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである（実態 5.68：期待 5.36：GAP0.32）

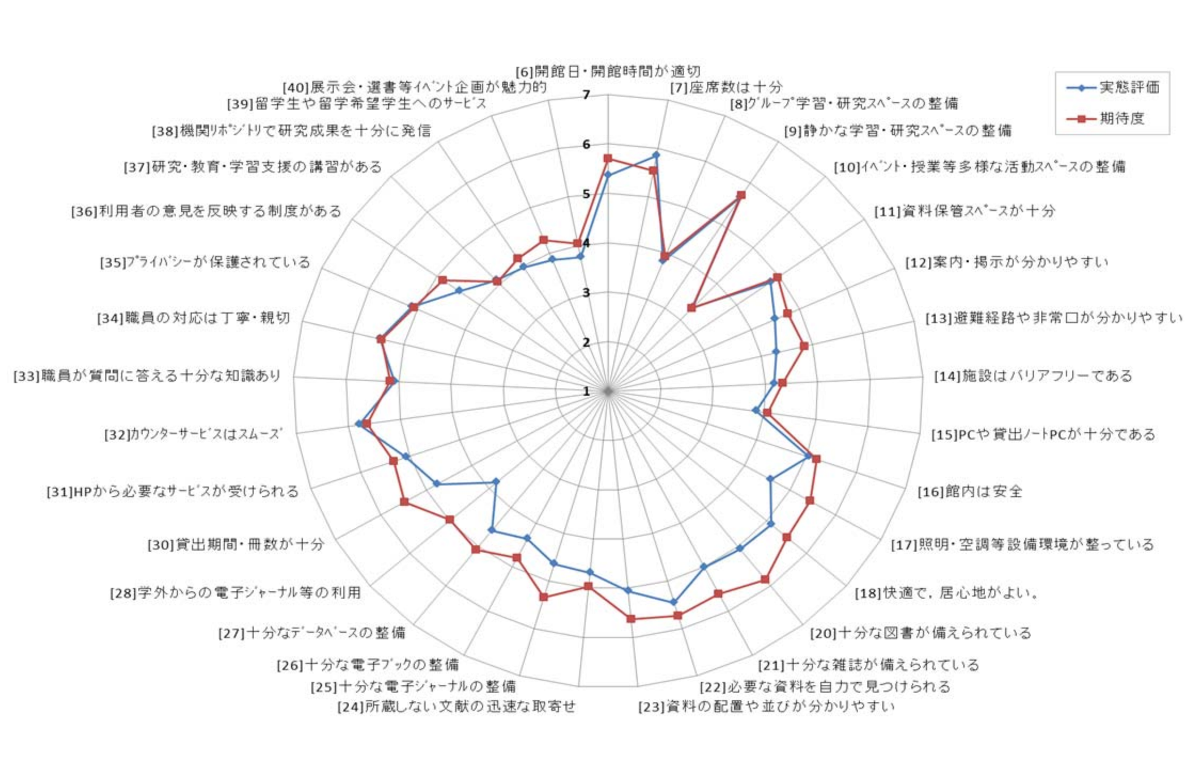
・[34]職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.42：期待 5.23：GAP0.19）

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている（実態 5.02：期待 4.88：GAP0.14）

・[35]プライバシーが保護されていて安心できる（実態 4.98：期待 4.92：GAP0.06）

・[31]図書館のホームページから必要なサービスが受けられる（実態 5.09：期待 5.09：GAP0.00）

3.4.3【北青葉山分館／大学院生】



・期待値の高い「十分な図書」はマイナスのギャップが大きい。早急な分析、対策が必要である。

・「学外アクセス」はマイナスのギャップが大きい。大学院生は電子ジャーナルの使用が学部学生より多くなるとみられ、アクセス環境の検討が必要である。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.71）

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい（5.70）

・[7]座席数は十分である（5.54）

・[18]図書館は快適で，居心地がよい（5.52）

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（5.44）

【資料・情報】

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.85）

・[22]必要な資料を自力で見つけられる（5.73）

・[23]館内の資料の配置が分かり易い（5.63）

【職員・サービス】

・[32]カウンターサービスはスムーズである（5.65）

・[30]貸出期間・冊数が十分である（5.48）

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.45）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[28]学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる（期待 4.98：実態 3.83：GAP-1.15）

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 5.44：実態 4.57：GAP-0.87）

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。（期待 5.85：実態 5.06：GAP-0.79）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[7]座席数は十分である（実態 5.85：期待 5.54：GAP0.31）

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている（実態 3.33：期待 3.31：GAP0.02）

【職員・サービス】

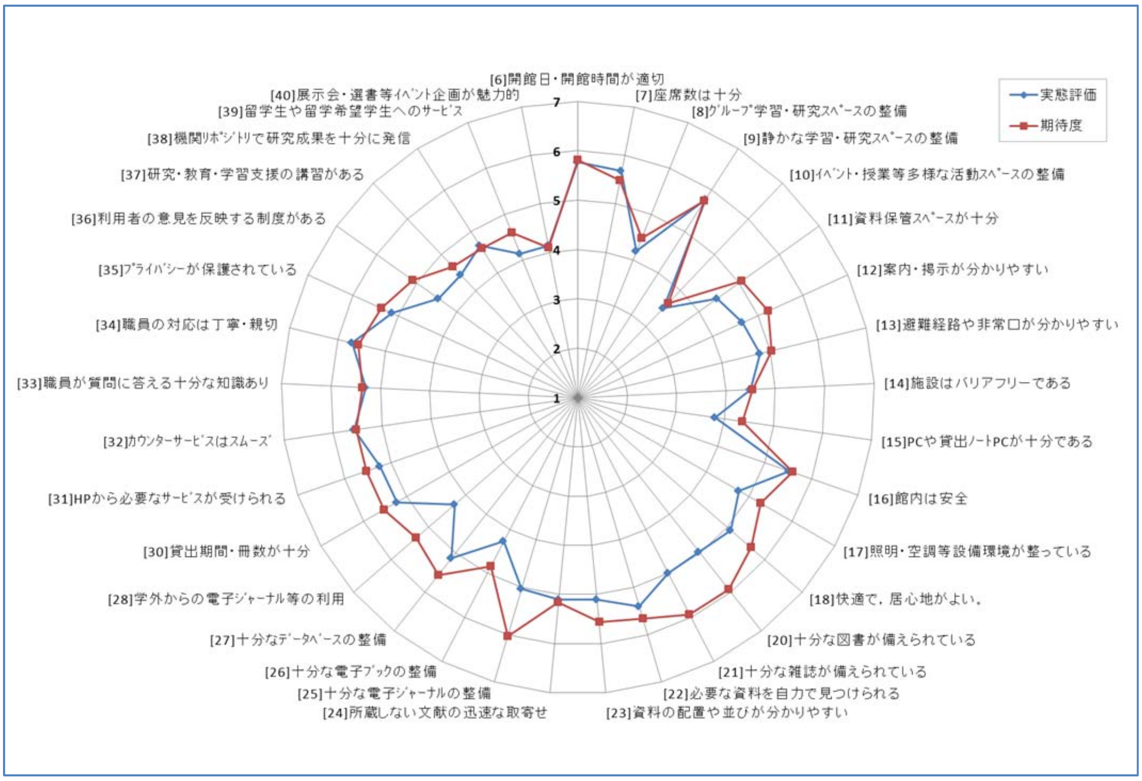
・[32]カウンターサービスはスムーズである（実態 5.79：期待 5.65：GAP0.14）

・[35]プライバシーが保護されていて安心できる（実態 5.11：期待 5.06：GAP0.05）

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている（実態 4.10:期待 4.06:GAP0.04）

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.48：期待 5.45：GAP0.03）

3.4.4【北青葉山分館／教職員】



・「電子ジャーナル」の期待値が高く、マイナスのギャップが大きい。「学外アクセス」とも関連し、需要が多いので、対策が必要である。

・「十分な図書」、「十分な雑誌」のマイナスのギャップが大きい。資料に対する検討、対策が必要である。

・職員の対応や学習の場としての環境について高評価を得ている。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[6]開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（5.81）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.74）

・[18]図書館は快適で，居心地がよい（5.63）

・[16]館内は安全である（5.60）

・[7]座席数は十分である（5.48）

【資料・情報】

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている（6.03）

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている（5.93）

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.93）

【職員・サービス】

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（5.57）

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている（5.37）

・[35]プライバシーが保護されていて安心できる（5.37）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【資料・情報】

・[28]学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる（期待 5.33：実態 4.30：GAP-1.03）

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている（期待 6.03:実態 5.03:GAP-1.00）

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。（期待 5.93：実態 4.97：GAP-0.96）

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている。（期待 5.93：実態 5.00：GAP-0.93）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[7]座席数は十分である（実態 5.68：期待 5.48：GAP0.20）

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている　（実態 5.77：期待 5.74：GAP0.03）

【職員・サービス】

・[34]職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.70：期待 5.57：GAP0.13）

・[38]図書館の機関リポジトリ（TOUR)によって、本学の研究成果を十分に発信している（実態 4.67：期待 4.60：GAP0.07）

・[32]カウンターサービスはスムーズである（実態 5.57：期待 5.53：GAP0.04）

・[40]展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である（実態 4.13：期待 4.10：GAP0.03）

3.4.5 【北青葉山分館：自由記述・意見まとめ】

19.　施設・設備

エアコン・室温・住環境

・空調が弱い

・冷暖房の温度が適切ではない

・夜間・休日も空調を入れてほしい

学習・自習スペース

・グループで使えるスペースがほしい

・施設を新しくしてほしい

パソコン・ネットワーク

・PC 席がほしい

・PC コーナーのキーボードがうるさい

利用時間

・閉館時の利用時間をもうすこし長くしてほしい

・以前のように 24 時間利用可にしてほしい

休憩・飲食スペース

・ソファーのすわりごこちがいい

照明

・閲覧席の照明が切れていることが多い

・全体の照明が暗い

・電気スタンドの電源が入りづらい

好感触

・快適に使っている

・対応が早くて助かる

その他

・職員の私語

・館内をきれいにしてほしい

・騒いでいる人に注意してほしい

29. 資料・情報

・資料が足りない

・資料が見つけにくい

・EJ などに学外からアクセスできるようにしてほしい

41. 職員・サービス

・貸出期間が短い

・職員の対応が丁寧で親切である

・留学生用の資料がほしい

42. その他

・冷暖房・空調を改善してほしい

・夏照明を明るく、デスクライトの点検要望

・休憩場所の要望

・就活の資料がほしい

・教科書を新版でもっとおいてほしい

・同じ雑誌は一つの分館でまとめてほしい

・文庫本も見たい

・北青葉山地区の学生も土日休日は24時まで利用を認めてほしい

・他キャンパス学生の時間外利用を認めてほしい

・夜間の閉館時間が早い

・予約本で待たされる。連絡がほしい

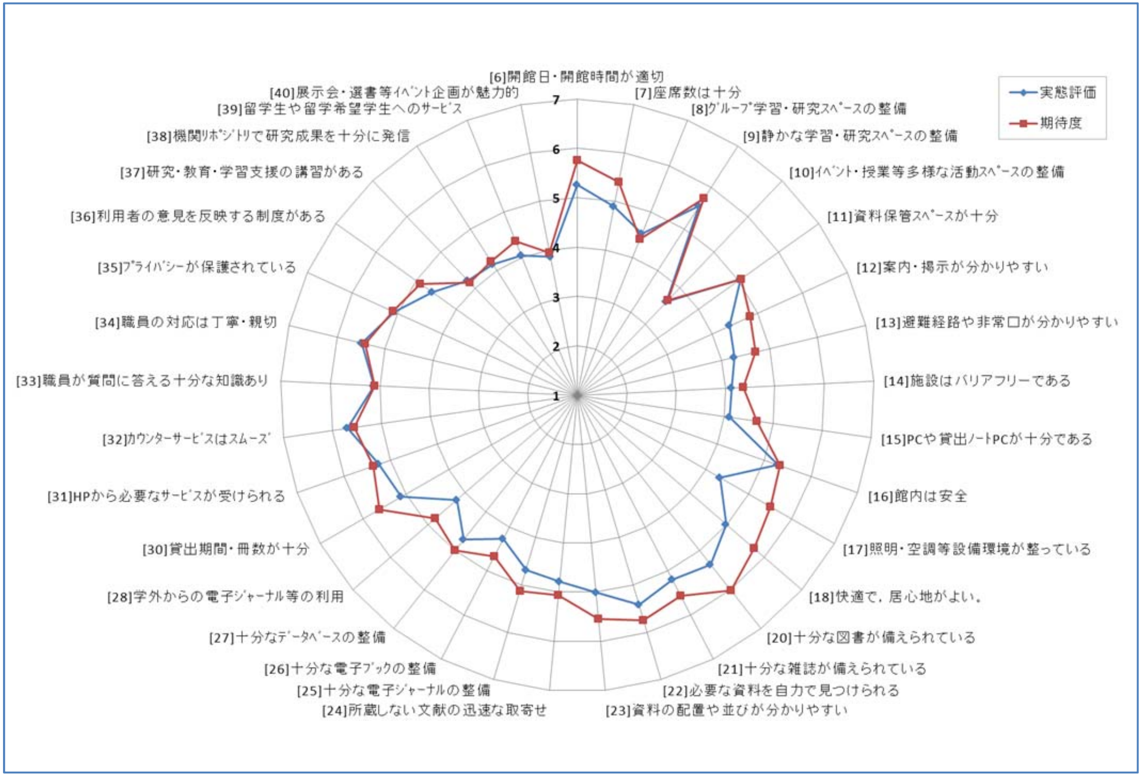
・スタッフの対応が良い

・清掃を丁寧にお願いしたい

・研究室に配属されていない学生が学べる貴重な場。必要性が失われるわけではないことを広く認識されてほしい。

3.5　工学分館

3.5.1 【工学分館／全身分】



・開館時間が長く，静かに学習・研究ができ，十分な資料が揃っている図書館であるよう期待されている。

・空調はここ数年で機器更新を行っているが，温度設定と場所による効き方に差があるのか，または，土日・夜間等の時間外開館時に部分的に運転している運用によるものか，期待度と実態のギャップが大きい。

・職員サービスの対応は概ね良い評価になっている。

・展示（イベント）や講習会の開催が少ないためか，利用者の期待値も低い。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】　4 項目

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。(5.76)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(5.74)

・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(5.73)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(5.52)

【資料・情報】　4 項目

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(6.03)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる。(5.75)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている。(5.57)

・館内の資料の配置や並びが分かりやすい。(5.55)

【職員・サービス】　2 項目

・[30]貸出期間・冊数が十分である。(5.62)

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(5.56)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】　2 項目

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(実態 4.33：期待 5.52　GAP -1.19)

・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(実態 4.99：期待 5.73 GAP -0.74)

【資料・情報】　0 項目

【職員・サービス】　0 項目

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】　4 項目

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている。(実態 4.52:期待 4.40　GAP 0.12)

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。(実態 5.06:期待 5.06　GAP 0.00)

・[16]館内は安全である。(実態 5.30：期待 5.33　GAP -0.03)

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。(実態 3.62：期待 3.65 GAP -0.03)

【資料・情報】　0 項目

【職員・サービス】　7 項目

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(実態 5.90：期待 5.56 GAP 0.14)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(実態 5.49：期待 5.41 GAP 0.08)

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。(実態 4.21：期待 4.15 GAP 0.06)

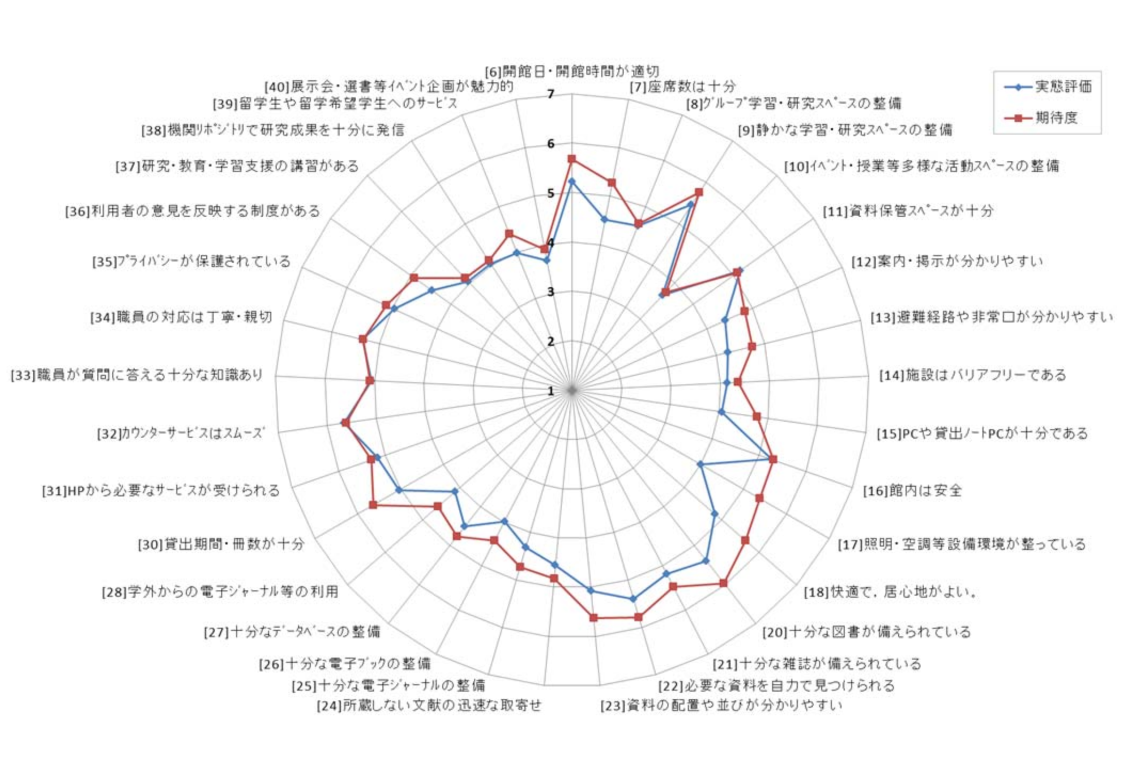
・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。(実態 511.：期待 5.11 GAP 0.00)

・[35]プライバシーが保護されていて安心できる。(実態 5.06：期待 5.10 GAP -0.04)

・[38]図書館の機関リポジトリ(TOUR)によって，本学の研究成果を十分に発信している。(実態 4.15：期待 4.22 GAP -0.07)

・[40]展示会や選書イベントなど，図書館の企画は魅力的である。(実態 3.86：期待 3.95 GAP -0.09)

3.5.2【工学分館／学部生】



・図書館を利用して勉強をする機会が多いのか，座席数や空調，パソコンの台数等で期待度と実態評価のギャップが，他の身分に比べて大きい。座席数は 4 人掛けの閲覧席が多いため，席数よりも足りないと感じられるのかもしれない。

・学部学生に浸透していないのか，電子的資料への期待が低い。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】　3 項目

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(5.75)

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。(5.68)

・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(5.65)

【資料・情報】　3 項目

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(5.97)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる。(5.79)

・[23]館内の資料の配置や並びが分かりやすい。(5.63)

【職員・サービス】　2 項目

・[30]貸出期間・冊数が十分である。(5.64)

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(5.61)

〇期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】　4 項目

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(実態 4.00：期待 5.38　GAP -1.38)

・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(実態 4.82：期待 5.65 GAP -0.83)

・[7]座席数は十分である。(実態 4.51：期待 5.27 GAP -0.76)

・[15]必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。(実態 4.06：期待 4.78 GAP -0.72)

【資料・情報】　0 項目

【職員・サービス】　0 項目

〇実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】　4 項目

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。(実態 5.17:期待 5.10　GAP 0.07)

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている。(実態 4.58:期待 4.62　GAP -0.04)

・[16]館内は安全である。(実態 5.26：期待 5.31　GAP -0.05)

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。(実態 3.66：期待 3.74 GAP -0.08)

【資料・情報】　0 項目

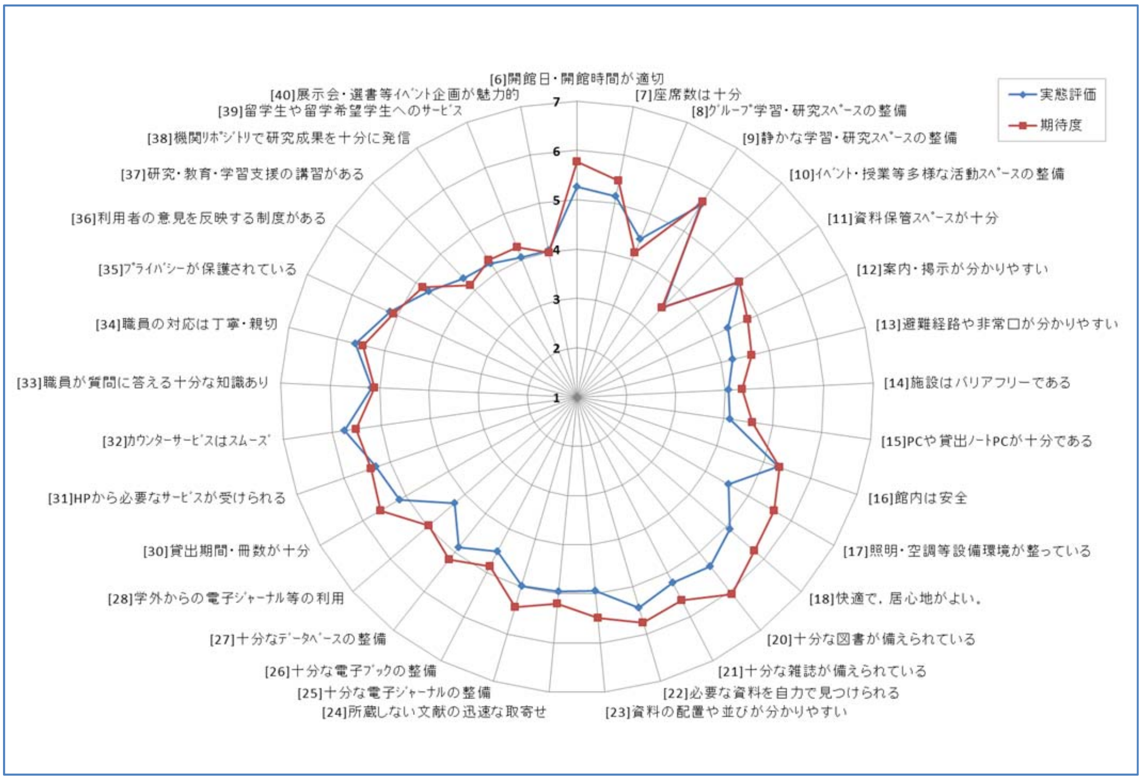
【職員・サービス】　3 項目

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(実態 5.66：期待 5.51 GAP 0.05)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(実態 5.36：期待 5.35 GAP 0.01)

・[38]図書館の機関リポジトリ(TOUR)によって，本学の研究成果を十分に発信している。(実態 4.04：期待 4.11 GAP -0.07)

3.5.3【工学分館／大学院生】



・資料に対する期待値が高く，実態評価も低くないが，ギャップが大きい。より高度な専門性の強い図書を網羅していないことが原因とも考えられる。

・工学系の大学院生が多いが，電子ジャーナルへの期待値が全館の値よりも低い。

・他身分に比べて職員・サービスの項目ではギャップが小さい。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】　4 項目

・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。(5.78)

・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(5.76)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(5.71)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(5.60)

【資料・情報】　3 項目

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(6.07)

・[22]必要な資料を自力で見つけられる。(5.76)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている。(5.62)

【職員・サービス】　2 項目

・[30]貸出期間・冊数が十分である。(5.59)

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(5.52)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】　1 項目

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(実態 4.53：期待 5.60 GAP -1.07)

【資料・情報】　1 項目

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(実態 5.35：期待 6.07 GAP -0.72)

【職員・サービス】　0 項目

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】　5 項目

・[8]グループで学習・研究できるスペースが整っている。(実態 4.44:期待 4.15　GAP 0.29)

・[10]イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。(実態 3.53：期待 3.50 GAP 0.03)

・[11]資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。(実態 5.02:期待 5.03　GAP -0.01)

・[16]館内は安全である。(実態 5.30：期待 5.33　GAP -0.03)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(実態 5.63：期待 5.71　GAP -0.08)

【資料・情報】　0 項目

【職員・サービス】　7 項目

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(実態 5.76：期待 5.52 GAP 0.24)

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。(実態 4.33：期待 4.13 GAP 0.20)

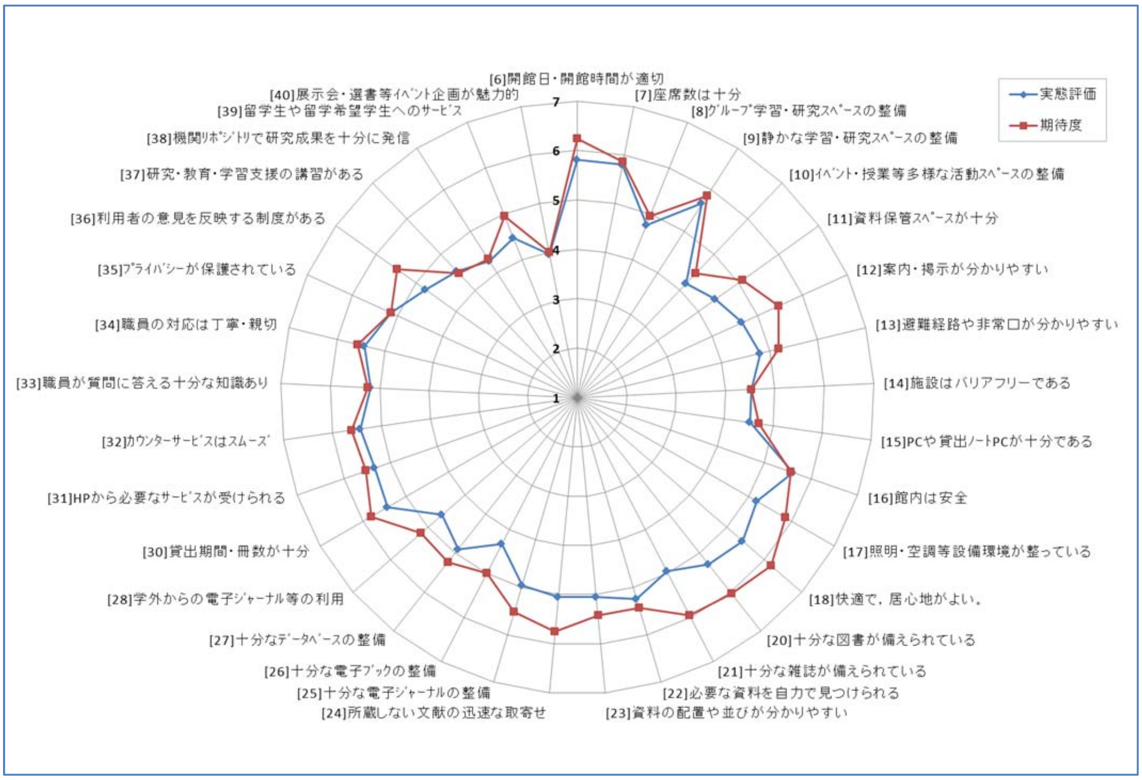
・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(実態 5.62：期待 5.45 GAP 0.17)

・[35]プライバシーが保護されていて安心である。(実態 5.15：期待 5.08 GAP 0.07)

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。(実態 5.15：期待 5.11 GAP 0.04)

・[40]展示会や選書イベントなど，図書館の企画は魅力的である。(実態 4.02：期待 3.99 GAP -0.03)
・[38]図書館の機関リポジトリ(TOUR)によって，本学の研究成果を十分に発信している。(実態 4.23：期待 4.31 GAP -0.08)

3.5.4【工学分館／教職員】



・回答数が少なく，必ずしも教職員の期待度・実態評価を反映しているとは限らないが，資料への期待度が高く，実態評価とのギャップが大きい。
・学部学生・大学院生に比べて電子ジャーナルへの期待度が高い。

◆分析と評価
○期待度の高い事項
【施設・設備】　6 項目
・[6]開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。(6.24)
・[18]図書館は快適で，居心地がよい。(6.19)
・[7]座席数は十分である。(5.86)

・[9]静かに学習・研究できるスペースが整っている。(5.86)

・[17]照明・空調などの設備・環境が整っている。(5.86)

・[16]館内は安全である。(5.57)

【資料・情報】　4項目

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(6.05)

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている。(5.95)

・[24]所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。(5.76)

・[25]学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。(5.52)

【職員・サービス】　4項目

・[30]貸出期間・冊数が十分である。(5.81)

・[32]カウンターサービスはスムーズである。(5.62)

・[34]職員の対応は丁寧・親切である。(5.57)

・[31]図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。(5.52)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】 2項目

・[12]館内の案内・掲示が分かりやすい。(実態4.67：期待5.48 GAP -0.81)

・[17]図書館は快適で，居心地がよい。(実態5.43：期待6.19 GAP -0.76)

【資料・情報】　3項目

・[21]学習・研究に十分な雑誌が備えられている。(実態4.95：期待5.95 GAP -1.00)

・[20]学習・研究に十分な図書が備えられている。(実態5.29：期待6.05 GAP -0.76)

・[24]所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。(実態 5.05：期待 5.76 GAP -0.71)

【職員・サービス】　1項目

・[36]利用者の意見を反映する制度が整っている。(実態4.76：期待5.48 GAP -0.72)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】3項目

・[16]館内は安全である。(実態5.62：期待5.57　GAP 0.05)

・[14]施設はバリアフリーである。(実態4.52：期待4.52　GAP 0.00)

・[7]座席数は十分である。(実態5.81：期待5.86　GAP -0.05)

【資料・情報】0 項目

【職員・サービス】5 項目

・[37]研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。(実態 4.52：期待 4.48 GAP 0.04)

・[35]プライバシーが保護されていて安心である。(実態 5.14：期待 5.14 GAP 0.00)

・[38]図書館の機関リポジトリ(TOUR)によって，本学の研究成果を十分に発信している。(実態 4.29：期待 4.33 GAP -0.04)

・[33]職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。(実態 5.19：期待 5.24 GAP -0.05)

・[40]展示会や選書イベントなど，図書館の企画は魅力的である。(実態 3.95：期待 4.00 GAP -0.05)

3.5.5 自由記述・意見まとめ（工学分館）

[19]. 施設・設備

・室温が不適当（エアコンの時期が不適当、エアコンが効かない、エリアにより室温が不均衡）

・試験期間中など快適な席数が足りない。

・利用時間を拡大（学生も 24 時間利用）

・PC の台数増，および，各階に設置

・監視カメラの作動音

[29]. 資料・情報

・EJ などの電子的資料について、知らない

・資料が足りない：必要な雑誌（論文）

・検索機能の使い勝手が良くない。

※プラス評価 7 件

[41]. 職員・サービス

・職員の対応は丁寧で親切である

・職員の対応で不快な思いをした

・貸出期間を延ばしてほしい

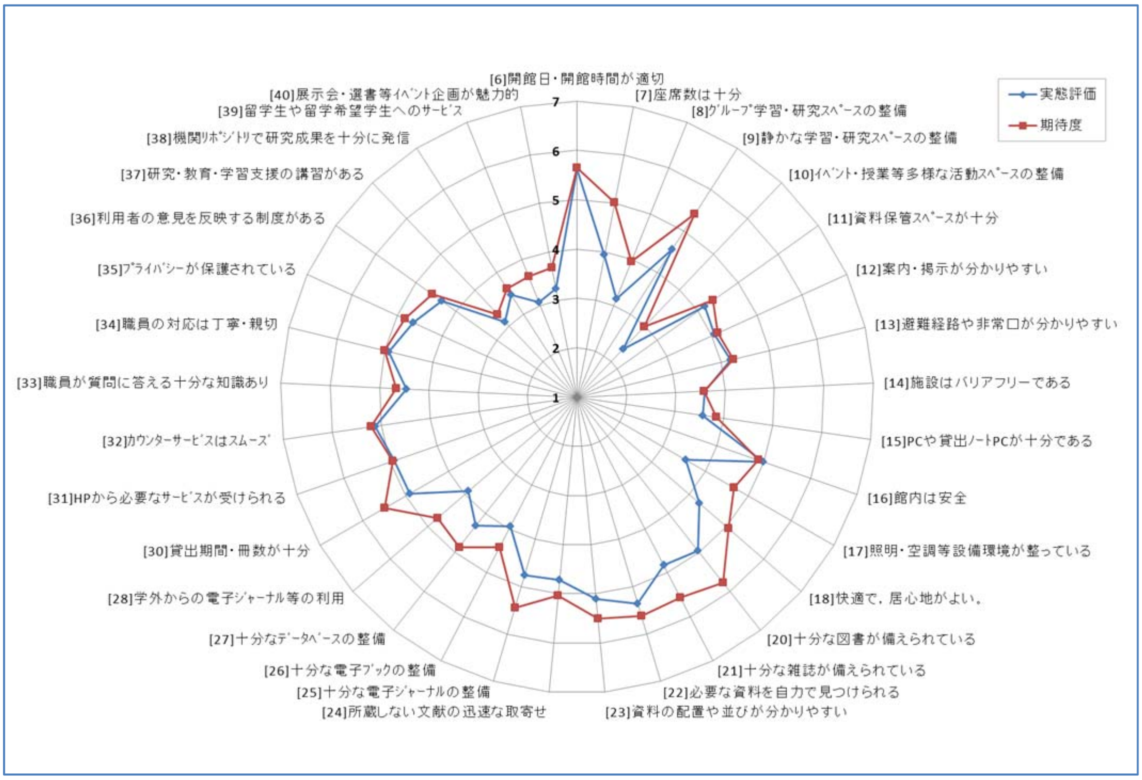
・企画が伝わっていない。

[42]. その他

[19][29][41]と重複した内容

3.6　農学分館

3.6.1【農学分館／全身分】



・「開館日・開館時間」は期待、実態ともに最も高い

・期待値が比較的高く、実態の低い「座席数」「照明・空調」「電子ブック」「学外利用」は、送球な改善が必要である。

・期待値が 4 を割り込んでいる多様な活動スペース等については、新図書館での改善を検討する。

◆分析と評価

〇期待度の高い事項

【施設・設備】

・［ 6］開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（5.65）

・［ 9］静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.41）

・［18］図書館は快適で、居心地がよい（5.06）

・［ 7］座席数は十分である（5.02）

・［16］館内は安全である（4.88）

【資料・情報】

・[20] 学習・研究に十分な図書が備えられている（5.78）

・[22] 必要な資料を自力で見つけられる（5.62）

・[21] 学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.57）

【職員・サービス】

・[30] 貸出期間・冊数が十分である（5.49）

・[32] カウンターサービスはスムーズである（5.22）

・[34] 職員の対応は丁寧・親切である（5.00）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17] 照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 4.67：実態 3.55：GAP-1.12）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[16] 館内は安全である（実態 4.98：期待 4.88：GAP0.10）

・[14] 施設はバリアフリーである（実態 3.59：期待 3.58：GAP0.01）

・[6] 開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（実態 5.62：期待 5.65：GAP-0.03）

・[13] 災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい(実態 4.20:期待 4.26:GAP-0.06)

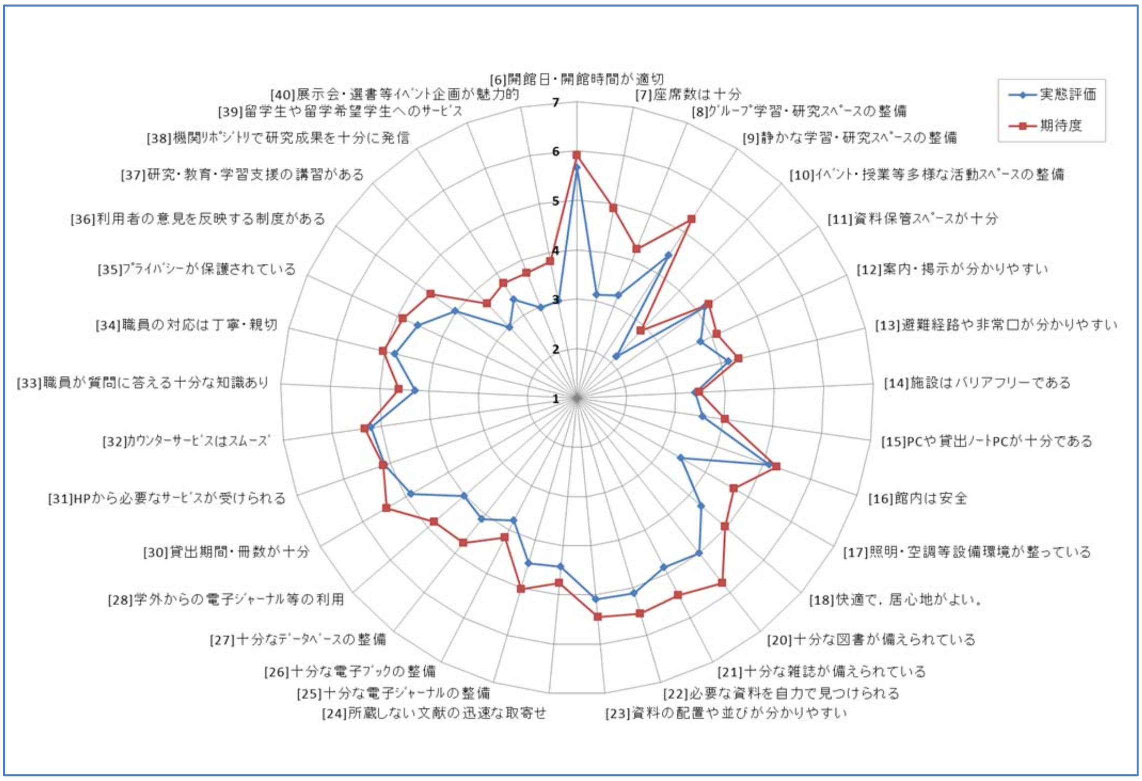
・[12] 館内の案内・掲示が分かりやすい（実態 4.06：期待 4.14：GAP-0.08）

【職員・サービス】

・[31] 図書館のホームページから必要なサービスが受けられる（実態 4.92：期待 4.94：GAP-0.02）

・[34] 職員の対応は丁寧・親切である（実態 4.92：期待 5.00：GAP-0.08）

3.6.2【農学分館／学部生】



・大学院生と比べて全般に期待値が高い

・グループ学習のスペースがないため、評価が低い

・空調設備や資料充実について期待値が大きく、ギャップがある。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・［ 6］開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（5.91）

・［ 9］静かに学習・研究できるスペースが整っている（5.30）

・［16］館内は安全である（5.27）

・［18］図書館は快適で、居心地がよい（4.97）

・［ 7］座席数は十分である（4.91）

【資料・情報】

・［20］学習・研究に十分な図書が備えられている（5.76）

・［22］必要な資料を自力で見つけられる（5.55）

・[21] 学習・研究に十分な雑誌が備えられている (5.48)

【職員・サービス】

・[30] 貸出期間・冊数が十分である (5.45)

・[32] カウンターサービスはスムーズである (5.33)

・[31] 図書館のホームページから必要なサービスが受けられる (5.15)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[7] 座席数は十分である (期待 4.91 : 実態 3.12 : GAP-1.79)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

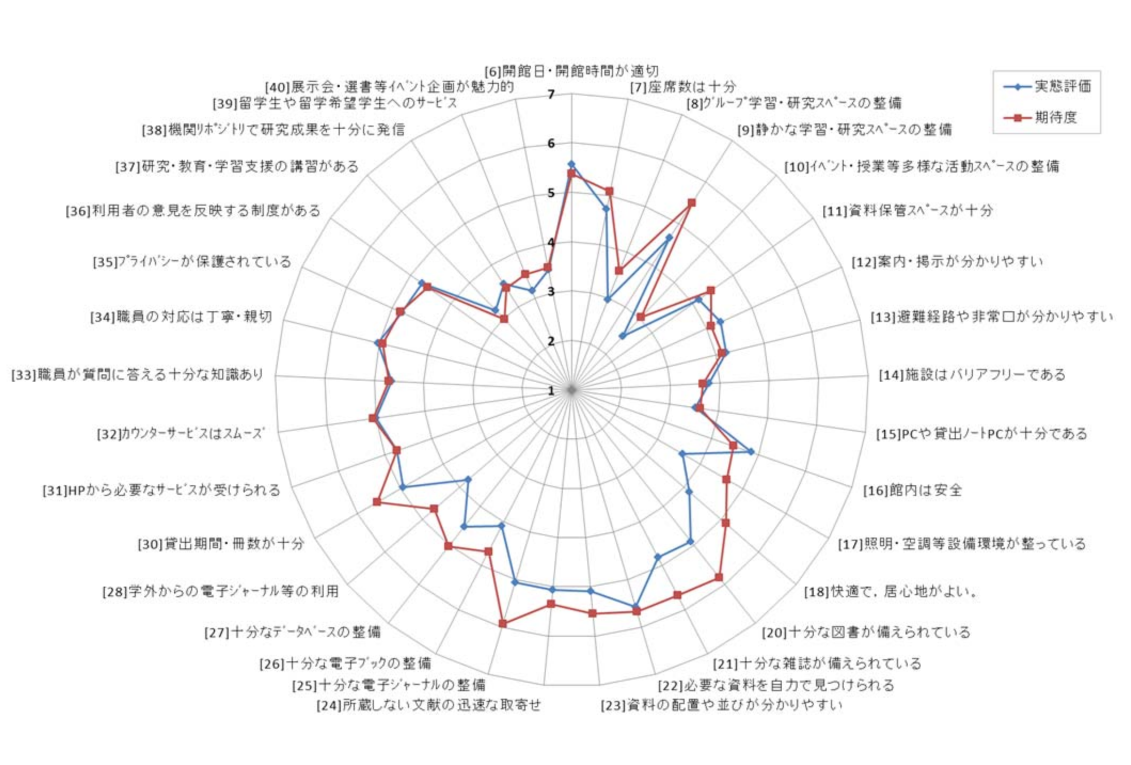
・[11] 資料を保管するためのスペースが十分に確保されている (実態 4.18 : 期待 4.27 : GAP-0.09)

・[14] 施設はバリアフリーである (実態 3.9 : 期待 3.48 : GAP-0.09)

【職員・サービス】

・[31] 図書館のホームページから必要なサービスが受けられる (実態 5.12 : 期待 5.15 : GAP-0.03)

3.6.3【農学分館／大学院生】



・講習会やリポジトリなどの図書館サービスに対する認知度が低いため広報強化が必要と思われる。

・空調設備のギャップが大きい。

・資料の充実に対するギャップが大きい。改善を検討する必要がある。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・[9] 静かに学習・研究できるスペースが整っている (5.50)

・[6] 開館日・開館時間が適切で、利用しやすい (5.38)

・[18] 図書館は快適で、居心地がよい (5.13)

・[7] 座席数は十分である (5.09)

・[17] 照明・空調などの設備・環境が整っている (4.63)

【資料・情報】

・[25] 学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている (5.94)

・[20］学習・研究に十分な図書が備えられている（5.84）

・[21］学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.68）

【職員・サービス】

・[30］貸出期間・冊数が十分である（5.55）

・[32］カウンターサービスはスムーズである（5.06）

・[34］職員の対応は丁寧・親切である（4.94）

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【施設・設備】

・[17］照明・空調などの設備・環境が整っている（期待 4.63：実態 3.59：GAP-1.04）

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[16］館内は安全である（実態 4.84：期待 4.47：GAP0.37）

・[12］館内の案内・掲示が分かりやすい（実態 4.31：期待 4.09：GAP0.22）

・[6］開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（実態 5.56：期待 5.38：GAP0.18）

・[14］施設はバリアフリーである（実態 3.78：期待 3.66：GAP0.12）

・[13］災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい(実態 4.22:期待 4.13:GAP0.09)

【職員・サービス】

・[37］研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている（実態 3.23：期待 2.97：GAP0.26）

・[36］利用者の意見を反映する制度が整っている（実態 4.71：期待 4.58：GAP0.13）

・[38］図書館の期間リポジトリ（TOUR）によって、本学の研究成果を十分に発信している（実態 3.55：期待 3.45：GAP0.10）

・[34］職員の対応は丁寧・親切である（実態 5.03：期待 4.94：GAP0.09）

・[31］図書館のホームページから必要なサービスが受けられる（実態 4.74：期待 4.74：GAP0.00）

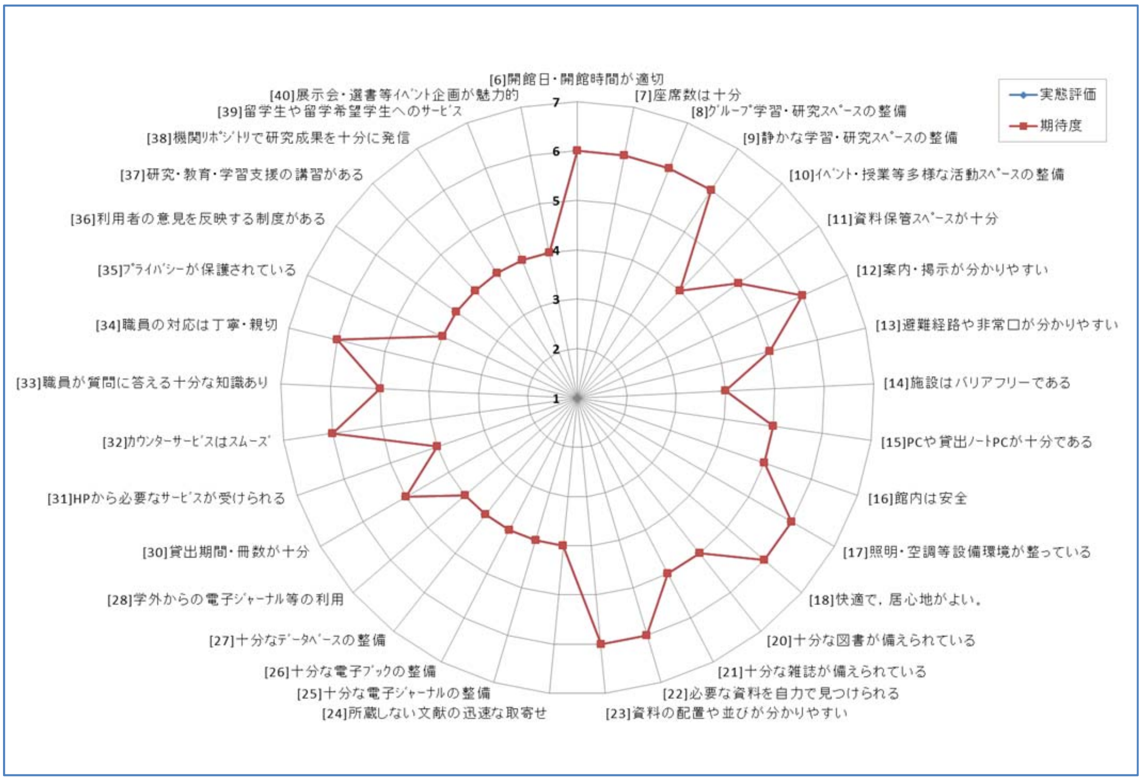
・[35］プライバシーが保護されていて安心できる（実態 4.77：期待 4.81：GAP-0.04）

・[40］展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である（実態 3.48：期待 3.52：GAP-0.04）

・[32］カウンターサービスはスムーズである（実態 5.00：期待 5.06：GAP-0.06）

・[33］職員は質問に答えられる十分な知識を持っている(実態 4.65:期待 4.71:GAP-0.06)

3.6.4【農学分館／教職員】



・回答者は１名。期待値と評価値が同じであり、アンケートの意図が伝わっていない可能性もある。

・電子ジャーナルや電子ブックの評価が低い。

・多様な活動に利用できるスペースやバリアフリーなスペースの評価が低い。これらは新図書館において改善を検討する必要がある。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【施設・設備】

・［ 6］開館日・開館時間が適切で、利用しやすい（6.00）

・［ 9］静かに学習・研究できるスペースが整っている（6.00）

・［ 8］グループで学習研究できるスペースが整っている（6.00）

・［12］館内の案内・掲示が分かりやすい（6.00）

・［18］図書館は快適で、居心地がよい（6.00）

【資料・情報】

・[22] 必要な資料を自力で見つけられる（6.00）

・[23] 館内の資料の配置や並びが分かりやすい（6.00）

・[20] 学習・研究に十分な図書が備えられている（5.00）

【職員・サービス】

・[32] カウンターサービスはスムーズである（6.00）

・[34] 職員の対応は丁寧・親切である（6.00）

・[30] 貸出期間・冊数が十分である（5.00）

〇期待度と実態評価のギャップが大きい事項

※該当なし（回答者が１名で、期待と実態が同値であったため）

〇実態評価が期待度と同等か高い事項

※全項目が該当（回答者が１名で、実態と期待が同値であったため）

3.6.5【自由記述・意見まとめ】（農学分館）

【施設・設備】

・期間や時間に関係なく必要な時に空調を効かせてほしい

・座席数が少なく、狭い

・居心地がよく使いやすい

【資料・情報】

・図書・雑誌やデータベースを充実してほしい

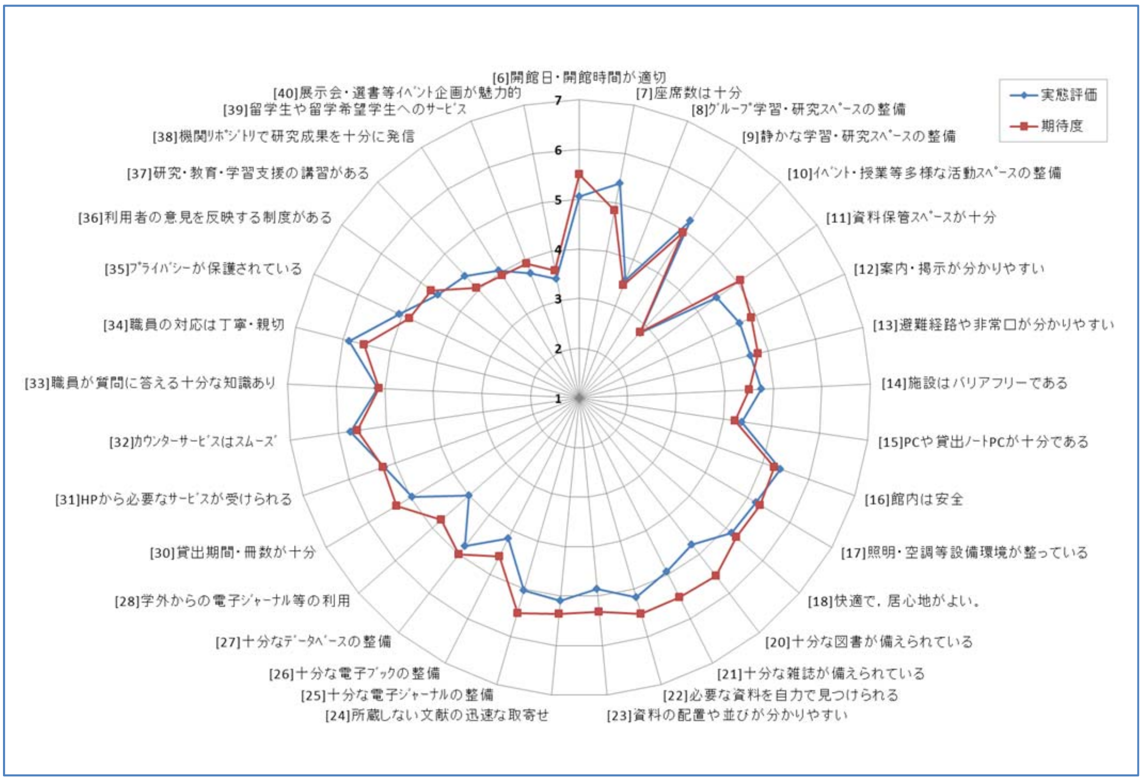
・電子ブックが使いづらい、入手方法がわからない

【その他】

・新図書館に期待します

3.7　部局図書室

3.7.1【部局図書室／全身分】



・「施設・設備」に関しては座席数について評価が高い。一方、資料の保管場所スペースが不十分との回答が多く、今後の対応検討を要する。

・「資料・情報」に関する設問への回答に、マイナスのギャップが大きいものが多い。なかでも図書の十分性に関してギャップが大きいので、利用に合った収書を心がけるとともに、学内搬送サービスの周知を続けていく必要がある。また、学外からの電子リソース利用に関するギャップが大きいが、利用方法の周知不足と言える。

・期待度に見合った実態評価のものは「職員・サービス」に多く、特に、職員の対応と講習会の開催が評価されている。

◆分析と評価

○期待度の高い事項

【資料・情報】

・［20］学習・研究に十分な図書が備えられている（5.55）

・［21］学習・研究に十分な雑誌が備えられている（5.52）

・［22］必要な資料を自力で見つけられる（5.53）

・[25] 学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている (5.51)

【職員・サービス】

・[32] カウンターサービスはスムーズである (5.61)

・[34] 職員の対応は丁寧・親切である (5.55)

○期待度と実態評価のギャップが大きい事項

【資料・情報】

・[20] 学習・研究に十分な図書が備えられている。(実態 4.75：期待：5.55：GAP-0.8)

○実態評価が期待度と同等か高い事項

【施設・設備】

・[7] 座席数は十分である (評価 5.4：期待 4.85：GAP0.55)

・[8] グループで学習・研究できるスペースが整っている (評価 3.55：期待 3.44：GAP0.11)

・[9] 静かに学習・研究できるスペースが整っている (評価 5.24：期待 4.96：GAP0.28)

・[14] 施設はバリアフリーである (評価 4.75：期待 4.5：GAP0.25)

・[15] 必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている (評価 4.39：期待 4.24：GAP0.15)

・[16] 館内は安全である (評価 5.38：期待 5.25：GAP0.13)

【職員・サービス】

・[32] カウンターサービスはスムーズである (評価 5.76：期待 5.61：GAP0.15)

・[34] 職員の対応は丁寧・親切である (評価 5.87：期待 5.55：GAP0.32)

・[35] プライバシーが保護されていて安心できる (評価 5.06：期待 4.84：GAP0.22)

・[37] 研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている (評価 4.39：期待 4.05：GAP0.34)

・[38] 図書館の機関リポジトリ (TOUR)によって、本学の研究成果を十分に発信している (評価 4.05：期待 3.94：GAP0.11)

3.7.2 自由記述・意見まとめ（部局図書室）

19. 施設・設備

・閲覧室と書庫が分かれていて不便（多元研２件）

・空調が不十分（金研３件）

・開館時間延長希望（多元研、歯学、数学資料室各１件）

29. 資料・情報

・雑誌を増やしてほしい（金研、多元研各１件）

・図書を増やしてほしい（金研、多元研各２件、教育１件）

41. 職員・サービス

・HPや掲示物の英語化（多元研、数学資料室各１件）

・電子ジャーナル等へのリモートアクセスやMylibraryの機能について周知不足（金研３件、多元研１件、数学資料室２件）

・リポジトリの周知不足・論文登録講習会希望（多元研２件）

利用者アンケート2015　集計結果（全利用者区分 ）

			全館			本館			医学分館			北青葉山分館			工学分館			農学分館			部局図書室		
	No.	質問項目	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP
利用者情報	1-5	身分，所属など，利用者に関する質問	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
施設・設備	6	開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。	5.52	5.84	−0.32	5.72	5.97	−0.25	5.69	5.88	−0.19	5.35	5.73	−0.38	5.27	5.76	−0.49	5.62	5.65	−0.03	5.05	5.49	−0.44
	7	座席数は十分である。	4.89	5.42	−0.53	4.57	5.48	−0.91	4.98	5.56	−0.58	5.74	5.48	+0.26	4.89	5.40	−0.51	3.94	5.02	−1.08	5.40	4.85	+0.55
	8	グループで学習・研究できるスペースが整っている。	4.39	4.42	−0.03	5.03	4.84	+0.19	3.39	3.95	−0.56	3.76	4.08	−0.32	4.52	4.40	+0.12	3.15	3.95	−0.8	3.55	3.44	+0.11
	9	静かに学習・研究できるスペースが整っている。	5.51	5.71	−0.2	5.54	5.76	−0.22	5.42	5.79	−0.37	5.75	5.76	−0.01	5.56	5.74	−0.18	4.56	5.41	−0.85	5.24	4.96	+0.28
	10	イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。	3.91	3.89	+0.02	4.72	4.47	+0.25	3.26	3.64	−0.38	3.29	3.40	−0.11	3.62	3.65	−0.03	2.35	2.97	−0.62	2.81	2.82	−0.01
	11	資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。	4.96	5.04	−0.08	5.15	5.15	0.00	4.65	4.85	−0.2	4.83	4.97	−0.14	5.06	5.06	0.00	4.18	4.38	−0.2	4.47	5.07	−0.6
	12	館内の案内・掲示が分かりやすい。	4.57	4.92	−0.35	4.77	5.08	−0.31	4.33	4.90	−0.57	4.56	4.81	−0.25	4.39	4.85	−0.46	4.06	4.14	−0.08	4.63	4.90	−0.27
	13	災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい。	4.38	4.80	−0.42	4.43	4.92	−0.49	4.30	4.74	−0.44	4.41	4.81	−0.4	4.27	4.71	−0.44	4.20	4.26	−0.06	4.63	4.78	−0.15
	14	施設はバリアフリーである。	4.40	4.56	−0.16	4.78	4.89	−0.11	3.93	4.42	−0.49	4.18	4.29	−0.11	4.12	4.36	−0.24	3.59	3.58	+0.01	4.75	4.50	+0.25
	15	必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。	4.47	4.78	−0.31	5.01	5.15	−0.14	4.31	4.87	−0.56	3.81	4.19	−0.38	4.12	4.67	−0.55	3.58	3.85	−0.27	4.39	4.24	+0.15
	16	館内は安全である。	5.35	5.44	−0.09	5.54	5.64	−0.1	5.04	5.42	−0.38	5.18	5.25	−0.07	5.30	5.33	−0.03	4.98	4.88	+0.1	5.38	5.25	+0.13
	17	照明・空調などの設備・環境が整っている。	4.63	5.53	−0.9	4.97	5.70	−0.73	4.32	5.48	−1.16	4.41	5.40	−0.99	4.33	5.52	−1.19	3.55	4.67	−1.12	5.20	5.30	−0.1
	18	図書館は快適で，居心地がよい。	5.19	5.75	−0.56	5.53	5.95	−0.42	4.75	5.70	−0.95	5.11	5.58	−0.47	4.99	5.73	−0.74	4.27	5.06	−0.79	5.15	5.28	−0.13
	19	施設・設備について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
資料・情報	20	学習・研究に十分な図書が備えられている。	5.20	5.93	−0.73	5.25	5.95	−0.7	5.12	5.86	−0.74	5.12	5.97	−0.85	5.37	6.03	−0.66	4.95	5.78	−0.83	4.75	5.55	−0.8
	21	学習・研究に十分な雑誌が備えられている。	5.12	5.54	−0.42	5.13	5.50	−0.37	5.16	5.54	−0.38	5.11	5.61	−0.5	5.20	5.57	−0.37	4.83	5.57	−0.74	4.93	5.52	−0.59
	22	必要な資料を自力で見つけられる。	5.32	5.69	−0.37	5.30	5.71	−0.41	5.09	5.54	−0.45	5.45	5.73	−0.28	5.42	5.75	−0.33	5.35	5.62	−0.27	5.18	5.53	−0.35
	23	館内の資料の配置や並びが分かりやすい。	4.99	5.55	−0.56	5.00	5.60	−0.6	4.77	5.38	−0.61	5.09	5.62	−0.53	5.00	5.55	−0.55	5.11	5.51	−0.4	4.86	5.33	−0.47
	24	所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。	4.70	5.00	−0.3	4.63	5.01	−0.38	4.66	4.88	−0.22	4.71	4.86	−0.15	4.79	5.06	−0.27	4.72	5.03	−0.31	5.09	5.36	−0.27
	25	学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。	4.71	5.16	−0.45	4.67	5.00	−0.33	4.86	5.49	−0.63	4.65	5.21	−0.56	4.68	5.13	−0.45	4.75	5.45	−0.7	5.03	5.51	−0.48
	26	学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。	4.31	4.65	−0.34	4.39	4.64	−0.25	4.34	4.75	−0.41	4.23	4.64	−0.41	4.27	4.67	−0.4	3.94	4.42	−0.48	4.18	4.58	−0.4
	27	学習・研究に十分なデータベースが備えられている。	4.73	5.07	−0.34	4.79	5.13	−0.34	4.74	5.13	−0.39	4.63	5.04	−0.41	4.71	5.00	−0.29	4.31	4.86	−0.55	4.79	5.00	−0.21
	28	学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる。	4.22	4.85	−0.63	4.28	4.86	−0.58	4.59	4.99	−0.4	3.91	4.88	−0.97	4.23	4.81	−0.58	3.91	4.74	−0.83	4.00	4.75	−0.75
	29	資料・情報について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職員・サービス	30	貸出期間・冊数が十分である。	5.08	5.61	−0.53	5.31	5.76	−0.45	4.62	5.36	−0.74	4.78	5.50	−0.72	5.11	5.62	−0.51	4.91	5.49	−0.58	4.97	5.33	−0.36
	31	図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。	5.17	5.35	−0.18	5.26	5.48	−0.22	4.87	5.08	−0.21	5.09	5.27	−0.18	5.25	5.37	−0.12	4.92	4.94	−0.02	5.23	5.27	−0.04
	32	カウンターサービスはスムーズである。	5.59	5.56	+0.03	5.53	5.62	−0.09	5.45	5.48	−0.03	5.73	5.54	+0.19	5.70	5.56	+0.14	5.12	5.22	−0.1	5.76	5.61	+0.15
	33	職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。	5.14	5.23	−0.09	5.28	5.44	−0.16	5.00	5.08	−0.08	5.08	5.09	−0.01	5.11	5.11	0.00	4.46	4.66	−0.2	5.15	5.13	+0.02
	34	職員の対応は丁寧・親切である。	5.49	5.49	0.00	5.50	5.59	−0.09	5.48	5.53	−0.05	5.48	5.39	+0.09	5.49	5.41	+0.08	4.92	5.00	−0.08	5.87	5.55	+0.32
	35	プライバシーが保護されていて安心できる。	5.07	5.16	−0.09	5.15	5.29	−0.14	4.97	5.18	−0.21	5.07	5.05	+0.02	5.06	5.10	−0.04	4.65	4.83	−0.18	5.06	4.84	+0.22
	36	利用者の意見を反映する制度が整っている。	4.61	4.93	−0.32	4.76	5.09	−0.33	4.37	4.71	−0.34	4.44	4.85	−0.41	4.60	4.90	−0.3	4.35	4.60	−0.25	4.57	4.73	−0.16
	37	研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。	4.49	4.42	+0.07	4.95	4.79	+0.16	4.45	4.55	−0.1	4.00	4.08	−0.08	4.21	4.15	+0.06	3.11	3.32	−0.21	4.39	4.05	+0.34
	38	図書館の機関リポジトリ（TOUR）によって、本学の研究成果を十分に発信している。	4.25	4.33	−0.08	4.51	4.57	−0.06	4.18	4.31	−0.13	4.00	4.12	−0.12	4.15	4.22	−0.07	3.46	3.62	−0.16	4.05	3.94	+0.11
	39	グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている。	4.35	4.55	−0.2	5.03	4.99	+0.04	3.89	4.20	−0.31	3.79	4.29	−0.5	4.04	4.37	−0.33	3.08	3.63	−0.55	3.70	3.91	−0.21
	40	展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である。	4.15	4.28	−0.13	4.59	4.68	−0.09	4.19	4.36	−0.17	3.76	3.97	−0.21	3.86	3.95	−0.09	3.25	3.68	−0.43	3.45	3.61	−0.16
	41	職員・サービスについて，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	42	図書館についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

利用者アンケート2015　集計結果（学部学生）

	No.	質問項目	全館 評価	全館 期待	全館 GAP	本館 評価	本館 期待	本館 GAP	医学分館 評価	医学分館 期待	医学分館 GAP	北青葉山分館 評価	北青葉山分館 期待	北青葉山分館 GAP	工学分館 評価	工学分館 期待	工学分館 GAP	農学分館 評価	農学分館 期待	農学分館 GAP
利用者情報	1-5	身分，所属など，利用者に関する質問	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
施設・設備	6	開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。	5.58	5.86	−0.28	5.75	5.95	−0.2	5.81	5.91	−0.1	5.18	5.76	−0.58	5.22	5.68	−0.46	5.67	5.91	−0.24
	7	座席数は十分である。	4.49	5.41	−0.92	4.33	5.49	−1.16	4.82	5.48	−0.66	5.58	5.35	+0.23	4.51	5.27	−0.76	3.12	4.91	−1.79
	8	グループで学習・研究できるスペースが整っている。	4.49	4.68	−0.19	5.00	4.98	+0.02	2.82	3.79	−0.97	3.51	4.19	−0.68	4.58	4.62	−0.04	3.24	4.24	−1.
	9	静かに学習・研究できるスペースが整っている。	5.53	5.76	−0.23	5.58	5.78	−0.2	5.56	5.89	−0.33	5.89	5.85	+0.04	5.46	5.75	−0.29	4.42	5.30	−0.88
	10	イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。	4.10	4.08	+0.02	4.75	4.50	+0.25	2.90	3.38	−0.48	3.13	3.48	−0.35	3.66	3.74	−0.08	2.15	2.88	−0.73
	11	資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。	5.14	5.04	+0.1	5.24	5.09	+0.15	5.11	5.03	+0.08	5.01	4.96	+0.05	5.17	5.10	+0.07	4.18	4.27	−0.09
	12	館内の案内・掲示が分かりやすい。	4.64	4.95	−0.31	4.80	5.09	−0.29	4.52	4.83	−0.31	4.62	4.75	−0.13	4.40	4.84	−0.44	3.76	4.12	−0.36
	13	災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい。	4.38	4.83	−0.45	4.41	4.94	−0.53	4.45	4.74	−0.29	4.45	4.66	−0.21	4.25	4.75	−0.5	4.15	4.36	−0.21
	14	施設はバリアフリーである。	4.50	4.62	−0.12	4.84	4.91	−0.07	4.03	4.31	−0.28	4.09	4.14	−0.05	4.13	4.37	−0.24	3.39	3.48	−0.09
	15	必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。	4.63	5.02	−0.39	5.02	5.26	−0.24	4.64	5.12	−0.48	3.75	4.32	−0.57	4.06	4.78	−0.72	3.58	4.03	−0.45
	16	館内は安全である。	5.44	5.50	−0.06	5.60	5.64	−0.04	5.16	5.43	−0.27	5.29	5.22	+0.07	5.26	5.31	−0.05	5.12	5.27	−0.15
	17	照明・空調などの設備・環境が整っている。	4.53	5.55	−1.02	4.95	5.70	−0.75	3.93	5.55	−1.62	4.00	5.37	−1.37	4.00	5.38	−1.38	3.42	4.67	−1.25
	18	図書館は快適で，居心地がよい。	5.23	5.80	−0.57	5.54	5.95	−0.41	4.57	5.68	−1.11	5.11	5.67	−0.56	4.82	5.65	−0.83	4.33	4.97	−0.64
	19	施設・設備について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
資料・情報	20	学習・研究に十分な図書が備えられている。	5.34	5.95	−0.61	5.34	5.92	−0.58	5.61	6.11	−0.5	5.26	6.18	−0.92	5.39	5.97	−0.58	5.00	5.76	−0.76
	21	学習・研究に十分な雑誌が備えられている。	5.21	5.42	−0.21	5.19	5.41	−0.22	5.54	5.46	+0.08	5.31	5.49	−0.18	5.19	5.47	−0.28	4.85	5.48	−0.63
	22	必要な資料を自力で見つけられる。	5.28	5.67	−0.39	5.21	5.64	−0.43	5.45	5.77	−0.32	5.44	5.76	−0.32	5.40	5.79	−0.39	5.12	5.55	−0.43
	23	館内の資料の配置や並びが分かりやすい。	5.03	5.57	−0.54	5.01	5.56	−0.55	5.03	5.67	−0.64	5.15	5.62	−0.47	5.07	5.63	−0.56	5.09	5.45	−0.36
	24	所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。	4.51	4.75	−0.24	4.49	4.81	−0.32	4.51	4.54	−0.03	4.59	4.56	+0.03	4.56	4.82	−0.26	4.42	4.76	−0.34
	25	学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。	4.57	4.78	−0.21	4.59	4.74	−0.15	5.02	5.22	−0.2	4.54	4.71	−0.17	4.31	4.74	−0.43	4.48	5.03	−0.55
	26	学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。	4.22	4.46	−0.24	4.35	4.54	−0.19	4.33	4.45	−0.12	4.00	4.32	−0.32	3.98	4.42	−0.44	3.79	4.18	−0.39
	27	学習・研究に十分なデータベースが備えられている。	4.70	4.91	−0.21	4.81	5.01	−0.2	4.90	4.98	−0.08	4.54	4.79	−0.25	4.51	4.77	−0.26	4.12	4.73	−0.61
	28	学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる。	4.23	4.64	−0.41	4.29	4.66	−0.37	4.62	4.78	−0.16	3.91	4.55	−0.64	4.12	4.59	−0.47	4.03	4.82	−0.79
	29	資料・情報について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
職員・サービス	30	貸出期間・冊数が十分である。	5.13	5.65	−0.52	5.36	5.76	−0.4	4.57	5.39	−0.82	4.66	5.52	−0.86	5.04	5.64	−0.6	4.88	5.45	−0.57
	31	図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。	5.17	5.27	−0.1	5.26	5.40	−0.14	4.83	4.84	−0.01	5.09	5.09	0.00	5.16	5.30	−0.14	5.12	5.15	−0.03
	32	カウンターサービスはスムーズである。	5.57	5.54	+0.03	5.56	5.59	−0.03	5.56	5.44	+0.12	5.68	5.36	+0.32	5.66	5.61	+0.05	5.21	5.33	−0.12
	33	職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。	5.16	5.21	−0.05	5.29	5.39	−0.1	5.05	5.01	+0.04	5.02	4.88	+0.14	5.06	5.09	−0.03	4.27	4.61	−0.34
	34	職員の対応は丁寧・親切である。	5.44	5.46	−0.02	5.52	5.57	−0.05	5.44	5.44	0.00	5.42	5.23	+0.19	5.36	5.35	+0.01	4.79	5.03	−0.24
	35	プライバシーが保護されていて安心できる。	5.06	5.17	−0.11	5.13	5.26	−0.13	5.03	5.12	−0.09	4.98	4.92	+0.06	4.95	5.12	−0.17	4.55	4.88	−0.33
	36	利用者の意見を反映する制度が整っている。	4.62	4.94	−0.32	4.80	5.06	−0.26	4.38	4.71	−0.33	4.35	4.74	−0.39	4.48	4.91	−0.43	4.03	4.64	−0.61
	37	研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。	4.52	4.49	+0.03	5.00	4.83	+0.17	4.15	4.16	−0.01	3.69	3.91	−0.22	4.04	4.14	−0.1	2.97	3.64	−0.67
	38	図書館の機関リポジトリ（TOUR）によって、本学の研究成果を十分に発信している。	4.25	4.26	−0.01	4.50	4.47	+0.03	3.96	3.97	−0.01	3.80	3.87	−0.07	4.04	4.11	−0.07	3.36	3.76	−0.4
	39	グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている。	4.54	4.67	−0.13	5.12	5.03	+0.09	3.78	3.93	−0.15	3.56	4.19	−0.63	3.99	4.41	−0.42	2.97	3.73	−0.76
	40	展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である。	4.17	4.32	−0.15	4.53	4.64	−0.11	4.11	4.10	+0.01	3.64	3.80	−0.16	3.67	3.90	−0.23	3.00	3.82	−0.82
	41	職員・サービスについて，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
	42	図書館についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。（自由記述）	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

利用者アンケート2015　集計結果（大学院生）

	No.	質問項目	全館 評価	全館 期待	全館 GAP	本館 評価	本館 期待	本館 GAP	医学分館 評価	医学分館 期待	医学分館 GAP	北青葉山分館 評価	北青葉山分館 期待	北青葉山分館 GAP	工学分館 評価	工学分館 期待	工学分館 GAP	農学分館 評価	農学分館 期待	農学分館 GAP
利用者情報	1-5	身分，所属など，利用者に関する質問	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
施設・設備	6	開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。	5.41	5.81	−0.4	5.69	6.03	−0.34	5.57	5.92	−0.35	5.36	5.70	−0.34	5.26	5.78	−0.52	5.56	5.38	+0.18
	7	座席数は十分である。	5.28	5.42	−0.14	5.13	5.42	−0.29	5.04	5.60	−0.56	5.85	5.54	+0.31	5.14	5.47	−0.33	4.72	5.09	−0.37
	8	グループで学習・研究できるスペースが整っている。	4.22	4.04	+0.18	5.11	4.40	+0.71	3.79	3.92	−0.13	3.82	3.94	−0.12	4.44	4.15	+0.29	2.97	3.59	−0.62
	9	静かに学習・研究できるスペースが整っている。	5.48	5.68	−0.2	5.49	5.79	−0.3	5.26	5.75	−0.49	5.66	5.71	−0.05	5.63	5.71	−0.08	4.66	5.50	−0.84
	10	イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。	3.62	3.59	+0.03	4.60	4.25	+0.35	3.55	3.78	−0.23	3.33	3.31	+0.02	3.53	3.50	+0.03	2.50	3.03	−0.53
	11	資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。	4.80	5.01	−0.21	5.03	5.26	−0.23	4.29	4.71	−0.42	4.79	4.97	−0.18	5.02	5.03	−0.01	4.16	4.47	−0.31
	12	館内の案内・掲示が分かりやすい。	4.43	4.80	−0.37	4.64	4.90	−0.26	4.15	4.94	−0.79	4.50	4.77	−0.27	4.36	4.80	−0.44	4.31	4.09	+0.22
	13	災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい。	4.29	4.69	−0.4	4.40	4.76	−0.36	4.15	4.61	−0.46	4.30	4.85	−0.55	4.24	4.64	−0.4	4.22	4.13	+0.09
	14	施設はバリアフリーである。	4.19	4.42	−0.23	4.55	4.78	−0.23	3.77	4.34	−0.57	4.17	4.34	−0.17	4.07	4.34	−0.27	3.78	3.66	+0.12
	15	必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。	4.25	4.49	−0.24	5.01	4.89	+0.12	4.03	4.68	−0.65	3.85	4.08	−0.23	4.13	4.58	−0.45	3.53	3.63	−0.1
	16	館内は安全である。	5.22	5.33	−0.11	5.46	5.60	−0.14	4.97	5.42	−0.45	5.04	5.20	−0.16	5.30	5.33	−0.03	4.84	4.47	+0.37
	17	照明・空調などの設備・環境が整っている。	4.66	5.51	−0.85	5.01	5.71	−0.7	4.61	5.50	−0.89	4.57	5.44	−0.87	4.53	5.60	−1.07	3.59	4.63	−1.04
	18	図書館は快適で，居心地がよい。	5.14	5.68	−0.54	5.56	5.91	−0.35	4.89	5.72	−0.83	5.12	5.52	−0.4	5.09	5.76	−0.67	4.16	5.13	−0.97
	19	施設・設備について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
資料・情報	20	学習・研究に十分な図書が備えられている。	5.06	5.95	−0.89	4.94	6.09	−1.15	4.76	5.70	−0.94	5.06	5.85	−0.79	5.35	6.07	−0.72	4.90	5.84	−0.94
	21	学習・研究に十分な雑誌が備えられている。	5.03	5.66	−0.63	4.93	5.72	−0.79	4.84	5.71	−0.87	5.01	5.61	−0.6	5.23	5.62	−0.39	4.81	5.68	−0.87
	22	必要な資料を自力で見つけられる。	5.37	5.71	−0.34	5.57	5.92	−0.35	4.76	5.34	−0.58	5.46	5.73	−0.27	5.45	5.76	−0.31	5.58	5.68	−0.1
	23	館内の資料の配置や並びが分かりやすい。	4.92	5.53	−0.61	4.99	5.74	−0.75	4.52	5.16	−0.64	5.06	5.63	−0.57	4.94	5.49	−0.55	5.10	5.55	−0.45
	24	所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。	4.85	5.21	−0.36	4.91	5.50	−0.59	4.63	5.00	−0.37	4.70	4.97	−0.27	4.96	5.20	−0.24	5.06	5.35	−0.29
	25	学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。	4.84	5.57	−0.73	4.87	5.75	−0.88	4.66	5.78	−1.12	4.65	5.34	−0.69	4.98	5.43	−0.45	5.06	5.94	−0.88
	26	学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。	4.40	4.87	−0.47	4.45	4.93	−0.48	4.27	4.98	−0.71	4.35	4.79	−0.44	4.51	4.85	−0.34	4.10	4.68	−0.58
	27	学習・研究に十分なデータベースが備えられている。	4.70	5.20	−0.5	4.67	5.40	−0.73	4.55	5.25	−0.7	4.58	5.08	−0.5	4.87	5.18	−0.31	4.52	5.03	−0.51
	28	学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる。	4.13	5.08	−0.95	4.13	5.41	−1.28	4.46	5.16	−0.7	3.83	4.98	−1.15	4.29	4.96	−0.67	3.77	4.68	−0.91
	29	資料・情報について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職員・サービス	30	貸出期間・冊数が十分である。	4.94	5.57	−0.63	5.13	5.80	−0.67	4.52	5.30	−0.78	4.76	5.48	−0.72	5.14	5.59	−0.45	4.94	5.55	−0.61
	31	図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。	5.17	5.39	−0.22	5.31	5.68	−0.37	4.87	5.21	−0.34	5.07	5.33	−0.26	5.31	5.42	−0.11	4.74	4.74	0.00
	32	カウンターサービスはスムーズである。	5.62	5.56	+0.06	5.50	5.71	−0.21	5.26	5.42	−0.16	5.79	5.65	+0.14	5.76	5.52	+0.24	5.00	5.06	−0.06
	33	職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。	5.10	5.17	−0.07	5.31	5.53	−0.22	4.83	5.02	−0.19	5.08	5.15	−0.07	5.15	5.11	+0.04	4.65	4.71	−0.06
	34	職員の対応は丁寧・親切である。	5.52	5.49	+0.03	5.47	5.69	−0.22	5.46	5.54	−0.08	5.48	5.45	+0.03	5.62	5.45	+0.17	5.03	4.94	+0.09
	35	プライバシーが保護されていて安心できる。	5.06	5.10	−0.04	5.16	5.25	−0.09	4.81	5.18	−0.37	5.11	5.06	+0.05	5.15	5.08	+0.07	4.77	4.81	−0.04
	36	利用者の意見を反映する制度が整っている。	4.56	4.87	−0.31	4.59	5.16	−0.57	4.28	4.67	−0.39	4.48	4.87	−0.39	4.69	4.83	−0.14	4.71	4.58	+0.13
	37	研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。	4.36	4.26	+0.1	4.76	4.68	+0.08	4.57	4.81	−0.24	4.10	4.06	+0.04	4.33	4.13	+0.2	3.23	2.97	+0.26
	38	図書館の機関リポジトリ（TOUR)によって、本学の研究成果を十分に発信している。	4.19	4.35	−0.16	4.48	4.80	−0.32	4.25	4.45	−0.2	3.98	4.18	−0.2	4.23	4.31	−0.08	3.55	3.45	+0.1
	39	グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている。	4.05	4.34	−0.29	4.74	4.82	−0.08	3.83	4.33	−0.5	3.86	4.28	−0.42	4.05	4.27	−0.22	3.16	3.52	−0.36
	40	展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である。	4.05	4.17	−0.12	4.69	4.73	−0.04	4.19	4.48	−0.29	3.75	4.05	−0.3	4.02	3.99	+0.03	3.48	3.52	−0.04
	41	職員・サービスについて，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	42	図書館についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

利用者アンケート2015　集計結果（教職員）

			全館			本館			医学分館			北青葉山分館			工学分館			農学分館		
	No.	質問項目	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP	評価	期待	GAP
利用者情報	1-5	身分，所属など，利用者に関する質問	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
施設・設備	6	開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。	5.66	5.87	−0.21	5.52	6.00	−0.48	5.69	5.69	0.00	5.77	5.81	−0.04	5.81	6.24	−0.43	6.00	6.00	0.00
	7	座席数は十分である。	5.52	5.49	+0.03	5.32	5.50	−0.18	5.31	5.66	−0.35	5.68	5.48	+0.2	5.81	5.86	−0.05	6.00	6.00	0.00
	8	グループで学習・研究できるスペースが整っている。	4.51	4.53	−0.02	5.11	4.71	+0.4	3.86	4.55	−0.69	4.19	4.48	−0.29	4.76	4.95	−0.19	6.00	6.00	0.00
	9	静かに学習・研究できるスペースが整っている。	5.48	5.55	−0.07	5.27	5.58	−0.31	5.52	5.62	−0.1	5.77	5.74	+0.03	5.67	5.86	−0.19	6.00	6.00	0.00
	10	イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。	3.97	4.08	−0.11	4.76	4.68	+0.08	3.45	4.07	−0.62	3.52	3.65	−0.13	4.19	4.48	−0.29	4.00	4.00	0.00
	11	資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。	4.56	5.16	−0.6	4.70	5.41	−0.71	4.41	4.72	−0.31	4.47	5.07	−0.6	4.43	5.10	−0.67	5.00	5.00	0.00
	12	館内の案内・掲示が分かりやすい。	4.74	5.28	−0.54	4.88	5.35	−0.47	4.31	5.00	−0.69	4.67	5.23	−0.56	4.67	5.48	−0.81	6.00	6.00	0.00
	13	災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい。	4.70	5.09	−0.39	4.76	5.15	−0.39	4.31	5.17	−0.86	4.80	5.03	−0.23	4.81	5.19	−0.38	5.00	5.00	0.00
	14	施設はバリアフリーである。	4.63	4.79	−0.16	4.82	5.05	−0.23	4.17	5.03	−0.86	4.50	4.53	−0.03	4.52	4.52	0.00	4.00	4.00	0.00
	15	必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。	4.44	4.58	−0.14	4.89	4.83	+0.06	4.21	4.69	−0.48	3.80	4.37	−0.57	4.52	4.71	−0.19	5.00	5.00	0.00
	16	館内は安全である。	5.32	5.57	−0.25	5.27	5.73	−0.46	4.86	5.38	−0.52	5.53	5.60	−0.07	5.62	5.57	+0.05	5.00	5.00	0.00
	17	照明・空調などの設備・環境が整っている。	5.03	5.47	−0.44	5.09	5.61	−0.52	4.62	5.21	−0.59	4.77	5.27	−0.5	5.19	5.86	−0.67	6.00	6.00	0.00
	18	図書館は快適で，居心地がよい。	5.21	5.79	−0.58	5.44	6.05	−0.61	4.83	5.66	−0.83	5.10	5.63	−0.53	5.43	6.19	−0.76	6.00	6.00	0.00
	19	施設・設備について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
資料・情報	20	学習・研究に十分な図書が備えられている。	5.02	5.77	−0.75	5.14	5.85	−0.71	4.79	5.59	−0.8	4.97	5.93	−0.96	5.29	6.05	−0.76	5.00	5.00	0.00
	21	学習・研究に十分な雑誌が備えられている。	5.01	5.72	−0.71	5.03	5.80	−0.77	5.00	5.24	−0.24	5.00	5.93	−0.93	4.95	5.95	−1.	5.00	5.00	0.00
	22	必要な資料を自力で見つけられる。	5.33	5.71	−0.38	5.43	5.83	−0.4	5.07	5.45	−0.38	5.40	5.67	−0.27	5.24	5.43	−0.19	6.00	6.00	0.00
	23	館内の資料の配置や並びが分かりやすい。	5.02	5.52	−0.5	4.97	5.60	−0.63	4.83	5.21	−0.38	5.10	5.57	−0.47	5.05	5.43	−0.38	6.00	6.00	0.00
	24	所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。	5.21	5.57	−0.36	5.12	5.58	−0.46	5.24	5.59	−0.35	5.10	5.17	−0.07	5.05	5.76	−0.71	4.00	4.00	0.00
	25	学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。	5.02	5.61	−0.59	4.88	5.46	−0.58	5.03	5.34	−0.31	5.03	6.03	−1.	4.95	5.52	−0.57	4.00	4.00	0.00
	26	学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。	4.42	4.83	−0.41	4.54	4.89	−0.35	4.62	4.93	−0.31	4.27	4.83	−0.56	4.33	5.00	−0.67	4.00	4.00	0.00
	27	学習・研究に十分なデータベースが備えられている。	4.97	5.41	−0.44	4.86	5.49	−0.63	4.86	5.21	−0.35	5.13	5.57	−0.44	4.90	5.24	−0.34	4.00	4.00	0.00
	28	学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる。	4.53	5.16	−0.63	4.57	5.23	−0.66	4.90	5.07	−0.17	4.30	5.33	−1.03	4.62	5.19	−0.57	4.00	4.00	0.00
	29	資料・情報について，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
職員・サービス	30	貸出期間・冊数が十分である。	5.32	5.55	−0.23	5.36	5.61	−0.25	5.10	5.45	−0.35	5.23	5.53	−0.3	5.43	5.81	−0.38	5.00	5.00	0.00
	31	図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。	5.21	5.57	−0.36	5.11	5.69	−0.58	5.03	5.41	−0.38	5.23	5.53	−0.3	5.33	5.52	−0.19	4.00	4.00	0.00
	32	カウンターサービスはスムーズである。	5.54	5.73	−0.19	5.33	5.67	−0.34	5.72	5.83	−0.11	5.57	5.53	+0.04	5.43	5.62	−0.19	6.00	6.00	0.00
	33	職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。	5.24	5.51	−0.27	5.09	5.69	−0.6	5.41	5.48	−0.07	5.30	5.37	−0.07	5.19	5.24	−0.05	5.00	5.00	0.00
	34	職員の対応は丁寧・親切である。	5.66	5.69	−0.03	5.47	5.56	−0.09	5.69	5.79	−0.1	5.70	5.57	+0.13	5.43	5.57	−0.14	6.00	6.00	0.00
	35	プライバシーが保護されていて安心できる。	5.21	5.32	−0.11	5.23	5.58	−0.35	5.34	5.38	−0.04	5.13	5.37	−0.24	5.14	5.14	0.00	4.00	4.00	0.00
	36	利用者の意見を反映する制度が整っている。	4.69	5.09	−0.4	4.81	5.14	−0.33	4.62	4.86	−0.24	4.47	5.10	−0.63	4.76	5.48	−0.72	4.00	4.00	0.00
	37	研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。	4.79	4.73	+0.06	4.94	4.78	+0.16	5.00	4.97	+0.03	4.43	4.67	−0.24	4.52	4.48	+0.04	4.00	4.00	0.00
	38	図書館の機関リポジトリ（TOUR）によって、本学の研究成果を十分に発信している。	4.51	4.65	−0.14	4.63	4.97	−0.34	4.66	4.90	−0.24	4.67	4.60	+0.07	4.29	4.33	−0.04	4.00	4.00	0.00
	39	グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている。	4.50	4.75	−0.25	4.86	5.02	−0.16	4.45	4.62	−0.17	4.13	4.60	−0.47	4.48	4.95	−0.47	4.00	4.00	0.00
	40	展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である。	4.40	4.53	−0.13	4.84	4.91	−0.07	4.48	4.83	−0.35	4.13	4.10	+0.03	3.95	4.00	−0.05	4.00	4.00	0.00
	41	職員・サービスについて，お気づきの点があれば自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	42	図書館についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。（自由記述）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

利用者アンケート 2015　集計結果

4.1.1　【全館／全身分】

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
(6.0)					
かなり高い (5.5)				開館日・開館時間 静かに学習 *<u>カウンターサービス</u>*	
やや高い (5.0)			館内は安全 ホームページ 職員の質問対応 *<u>職員の対応</u>* プライバシー保護	快適・居心地 **十分な図書** 十分な雑誌 資料の自力発見 貸出期間・冊数	
中 (4.0)		グループ学習スペース 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー パソコン 電子ブック 学外アクセス 意見反映 *<u>講習会</u>* リポジトリ グローバル対応 展示会・イベント	座席数 資料保管スペース 文献取寄せ 電子ジャーナル データベース	**照明・空調** 分かり易い配置	
低	*<u>イベントスペース</u>*				

・下線イタリックは、実態評価が期待度と同等以上の事項

・太字は、ギャップが大きい事項

4.1.2 【全館／学部生】

[実態値]

かなり高い	6.0				開館日・開館時間 静かに学習 *カウンターサービス*	
やや高い	5.5			*資料保管スペース* 十分な雑誌 ホームページ 職員の質問対応 職員の対応 プライバシー保護	館内安全 快適・居心地 十分な図書 資料の自力発見 分かり易い配置 貸出期間・冊数	
中	5.0		*グループ学習スペース* *イベントスペース* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 文献取寄せ 電子ジャーナル 電子ブック データベース 学外アクセス 意見反映 *講習会* リポジトリ グローバル対応 展示会・イベント	**座席数** パソコン	**証明・空調**	
低	4.0					
			4.0	5.0	5.5	6.0
		低	中	やや高	かなり高い	[期待値]

4.1.3 【全館／大学院生】

[実態値]

実態値 ＼ 期待値	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
6.0–					
かなり高い (5.5–6.0)			*<u>職員の対応</u>*	開館日・開館時間 *<u>カウンターサービス</u>*	
やや高い (5.0–5.5)			座席数 館内安全 ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護	静かに学習 快適・居心地 **十分な図書** 十分な雑誌 資料の自力発見	
中 (4.0–5.0)		*<u>グループ学習スペース</u>* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー パソコン 電子ブック 意見反映 *<u>講習会</u>* リポジトリ グローバル対応 展示会・イベント	資料保管スペース **証明・空調** 文献取寄せ **電子ジャーナル** データベース **学外アクセス**	分かり易い配置 貸出期間・冊数	
低 (–4.0)	*<u>イベントスペース</u>*				

[期待値]

4.1.4 【全館／教職員】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中（4.0〜5.0）	やや高（5.0〜5.5）	かなり高い（5.5〜6.0）	（6.0〜）
（6.0〜）					
かなり高い（5.5〜6.0）			*座席数*	開館日・開館時間 ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ 職員の対応	
やや高い（5.0〜5.5）			証明・空調 プライバシー保護	静かに学習 館内安 快適・居心地 **十分な図書** **十分な雑誌** 資料の自力発見 分かり易い配置 文献取寄せ 電子ジャーナル 貸出期間・冊数 ホームページ 職員の質問対応	
中（4.0〜5.0）		ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ 施設バリアフリー パソコン 電子ブック *講習会* リポジトリ グローバル対応 展示会・イベント	資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 データベース 学外アクセス 意見反映		
低		イベントスペース			

[期待値]

4.2.1　【本館／全身分】

[実態値]

実態値		低	中	やや高	かなり高い	
	6.0					
かなり高い	5.5				開館日・開館時間 静かに学習 館内安全 快適・居心地 ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ 職員の対応	
やや高い	5.0		*グローバル対応*	*資料保管スペース* パソコン ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護	**十分な図書** 十分な雑誌 資料の自力発見 分かり易い配置 貸出期間・冊数	
中	4.0		*ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ* *イベンスペース* 避難経路 施設バリアフリー 電子ブック 学外アクセス *講習会* リポジトリ 展示会・イベント	**座席数** 案内・掲示 文献取寄せ 電子ジャーナル データベース 意見反映	**証明・空調**	
低						
			4.0	5.0	5.5	6.0
		低	中	やや高	かなり高い	[期待値]

4.2.2【本館／学部生】

[実態値]

	低	中	やや高	かなり高い	
6.0					
かなり高い 5.5				開館日・開館時間 静かに学習 館内安全 ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ 職員の対応	
やや高い 5.0		*ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ* *講習会*	*資料保管スペース* パソコン 十分な雑誌 ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護 *グローバル対応*	快適・居心地 十分な図書 資料の自力発見 分かり易い配置 貸出期間・冊数	
中 4.0		*イベントスペース* 避難経路 施設バリアフリー 文献取寄せ 電子ジャーナル 電子ブック 学外アクセス *リポジトリ* *展示会・イベント*	**座席数** 案内・掲示 データベース 意見反映	**証明・空調**	
低					
		4.0	5.0	5.5	6.0

[期待値]

4.2.3【本館／大学院生】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	4.0 中	5.0 やや高	5.5 かなり高い	6.0
6.0					
かなり高い 5.5				快適・居心地 資料の自力発見 ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ	開館日・開館時間
やや高い 5.0		*<u>パソコン</u>*	座席数 資料保管スペース プライバシー保護	静かに学習 館内安全 **照明・空調** 貸出期間・冊数 ホームページ 職員の質問対応 職員の対応	
中 4.0		*<u>ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ</u>* *<u>イベントスペース</u>* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 電子ブック *<u>講習会</u>* リポジトリ グローバル対応 展示会・イベント	**データベース** **学外アクセス** 意見反映	**十分な雑誌** **分かり易い配置** 文献取寄せ **電子ジャーナル**	**十分な図書**
低					

[期待値]

4.2.4【本館／教職員】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
(6.0以上)					
かなり高い (5.5–6.0)					開館日・時間
やや高い (5.0–5.5)		*グループ学習スペース*	文献取寄せ	座席数 静かに学習 館内安全 証明・空調 **十分な図書** **十分な雑誌** 資料の自力発見 貸出期間・冊数 ホームページ カウンターサービス 職員の質問対応 職員の対応 プライバシー保護	快適・居心地
中 (4.0–5.0)		*イベントスペース* *パソコン* 電子ブック *講習会* リポジトリ 展示会・ イベント	**資料保管スペース** 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 電子ジャーナル データベース 学外アクセス 意見反映 グローバル対応	分かり易い配置	
低					

[期待値]

4.3.1 【医学分館／全身分】

[実態値]

実態値 ＼ 期待値	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
6.0					
かなり高い (5.5)				開館日・開館時間	
やや高い (5.0)			館内は安全 カウンターサービス 職員の質問対応	静かに学習 十分な図書 十分な雑誌 資料の自力発見 職員の対応	
中 (4.0)		資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 パソコン 文献取寄せ 電子ブック 学外アクセス 意見反映 講習会 リポジトリ 展示等	**照明・空調** 分かり易い配置 電子ジャーナル データベース 貸出期間・冊数 ホームページ プライバシー保護	座席数 **快適・居心地**	
低	グループ学習スペース イベントスペース	施設バリアフリー グローバル対応			

[期待値]

4.3.2【医学分館／学部生】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0–5.0)	やや高 (5.0–5.5)	かなり高い (5.5–6.0)	(6.0–)
(6.0–)					
かなり高い (5.5–6.0)			*カウンターサービス*	開館日・開館時間 静かに学習 *十分な雑誌*	十分な図書
やや高い (5.0–5.5)			*資料保管スペース* 館内は安全 電子ジャーナル *職員の質問対応* *職員の対応* プライバシー保護	資料の自力発見 分かり易い配置	
中 (4.0–5.0)		案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 文献取寄せ 電子ブック データベース 学外アクセス ホームページ 意見反映 講習会 *展示等*	座席数 パソコン 貸出期間・冊数	**快適・居心地**	
低	**グループ学習スペース** イベントスペース リポジトリ グローバル対応			**照明・空調**	

[期待値]

4.3.3【医学分館／大学院生】

[実態値]

	6.0					
かなり高い	5.5				開館日・開館時間	
やや高い	5.0			カウンターサービス	座席数 静かに学習 職員の対応	
中	4.0		資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 パソコン 電子ブック 意見反映 講習会 リポジトリ 展示等	館内は安全 資料の自力発見 分かり易い配置 文献取寄せ データベース 学外アクセス 貸出期間・冊数 ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護	照明・空調 快適・居心地 十分な図書 十分な雑誌 電子ジャーナル	
低		グループ学習スペース イベントスペース	施設バリアフリー グローバル対応			
			4.0	5.0	5.5	6.0
		低	中	やや高	かなり高い	[期待値]

4.3.4【医学分館／教職員】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
(6.0)					
かなり高い (5.5–6.0)				*開館日・開館時間* 静かに学習 カウンターサービス 職員の対応	
やや高い (5.0–5.5)		*講習会*	十分な雑誌 資料の自力発見 電子ジャーナル 貸出期間・冊数 ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護	座席数	
中 (4.0–5.0)		資料保管スペース パソコン 電子ブック 意見反映 リポジトリ グローバル対応 展示会等	案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 館内は安全 照明・空調 分かり易い配置 データベース 学外アクセス	快適・居心地 十分な図書 文献取寄せ	
低		グループ学習スペース イベントスペース			

4.0　5.0　5.5　6.0

低　中　やや高　かなり高い　[期待値]

4. 4. 1【北青葉山分館／全身分】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中（4.0–5.0）	やや高（5.0–5.5）	かなり高い（5.5–6.0）	6.0–
6.0–					
かなり高い（5.5–6.0）			*<u>座席数</u>*	静かに学習 *<u>ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ</u>*	
やや高い（5.0–5.5）			館内は安全 ホームページ 職員の質問対応 *<u>プライバシー保護</u>* *<u>職員の対応</u>*	開館日・開館時間 快適・居心地 **十分な図書** 十分な雑誌 資料の自力発見 分かり易い配置	
中（4.0–5.0）		資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 文献取寄せ 電子ブック 意見反映 講習会 リポジトリ	**照明・空調** 電子ジャーナル データベース	**貸出期間・冊数**	
低（–4.0）	イベントスペース 展示等	ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ パソコン **学外アクセス** グローバル対応			

4.0　5.0　5.5　6.0

低　中　やや高　かなり高い　[期待値]

4.4.2 【北青葉山分館／学部生】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
6.0					
かなり高い (5.5–6.0)			*座席数* *ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ*	*静かに学習*	
やや高い (5.0–5.5)		*資料保管スペース* *職員の質問対応*	*館内は安全* 十分な雑誌 ホームページ *職員の対応*	開館日・開館時間 快適・居心地 資料の自力発見 分かり易い配置	**十分な図書**
中 (4.0–5.0)		案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー *文献取寄せ* 電子ジャーナル 電子ブック データベース *プライバシー保護* 意見反映	**照明・空調**	**貸出期間・冊数**	
低 (4.0未満)	イベントスペース 講習会 リポジトリ 展示等	ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ パソコン 学外アクセス グローバル対応			

4.0 5.0 5.5 6.0

低 中 やや高 かなり高い [期待値]

4.4.3　北青葉山分館（大学院生）

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低（〜4.0）	中（4.0〜5.0）	やや高（5.0〜5.5）	かなり高い（5.5〜6.0）	（6.0〜）
（6.0〜）					
かなり高い（5.5〜6.0）				*座席数* 静かに学習 *ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ*	
やや高い（5.0〜5.5）			館内は安全 ホームページ 職員の質問対応 *職員の対応* *プライバシー保護*	開館日・開館時間 快適・居心地 **十分な図書** 十分な雑誌 資料の自力発見 分かり易い配置	
中（4.0〜5.0）		資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー 文献取寄せ 電子ブック 意見反映 *講習会*	**照明・空調** **電子ジャーナル** データベース **貸出期間・冊数**		
低（〜4.0）	ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ *イベントスペース*	パソコン **学外アクセス** リポジトリ グローバル対応 展示等			

[期待値]

4.4.4【北青葉山分館／教職員】

[実態値]

	低	中	やや高	かなり高い	
6.0					
かなり高い 5.5			<u>*座席数*</u>	開館日・開館時間 <u>*静かに学習*</u> 館内は安全 <u>*ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ*</u> <u>*職員の対応*</u>	
やや高い 5.0			文献取寄せ 職員の質問対応 プライバシー保護	快適・居心地 **十分な雑誌** 資料の自力発見 分かり易い配置 データベース 貸出期間・冊数 ホームページ	**電子ジャーナル**
中 4.0		ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ 施設バリアフリー 電子ブック 講習会 <u>*リポジトリ*</u> グローバル対応 <u>*展示等*</u>	資料保管スペース 案内・掲示 避難経路 照明・空調 **学外アクセス** 意見反映	**十分な図書**	
低	イベントスペース	パソコン			
		4.0	5.0	5.5	6.0

[期待値]

4.5.1　【工学分館／全身分】

[実態値]

実態値 ＼ 期待値	低	中 (4.0–5.0)	やや高 (5.0–5.5)	かなり高い (5.5–6.0)	(6.0–)
(6.0–)					
かなり高い (5.5–6.0)				静かに学習 *カウンターサービス*	
やや高い (5.0–5.5)			*資料保管スペース* *館内は安全* ホームページ *職員の質問対応* 職員の対応 *プライバシー保護*	開館日・開館時間 十分な雑誌 資料の自力発見 分かり易い配置 貸出期間・冊数	十分な図書
中 (4.0–5.0)		*グループ学習スペース* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー パソコン 電子ブック 学外アクセス 意見反映 *講習会* リポジトリ グローバル対応	座席数 文献取寄せ 電子ジャーナル データベース	**照明・空調** **快適・居心地**	
低 (–4.0)	*イベントスペース* 展示等				

[期待値]

4.5.2. 【工学分館／学部生】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中（4.0–5.0）	やや高（5.0–5.5）	かなり高い（5.5–6.0）	6.0–
6.0–					
かなり高い（5.5–6.0）			静かに学習	*ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ*	
やや高い（5.0–5.5）			*資料保管スペース* *館内は安全* ホームページ 職員の質問対応 *職員の対応* プライバシー保護	開館日・開館時間 十分な図書 資料の自力発見 分かり易い配置 貸出期間・冊数	
中（4.0–5.0）		*ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー **パソコン** 文献取寄せ 電子ジャーナル 電子ブック データベース 学外アクセス 意見反映 講習会 *リポジトリ* グローバル対応	**座席数** **照明・空調** 十分な雑誌	**快適・居心地**	
低（–4.0）	*イベントスペース* 展示等				

[期待値]

4.5.3. 【工学分館／大学院生】

[実態値] ＼ [期待値]

[実態値]	低 (〜4.0)	中 (4.0〜5.0)	やや高 (5.0〜5.5)	かなり高い (5.5〜6.0)	(6.0〜)
(6.0〜)					
かなり高い (5.5〜6.0)			*職員の対応*	*ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ*	
やや高い (5.0〜5.5)			座席数 *資料保管スペース* *館内は安全* 文献取寄せ 電子ジャーナル ホームページ *職員の質問対応* *プライバシー保護*	開館日・開館時間 *静かに学習* **快適・居心地** 十分な雑誌 資料の自力発見 貸出期間・冊数	**十分な図書**
中 (4.0〜5.0)	展示等	*ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ* 案内・掲示 避難経路 施設バリアフリー パソコン 電子ブック 学外アクセス 意見反映 *講習会* *リポジトリ* グローバル対応	データベース	**照明・空調** 分かり易い配置	
低 (〜4.0)	*イベントスペース*				

4.5.4.　【工学分館／教職員】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中（4.0〜）	やや高（5.0〜）	かなり高い（5.5〜）	（6.0〜）
（6.0〜）					
かなり高い（5.5〜6.0）			*館内は安全*	静かに学習	開館日・開館時間
やや高い（5.0〜5.5）			*職員の質問対応* *プライバシー保護*	*座席数* 照明・空調 資料の自力発見 分かり易い配置 **文献取寄せ** 貸出期間・冊数 ホームページ *ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ* 職員の対応	**十分な図書**
中（4.0〜5.0）	イベントスペース	ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習ｽﾍﾟｰｽ *施設バリアフリー* パソコン *講習会* *リポジトリ* グローバル対応	*資料保管スペース* **案内・掲示** 避難経路 電子ブック データベース 学外アクセス **意見反映**	**十分な雑誌** 電子ジャーナル	**快適・居心地**
低（〜4.0）		*展示等*			

[期待値]

4. 6. 1【農学分館／全身分】

[実態値] ＼ [期待値]	低（〜4.0）	中（4.0〜5.0）	やや高（5.0〜5.5）	かなり高い（5.5〜6.0）	（6.0〜）
（6.0〜）					
かなり高い（5.5〜6.0）				開館日・開館時間	
やや高い（5.0〜5.5）			ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ	資料の自力発見 分かり易い配置	
中（4.0〜5.0）		資料保管スペース 館内の案内 避難経路 *館内は安全* **データベース** ホームページ 職員の質問対応 プライバシー保護 利用者の意見	**静かに学習** 快適・居心地 文献取り寄せ **電子ジャーナル** **貸出期間・冊数** 職員の対応	**十分な図書** **十分な雑誌**	
低（〜4.0）	**グループ学習** イベントスペース *バリアフリー* パソコン 講習会 機関リポジトリ グローバル化対応 展示会・イベント	**照明・空調** **電子ブック** **学外利用**	**座席数**		

4.6.2【農学分館／学部生】

[実態値]

実態値＼期待値	低	中（4.0〜）	やや高（5.0〜）	かなり高い（5.5〜）	（6.0〜）
6.0〜					
かなり高い（5.5〜6.0）				開館日・開館時間	
やや高い（5.0〜5.5）			館内は安全 分かり易い配置 ホームページ ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ	**十分な図書** 資料の自力発見	
中（4.0〜5.0）		資料保管スペース 避難経路 快適・居心地 文献取り寄せ データベース **学外利用** 職員の質問対応 プライバシー保護 利用者の意見	静かに学習 **十分な雑誌** 電子ジャーナル 貸出期間・冊数 職員の対応		
低（〜4.0）	イベントスペース バリアフリー 講習会 機関リポジトリ グローバル化対応 展示会・イベント	**座席数** **グループ学習** 館内の案内 パソコン **照明・空調** 電子ブック			

[期待値]

4.6.3【農学分館／大学院生】

[実態値]

[実態値] ＼ [期待値]	低	中 (4.0)	やや高 (5.0)	かなり高い (5.5)	(6.0)
6.0					
かなり高い (5.5)			*開館日・開館時間*	資料の自力発見	
やや高い (5.0)		*職員の対応*	**文献取り寄せ** ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ	分かり易い配置 電子ジャーナル	
中 (4.0)		資料保管スペース *館内の案内* *避難経路* *館内は安全* 電子ブック *ホームページ* 職員の質問対応 プライバシー保護 *利用者の意見*	座席数 静かに学習 **快適・居心地** データベース	**十分な図書** **十分な雑誌** 貸出期間・冊数	
低	グループ学習 イベントスペース *バリアフリー* パソコン *講習会* *機関リポジトリ* グローバル化対応 展示会・イベント	**照明・空調** **学外利用**			

[期待値]

4.6.4【農学分館／教職員】

[実態値] ＼ [期待値]	低	中（4.0）	やや高（5.0）	かなり高い（5.5）	（6.0）
（6.0）					開館日・開館時間 座席数 グループ学習 静かに学習 館内の案内 照明・空調 快適・居心地 資料の自力発見 分かり易い配置 ｶｳﾝﾀｰｻｰﾋﾞｽ 職員の対応
かなり高い（5.5）					
やや高い（5.0）			資料保管スペース 避難経路 パソコン 館内は安全 十分な図書 十分な雑誌 貸出期間・冊数 職員の質問対応		
中（4.0）		イベントスペース バリアフリー 文献取り寄せ 電子ジャーナル 電子ブック データベース 学外利用 ホームページ プライバシー保護 利用者の意見 講習会 機関リポジトリ グローバル化対応 展示会・イベント			
低					

東北大学附属図書館　利用者アンケート　2015

このアンケートは、附属図書館自己点検評価委員会が行うもので、利用者評価の把握以外の目的には使用いたしません。また、アンケート集計の際は所属と身分のみ用い、氏名等の個人情報は使用いたしません。集計結果は自己点検評価報告書の中で公表する予定です。

回答時間は10分程度ですので、ぜひご協力ください。

本アンケートにご回答いただいた方全員に図書館オリジナルクリアファイルを、また抽選で記念品を差し上げます。抽選での記念品をご希望の方は、MyLibraryに正しいメールアドレスが登録されていることを確認してください。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。
なお、学籍番号／身分証番号と氏名は、当選者への連絡のみに使用いたします。

対象：本学の構成員（学生，教職員）のみ
期間：2015年10月31日（土）まで

---

1. 利用者について

[1]
身分（利用者区分）を選択してください。（必須）

- 教員
- 職員
- 学部学生（学部研究生を含む）
- 大学院生（大学院研究生を含む）
- その他（科目等履修生、聴講生ほか）

[2]
所属を選択してください。（必須）

- 文学部・文学研究科
- 法学部・法学研究科
- 理学部・理学研究科
- 歯学部・歯学研究科
- 工学部・工学系研究科
- 国際文化研究科
- 生命科学研究科
- 医工学研究科
- 病院
- その他の研究施設・組織・機構等（本部事務機構，技術部ほか）
- 教育学部・教育学研究科
- 経済学部・経済学研究科
- 医学部・医学系研究科
- 薬学部・薬学研究科
- 農学部・農学研究科
- 情報科学研究科
- 環境科学研究科
- 教育情報学教育部・研究部
- 附置研究所，学内共同教育研究施設等

[3]
抽選での記念品をご希望の方は，職員番号または学籍番号，氏名を入力してください。抽選結果は，MyLibraryに登録されているメールアドレスにお知らせします。
（記入例：B5xx9999／東北太郎）

[4]
はじめに，どの図書館について回答するかを選んでください。
※複数の図書館について回答する場合は，再度アクセスして別にご回答ください。（必須）

- 本館
- 工学分館
- 医学分館
- 農学分館
- 北青葉山分館
- 部局図書室

[5]
あなたは，[4]で選択した図書館（室）をどの程度利用していますか。（必須）

- ほぼ毎日
- 週に1～2回
- 月に1～2回
- 年に数回
- ほとんど利用しない

リセット　　次へ▶　　後で回答

調査票編集に戻る

東北大学附属図書館　利用者アンケート　2015

このアンケートは、附属図書館自己点検評価委員会が行うもので、利用者評価の把握以外の目的には使用いたしません。また、アンケート集計の際は所属と身分のみ用い、氏名等の個人情報は使用いたしません。集計結果は自己点検評価報告書の中で公表する予定です。

回答時間は10分程度ですので、ぜひご協力ください。

本アンケートにご回答いただいた方全員に図書館オリジナルクリアファイルを、また抽選で記念品を差し上げます。抽選での記念品をご希望の方は、MyLibraryに正しいメールアドレスが登録されていることを確認してください。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。
なお、学籍番号／身分証番号と氏名は、当選者への連絡のみに使用いたします。

対象：本学の構成員（学生，教職員）のみ
期間：2015年10月31日（土）まで

◆[4]で選択した図書館について、「実態」を評価してください。受けたサービスの質が高いものが高得点になるよう7段階で評価し、あなたの実感に相当するレベルを選択してください。

◆[4]で選択した図書館について、「期待度」を示してください。期待する程度が高いものほど高得点になるよう、7段階のレベルから選択してください。

2．施設・設備について

[6]
開館日・開館時間が適切で，利用しやすい。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[7]
座席数は十分である。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[8]
グループで学習・研究できるスペースが整っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[9]
静かに学習・研究できるスペースが整っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[10]
イベントや授業などの多様な活動に利用できるスペースが整っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[11]
資料を保管するためのスペースが十分に確保されている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[12]
館内の案内・掲示が分かりやすい。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[13]
災害など緊急時の避難経路や非常口が分かりやすい。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[14]
施設はバリアフリーである。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[15]
必要な機能を備えたパソコンや貸出ノートパソコンが十分に用意されている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[16]
館内は安全である。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[17]
照明・空調などの設備・環境が整っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[18]
図書館は快適で，居心地がよい。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[19]
施設・設備について，お気づきの点があれば自由にお書きください。

◀前へ　リセット　次へ▶　後で再回答

調査票編集に戻る

東北大学附属図書館　利用者アンケート　2015

このアンケートは、附属図書館自己点検評価委員会が行うもので、利用者評価の把握以外の目的には使用いたしません。また、アンケート集計の際は所属と身分のみ用い、氏名等の個人情報は使用いたしません。集計結果は自己点検評価報告書の中で公表する予定です。

回答時間は10分程度ですので、ぜひご協力ください。

本アンケートにご回答いただいた方全員に図書館オリジナルクリアファイルを、また抽選で記念品を差し上げます。抽選での記念品をご希望の方は、MyLibraryに正しいメールアドレスが登録されていることを確認してください。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。
なお、学籍番号／身分証番号と氏名は、当選者への連絡のみに使用いたします。

対象：本学の構成員（学生，教職員）のみ
期間：2015年10月31日（土）まで

◆[4]で選択した図書館について、「実態」を評価してください。受けたサービスの質が高いものが高得点になるよう7段階で評価し、あなたの実感に相当するレベルを選択してください。

◆[4]で選択した図書館について、「期待度」を示してください。期待する程度が高いものほど高得点になるよう、7段階のレベルから選択してください。

3．資料・情報について

[20]
学習・研究に十分な図書が備えられている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[21]
学習・研究に十分な雑誌が備えられている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[22]
必要な資料を自力で見つけられる。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[23]
館内の資料の配置や並びが分かりやすい。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[24]
所蔵していない文献を迅速に取り寄せることができる。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[25]
学習・研究に十分な電子ジャーナルが備えられている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[26]
学習・研究に十分な電子ブックが備えられている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[27]
学習・研究に十分なデータベースが備えられている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[28]
学外から電子ジャーナル・電子ブック・データベースを利用できる。(必須)

実態評価／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い
期待度／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い

[29]
資料・情報について，お気づきの点があれば自由にお書きください。

◀前へ　リセット　次へ▶　後で再回答

調査票編集に戻る

東北大学附属図書館　利用者アンケート　2015

このアンケートは、附属図書館自己点検評価委員会が行うもので、利用者評価の把握以外の目的には使用いたしません。また、アンケート集計の際は所属と身分のみ用い、氏名等の個人情報は使用いたしません。集計結果は自己点検評価報告書の中で公表する予定です。

回答時間は10分程度ですので、ぜひご協力ください。

本アンケートにご回答いただいた方全員に図書館オリジナルクリアファイルを、また抽選で記念品を差し上げます。抽選での記念品をご希望の方は、MyLibraryに正しいメールアドレスが登録されていることを確認してください。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。
なお、学籍番号／身分証番号と氏名は、当選者への連絡のみに使用いたします。

対象：本学の構成員（学生，教職員）のみ
期間：2015年10月31日（土）まで

◆[4]で選択した図書館について、「実態」を評価してください。受けたサービスの質が高いものが高得点になるよう7段階で評価し、あなたの実感に相当するレベルを選択してください。

◆[4]で選択した図書館について、「期待度」を示してください。期待する程度が高いものほど高得点になるよう、7段階のレベルから選択してください。

4. 職員・サービスについて

[30]
貸出期間・冊数が十分である。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[31]
図書館のホームページから必要なサービスが受けられる。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[32]
カウンターサービスはスムーズである。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[33]
職員は質問に答えられる十分な知識を持っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[34]
職員の対応は丁寧・親切である。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[35]
プライバシーが保護されていて安心できる。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[36]
利用者の意見を反映する制度が整っている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[37]
研究・教育・学習を支援する講習会等が用意されている。（必須）

実態評価／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い
期待度／低い ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 高い

[38]
図書館の機関リポジトリ（TOUR)によって、本学の研究成果を十分に発信している。（必須）

実態評価／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い
期待度／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い

[39]
グローバル化に対応し、留学生や留学を目指す学生の語学学習や国際交流に役立つサービスが整っている。（必須）

実態評価／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い
期待度／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い

[40]
展示会や選書イベントなど、図書館の企画は魅力的である。（必須）

実態評価／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い
期待度／低い	○	○	○	○	○	○	○	高い

[41]
職員・サービスについて，お気づきの点があれば自由にお書きください。

◀前へ　　リセット　　次へ▶　　後で再回答

調査票編集に戻る

東北大学附属図書館　利用者アンケート　2015

このアンケートは、附属図書館自己点検評価委員会が行うもので、利用者評価の把握以外の目的には使用いたしません。また、アンケート集計の際は所属と身分のみ用い、氏名等の個人情報は使用いたしません。集計結果は自己点検評価報告書の中で公表する予定です。

回答時間は10分程度ですので、ぜひご協力ください。

本アンケートにご回答いただいた方全員に図書館オリジナルクリアファイルを、また抽選で記念品を差し上げます。抽選での記念品をご希望の方は、MyLibraryに正しいメールアドレスが登録されていることを確認してください。詳細については、図書館ホームページをご覧ください。
なお、学籍番号／身分証番号と氏名は、当選者への連絡のみに使用いたします。

対象：本学の構成員（学生，教職員）のみ
期間：2015年10月31日（土）まで

---

5. その他

[42]
図書館についてご意見・ご感想などを自由にお書きください。

前へ　リセット　完　了　後で再回答

調査票編集に戻る

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY User Questionnaire 2015

This survey is conducted by Tohoku University Library Self-Inspection and Evaluation Committee. Your personal information is not used for any purpose other than the survey. We analyze the questionnaire based on users' titles and affiliations; we do not use specified personal information such as your name. The result of the questionnaire will be published in Self-Inspection and Evaluation Report.

This questionnaire takes approximately 10 minutes to answer. We would really appreciate your cooperation.

We will give you an original clear folder made by Tohoku University Library if you answer the questionnaire. Moreover, you have a chance to win a commemorative prize. Please make sure that your e-mail address is correctly registered on MyLibrary. Please check the Library website for details.
Your student number or staff number and your name will be used only for contacting the prize winners.

Object persons: students and faculty members of Tohoku University
Survey period: until October 31st, 2015

---

1. About You

[1]
What is your title?(required)

- Teaching staff
- Office staff
- Undergraduate student (incl. undergraduate research student)
- Graduate student (incl. graduate research student)
- Others (nondegree students, special auditors etc.) ______

[2]
Which department do you belong to?(required)

- Graduate School/Faculty of Arts and Letters
- Graduate School/Faculty of Education
- Graduate School/Faculty of Law
- Graduate School of Economics and Management/Faculty of Economics
- Graduate School/Faculty of Science
- Graduate School/Faculty of Medicine
- Graduate School/Faculty of Dentistry
- Graduate School/Faculty of Pharmaceutical Sciences
- Graduate School/Faculty of Engineering
- Graduate School/Faculty of Agricultural Sciences
- Graduate School of International Cultural Studies
- Graduate School of Information Sciences
- Graduate School of Life Sciences
- Graduate School of Environmental Studies
- Graduate School of Biomedical Engineering
- Educational Informatics Education/Research Division
- University Hospital
- Research Institute, Inter-Department Institutes for Education and Research ______
- Others (Headquarters, Division of Engineering and Technical Staff, etc.)

[3]
Please enter your name and your student/staff No. if you apply for a prize. We will contact the prize winners at their e-mail addresses registered on MyLibrary.
(example: B5xx9999/John Smith)

______

[4]
Please select the Library which you are going to answer about.
*If you would like to answer about different libraries, please answer one questionnaire for each.(required)

- Main Library
- Medical Library
- Kita Aobayama Library
- Engineering Library
- Agricultural Library
- Department Libraries ______

[5]
How often do you use the Library?(required)

- Almost every day
- Once or twice a week
- Once or twice a month
- A few times a year
- Rarely

Reset Next ➤ Proceed later

調査票編集に戻る

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY User Questionnaire 2015

This survey is conducted by Tohoku University Library Self-Inspection and Evaluation Committee. Your personal information is not used for any purpose other than the survey. We analyze the questionnaire based on users' titles and affiliations; we do not use specified personal information such as your name. The result of the questionnaire will be published in Self-Inspection and Evaluation Report.

This questionnaire takes approximately 10 minutes to answer. We would really appreciate your cooperation.

We will give you an original clear folder made by Tohoku University Library if you answer the questionnaire. Moreover, you have a chance to win a commemorative prize. Please make sure that your e-mail address is correctly registered on MyLibrary. Please check the Library website for details.
Your student number or staff number and your name will be used only for contacting the prize winners.

Object persons: students and faculty members of Tohoku University
Survey period: until October 31st, 2015

◆In "Reality", please evaluate the actual condition of the Library which you selected in question 4.
◆In "Expectation", please rate your expectation about the element on the Library which you selected in question 4.

2. Facilities

[6]
Opening hours are convenient for you.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[7]
There are enough number of seats.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[8]
The Library is well equipped with spaces for group study.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[9]
The Library is well equipped with spaces to study quietly.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[10]
The Library is well equipped with spaces for various activities such as events and classes.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[11]
The Library has enough spaces to store materials.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[12]
Information signs in the Library are easy to understand.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[13]
Escape routes and emergency exits are easy to find.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[14]
The Library is barrier-free.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[15]
There are enough number of computers and free-rental laptops which have necessary functions.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[16]
The Library is free from danger.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[17]
Facilities for environment, such as lighting and air conditioner, are well equipped.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[18]
The Library is comfortable.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[19]
Do you have any comments about the facilities?

Previous　Reset　Next　Proceed later

調査票編集に戻る

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY User Questionnaire 2015

This survey is conducted by Tohoku University Library Self-Inspection and Evaluation Committee. Your personal information is not used for any purpose other than the survey. We analyze the questionnaire based on users' titles and affiliations; we do not use specified personal information such as your name. The result of the questionnaire will be published in Self-Inspection and Evaluation Report.

This questionnaire takes approximately 10 minutes to answer. We would really appreciate your cooperation.

We will give you an original clear folder made by Tohoku University Library if you answer the questionnaire. Moreover, you have a chance to win a commemorative prize. Please make sure that your e-mail address is correctly registered on MyLibrary. Please check the Library website for details.
Your student number or staff number and your name will be used only for contacting the prize winners.

Object persons: students and faculty members of Tohoku University
Survey period: until October 31st, 2015

◆In "Reality", please evaluate the actual condition of the Library which you selected in question 4.
◆In "Expectation", please rate your expectation about the element on the Library which you selected in question 4.

3. Materials and Information

[20]
There are enough number of books for study or research.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[21]
There are enough number of journals for study or research.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[22]
You can find materials you need by yourself.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[23]
Location of books in the Library is simple.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[24]
You can quickly order and get materials from other libraries.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[25]
The Library is equipped with enough e-journals for study or research.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[26]
The Library is equipped with enough e-books for study or research.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[27]
The Library is equipped with enough databases for study or research.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[28]
You can access e-journals, e-books and databases while being outside of the University.(required)

Reality/Disagree	○	○	○	○	○	○	○	Agree
Expectation/Low	○	○	○	○	○	○	○	High

[29]
Do you have any comments about our materials and information?

◀Previous　Reset　Next ▶　Proceed later

調査票編集に戻る

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY User Questionnaire 2015

This survey is conducted by Tohoku University Library Self-Inspection and Evaluation Committee. Your personal information is not used for any purpose other than the survey. We analyze the questionnaire based on users' titles and affiliations; we do not use specified personal information such as your name. The result of the questionnaire will be published in Self-Inspection and Evaluation Report.

This questionnaire takes approximately 10 minutes to answer. We would really appreciate your cooperation.

We will give you an original clear folder made by Tohoku University Library if you answer the questionnaire. Moreover, you have a chance to win a commemorative prize. Please make sure that your e-mail address is correctly registered on MyLibrary. Please check the Library website for details.
Your student number or staff number and your name will be used only for contacting the prize winners.

Object persons: students and faculty members of Tohoku University
Survey period: until October 31st, 2015

◆In "Reality", please evaluate the actual condition of the Library which you selected in question 4.
◆In "Expectation", please rate your expectation about the element on the Library which you selected in question 4.

4. Staff and Services

[30]
You are satisfied with loan period and number of materials you can borrow.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[31]
The Library website offers enough services you need.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[32]
The staff at a counter offer prompt service.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[33]
The staff have enough knowledge to answer your questions.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[34]
The staff are polite and kind.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[35]
You feel secure about your privacy.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[36]
The Library has a regular system to reflect users' opinions.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[37]
The Library gives workshops to support researches, educations and studies.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[38]
Tohoku University Repository (TOUR) transmits the research achievements of the University sufficiently.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[39]
The Library offers enough services for international students, studying abroad and international exchange.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[40]
Projects of the Library, such as exhibitions or student book selection, are attractive.(required)

Reality/Disagree ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ Agree
Expectation/Low ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ High

[41]
Do you have any comments about the staff and their services?

Previous　Reset　Next　Proceed later

調査票編集に戻る

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY User Questionnaire 2015

This survey is conducted by Tohoku University Library Self-Inspection and Evaluation Committee. Your personal information is not used for any purpose other than the survey. We analyze the questionnaire based on users' titles and affiliations; we do not use specified personal information such as your name. The result of the questionnaire will be published in Self-Inspection and Evaluation Report.

This questionnaire takes approximately 10 minutes to answer. We would really appreciate your cooperation.

We will give you an original clear folder made by Tohoku University Library if you answer the questionnaire. Moreover, you have a chance to win a commemorative prize. Please make sure that your e-mail address is correctly registered on MyLibrary. Please check the Library website for details.
Your student number or staff number and your name will be used only for contacting the prize winners.

Object persons: students and faculty members of Tohoku University
Survey period: until October 31st, 2015

---

5. Others

[42]
Do you have any additional comments about the Library?

Previous | Reset | Complete | Proceed later

調査票編集に戻る

第４部：平成２７年度東北大学附属図書館自己点検・評価報告書

資料編

第４部　資料編

１．沿革(年表)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２．組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
３．職員数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
４．施設、設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
５．利用対象在籍者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
６．所蔵冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
７．図書・雑誌受入数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
８．電子的サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
９．開館状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
10. 利用統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
11. 経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
12. 特殊コレクション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
13. 利用指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
14. 見学者等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
15. 職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
16. 刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
17. 一年の歩み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

１．沿　革（年表）

明治４０．	６	東北帝国大学設置（札幌農学校を東北帝国大学農科大学として開設）
４４．	１	理科大学開設
４４．	６	附属図書館設置
	９	理科大学開講
４５．	４	医学専門部設置（前身の仙台医学専門学校は大正７．４廃止）
	〃	工学専門部設置（前身の仙台高等工業学校は大正１０．４廃止）
大正　４．	７	医科大学医学科開設
	１２	附属図書館医科分館設置
５．	６	附属図書館が官制上独立の機関となり、図書館長・司書官を置く
７．	４	農科大学が分離し、北海道帝国大学農科大学となる
８．	４	理科大学及び医科大学がそれぞれ理学部・医学部となる
	５	工学部設置
１１．	８	法文学部設置
１３．	１０	附属図書館本館書庫竣工
１４．	２	同医科分館書庫竣工
	１２	同本館事務室及び閲覧室竣工
昭和　２．	３	同医科分館事務室及び閲覧室竣工
６．	１	同医科分館に事務主任を置く
２２．	４	農学部設置
２３．	９	附属図書館に庶務受入掛、目録掛、書庫閲覧掛の３掛を置く
２４．	４	法文学部が法学部・経済学部・文学部の３学部に分立
	５	新制東北大学発足、学部は文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・医学部・工学部・農学部の８学部、第二高等学校・仙台工業専門学校・宮城師範学校・同青年師範学校を包摂、研究所は金属材料研究所等９研究所(ガラス研究所は昭２７.４廃止）司書官制が事務部事務長制となる
２４．	６	分校教養部設置に伴い教養部に図書掛を置く
２９．	１１	附属図書館商議会設置
	〃	医科分館は附属図書館分館医学図書館と改称
３０．	４	分館医学図書館に管理掛、整理運用掛の２掛を置く
３１．	４	本館３掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、書庫掛、閲覧掛の６掛となる
３２．	４	附属図書館分館医学図書館は医学部分館（医学図書館）と改称
	〃	附属図書館富沢分校分館設置
３３．	９	富沢分校が川内地区に移転したのに伴い、富沢分校分館は川内分校分館と改称、管理掛、整理掛の２掛を置く
昭和３５．	１	本館６掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、雑誌掛、運用掛、書庫掛の７掛となる
	４	文系４学部図書委員会設置
３６．	３	医学部分館事務室及び閲覧室増築

３８．　７　東北大学記念資料室が設置され、附属図書館の管理のもとに置く
３９．　４　川内分館は教養部分館と改称
　　　１１　本館に学生閲覧室・書庫を増設
４０．　３　医学部分館２掛から総務掛、整理掛、運用掛の３掛となる
　　　　４　歯学部設置
　　　　　　附属図書館に部課制施行、２課７掛となる（整理課：総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課：運用掛、書庫掛、雑誌掛）
　　　　７　本館国連寄託図書館に指定
４１．　１　附属図書館調査研究室設置
　　　　６　理学部に理学部中央図書室設置
４２．　８　工学部に工学部中央図書室設置
４３．１１　医学部分館・学生閲覧室を増設
４５．　１　本館ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）寄託図書館に指定
　　　　４　工学部図書掛設置（工学分館設置に伴い、昭和５３年３月をもって廃止）
４７．　４　教養部分館廃止、本館に統合、２課１０掛となる（整理課：庶務掛、会計掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、渉外掛、閲覧課：運用掛、書庫掛、雑誌掛、参考掛）
　　　　〃　医学部分館は医学分館と改称
　　　　５　医学部薬学科が薬学部となる
　　　　９　医学分館、旧第二内科研究室跡に移転
　　　１０　新営本館川内地区に竣工
　　　１２　同本館部分開館
４８．１１　同本館全面開館
４９．　４　本館３課１０掛となる（総務課：庶務掛、会計掛、企画・渉外掛、整理課：受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課：参考調査掛、閲覧掛、書庫掛、相互利用掛）
　　　　〃　農学部分館設置
　　　　〃　理学部図書掛設置（北青葉山分館設置に伴い、昭和５７年３月をもって廃止）
５１．　４　医学分館に事務長制施行
５３．　４　工学分館設置
　　　　〃　農学部分館は農学分館と改称
５４．　３　農学分館新館竣工
５５．１１　工学分館新館竣工
５６．　４　本館整理課に逐次刊行物掛を設置
５７．　４　北青葉山分館設置
昭和５８．　４　工学分館２掛（管理掛、整理・運用掛）となる
　　　　９　本館ＥＣ（ヨーロッパ共同体）資料センターに指定
　　　１０　本館に図書館専門員が設置され、整理課に配置
５９．　１　医学分館新館竣工
６０．　３　北青葉山分館新館竣工
６１．　４　同分館２掛（管理掛、整理・運用掛）となる

６１．	１０	片平地区の旧本館が改修され、記念資料室となる
	１２	本館に電算機（日本電気ACOS610/10）搬入据付
６２．	１	学術情報センターのコンピュータシステムと接続
	４	本館整理課配置の図書館専門員を総務課に配置換、同総務課の企画・渉外掛を廃止し、学術情報掛を設置
	５	図書館業務電算化委員会設置
	９	Ｔ－ＬＩＮＥＳ（東北大学附属図書館情報処理ネットワークシステム）全面稼働
６３．	１	貴重図書選定委員会設置
	４	本館整理課を情報管理課に、閲覧課を情報サービス課に課名変更
平成　元.	２	本館・新（２号）館着工
	１１	本館・新（２号）館竣工
２．	４	本館に図書館専門員が増設され、情報管理課に配置、掛の改組及び名称変更（学術情報掛をシステム管理掛に、和漢書目録掛を和漢書目録情報掛に洋書目録掛を洋書目録情報掛に、閲覧掛を閲覧第一掛に、書庫掛を閲覧第二掛に）
	５	本館・新（２号）館、開館
３．	５	図書館広報委員会設置
	１１	狩野文庫マイクロ化に着手
４．	３	晴山文書マイクロ化（３年計画）に着手
	５	週休二日制実施に伴う土曜日の図書館サービス開始
５．	１	商議会組織の改組
	３	医学分館にＣＤ－ＲＯＭサーバー設置
	〃	狩野文庫マイクロ化撮影終了
	〃	狩野文庫和書目録編纂終了
	４	大学院国際文化研究科、大学院情報科学研究科、大学教育研究センター、言語文化部設置
	５	川内図書委員会設置（文系４学部図書委員会改組）
	１２	農学分館入退館管理システムによる土曜日の時間外開館を開始
６．	５	医学分館自動入退館管理システム設置により、２４時（時間外）までの開館を開始
	１１	当面の課題に関する検討委員会設置
	〃	狩野文庫カラー化編集委員会設置
７．	２	本館総務課に課長補佐を設置、同課図書館専門員を情報サービス課に配置
平成７．	２	全学図書系掛長会議設置
	〃	工学分館増築竣工
	３	視聴覚コーナー設置（本館２号館）
	〃	Ｔ－ＬＩＮＥＳ次期システム委員会設置
	４	工学分館に工学部の学科図書室を統合
	９	ホームページテスト運用開始
	１０	漱石文庫マイクロ化（３年計画）に着手
８．	３	二次資料データベースサービス開始

〃　パソコン・ラボラトリシステム設置（本館１号館）
４　本館夜間開館時間を１時間延長
１１　施設の将来構想に関する検討委員会設置
１２　Ｔ－ＬＩＮＥＳ更新
９．１　電子図書館システム委員会設置
２　電子情報データベースサービスに関する検討委員会設置
フルテキストデータベースサービス（試済）開始
３　図書館利用者教育支援システム導入
４　工学分館に図書館専門員を設置
〃　農学分館入退館管理システムによる日曜・祝日の時間外開館を開始
１２　貴重書画像を電子的に公開開始
１０．２　漱石文庫マイクロ化・フォトＣＤ化完了
５　本館２号館への学部学生４年生の入庫を実施
９　インターネットからの学内文献複写申込実施
１２　農学分館夜間開館時間を２時間延長
〃　ホームページ改訂
１１．２　Ｔ－ＬＩＮＥＳ次期システム検討委員会設置
４　本館２号館への学部学生３年生の入庫を実施
６　第４６回国立大学図書館協議会総会開催
７　東北大学附属図書館の将来構想に関する検討委員会設置
１２．２　２号館全面オープン
〃　東北大学附属図書館の将来構想推進に関する検討委員会設置
６　医学分館貴重資料室等の利用環境整備開始
１１　附属図書館長、総長特別補佐に就任
１２　附属図書館副館長を設置
〃　Ｔ－ＬＩＮＥＳ更新（新CAT/ILLに準拠したシステム稼働）
１３．３　医学分館入退館管理システム更新
４　情報シナジーセンター学術情報分室設置（附属図書館調査研究室を平成１３年３月をもって廃止し同センター学術情報研究部に、総務課システム管理掛を同センター学術情報支援掛に転換）
７　附属図書館評価委員会設置
１２　統合型学術情報システムの導入
１４．２　附属図書館外部評価委員会設置
３　農学分館入退館管理システム更新（増強）、ＢＤＳ設置
４　附属図書館長に研究担当副総長が就任
〃　情報管理課の電子情報掛を廃止し、総務課に情報企画掛を設置
５　日曜・祝日開館試行（５月１９日～７月２８日）
７　学術情報整備検討委員会設置
９　医学分館日曜開館開始
１１　日曜・祝日開館再試行（１１月３日～３月３０日）
〃　附属図書館長に教育担当副総長が就任
１２　片平分館（仮称）設置構想検討委員会設置
１５．３　学術情報資料選定小委員会設置

〃　図書自動貸出返却装置導入（本館・工学分館）
4　日曜・祝日開館開始
6　学生用図書整備検討委員会設置
〃　国立大学の法人化（平成１６年度）に伴う、附属図書館の中期目標・
中期計画及び年度計画の策定
１０　ゼミナール受講生（２年生）の入庫検索許可
〃　附属図書館長に国際交流・広報担当副総長が就任
〃　医療技術短期大学部学生等の医学分館休日利用試行
（１０月１１日～３月３１日）
１２　齋藤養之助家史料受入・整理検討委員会設置
１６．１　工学分館入退館システム更新
3　古典資料修復保存小委員会設置
〃　医学分館に書庫・学生閲覧室増築
4　国立大学の法人化に伴い、法人の設置する東北大学となる
〃　学外者への貸出開始
１７．１２　東北大学附属図書館情報処理システム更新
１８．７　キャンパス間資料搬送サービス試行（7月３日～１２月２５日）
１０　オンライン・レファレンス・サービス試行
（平成１８年１０月４日～平成１９年3月３１日）
１１　私費での学内ＩＬＬ「文献複写申込」を試行
１２　東北大学機関リポジトリ「ＴＯＵＲ」試行版公開
１９．１　キャンパス間資料搬送サービス試行延長（1月９日～３月３０日）
2　複合機と文献複写画像伝達システム「ｅ－ＤＤＳ」を活用した文献伝達システムの運用開始
3　東北大学機関リポジトリ「ＴＯＵＲ」正式公開
ｅ－ＤＤＳ（電子文献デリバリーサービス）開始
4　キャンパス間資料搬送サービス開始
9　東北大学創立１００周年記念展示「東北大学至宝」展を
江戸東京博物館で開催
〃　東北大学創立１００周年・漱石朝日新聞社入社１００年・
江戸東京博物館開館１５周年「文豪・夏目漱石」展を
江戸東京博物館で開催
１１　東北大学創立１００周年記念展示「東北大学至宝」展を
仙台市博物館で開催
２０．３　東北大学創立１００周年記念特別展「学都に息づく夏目漱石の
精神」を仙台文学館で開催
１０　附属図書館イメージキャラクター決定
１１　金谷文庫公開開始
２１．１　「ものがたり東北大学の至宝」刊行
2　附属図書館耐震改修工事終了
4　開館時間を２２時まで延長
２２．３　日本数学会出版賞受賞「東北大学和算ポータル」
２３．３　東日本大震災

　　６　附属図書館創立１００周年
　　９　英語多読リーダーズコーナー設置
２４．　３　震災ライブラリー開設
　　１１　ラーニング・コモンズ開設
２５．　３　東日本大震災関連資料をホームページで公開開始
　　１１　日英学術交流１５０周年記念展示「近代日本の文豪・夏目漱石」展をロンドン大学図書館で開催
２６．１０　附属図書館リニューアル開館
２７．　３　第３回国連防災世界会議記念展示「The Amazing Collections of Tohoku University Library」を開催
　　４　図書館カフェ（シアトルズベストコーヒー）開店
　　１２　医学分館創立100周年

2．組織

東北大学附属図書館組織図

平成 27 年 5 月 1 日現在
（ ）非常勤、【 】再雇用、[ ]特定有期
《 》派遣、ともに外数、単位：人

- 附属図書館商議会 (32)
- 附属図書館運営会議 (10)
- 総長
  - 館長 ― 副館長
    - 事務部長
      - 総務課長 ― 課長補佐
        - 総務係 2(1)
        - 会計係 3(2)
        - 学術情報基盤係 3(1)
      - 情報管理課長 ― 図書館専門員
        - 受入係 2(2)
        - 図書情報係 1(7) 【1】[1]
        - 雑誌情報係 2(3)
        - (2) 課
      - 情報サービス課長
        - 参考調査係 3(2)
        - 閲覧第一係 2(6) 《1》
        - 閲覧第二係 1(2)
        - 相互利用係 1(3)
        - (1) 課
    - 医学分館運営委員会 (11)
    - 医学分館長 ― (医学部・医学系研究科事務部長) ― 図書館専門員
      - 整理係 2(5) 《1》
      - 運用係 3(6) 《1》
    - 北青葉山分館運営委員会 (5)
    - 北青葉山分館長 ― (理学部・理学研究科事務部長)
      - 管理係 2(2)
      - 整理・運用係 2(5)【1】
    - 工学分館運営委員会 (18)
    - 工学分館長 ― (工学部・工学研究科事務部長) ― 図書館専門員
      - 管理係 3(3)
      - 整理・運用係 2(7)【1】《1》
    - 農学分館図書委員会 (7)
    - 農学分館長 ― (農学部・農学研究科事務長)
      - 図書係 3(2)【1】

３．職員数

(1)本館、分館

平成２７年５月１日現在

区　分	館長 副館長 分館長 (併任)	管理職 (部課長.補佐)	専門員	係長	係員				計
					定員	非常勤	再雇用等	派遣	
本館	2	5	1	10	10	32	2	1	63
医学分館	1		1	2	3	11		2	20
北青葉山分館	1			2	2	7	1		13
工学分館	1		1	2	3	10	1	1	19
農学分館	1			1	2	2	1		7
合　計	6	5	3	17	20	62	5	4	122

(2)部局図書室

平成２７年５月１日現在

区　　分	定員	非常勤	計
文学部・文学研究科図書室		2	2
教育学部･教育学研究科図書室		2	2
法学部･法学研究科図書室	1	1	2
法政実務図書室		2	2
経済学部･経済学研究科図書室	1	3	4
生命科学研究科図書室	1		1
金属材料研究所図書係	2	3	5
流体科学研究所図書室		1	1
電気通信研究所図書係	1	1	2
多元物質科学研究所図書室	1	1	2
東北アジア研究センター図書室		2	2
合　計	7	18	25

４．施設、設備

(1)スペース

平成２７年５月１日現在

区分	総面積 (m^2)	サービススペース				管理スペース		その他
		閲覧	視聴覚	情報端末	その他	書庫	事務	
本館	18,215	6,344	25	400	493	5,679	1,338	3,936
医学分館	4,476	688	8	61	0	2,384	416	919
北青葉山分館	3,356	1,140	1	7	216	1,310	360	322
工学分館	5,355	2,460	223	10	553	605	413	1,091
農学分館	1,279	317	0	10	130	418	56	348

(2)閲覧座席数、利用者用端末台数

平成２７年５月１日現在

区分	閲覧座席数	利用者用端末台数
本館	1,174	140
医学分館	337	56
北青葉山分館	276	11
工学分館	370	36
農学分館	91	17
合　計	2,248	260

５．利用対象在籍者数（キャンパス別）

平成２７年５月１日現在

区分	部　局	教職員	学生	計
川内地区	文学部･文学研究科	112	1,314	1,426
	教育学部･教育学研究科	49	454	503
	法学部･法学研究科	79	919	998
	経済学部･経済学研究科	90	1,404	1,494
	国際文化研究科	49	133	182
	教育情報学研究部	9	50	59
	その他	151		151
	小　計	539	4,274	4,813
星陵地区	医学部･医学系研究科	379	2,274	2,653
	歯学部･歯学研究科	120	517	637
	その他	2,233	15	2,248
	小　計	2,732	2,806	5,538
青葉山地区	理学部･理学研究科	306	2,303	2,609
	薬学部･薬学研究科	85	596	681
	工学部･工学研究科	468	5,755	6,223
	情報科学研究科	103	405	508
	環境科学研究科	63	282	345
	医工学研究科	41	125	166
	研究所	76		76
	その他	202		202
	小　計	1,344	9,466	10,810
雨宮地区	農学部･農学研究科	158	964	1,122
	その他	4		4
	小　計	162	964	1,126
片平地区	生命科学研究科	91	271	362
	研究所	537		537
	その他	611		611
	小　計	1,239	271	1,510
合　計		6,016	17,781	23,797

６．所蔵冊数

(1)所蔵冊数

平成２７年３月３１日現在

①図書

単位：冊

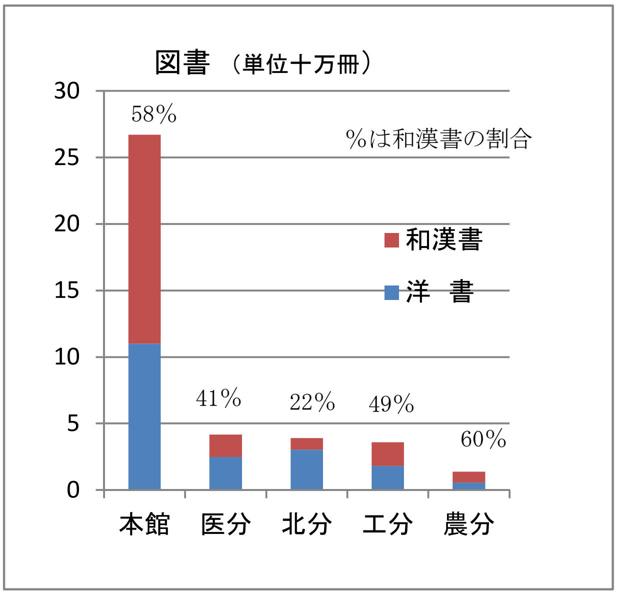
区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和漢書	1, 588, 588	169, 292	85, 846	177, 212	83, 083	2, 104, 021
洋　書	1, 165, 192	248, 340	303, 734	182, 199	56, 024	1, 955, 489
合　計	2, 753, 780	417, 632	389, 580	359, 411	139, 107	4, 059, 510

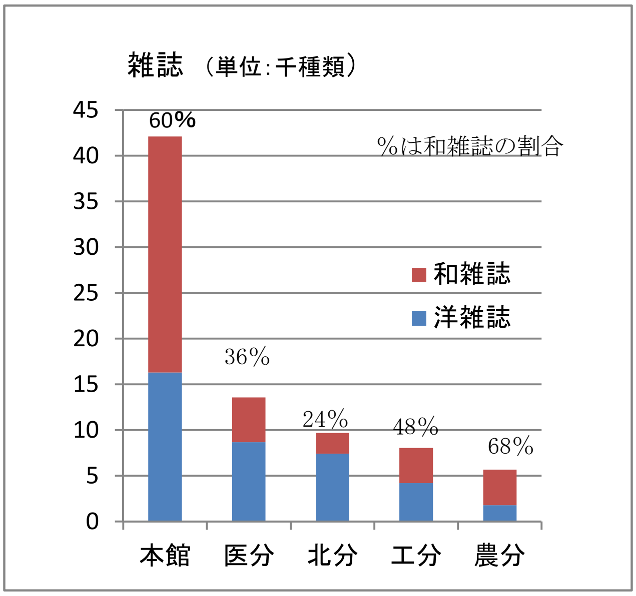
②雑誌

単位：種類

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和雑誌	26, 229	4, 903	2, 293	3, 833	3, 852	41, 110
洋雑誌	17, 268	8, 674	7, 410	4, 212	1, 798	39, 362
合　計	43, 497	13, 577	9, 703	8, 045	5, 650	80, 472

※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む

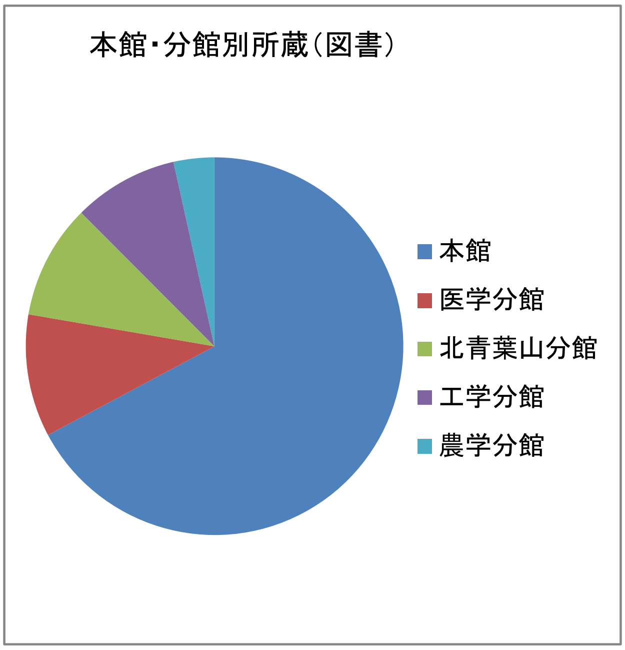




(2) 本館・分館別所蔵

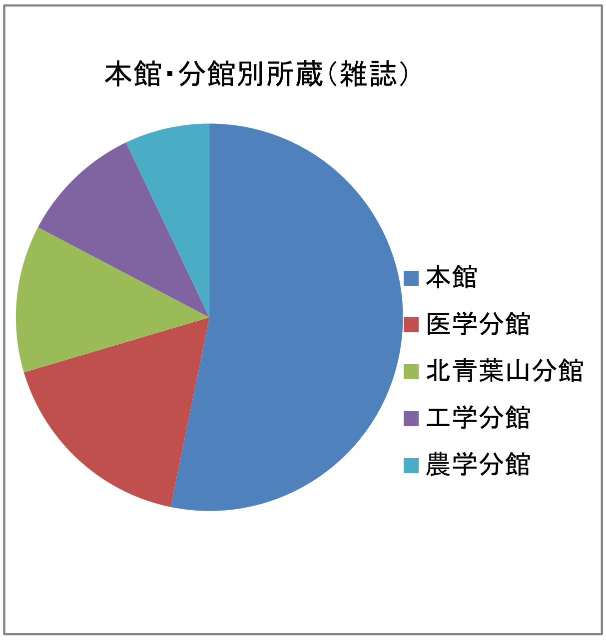
①図書

区分	図　書	
	全所蔵冊数	比率
本館	2, 753, 780	67. 8
医学分館	417, 632	10. 3
北青葉山分館	389, 580	9. 6
工学分館	359, 411	8. 9
農学分館	139, 107	3. 4
合　計	4, 059, 510	100



②雑誌

区分	雑誌	
	全所蔵種類数	比率
本館	43, 497	54. 0
医学分館	13, 577	16. 9
北青葉山分館	9, 703	12. 1
工学分館	8, 045	10. 0
農学分館	5, 650	7. 0
合　計	80, 472	100



※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む

(3) 年度別推移

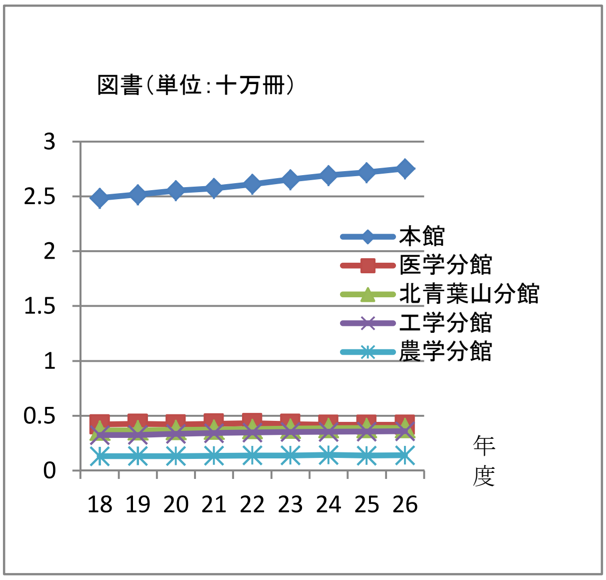
①図書所蔵冊数の年度別推移　　単位：千冊

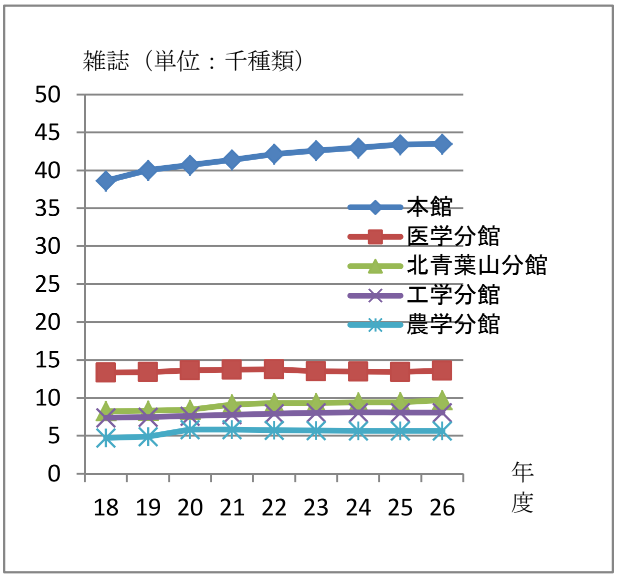
区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	2,485.9	2,517.6	2,553.3	2,573.8	2,612.1	2,654.5	2,691.9	2,718.4	2,753.8
医学分館	420.8	426.4	421.7	428.0	431.7	425.2	417.4	416.9	417.6
北青葉山分館	364.2	367.8	371.0	374.1	378.8	383.6	387.0	389.5	389.6
工学分館	324.1	325.8	336.1	341.6	347.3	354.6	352.5	357.1	359.4
農学分館	131.4	133.2	133.2	135.9	138.9	138.9	144.3	137.4	139.1
合　計	3,726.4	3,770.8	3,815.3	3,853.4	3,908.8	3,956.8	3,993.1	4,019.3	4,059.5

②雑誌所蔵種類数の年度別推移　　単位：種類

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	38,633	40,009	40,704	41,394	42,158	42,621	42,989	43,399	43,497
医学分館	13,337	13,391	13,610	13,696	13,766	13,495	13,471	13,428	13,577
北青葉山分館	8,241	8,313	8,436	9,124	9,321	9,324	9,398	9,420	9,703
工学分館	7,366	7,456	7,586	7,785	7,901	8,039	8,034	8,037	8,045
農学分館	4,708	4,879	5,800	5,806	5,740	5,696	5,640	5,625	5,650
合　計	72,285	74,048	76,136	77,805	78,886	79,175	79,532	79,909	80,472

※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む





７．図書・雑誌受入数

(1)収集種別

①図書受入

平成２７年３月３１日現在

単位：冊

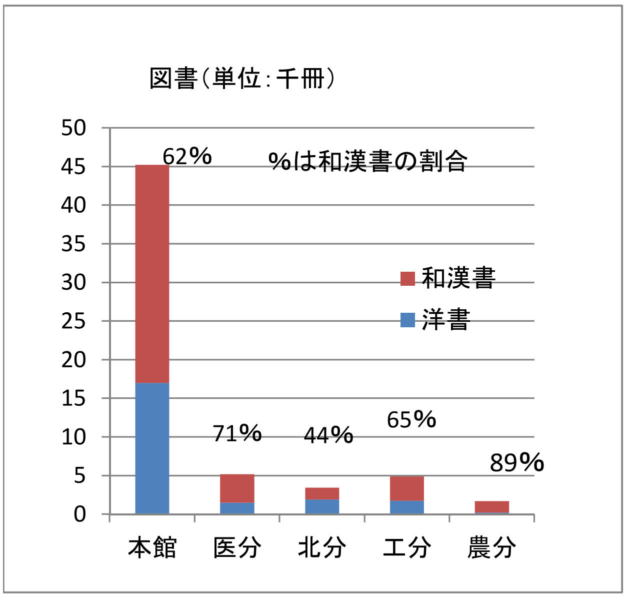
区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和漢書	購入	14, 472	2, 126	1, 223	2, 065	1, 193	21, 079
	寄贈等	11, 579	356	109	295	29	12, 368
	その他	2, 472	1, 190	187	799	254	4, 902
洋書	購入	10, 797	126	964	649	167	12, 703
	寄贈等	4, 773	38	65	31	1	4, 908
	その他	1, 634	1, 351	889	1, 052	56	4, 982
合　計		45, 727	5, 187	3, 437	4, 891	1, 700	60, 942

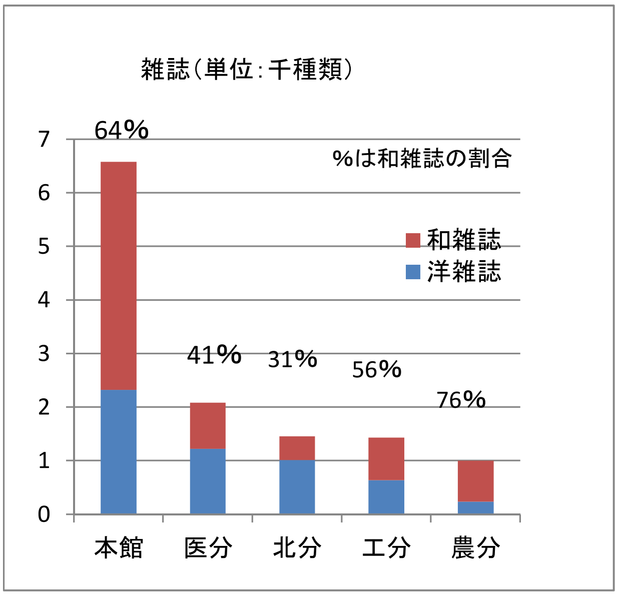
②雑誌受入

単位：種類

区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和雑誌	購入	1, 091	184	87	192	88	1, 642
	寄贈等	3, 322	681	355	604	680	5, 642
	その他	0	0	0	1	0	1
洋雑誌	購入	1, 567	574	340	353	56	2, 890
	寄贈等	514	138	435	65	53	1, 205
	その他	409	509	238	220	128	1, 504
合　計		6, 903	2, 086	1, 455	1, 435	1, 005	12, 884

※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む





(2)年度別推移

①図書

単位：冊

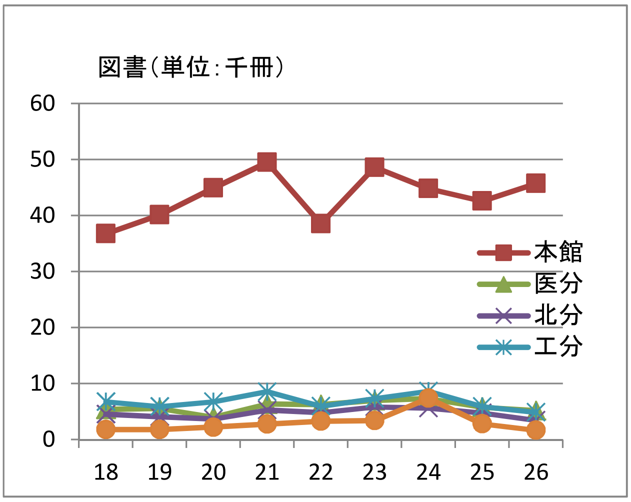
区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	36, 735	40, 107	44, 894	49, 457	38, 511	48, 599	44, 776	42, 564	45, 727
医学分館	5, 395	5, 541	4, 030	6, 344	6, 261	6, 972	7, 363	5, 789	5, 187
北青葉山分館	4, 522	4, 107	3, 691	5, 278	4, 850	5, 873	5, 644	4, 781	3, 437
工学分館	6, 749	5, 892	6, 789	8, 570	5, 951	7, 336	8, 661	5, 897	4, 891
農学分館	1, 792	1, 809	2, 232	2, 759	3, 268	3, 392	7, 395	2, 818	1, 700
合　計	55, 193	57, 456	61, 636	72, 408	58, 841	72, 172	73, 839	61, 849	60, 942

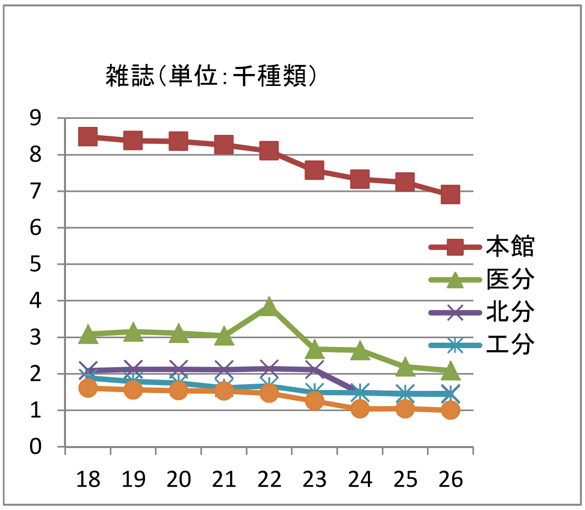
②雑誌

単位：種類

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	8, 490	8, 381	8, 361	8, 266	8, 098	7, 568	7, 327	7, 244	6, 903
医学分館	3, 087	3, 151	3, 115	3, 039	3, 849	2, 674	2, 643	2, 196	2, 086
北青葉山分館	2, 087	2, 120	2, 123	2, 113	2, 135	2, 117	1, 483	1, 460	1, 455
工学分館	1, 882	1, 790	1, 742	1, 619	1, 663	1, 490	1, 483	1, 450	1, 435
農学分館	1, 604	1, 557	1, 535	1, 526	1, 463	1, 258	1, 037	1, 041	1, 005
合　計	17, 150	16, 999	16, 876	16, 563	17, 208	15, 107	13, 973	13, 391	12, 884

※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む





８．電子的サービス

(1)電子情報資源の利用可能種類数

平成27年3月31日現在

①電子ジャーナル、電子書籍、データベース（本館、分館別）　単位：種類

区分	電子ジャーナル(種類)		電子書籍（タイトル）		データベース	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
本館	561	13,569	1,428	739	14	15
医学分館			699	1,162	1	
北青葉山分館						
工学分館			216	372		
農学分館				99		
合　計	561	13,569	2,343	2,372	15	15

②電子ジャーナル、電子書籍、データベース（年度別）　単位：種類

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
電子ジャーナル	8,974	9,366	10,403	10,457	13,651	13,886	14,697	13,875	14,130
電子書籍					458	492	867	1,688	4,715
データベース					25	29	31	31	30

③学位論文　単位：件

区　　分	学位論文（博士論文）
全　　館	2,464

④視聴覚資料

区　分	タイトル
マイクロフィルム	864
マイクロフィッシュ	161
カセットテープ	371
ビデオテープ	571
ＣＤ、ＬＤ、ＤＶＤ、ＢＤ	3,379
レコード	753
他	197

９．開館状況

開館日数は下記のとおり。時間外開館は平日17時以降と土・日曜日

区分	開館日数				時間外の開館時間数			
	平日	土曜日	祝日	計	平日	土曜日	祝日	計
本館	203	39	54	296	2,837	484	666	3,987
医学分館	246	50	65	361	4,182	850	1,105	6,137
北青葉山分館	243	47	69	359	5,758	1,128	1,656	8,542
工学分館	243	47	63	353	5,807	1,128	1,512	8,447
農学分館	239	50	76	365	4,063	850	1,292	6,205

10. 利用統計

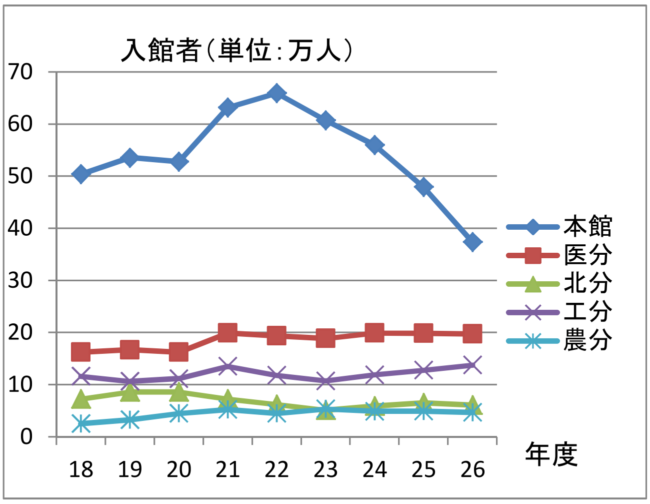
(1) 入館者

①入館者数の年度別推移　　　　単位：人

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	503, 791	535, 505	527, 566	631, 938	659, 624	607, 038	559, 796	479, 296	373, 382
医学分館	161, 930	166, 725	162, 066	199, 094	193, 630	188, 345	199, 091	198, 187	197, 088
北青葉山分館	72, 419	85, 981	85, 932	72, 437	61, 855	50, 854	59, 104	64, 815	60, 911
工学分館	116, 241	106, 322	111, 472	135, 224	117, 681	107, 121	118, 827	127, 875	137, 788
農学分館	24, 878	32, 630	45, 003	51, 932	44, 621	53, 230	48, 742	49, 133	46, 703
合　計	879, 259	927, 163	932, 039	1, 090, 625	1, 077, 411	1, 006, 588	985, 560	919, 306	815, 872

②学外からの閲覧者（本館）

<table>
<tr><td colspan="2">区分</td><td colspan="3">人　　数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学、短大、高専</td><td>教職員</td><td>229</td><td rowspan="2">1, 516</td><td rowspan="3">4, 844</td></tr>
<tr><td>学生</td><td>1, 287</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他</td><td colspan="2">3, 328</td></tr>
<tr><td colspan="2">カード入館</td><td colspan="3">13, 478</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　計</td><td colspan="3">18, 322</td></tr>
</table>



(2) 資料の貸出

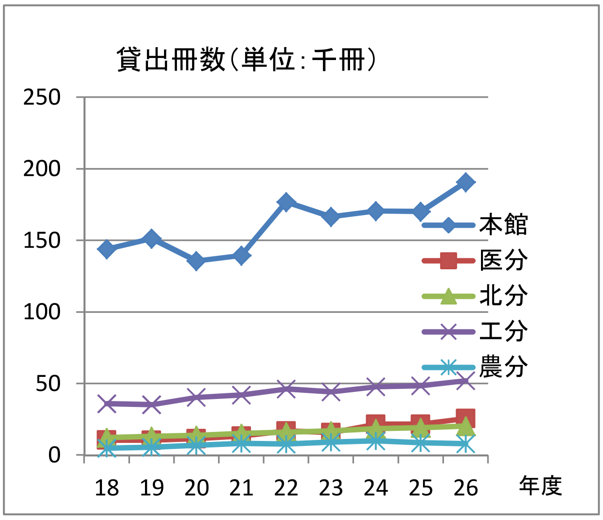
①貸出冊数

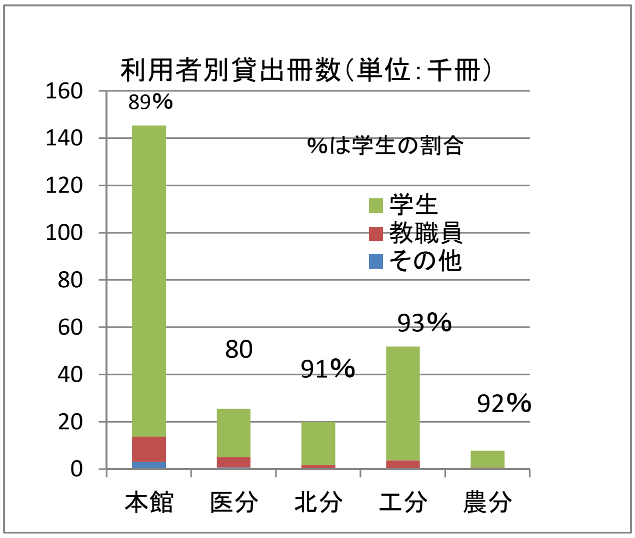
単位：冊

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	143, 991	151, 340	135, 707	139, 539	176, 837	166, 606	170, 623	170, 078	190, 763
医学分館	10, 501	10, 493	11, 605	13, 269	16, 895	15, 695	21, 493	21, 659	25, 527
北青葉山分館	12, 119	13, 087	13, 803	14, 984	16, 097	16, 817	18, 437	19, 168	20, 130
工学分館	35, 832	35, 242	40, 360	42, 011	46, 116	44, 122	47, 782	48, 399	51, 915
農学分館	4, 714	5, 539	6, 790	8, 183	7, 635	9, 137	9, 849	8, 510	7, 836
合　計	207, 157	215, 701	208, 265	217, 986	263, 580	252, 377	268, 184	267, 814	296, 171

②利用者別貸出冊数

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
学生	168, 975	20, 415	18, 408	48, 185	7, 192	263, 175
教職員	18, 873	4, 367	1, 722	3, 534	644	29, 140
その他	2, 915	745	0	196	0	3, 856
合　計	190, 763	25, 527	20, 130	51, 915	7, 836	296, 171





③　資料種別貸出冊数（本館）

書庫資料利用者別貸出冊数

区分	冊数	比率
学生	46,332	76.78
教職員	13,433	22.26
その他	581	0.96
合計	60,346	100.00

開架資料利用者別貸出冊数

区分	冊数	比率
学生	121,763	94.07
教職員	5,346	4.13
その他	2,334	1.80
合計	129,443	100.00

④　学生の学部・研究科等別貸出冊数（全館，電算貸出のみ）

部局別・地域別

部局	冊数	比率	地区	冊数	比率
文学部・文学研究科	65,641	23.63	川内地区	121,931	43.90
教育学部・教育学研究科	13,204	4.75			
法学部・法学研究科	17,292	6.23			
経済学部・経済学研究科	17,925	6.45			
国際文化研究科	6,910	2.49			
教育情報学研究部	359	0.13			
高度教養教育・学生支援機構	145	0.05			
その他	455	0.16			
医学部・医学系研究科	23,035	8.29	星陵地区	26,760	9.63
歯学部・歯学研究科	3,670	1.32			
その他	55	0.02			
理学部･理学研究科	33,105	11.92	北青葉山地区	36,788	13.24
薬学部･薬学研究科	3,683	1.33			
工学部･工学研究科	70,105	25.24	南青葉山地区	77,120	27.77
情報科学研究科	3,184	1.15			
環境科学研究科	2,927	1.05			
医工学研究科	892	0.32			
その他	12	0.00			
農学部･農学研究科	13,466	4.85	雨宮地区	13,466	4.85
金属材料研究所	86	0.03	片平地区	1,686	0.61
流体科学研究所	31	0.01			
多元物質科学研究所	2	0.00			
電気通信研究所	3	0.00			
生命科学研究科	1,556	0.56			
その他	8	0.00			
合　　計	277,751	100.00		277,751	100.00

(3)参考調査

①利用者別参考調査の件数

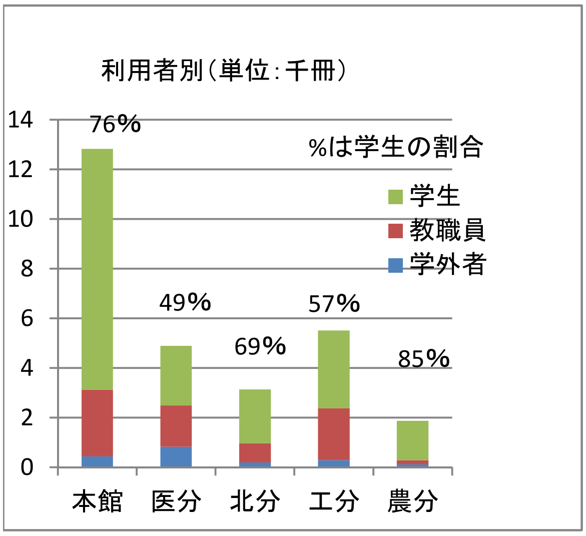
単位：件

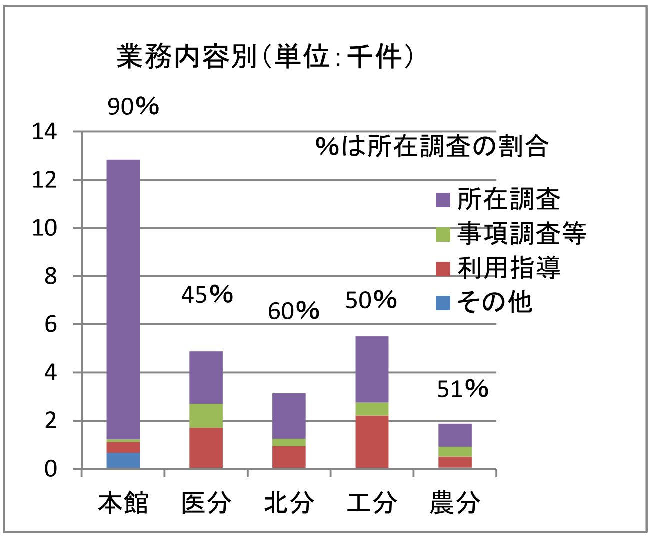
区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
学内者	教職員	2, 691	1, 673	771	2, 094	168	7, 397
	学生	9, 707	2, 390	2, 169	3, 142	1, 588	18, 996
学外者		431	820	193	276	112	1, 832
合　計		12, 829	4, 883	3, 133	5, 512	1, 868	28, 225

②業務内容別参考調査件数

単位：件

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
所在調査	11, 604	2, 185	1, 879	2, 756	953	19, 377
事項調査等	105	990	313	551	411	2, 370
利用指導	449	1, 708	910	2, 205	448	5, 720
その他	671	0	31	0	56	758
合　計	12, 829	4, 883	3, 133	5, 512	1, 868	28, 225

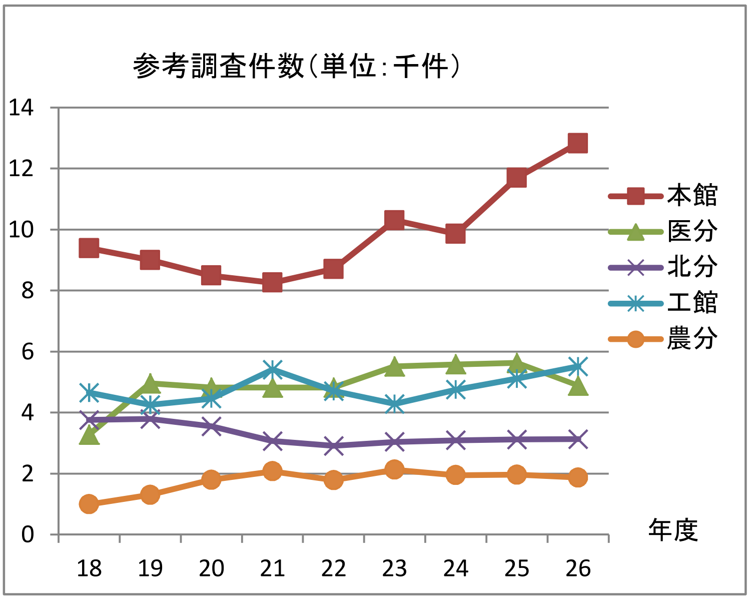




③参考調査件数の年度別推移

単位：冊

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	9, 389	8, 998	8, 490	8, 260	8, 703	10, 302	9, 860	11, 700	12, 829
医学分館	3, 275	4, 959	4, 818	4, 821	4, 821	5, 513	5, 582	5, 628	4, 883
北青葉山分館	3, 760	3, 795	3, 555	3, 068	2, 912	3, 042	3, 094	3, 120	3, 133
工学分館	4, 650	4, 253	4, 459	5, 409	4, 707	4, 285	4, 753	5, 115	5, 512
農学分館	995	1, 305	1, 800	2, 077	1, 785	2, 129	1, 951	1, 965	1, 868
合　計	22, 069	23, 310	23, 122	23, 635	22, 928	25, 271	25, 240	27, 528	28, 225



(4) 図書館間相互利用

①依頼件数（貸借・複写別）　　単位：件

区分			本館	医学分館	北青葉山分	工学分館	農学分館	計
貸借	国内	大学図書館	1,270	66	51	223	12	1,622
		その他の図書館	58	0	16	7	0	81
	国外	図書・雑誌	20	0	1	1	0	22
	合計		1,348	66	68	231	12	1,725
複写	国内	大学図書館	3,471	1,926	246	565	263	6,471
		その他の図書館	275	33	127	22	51	508
	国外	文献複写	23	7	6	9	1	46
	合計		3,769	1,966	379	596	315	7,025
貸借・複写計			5,117	2,032	447	827	327	8,750

②受付件数（貸借・複写別）　　単位：件

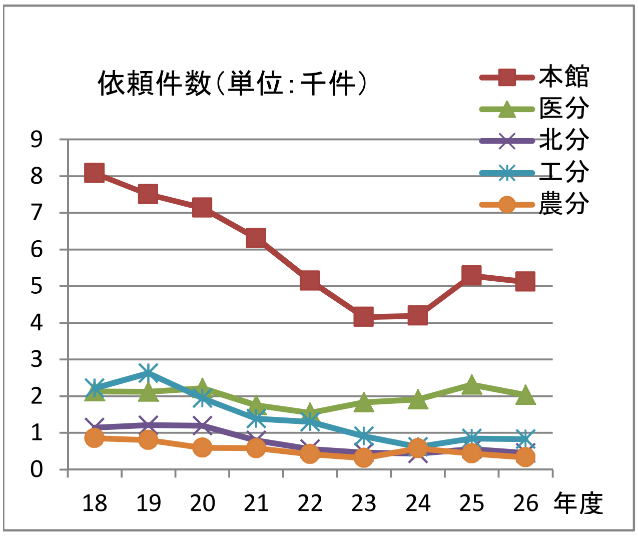
区分			本館	医学分館	北青葉山分	工学分館	農学分館	計
貸借	国内	大学図書館	768	41	40	70	23	942
		その他の図書館	18	6	10	19	3	56
	国外	図書・雑誌	0	0	0	0	0	0
	合計		786	47	50	89	26	998
複写	国内	大学図書館	3,221	6,011	942	859	565	11,598
		その他の図書館	481	1,273	174	280	110	2,318
	国外	文献複写	292	0	1	19	0	312
	合計		3,994	7,284	1,117	1,158	675	14,228
貸借・複写計			4,780	7,331	1,167	1,247	701	15,226

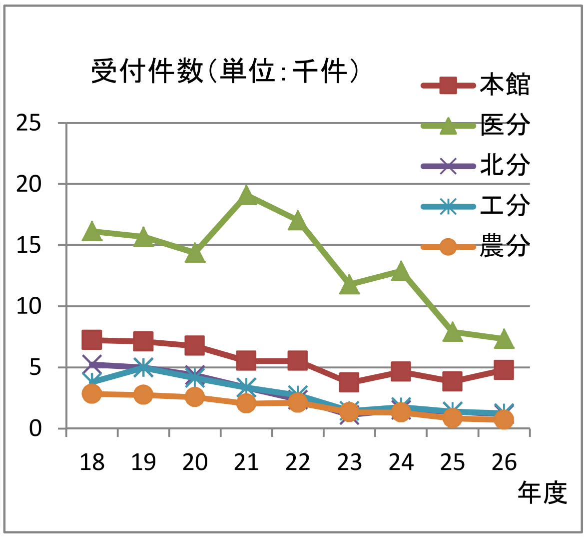
③依頼件数の年度別推移（複写・貸借計）　　単位：件

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	8,079	7,501	7,135	6,308	5,144	4,156	4,186	5,284	5,117
医学分館	2,131	2,117	2,213	1,752	1,543	1,833	1,911	2,315	2,032
北青葉山分館	1,137	1,206	1,192	794	552	461	432	556	447
工学分館	2,214	2,624	1,948	1,387	1,299	908	619	843	827
農学分館	855	800	593	577	412	314	573	431	327
合　計	14,416	14,248	13,081	10,818	8,950	7,672	7,721	9,429	8,750

④受付件数の年度別推移（複写・貸借計）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：件

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本館	7, 241	7, 113	6, 750	5, 525	5, 517	3, 754	4, 627	3, 839	4, 780
医学分館	16, 142	15, 677	14, 391	19, 088	17, 026	11, 796	12, 877	7, 907	7, 331
北青葉山分館	5, 232	4, 997	4, 381	3, 359	2, 371	1, 113	1, 534	1, 397	1, 167
工学分館	3, 786	4, 979	4, 139	3, 352	2, 735	1, 443	1, 765	1, 400	1, 247
農学分館	2, 839	2, 756	2, 561	2, 034	2, 110	1, 340	1, 319	843	701
合　計	35, 240	35, 522	32, 222	33, 358	29, 759	19, 446	22, 122	15, 386	15, 226





11．経費

図書館資料費

①図書館別

単位：千円

区分	図書		雑誌		電子ジャーナル		電子書籍		データベース		合計
	和	洋	和	洋	国内	国外	国内	国外	国内	国外	
本館	81, 356	75, 377	21, 338	123, 513	2, 657	615, 773	5, 437	4, 792	12, 276	51, 317	993, 836
医学分館	9, 393	2, 107	8, 015				783		2, 160		22, 458
北青葉山分館	4, 343	12, 442	1, 665								18, 450
工学分館	8, 820	11, 185	4, 263				1, 005	587			25, 860
農学分館	6, 085	2, 523	1, 027					691			10, 326
合　計	109, 997	103, 634	36, 308	123, 513	2, 657	615, 773	7, 225	6, 070	14, 436	51, 317	1, 070, 930

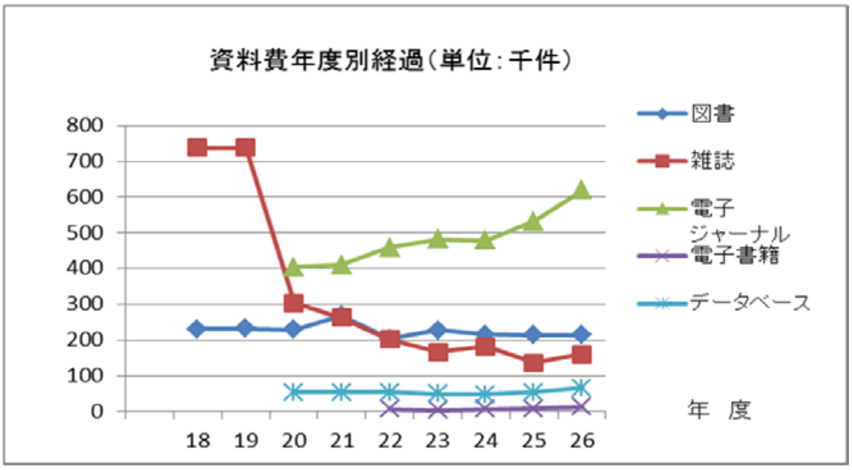
※片平地区の研究所等及び東北アジア研究センターは本館に含む

②年度別経過

単位：千円

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
図書	230, 261	232, 754	228, 803	268, 021	202, 516	227, 500	214, 803	213, 368	213, 631
雑誌	737, 300	737, 531	303, 809	261, 781	201, 354	166, 316	181, 809	136, 684	159, 821
電子ジャーナル			403, 454	410, 702	459, 687	482, 479	478, 175	531, 550	618, 430
電子書籍					6, 978	4, 129	6, 692	7, 609	13, 295
データベース			54, 457	53, 248	53, 811	49, 339	48, 016	53, 183	65, 753
合　計	967, 561	970, 285	990, 523	993, 752	924, 346	929, 763	929, 495	942, 394	1, 070, 930

※　斜線については、電子書籍が図書に、電子ジャーナル及びデータベースが雑誌に含む



１２．特殊コレクション

○ 本 館

［国宝］

① 類聚国史 巻第二十五 （ 一巻）平安時代末期

『類聚国史」は，菅原道真が勅を奉じて，六国史(『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『文徳実録』『三代実録』)の記事を主題別に分け編纂したもので，当時は全 200 巻であったが，現在は 61 巻を残すのみである。本館所蔵の巻第二十五は「帝王部第五」で，平安朝末期に筆写されたものである。『類聚国史』の写本としては現存するものの中で最古のものとされている。

② 史記孝文本紀第十(一巻) 延久 5 年(1073)

『史記』は，言うまでもなく漢の司馬遷撰の史書であるが，この『史記』の最古の注釈書とされる南朝宋の裴駰撰『史記集解」の古写本で，文章博士大江家国の筆に成るものである。本文には朱書の乎古止点，墨書の古訓反切等が施され，また，注の加筆及び朱書の校合などが加えられ，欄外行間・紙背には史記の索隠と漢書の旧注等を記している。

なお「孝文本紀」は，仁政を施いたとされる漢の孝文帝(太宗)の治績を記したものである。

［個人文庫］

① 狩野文庫

狩野文庫は，秋田県大館出身の文学博士狩野亨吉(かのうこうきち 1865-1942)の旧蔵書である。亨吉は，旧制第一高等学校校長(明治 31-39)や京都帝国大学文科大学長(明治 39-41)を歴任し，また江戸時代の学者志筑忠雄，思想家安藤昌益，経世家本多利明を発掘したことでも知られる。

亨吉の蔵書は，亨吉の親友で東北帝国大学の初代総長であった沢柳政太郎の尽力により東北大学にもたらされた。そのとき亨吉は，蔵書を一括かつ東北大学に永久に保管することを条件に譲渡したという。大正元年のことである。その後亨吉が収集した資料も昭和 18 年 3 月までに 3 回にわたり追加購入あるいは寄贈によって受入れ，現在では，約 108，000 冊からなる大コレクションになっている。和漢書古典を主体とする幅広い領域の資料を含み、「古典の百科全書」あるいは，「江戸学の宝庫」とも称される。「史記孝文本紀第十」(延久 5 年(1073)写)および「類聚国史第二十五」(平安時代末期写)の国宝 2 点を含む。平成 3 年からマイクロフィルム化が進められ，平成 5 年約 55，000 冊のマイクロフィルム化が完了した。

③ 和算関係文庫

元本学理学部教授で初代の図書館長であった林鶴一(1873-1935) ならびに元本学理学部教授であった藤原松三郎(1881-1946) の旧蔵書および両教授の収集した和算関係資料 14，470 冊と元帝国学士院会員の岡本則録(1847-1931) の旧蔵書約 2，667 冊その他からなる合計約 17，000 冊のコレクションである。

林鶴一は，当時和算研究の第一人者であったが，また関流和算の継承者でもあった。それゆえ，このなかには，関流和算の免許状も含まれている。このコレクションに狩野文庫に含まれる和算関係資料をあわせると全国和算資料の 3 分の 2 を占めることとなり，東北大学は，大学における和算研究の中心となるに至る。

コレクションの特徴としては，和算書以外に，天文書，測量に関する資料も含まれていることが挙げられる。特に貴重なものとしては，毛利重能著「割算書」（元和 8 年）がある。

③　西蔵（チベット）大蔵経

元本学法文学部講師で西蔵学者であった多田等観（ただとうかん 1890-1967）がチベットにおいて収集した資料 6，652 部からなるコレクションである。大正 12 年に受入れられた「デルゲ版西蔵大蔵経」4，569 部と昭和 4 年に購入した「西蔵撰述仏典」2，083 部を含む。デルゲ版大蔵経は，ナルタン版，北京版，チョネ版とならぶ現存する 4 大大蔵経のひとつで，チベット東北地方において 1729-1744 にかけて開版された。大蔵経は，仏説部・カンギユルと論疏部・テンギユルからなるが，デルゲ版のカンギユルは，特に校訂の精確さと印刷の鮮明さで知られている。デルゲ版の版木は， 1932 年の中蔵騒乱中に烏有に帰したとされており，現在では本館所蔵の大蔵経は，数少ない完本の一つとされている。

④　漱石文庫

文豪夏目漱石（1867-1916）の旧蔵書 3，068 冊からなるコレクションである。英文学関係の図書が中心で，漱石による多くの書入がある。漱石の日記，ノート，試験問題，原稿・草稿などの断片資料も含まれている。

この文庫が本学に譲渡されることになったのは，当時の本学図書館長で，漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆（1884-1966）の尽力による。搬入は，昭和 18 年からはじまり，昭和 19 年 3 月に完了した。漱石山房があった早稲田南町は，昭和 20 年 3 月 10 日の空襲で焼けてしまったというから，この漱石研究の重要資料は，本学に移されたことで焼失を免れたことなる。平成 7 年度より仙台市と共同でマイクロフィルム化を進め，平成 9 年度末に完了した。

⑤　ヴント文庫

ライプチヒ大学学長も勤めたこともあるドイツの著名な心理学者 Wilhelm Wundt（1832-1920）の旧蔵書 15，840 冊からなるコレクションである。ヴントの没後， ドイツのローレンツ書店から売り出され，ライプチヒ大学や米国のエール大学，ハーバード大学も購入に乗り出していたが，当時京都帝国大学助教授で帰国後本学心理学教室の初代教授に就任することになっていたドイツ留学中の千葉胤成の奔走とヴント高弟のクリーゲル教授の好意的措置により，本学が獲得した。大正 15 年に斎藤報恩会の寄付金により購入し，受け入れたものである。この文庫に含まれる資料は，ヴントが生涯を通じて集めた旧蔵書全体約 6 割といわれており，理学・哲学関係を中心に，幅広い学問分野の資料が含まれている。カントやライプニッツ，スピノザの初版本は，貴重書扱いとなっている。

⑤　ケーベル文庫

明治 26 年から大正 3 年まで東京帝国大学において西洋哲学を講じた Raphael von Koeber（1848-1923）の旧蔵書 1，999 冊からなるコレクションである。ケーベルは，夏目漱石が「ケーベル先生」の中で，東京文科大学で「一番人格の高い教授」といい，常に敬愛したケーベル博士その人である。同博士に師事した本学法学部の久保勉教授のあっせんで，昭和 17 年 3

月に購入した。ギリシャ，ラテンの古典学を中心に哲学・文学関係の図書が多い。

⑦　阿部文庫

「三太郎の日記』で知られる元本学法文学部教授阿部次郎(1883-1959）の旧蔵書のうち和書5，190冊からなり，日本文化のあらゆる領域にわたっている。

⑧　晩翠文庫

旧制第二高等学校教授で詩人として有名な土井晩翠(1871-1952）の西洋詩関係書を主とした旧蔵書2，624冊からなり，書入本を多く含む。

⑨　大類文庫

元本学法文学部教授大類伸(1884-1975)の旧蔵書のうちインキュナビュラ(初期刊本)を含む洋書946冊からなり，西洋史，特にルネッサンス関係資料が主である。

⑩　児島文庫

元本学法文学部助教授児島喜久雄(1887-1950)の旧蔵書のうち洋書1，494冊からなり，西洋美術史，特にレオナルド・ダ・ヴィンチ関係の文献を多く含む。

⑪　石津文庫

元本学学長石津照璽(1903-1972）の旧蔵書約4，773冊で，主として宗教哲学関係の資料からなっている。

⑫　梅原文庫

京都大学名誉教授梅原末治(1893-1983)の旧蔵書のうち洋書1,113冊・和書33冊からなり，考古学関係と元本学文学部助教授矢島玄亮(1903-2001)中国文学・書誌学関係の資料からなっている。

⑬　矢島文庫

元本学文学部助教授矢島玄亮(1903-2001)の旧蔵書約2，030冊で、主として中国文学・書誌学関係の資料からなっている。

⑭　シュタイン文庫

ドイツの民事訴訟法学者で，ライプチヒ大学教授であったFriedrich Stein（1859 -1923）の旧蔵書6，810冊からなるコレクションである。民法，商法，民事訴訟法，破産法，刑法等法律全般に関する図書，雑誌，小冊子を含む。大正十五年に受入された。

⑮　ゼッケル文庫

元ベルリン大学教授でローマ法研究の権威Emil Seckel（1864-1924)の旧蔵書7，380冊からなるコレクションである。ゼッケルは,その蔵書をドイツ国立図書館に譲るか,ケンブリッジ,オックスフォード，ハーバード，エールのような一流大学に譲渡するよう夫人に言い残したとされるが，ゼッケル教授に師事した本学の栗生武夫教授等の尽力により，大正15年に本学が受け入れた。

蔵書の内容は，ローマ法，教会法関係の文献を中心とするが，なかには，ローマ法王庁からゼッケル教授に寄贈された貴重な資料が含まれている。もともと本文庫に含まれていた約1万点のパンフレット類は，分類整理を終わって製本作業に移っていたが，昭和20年の空襲で焼失した。

⑯　チーテルマン文庫

ボン大学教授で，国際私法の大家でもあり，　ドイツ民法の起草者であったErnst Zitelmann (1852-1923)の旧蔵書8，280冊からなるコレクションである。同教授の歿後，夫人がフォック書店を通じて譲渡しようとしていたもので，当時ドイツ留学中であった石田文次郎教授の交渉により本学に譲渡されたもの。大正13年に受け入れた。当初は，　5，000冊余りの小冊子を含んでいたが，整理中にゼッケル文庫のパンフレットとともに昭和20年の戦災で焼失した。

⑰　櫛田文庫

櫛田民蔵(1885-1934)の旧蔵書3，130冊からなるコレクションである。櫛田民蔵は，同志社大学教授，東京帝国大学経済学部講師を経て大原社会問題研究所員となり，ヨーロッパ留学中にマルクス主義関連の文献の購入に奔走した。民蔵の死後，当時本学の法文学部助教授であった宇野弘蔵のあっせんで本学が購入することになったものである。昭和10年度から12年度にかけて4回に分けて購入された。蔵書は，内外の社会科学，社会問題，労働問題関係の文献を含み，なかでも，Misere de la philosophie (「哲学の貧困」初版本1847刊)は，マルクスの自用本とされ，マルクス自身による多数の訂正・書き込みがある極めて貴重な資料である。マルクスの死後，エンゲルスの手を経て，　ドイツ社会民主党の蔵書となったものを櫛田が譲りうけたとされる。この文庫には，他にも資本論ドイツ語初版本やドイツ社会民主党の蔵書印のあるもの，ベームパベルクの蔵書印のあるもの等が含まれている。

⑱　長谷田文庫

元本学経済学部教授長谷田泰三(1891-1950)の旧蔵書のうち経済学関係の洋書607冊を収める。和書150冊は一般の図書と共に配架されている。

⑲　和田文庫

元本学法文学部教授和田佐一郎(1894-1944)の旧蔵書のうち経済学関係を主とする洋書2，670冊を収める。和書682冊は一般の図書と共に配架されている。

⑳　須永文庫

元本学農学研究所教授須永重光(1907-1976)の旧蔵書で，洋書427冊・和書5，889冊からなり広い分野にわたっているが，特に経済・農林水産業・歴史等に関する文献が多い。

㉑　木下文庫

元本学経済学部教授木下彰(1901-1982)の旧蔵書で和書4，542冊・洋書525冊からなり農業経済学関係の資料を主とする。

㉒　高柳文庫

元本学法学部教授で日本学士院会員であった高柳眞三(1902-1990)の旧蔵書で,洋書531冊,和書3，287冊からなり，日本法制史関係の資料を主とする。

㉓　宮田文庫

元本学法学部教授宮田光雄(1928-　)の旧蔵書のうち，西洋政治思想史関係の5;408冊で，ドイツ政治思想史，キリスト教政治思想史，平和研究の三分野を中心に収集されている。文庫の中には，　ヒトラー著「わが闘争」初版本(全2巻，　1925-26年刊)，オット・シュトラッサー著「ヒトラーと私」(1940年干日)，バルト著「ローマ書」初版(1919年刊)のなどの研究史上重要名著作に加え，ネオナチズムの新聞やパンフレット，各種の説教や獄中書簡等のタイプ複写，などオリジナル資料も豊富である。

㉔　齋藤養之助家資料

齋藤養之助家資料は、平成15年度に寄贈され、文学研究科の日本史専攻の大藤教授研究室によって整理が進められた。費用は（財）東北大学研究教育振興財団助成金や科学研究費補助金による。平成21年度に基本的な整理が終了、平成22年度には目録作成も完了し、2号館に資料室を設けて保管し、利用に供している。資料の特徴として個人情報を多く含むことから、平成26年度には、「齋藤養之助家史料の利用に関する申合せ」を整備し、適正な利活用を行うことを推奨している。さらに細分化した整理が必要なため、今年度から第二次の整理作業を開始した。今回の整理作業も日本史研究室によって行われている。

㉕　芹沢文庫

「芹澤文庫」は、本学文学部名誉教授、東北福祉大学名誉教授の芹澤長介（せりざわちょうすけ 1919～2006）氏旧蔵書のうち、考古学関連資料を受け入れたものである。図書の内容は先史考古学、旧石器時代関係書が中心である。平成19年度に寄贈受入を決定、平成23年度に計5,501冊の整理を終了した。書庫地下2階に配置して利用に供している。

㉖　高柳文庫

平成6年に受け入れられた高柳文庫に、室生犀星などの文学作品やヨーロッパの絵本など、計85冊の寄贈申し出があり、平成19年度、受入を決定した。ほとんどが署名入り献呈本であること、絵本については、現在では入手しがたい1920～30年代のドイツ語やフランス語の絵本であるため準貴重書室に保管されている。

㉗　金谷文庫

「金谷文庫」は、本学文学部名誉教授、日本学士院会員を勤め、中国古代思想研究の権威として知られる金谷治(かなやおさむ 1920～2006)博士の旧蔵書約5,200冊を受け入れたものである。平成19年度に寄贈受入を決定、平成20年度に整理を終了し、書庫地下2階に配置して利用に供している。

㉘　武内文庫

「武内文庫」は、本学文学部名誉教授で中国思想研究の権威である武内義雄氏（たけうちよしお　1886～1966）の旧蔵漢籍約一万冊の寄贈を受け入れたものである。平成19年に遺族から寄贈された。平成22年度から整理を開始したが、古典籍資料であるため、文学研究科三浦秀一教授や元宮城県図書館職員の萱場健之氏の協力のもとに行い、平成26年度にほぼ終了した。現在、全国漢籍データベースへの搭載の準備を行っているところである。なお、先に寄贈された金谷文庫の金谷治氏は、武内義雄氏に直接師事した関係でもある。

㉙　熱海文庫

「熱海文庫」は、宮城県東松島市の熱海家より、和算書等約200点の寄贈を受けたものである。今年度受入を決定し、今後順次整理作業を行っていく予定である。

○ 医学分館

① Trendelenburg & Krayer's Collection of Scientific Papers. 15, 300 論文 308 冊

トレンドパーグ及びクライヤー両教授に献呈された薬理学･生理学分野の論文別刷の 15,300 編(洋書 300 冊)。ベルリン大学薬理学教授の P.Trendelenburg (1884-1931)博士と，その教え子であったハーバード大学薬理学教授の O.Krayer (1887 -1985)博士が， 薬理学及び生理学並びにその関連領域の優れた論文を選び収集されたものである。これらの論文は， 19 世紀から 20 世紀(-1960 年)までの薬理学・生理学分野での学問的発展を辿ることができる貴重なコレクションである。

② 青木大輔博士コレクション 700 点

医学博士青木大輪(1901-1967)先生がライフワークとして収集された医史学及び疫病史に関するコレクションである。主として東北地方の過去帳から採集された疫病死のデータを始め，鈴木省三(雨香)先生から継承した仙台藩医学校から東北大学医学部に至る医育史や，仙台藩ゆかりの蘭学者及び仙台藩医学校歴代学頭などに関する資料・書軸等を含んでいる。

１３．利用指導（平成２６年度）

○本　館

日　　時	名　　　称	対　　象	会　場	参加人数
平成26年4月4日～8日	図書館オリエンテーション(教育学部出講,留学生向け含む)	新入生	2 号館	519
4 月 11 日～22 日	情報探索のススメ 初級	学生・院生・教職員	同　上	346
4 月 23 日～24 日	情報探索のススメ 中級編	文科系大学院生	同　上	39
5 月 12 日	オーダーメイド講習会	全学教育「基礎ゼミ」受講生	2 号館視聴覚室	11
5 月 19 日	オーダーメイド講習会	同　上	同　上	23
5 月 23 日	オーダーメイド講習会	同　上	2 号館 1 階グループ学習エリア	7
5 月 30 日	オーダーメイド講習会	文学部「行動科学基礎演習」受講生	文学部棟	21
6 月 9 日	オーダーメイド講習会	広報課職員	2 号館視聴覚室	15
6 月 23 日～26 日	レポート作成セミナー	学生・院生	2 号館 1 階グループ学習エリア	38
10 月 1 日～10 日	図書館オリエンテーション(留学生向け含む)	学生・院生・教職員	1 号館	122

11 月 4 日・18 日	オーダーメイド講習会	全学教育「展開ゼミ」受講生	1 号館メインフロア PC ワークエリア	7
11 月 28 日	オーダーメイド講習会	現代日本論基礎購読受講生	1 号館	13
12 月 15 日	オーダーメイド講習会	文学部「宗教学実習」受講生	1 号館メインフロア PC ワークエリア	8

○医学分館

日　　時	名　　　称	対　　象	会　場	参加人数
平成 26 年 4 月 4 日	保健学科新入生オリエンテーション	新入生	医学部保健学科大講義室	150
4 月 4・ 7 日～18 日	利用説明会及び検索講習会	医学系研究科大学院入学者	医学分館別棟 2F	32
6 月 18 日・7 月 16 日	コンダクター型診療医検索講習会	診療医等	医学分館 3F 視聴覚室	7
6 月 24 日・7 月 8 日	看護学 文献検索講習会	看護学専攻 3 年生	医学分館 1F 検索コーナー	65
9 月 16 日	EBMR 利用講習会	教職員	医学分館別棟 2F	11
9 月 30 日・10 月 1 日	文献管理ソフト EndNote 講習会	同上	同上	61
10 月 7 日	医学科基礎医学特別講義	医学科 3 年生	医学部 4 号館 6F メディアセンター	126
11 月 17 日	若手研究者のための Author Workshop「～正しく論文を投稿するには～」	教職員	臨床講義棟 2 階臨床大講堂	87
11 月 26 日	医学系データベース活用セミナー	同上	医学部 6 号館 1 階講堂	28

12月12日	遺伝カウンセリング分野川目研究室検索講習会	研究室員	メガバンク棟6F川目研究室	10
平成27年 3月12・13日	文献管理ソフトEndNote講習会	教職員	医学分館別棟2F	45

○　北青葉山分館

日　時	名　称	対　象	会　場	参加人数
5月9日	SciFinder講習会	理学部化学科3年生	薬学研究科情報教育室	61
9月30日	図書館オリエンテーション	理学部天文コース2年生	分館内	13
10月1日	図書館オリエンテーション	理学部地圏環境コース2年生	地学研究棟	31
10月3日	図書館オリエンテーション	理学部地球物理コース2年生	分館内	29
1月14日	SciFinder講習会（留学生向け含む）	理学部化学科2年生,留学生	化学学生実験室	66

○　工学分館

日　時	名　称	対　象	会　場	参加人数
4月2日	文献検索ガイダンス	量子エネルギー工学専攻（院生）	量子専攻大講義室	60
5月26～28日	情報検索講習会	学生・院生・教職員	工学分館グループ学習エリア	8
6月12日	オーダーメイド講習会	土木工学専攻	同上	9
6月17～19日	情報検索講習会	学生・院生・教職員	同上	2
7月2～4日	情報検索講習会	学生・院生・教職員	同上	2
10月23・24,27日	情報検索講習会	学生・院生・教職員	同上	2

農学分館

日　時	名　称	対　象	会　場	参加人数
7月18日	オーダーメイド講習会	農学部「学生実験」受講生	農学研究科コンピュータ演習室	31
11月25日	オーダーメイド講習会	農学部「学生実験」受講生	農学研究科コンピュータ演習室	28
12月8日	オーダーメイド講習会	農学部「学術情報リテラシー」受講生	農学研究科コンピュータ演習室	35

１４．見学者等（平成２６年度）

○本　館

年　月	見　学　者	人　数
平成26年7月	アリゾナ大学	学生25名
9月	10月受入交換留学生	90名
10月	学習支援センター	職員　2名
10月	丸善株式会社	6名
10月	在札幌米国総領事館	職員他3名
10月	仙台第二高等学校	2クラス生徒・教員90名
11月	神戸大学附属図書館	職員1名
11月	仙台二高校	3クラス生徒・教員114名
11月	仙台二高校	3クラス生徒・教員121名
11月	AIMR職場体験キャンパスツアー	中学生3名,引率2名
11月	グローバル30の学生	留学生29名
11月	群馬県立中央中等教育学校PTA	47名
12月	第6回東日本大震災アーカイブワークショップ参加者	図書館関係者8名
12月	国立女性教育会館	2名
12月	カナダ・クィーンズ大学教授学習センター	准教授他3名
平成27年1月	ロシア人学生（世界展開力強化事業異文化体験プログラム学生）	16名
2月	金沢大学附属図書館	職員2名
3月	上越教育大学附属図書館	職員1名

3月	京都教育大学図書館	職員２名
3月	国連防災世界会議スタディツアー	18名
3月	コペンハーゲン大学	3名

１５．職員研修（平成２６年度）

〇本　館

日　　時	名　　称	テーマ	会　場	参加人数
平成 26 年 5 月 23 日	附属図書館初任者研修	附属図書館の概要、業務説明	2 号館視聴覚室	15
9月5日	研修出張（グローバルフロア調査）報告会	他大学図書館の取組	１号館大会議室	16
1月28日	国立大学図書館協会東北地区協会職員研修	図書館職員の『コミュ 力』UP 大作戦～利用者の心を掴む『伝わる』話し方とは～	同　上	50
2月19日	東北大学図書館職員研修会	図書館職員のための洋古典資料基礎講座	同　上	52

１６．刊行物（平成２６年度）

区　　分	刊　行　物　名
本　　館	東北大学附属図書館報「木這子」Ｖｏｌ．39（Ｎｏ．1～4）
	「利用案内」２０１４　日本語版・英語版
	東北大学附属図書館パンフレット（来客用）
医学分館	医学分館利用案内
北青葉山分館	利用案内２０１４年版
工学分館	東北大学附属図書館工学分館利用案内２０１４
農学分館	利用案内（英文併記版）

１７．一年の歩み（平成２６年度）

年　　月	項　　　目
平成 26 年 4 月	新入生のための図書館利用オリエンテーション 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会 （合同会議）（第１回） 医学分館利用案内
5 月	武内文庫（漢籍）整理会
6 月	図書館情報教育支援WG（第１回） 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会 （合同会議）（第２回） 貴重図書委員会（第１回） 医学分館運営委員会（第１回）
7 月	附属図書館商議会（第１回） 図書館情報教育支援WG（第２回） 工学分館運営委員会（第１回） 理学部図書委員会
8 月	展示WG（第１回）、（第２回） 図書館情報教育支援WG（第３回） 情報システム利用連絡会議（第８回） 医学分館運営委員会（第２回） 川内地区図書委員会
9 月	図書システム仕様策定委員会（第４回） 学術選定資料選定小委員会 展示WG（第３回）（第４回） 図書館情報教育支援WG（第４回） 齋藤養之助家史料運用委員会 貴重図書委員会（第２回） 収書委員会（第２回） 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会 （合同会議）（第３回） 医学分館運営委員会（第３回）
10 月	図書館情報教育支援WG（第５回） 附属図書館商議会（第２回） 北青葉山分館運営委員会

年　　月	項　　目
11 月	図書館情報教育支援WG（第６回） 図書館システム技術検討委員会 安全衛生委員会 図書館報編集委員会 図書館システム仕様策定委員会（第１回）
12 月	図書館情報教育支援WG（第７回） 展示WG（第５回） グローバルサインシステム計画WG（第２回）（第３回） 業務システム運用部会 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会 （合同会議）（第４回）
平成 27 年１月	図書館カフェ・運営事業者審査委員会 展示WG（第６回） 収書委員会
２月	貴重図書等委員会 図書館システム仕様策定委員会（第２回） 学術情報整備検討委員会並びに学術情報資料選定小委員会 （合同会議）（第５回） 医学分館運営委員会（第４回）
３月	教育学生支援部・附属図書館事務連絡会 教育支援WG（第８回） 附属図書館商議会（第３回） 工学分館運営委員会（第２回） 全学図書系係長等会議

附属図書館自己点検評価の趣旨・組織等

平成 27 年度附属図書館自己点検評価の実施について

１．趣　旨

学校教育法第 109 条には、「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（教育研究等）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と規定されており、本学では、「東北大学における大学の評価に関する規程」に基づき、自己点検評価及び外部評価を行い研究教育水準の不断の向上に努めることとしている。

附属図書館においてもこのような趣旨に鑑み、教育研究支援に関する図書館業務・サービスに関して自己点検評価及び外部評価を行い、図書館活動サービス内容の改善に努めている。前回は平成 18 年度に自己点検評価を、平成 19 年度に外部評価を行った。東日本大震災後の復旧工事及び附属図書館本館の改修工事の影響で実施が遅れたが、以下のとおり自己点検評価を行う。

２．組織体制

自己点検評価を実施するため、附属図書館長の下に自己点検評価委員会及び自己点検評価委員会WGを設置する。(別紙１)

３．スケジュール

平成 27 年度に自己点検評価を行い、それに基づき平成 28 年度に外部評価を行う。

４．点検・評価項目

点検・評価項目を下記のとおりとする。

（１）組織・運営

構成、マネジメント、人材養成、学術情報基盤、研究開発機能、学内外機関との連携、広報活動等

（２）施設・設備

入退館関連設備、学習環境関連設備、空調・冷暖房設備、照明、防災等

（３）資料の収集・保存

学生用図書の選定と蔵書構築、震災ライブラリ、ゆかりコレクション

グローバル人材育成資料等

（4）図書館資料の整理と提供

蔵書目録データベース構築、蔵書検索サービス、図書目録情報の遡及入力等

（5）コレクション･図書の整備と提供

特別図書、貴重図書、準貴重図書、特殊文庫等

（6）外国雑誌･電子ジャーナルの整備と提供

（7）サービス機能

資料の利用、レファレンス･サービス、文献複写サービス、図書館間協力（ILL）、情報リテラシー教育支援、機関リポジトリ、授業支援、研究支援、留学生対応等

（8）社会貢献

教育研究成果等の発信、図書館の地域開放、展示会、国連寄託図書館等

５．アンケート

利用者が、附属図書館に期待するサービスの水準と実際に利用して感じたサービスの質の「差」を調査し、今後の図書館のサービス内容の改善に資する。サービス評価は７段階とし、前回実施した項目を基に、より現在の状況に応じたアンケート項目とする。

⑴ 対象：東北大学教職員、学生

⑵ 調査期間：10～11 月

附属図書館自己点検評価体制

委　員
・館　長（委員長）
・副館長
・分館長

○構　　成
・部長（主査）　・3課長　　・補佐、専門員
・分館専門員、分館係長（片平：金研含）

○所　　掌
・自己点検評価スケジュール立案
・評価項目決定　　・アンケート項目決定
・アンケート実施　・アンケート集計
・自己点検評価書の作成
・自己点検評価委員会の開催
・外部評価委員会への橋渡し

学校教育法第109条第1項
大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

附属図書館自己点検評価委員会委員

平成 27 年 5 月 1 日

	職	氏　　名	備　　考
1	館　長	植　木　俊　哉	委員長
2	副館長	西　尾　　剛	
3	医学分館長	丸　山　芳　夫	
4	北青葉山分館長	竹　田　雅　好	
5	工学分館長	正　田　晋一郎	
6	農学分館長	盛　田　清　秀	

附属図書館自己点検評価委員会WG

	職	氏　　名	備　　考
1	事務部長	米　澤　　誠	主　査
2	総務課長	小　川　　聡	
3	情報管理課長	奥　村　小百合	
4	情報サービス課長	村　上　康　子	
5	総務課長補佐	田　口　睦　夫	
6	情報管理課専門員	半　澤　智　絵	
7	総務係長	下　山　真　樹	
8	学術情報基盤係長	永　井　　伸	
9	情報管理課受入係長	真　籠　元　子	情報管理課（１）
10	情報サービス課閲覧第１係長	檜　原　啓　一	情報サービス課（１）
11	医学分館　専門員	横　山　美　佳	
12	北青葉山分館　管理係長	田　中　朱　美	
13	工学分館　専門員	對　馬　庸　二	
14	農学分館　図書係長	菅　原　　透	
15	金属材料研究所　図書係長	堀　野　正　太	片平地区連絡会⑴

附属図書館自己点検・評価の実施、検討経過

年　月	項　目
平成27年7月15日	平成27年度第1回自己点検・評価委員会 実施内容、スケジュールを確認
平成27年7月15日	平成27年度第1回商議会 自己点検・評価の実施及び自己点検・評価委員会開催について報告
平成27年10月1日	平成27年度第2回商議会 利用者アンケート実施について協力を依頼
平成27年10月6日	平成27年度第2回自己点検・評価委員会開催（メール会議） 利用者アンケート実施を報告
平成27年10月1日 ～10月31日	利用者アンケートの実施 ・東北大学の学生、大学院生、教職員等　約30，000人
平成28年7月22日	平成28年度第1回自己点検・評価委員会 自己点検・評価書案の確認、外部評価委員・スケジュール確認
平成28年7月22日	平成28年度第1回商議会 自己点検・評価書案及び自己点検・評価委員会開催について報告
	自己点検・評価委員会WG開催実績 ・平成27年6月2日（第1回） ・平成27年6月23日（第2回） ・平成27年7月14日（第3回） ・平成27年8月　4日（第4回） ・平成27年9月8日（第5回） ・平成27年11月11日（第6回） ・平成27年12月1日（第7回） ・平成27年12月9日（アンケート班打合） ・平成28年1月5日（第8回） ・平成28年3月2日（第9回） ・平成28年4月5日（第10回） ・平成28年5月12日（第11回） ・平成28年6月7日（第12回） ・平成28年6月29日（第13回）